Syllabus

保健科学研究科
博士（前期）課程

吉備国際大学

授業科目名	保健科学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	河村　顕治、齋藤　圭介、掛谷　益子、原田　和宏、田中　富子、中角　祐治、森下　元賀、中瀬　克己、森　芳史、平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。						
概要	保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。 木曜日3限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	紹介された文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は、最もその分野に適した教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、あらかじめ提示されたものがあれば予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1）修士での研究の進め方 ① 2）修士での研究の進め方 ② 3）研究と倫理 4）研究の基礎と考え方① 5）研究の基礎と考え方② 6）調査研究法① 7）調査研究法② 8）臨床研究法① 9）臨床研究法② 10）研究結果の信憑性 11）調査系の研究モデルという考え方 12）実験研究法① 13）実験研究法② 14） 実験研究法③ 15）研究発表の仕方 16）論文執筆の際の注意点・口頭試問	1)講義 2)講義 3)講義 4)講義 5)講義 6)講義 7)講義 8)講義 9)講義 10)講義 11)講義 12)講義 13)講義 14)講義 15)講義 16)講義・口頭試問	1)河村顕治 2)高橋　淳 3)河村顕治 4)森　芳史 5)齋藤圭介 6)中瀬克己 7)中瀬克己 8)森下元賀 9)寺岡　睦 10)原田和宏 11)原田和宏 12)河村顕治 13)河村顕治 14)森　芳史 15)河村顕治 16)高橋　淳			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。 保健科学特論Ⅱでは英語文献の読解力を高めることを目標とする。						
概要	秋学期は英語読解力を高めるために英語文献のjournal club（抄読会）を行う。 木曜日4限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。						
評価方法	担当した英語文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢（50%）、質疑応答における発言状況（50%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。 発表を担当する学生は、前の週までに担当する英語文献を教員及び他の学生に配布しておくこととする。						
自己学習	予習として、あらかじめ配布された英語文献について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			2）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			3）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			4）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			5）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			6）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			7）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			8）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			9）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			10）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			11）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			12）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			13）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			14）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			15）journal club（抄読会）	AL	河村顕治

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	河村　顕治、安福　真弓、齋藤　圭介、掛谷　益子、佐藤　三矢、水谷　雅年、原田　和宏、狩長　弘親、田中　富子、中角　祐治、京極　真、中嶋　貴子、森下　元賀、井上茂樹、寺﨑　智行、中瀬　克己、高橋　淳、森　芳史、長町　榮子、加納　良男、中嶋					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ② 自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③ 自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
概要	保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。 木曜日3限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。 我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
自己学習	1)研究内容に関連する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるようにしておくこと。 2)論文は結果、考察以外は早くから作成できるように準備しておくこと。 毎回の指導内容について、予習復習としてそれぞれ2時間以上は要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1回　研究の意義と動向、研究者の責務 第2回　研究の基本的なプロセス 第3回　疫学研究法　調査方法とデータの収集 第4回　質的研究の方法とデータ収集法 第5回　疫学研究法　リスクの考え方、バイアスと交絡 第6回　Grounded TApproachによる分析方法 第7回　「関連」と「因果」 第8回　回帰について 第9回　記述統計と基本統計の概要 第10回　臨床データの有効活用 第11回　ノンパラメトリック検定法とパラメトリック検定法と、変数の関係 第12回　量的研究の方法とデータ収集法 第13回　MoplusとRによる構造方程式モデリング（回帰分析、因子分析、パス分析、項目反応理論） 第14回　MoplusとRによる構造方程式モデリング（混合モデル、マルチレベルモデル、ベイズ推定） 第15回　修士論文計画発表について 第16回　修士論文計画発表	1. 講義 2. 講義 3. 講義 4. 講義 5. 講義 6. 講義 7. 講義 8. 講義 9. 講義 10. 講義 11. 講義 12. 講義 13. 講義 14. 講義 15. 講義 16. AL	1. 河村顕治 2. 森　芳史 3. 中瀬克己 4. 寺岡　睦 5. 中瀬克己 6. 寺岡　睦 7. 齋藤圭介 8. 原田和宏 9. 齋藤圭介 10. 原田和宏 11. 原田和宏 12. 森下元賀 13. 京極　真 14. 京極　真 15. 高橋　淳 16. 高橋　淳

教科書１	医学的研究のデザイン　第4版 著者：木原雅子・木原正博訳 出版社：メデイカル・サイエンス・インターナショナル ISBN：978-4-89592-783-3
教科書２	
参考書１	

参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ①研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ②自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンテーションできる。 ④研究計画書に基づき研究を進め、研究の中間成果をプレゼンテーションできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は教員と調整を行うこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集1回目	AL	長町			
2.データ収集2回目	AL	長町			
3.データ収集3回目	AL	長町			
4.データ収集4回目	AL	長町			
5.データ収集5回目	AL	長町			
6.データ整理	AL	長町			
7.データ整理・分析	AL	長町			
8.データ分析	AL	長町			
9.結果の整理	AL	長町			
10.結果の整理・解釈	AL	長町			
11.結果の解釈に関するディスカッション	AL	長町			
12.結果の解釈	AL	長町			
13.修士論文作成：目的・方法	AL	長町			
14.修士論文作成：結果	AL	長町			
15.修士論文作成：考察	AL	長町			
16.修士論文発表	AL	長町			

教科書１	必要時適宜提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺﨑　智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ①研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ②自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンテーションできる。 ④研究計画書に基づき研究を進め、研究の中間成果をプレゼンテーションできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は教員と調整を行うこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	金曜日3限目、6号館4階寺崎研究室（6420号室）にて

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集1回目	講義	寺﨑			
2.データ収集2回目	講義	寺﨑			
3.データ収集3回目	講義	寺﨑			
4.データ収集4回目	講義	寺﨑			
5.データ収集5回目	講義	寺﨑			
6.データ整理	講義	寺﨑			
7.データ整理・分析	講義	寺﨑			
8.データ分析	講義	寺﨑			
9.結果の整理	講義	寺﨑			
10.結果の整理・解釈	講義	寺﨑			
11.結果の解釈に関するディスカッション	講義	寺﨑			
12.結果の解釈	講義	寺﨑			
13.修士論文作成：目的・方法	講義	寺﨑			
14.修士論文作成：結果	講義	寺﨑			
15.修士論文作成：考察	講義	寺﨑			
16.修士論文発表	講義	寺﨑			

教科書１	必要時適宜提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	修士論文を作成する過程においてまずしっかりした研究計画を立てることが重要である。研究計画を立てるために様々なバイオメカニクス的解析手法を学び、研究テーマを明確にした上で、実行可能な研究計画を立てることを到達目標とする。
概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、研究計画調書の内容（80%）を総合的に評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1 回:科学的情報収集法	講義	河村顕治			
第2 回:研究テーマ策定	AL	河村顕治			
第3 回:基礎知識の確認	AL	河村顕治			
第4 回:先行研究の調査①	AL	河村顕治			
第5 回:先行研究の調査②	AL	河村顕治			
第6 回:先行研究の調査③	AL	河村顕治			
第7 回:先行研究の概要発表	AL	河村顕治			
第8 回:先行研究の概要発表の講評	AL	河村顕治			
第9 回:研究テーマの確定	AL	河村顕治			
第10回:研究計画調書作成	AL	河村顕治			
第11回:バイオメカニクス研究指導①	AL	河村顕治			
第12回:バイオメカニクス研究指導②	AL	河村顕治			
第13回:バイオメカニクス研究指導③	AL	河村顕治			
第14回:研究計画調書の再検討と修正	AL	河村顕治			
第15回:研究計画発表用資料の確認	AL	河村顕治			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。後半は英語の読解力を高める。臨床上や研究上の疑問から研究課題を見つけ出し、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等について学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	基礎研究：物理刺激が培養細胞に与える影響、臨床研究：理学療法の治療効果に関する研究、教育研究：療法士の臨床教育モデルの構築、以上の3つの領域から自ら研究テーマを決める。その上で論文を作成するための、先行研究のレビューなどを含めて方法論について学ぶ。そして研究仮説を立案し、実験または調査の綿密な計画を立てて論文を完成させる。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。						
自己学習	・自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1）修士での研究の進め方	講義,AL	平上二九三			
2）研究と倫理①	講義,AL	平上二九三			
3）研究と倫理②	講義,AL	平上二九三			
4）研究の基礎と考え方①	講義,AL	平上二九三			
5）研究の基礎と考え方②	講義,AL	平上二九三			
6）調査研究法①	講義,AL	平上二九三			
7）調査研究法②	講義,AL	平上二九三			
8）臨床研究法①	講義,AL	平上二九三			
9）臨床研究法②	講義,AL	平上二九三			
10）研究結果の信憑性	講義,AL	平上二九三			
11）調査系の研究モデルという考え方	講義,AL	平上二九三			
12）実験研究法①	講義,AL	平上二九三			
13）実験研究法②	講義,AL	平上二九三			
14）研究発表の仕方・論文執筆の際の注意点	講義,AL	平上二九三			
15）単位認定試験	レポート	平上二九三			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	摂食、嚥下から排便までの消化管の研究法を身につける。 消化管の機能、主にその運動の描記法について、消化管の各部位ごとに学び、研究目的に応じた的確な研究法を身につけることが出来る。						
概要	実験動物（主にラット）の扱い方、飼育、管理、麻酔の仕方、手術器具の使い方などの動物実験における実験方法の基本を教えながら、様々な消化管運動の描記法を教授する。これらの記録法から自分の研究への応用を考える。						
評価方法	受講態度50％、最後に行う筆記試験50％で評価する。講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	消化管の機能に興味を持ち、かつ修士論文の研究を遂行する上で、この研究法の必要性を十分に考慮した上で受講すること。 与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.動物実験での手術の基本	講義	水谷			
2.摘出胃の運動記録法	講義	水谷			
3.摘出腸管の運動記録法	講義	水谷			
4.摘出肛門運動の記録法	講義	水谷			
5.摘出実験における保生液の選び方	講義	水谷			
6.生体内実験の注意点	講義	水谷			
7.動物管理法	講義	水谷			
8.麻酔薬の使い方	講義	水谷			
9.生体内唾液分泌記録法	講義	水谷			
10.生体内食道運動記録法	講義	水谷			
11.生体内胃運動記録法	講義	水谷			
12.生体内小腸運動記録法	講義	水谷			
13.生体内大腸運動記録法	講義	水谷			
14.嚥下運動の記録法.	講義	水谷			
15.排便運動の記録法	講義	水谷			
16.筆記試験	試験	水谷			

教科書１	研究に関連した論文
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	統計処理に代表される研究技術の修得をテーマに，保健科学研究法特論Ⅰに引き続き，自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組み研究目的を達成するための，得られたデータの統計処理の仕方や個々の統計手法の理論的背景，結果の意義づけや解釈など文献的根拠に基づき考察する能力を身につける。 到達目標 ① 基本的な統計手法の理論的背景を説明できる。 ② 研究目的達成のため，得られたデータを基に統計処理を実施することが出来る。 ③ 文献的根拠を基に結果の解釈を行い，考察としてまとめ上げる能力を身につける。
概要	障害予防や生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的視座に立った支援方法の確立が求められている。臨床上の問題や疑問を研究課題として解くためには，研究計画を立て測定するだけでなく，得られたデータを目的達成のためにどのように統計処理をするのか，その結果を文献的根拠に基づき解釈する能力を身につける必要がある。本科目では，研究全般に共通して必要となる統計手法の理論と実施する能力，得られた結果を解釈し考察する能力を身につけるための学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	講義時における口頭試問（60%）、統計処理課題・結果の解釈に関するプレゼンテーションの到達度（40%）で評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講をとおして修士論文作成を進めることより、積極的な姿勢で臨むこと。 十分な知識と技術を身につけるために，予習と復習を行うこと。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データを統計処理することの意義と考え方	AL	齋藤			
2.関連と因果，効果をみるための統計手法の理解	AL	齋藤			
3.統計手法の理解　基本統計1	AL	齋藤			
4.統計手法の理解　基本統計2	AL	齋藤			
5.統計手法の理解　多変量解析	AL	齋藤			
6.統計手法の理解　予測	AL	齋藤			
7.統計処理実習1　データシートの作り方	AL	齋藤			
8.統計処理実習2　基本統計の実施	AL	齋藤			
9.統計処理実習3　多変量解析の実施	AL	齋藤			
10.実際のデータを基にした統計処理の実施	AL	齋藤			
11.統計処理実施結果のプレゼンテーション	AL	齋藤			
12.結果解釈の基本的考え方	AL	齋藤			
13.結果解釈の実例検討　文献抄読1	AL	齋藤			
14.結果解釈の実例検討　文献抄読2	AL	齋藤			
15.考察のまとめ方，既出事項のまとめ	AL	齋藤			

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。 ② 新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。 ③ 新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。 保健科学研究法IIでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方と知識について応用的に学習するものである。
評価方法	講義時における口頭試問、研究計画書の内容、研究計画発表のプレゼンテーション内容で評価する。 文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1 回　研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	講義	原田			
第2 回　研究の基本的なプロセス	AL	原田			
第3 回　疫学研究法1　調査方法とデータの収集	AL	原田			
第4 回　疫学研究法2　リスクの考え方，バイアスと交絡	AL	原田			
第5 回　質的研究の方法とデーター収集法	AL	原田			
第6 回　Grounded Theory Approachによる分析方法	AL	原田			
第7 回　「関連」と「因果」	AL	原田			
第8 回　記述統計と基本統計の概要	AL	原田			
第9 回　回帰について	AL	原田			
第10回　臨床データの有効活用	AL	原田			
第11回　Rコマンダーを使用した統計の紹介（差の検定・分散分析）	AL	原田			
第12回　Rコマンダーを使用した統計の紹介（重回帰分析・ロジスティック回帰分析）	AL	原田			
第13回　偏りのあるデータから妥当な推論を行う統計	AL	原田			
第14回　有意抽出による調査データの補正の具体例	AL	原田			
第15回　修士論文計画発表について	AL	原田			
16. 試験	試験	原田			

教科書１	『医学的研究のデザイン　第3版』 著者：木原雅子・木原正博訳 出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ② 自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③ 自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
自己学習	1)研究内容に関連する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるようにしておくこと。 2)論文は結果、考察以外は早くから作成できるように準備しておくこと。 毎回の指導内容について、予習復習としてそれぞれ2時間以上は要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各教員の講義終了後、講義室において質問時間を設けると共に、個人研究室にて、水曜日の3時限目に実施.。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回　研究の基本的なプロセス	1. 講義	1. 川上			
第2回　研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	2. 講義	2. 河村			
第3回　疫学研究法　調査方法とデータの収集	3. 講義	3. 中瀬			
第4回　質的研究の方法とデータ収集法	4. 講義	4. 古城			
第5回　疫学研究法　リスクの考え方、バイアスと交絡	5. 講義	5. 中瀬			
第6回　Grounded TApproachによる分析方法	6. 講義	6. 古城			
第7回　「関連」と「因果」	7. 講義	7. 齋藤			
第8回　回帰について	8. 講義	8. 原田			
第9回　記述統計と基本統計の概要	9. 講義	9. 齋藤			
第10回　臨床データの有効活用	10. 講義	10. 原田			
第11回　ノンパラメトリック検定法とパラメトリック検定法と、変数の関係	11. 講義	11. 原田			
第12回　研究会発表会	12. AL	12. 川上			
第13回　MoplusとRによる構造方程式モデリング（回帰分析、因子分析、バス分析、項目反応理論）	13. 講義	13. 京極			
第14回　MoplusとRによる構造方程式モデリング（混合モデル、マルチレベルモデル、ベイズ推定）	14. 講義	14. 京極			
第15回　修士論文計画発表について	15. 講義	15. 川上			
第16回　修士論文計画発表	16. AL	16. 川上			

教科書１	医学的研究のデザイン　第4版 著者：木原雅子・木原正博訳 出版社：メデイカル・サイエンス・インターナショナル ISBN：978-4-89592-783-3
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	手の外科の要点を理解し、ハンドテラピーの技能を高めることができる。						
概要	手の機能解剖を再学習する。 そして、手の外傷と疾病について、病態と診断法、治療法と一般的な予後を理解する。 陥りやすい盲点と対策を学ぶことから、作業療法の技能を高める。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した運動学を再確認してくること。						
自己学習	予習復習に各1時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;手の機能解剖1	講義	中角			
2;手の機能解剖2	講義	中角			
3;診断法	講義	中角			
4;保存療法	講義	中角			
5;外傷1	講義	中角			
6;外傷2	講義	中角			
7;外傷3	講義	中角			
8;外傷4	講義	中角			
9;外傷5	講義	中角			
10;障がい1	講義	中角			
11;障がい2	講義	中角			
12;障がい3	講義	中角			
13;リウマチ	講義	中角			
14;腫瘍	講義	中角			
15;先天異常	講義	中角			
16;期末試験		中角			

教科書１	手の外科の要点と盲点 著者:金谷文則 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2756-9
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。 保健科学特論Ⅱでは英語文献の読解力を高めることを目標とする。						
概要	英語文献のjournal club（抄読会）を行う。これにより英語読解力を高めることができる。 木曜日4限目、教室は11号館3階の共同研究室で行う。						
評価方法	担当した英語文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢（50%）、質疑応答における発言状況（50%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。 発表を担当する学生は、前の週までに担当する英語文献を教員及び他の学生に配布しておくこととする。						
自己学習	予習として、あらかじめ配布された英語文献について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の森、河村のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			2）journal club（抄読会）	AL	森 芳史
			3）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			4）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			5）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			6）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			7）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			8）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			9）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			10）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			11）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			12）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			13）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			14）journal club（抄読会）	AL	河村 顕治
			15）journal club（抄読会）	AL	河村顕治

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	安福　真弓					NO.	KM3113104x
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え、修士論文としてまとめることができる。
概要	Evidence-based medicine(EBM)やEvidence-based health care(EBH)重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリングなどの基本的な考え方と知識を活用し、小児看護のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。
評価方法	講義時の質疑応答(20%)、文献講読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は各教員と調整を行うこと。
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜2限(11:10～12:40)に個人研究室(6405)にて対応。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集(1)	AL	安福			
2.データ収集(2)	AL	安福			
3.データ収集(3)	AL	安福			
4.データ収集(4)	AL	安福			
5.データ収集(5)	AL	安福			
6.データ整理	AL	安福			
7.データ整理・分析	AL	安福			
8.データ分析	AL	安福			
9.結果の整理	AL	安福			
10.結果の整理・解釈	AL	安福			
11.結果の解釈に関するディスカッション	AL	安福			
12.結果の解釈	AL	安福			
13.修士論文作成:目的・方法	AL	安福			
14.修士論文作成:結果	AL	安福			
15.修士論文作成:考察	AL	安福			
16.まとめ:プレゼンテーション					

教科書１	必要時適宜提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	掛谷　益子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文としてまとめることができる。						
概要	Evidence-based nursing（EBN）重視のもと、科学的根拠に基づく看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、看護技術のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。						
評価方法	講義時の質疑応答（20%）、文献講読の状況（30%）、研究の中間発表のプレゼンテーション内容（50%）を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2時限目　：　6号館4階　6402研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集	AL	掛谷			
2.データ収集	AL	掛谷			
3.データ収集	AL	掛谷			
4.データ収集	AL	掛谷			
5.データ収集	AL	掛谷			
6.データ分析	AL	掛谷			
7.データ分析	AL	掛谷			
8.データ分析	AL	掛谷			
9.結果の整理	AL	掛谷			
10.結果の整理	AL	掛谷			
11.結果の解釈	AL	掛谷			
12.結果の解釈	AL	掛谷			
13.結果の解釈	AL	掛谷			
14.修士論文作成について	AL	掛谷			
15.修士論文発表について	AL	掛谷			
16.まとめ：プレゼンテーション					

教科書１	必要時適宜提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	田中　富子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ② 自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③ 自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
評価方法	講義時における口頭試問(50%)、研究計画書の内容(20%)、研究計画発表のプレゼンテーション内容(30%)で評価する。評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
自己学習	自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。予習として事前に参考資料を読み，理解出来ない点をディスカッションで討議し理解を深める．復習として研究計画に則り資料やノートにまとめること．なお，予習・復習の時間は各2時間程度を要する．
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室において火曜日4次限とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回　研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	AL	田中			
第2回　研究の基本的なプロセス	AL	田中			
第3回　研究疑問の吟味	AL	田中			
第4回　系統的文献検索(1)	AL	田中			
第5回　系統的文献検索(2)	AL	田中			
第6回　研究課題と研究デザイン(1)	AL	田中			
第7回　研究課題と研究デザイン(2)	AL	田中			
第8回　主な研究方法(1) 質的研究	AL	田中			
第9回　主な研究方法(2) 量的研究	AL	田中			
第10回　主な研究方法(3) 量的研究と統計的な解析	AL	田中			
第11回　研究計画書の作成	AL	田中			
第12回　研究計画書の推敲と理科系の作文技術	AL	田中			
第13回　研究計画書に関するデイスカッション	AL	田中			
第14回　原著論文のまとめ方、学会発表の方法	AL	田中			
第15回　修士論文計画発表	AL	田中			

教科書１	「医学的研究のデザイン　第3版」 著者：木原雅子・木原正博訳 出版社：メデイカル・サイエンス・インターナショナル
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	研究を行なうための手続き、研究計画の作成遂行する具体的方法などの種々の研究項目の作業について、自ら考え検討し、実際にその作業を進めることができることを到達目標とする。						
概要	1.先行研究や原著について検索や読解力を養い思考能力を高める授業を行う。 2.実験の計画を立案する能力をつける授業を行う。 3.具体的な実験作業方法やデータ解析法の留意点などについて学習する授業を行う。。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は主指導教員1名と2名の副指導教員で行う。						
自己学習	関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	秋山研究室(2号館4F)にて木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.リハビリ研究領域の概要理解	講義	秋山			
2.先行研究の調査とまとめ	講義	秋山			
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認	講義	秋山			
4.研究テーマに関する応用	講義	秋山			
5.研究テーマの創成	AL	秋山			
6.研究検討項目の確認	AL	秋山			
7.具体的実験手技の指導（培養細胞）	AL	秋山			
8.具体的実験手技の指導（動物実験）	AL	秋山			
9.研究テーマの確定	AL	秋山			
10.研究計画の執筆概要の説明と作成	AL	秋山			
11.研究計画の確認および講評	AL	秋山			
12.研究計画概要の完成	AL	秋山			
13.実験詳細方法資料の作成	AL	秋山			
14.実験計画と解析法の作成	AL	秋山			
15.実験計画詳細の完成	AL	秋山			

教科書１	実験計画法　活用編 著者:山田秀／編著 出版社:日科技連出版社 ISBN:978-4-8171-0390-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期） □				年次	2	
必修・選択	選択 □	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 □
テーマと到達目標	研究思考を身につける。 到達目標 ① 研究論文を読み，その研究を始める動機になった背景について説明できる。 ② その研究が必要とされる理由を述べることが出来る。 ③ さらに研究が必要とされるか否か，そしてその理由を説明できる。						
概要	研究をはじめ学術論文を作成出来るようになるためには，論理的思考を身につける必要がある。自らの研究テーマに関連した学術論文を用いて研究思考を身につける。 研究発表の仕方（パワーポイントによる発表スライドの作成方法を含む）や学術論文の書き方について学ぶ。						
評価方法	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），発表技法，学術論文の書き方の習得度（20%），ついて総合的に評価する（40%）。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	受け身の姿勢ではなく，積極的な取り組み姿勢で望んで下さい.						
自己学習	文献収集には時間がかかるため早めの対応を心がけること。 予習および復習には各2時間程度を有する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日3限，水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究の意義	講義	中嶋正明			
2. 研究倫理	講義	中嶋正明			
3. 研究の基本的プロセス	講義	中嶋正明			
4. 文献抄読（1）	講義	中嶋正明			
5. 文献抄読（2）	講義	中嶋正明			
6. 研究課題（1）	講義	中嶋正明			
7. 研究課題（2）	講義	中嶋正明			
8. 研究デザイン（1）	講義	中嶋正明			
9. 研究デザイン（2）	講義	中嶋正明			
10. 原著論文の書き方（1）	講義	中嶋正明			
11. 原著論文の書き方（2）	講義	中嶋正明			
12. 研究計画書の作製（1）	講義	中嶋正明			
13. 研究計画書の作製（2）	講義	中嶋正明			
14. プレゼンテーションの方法、修士論文計画発表	講義	中嶋正明			

教科書１	適宜，指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	テーマ：大学院生は、実際の研究活動の手順について理解し、問題現象を明らかにする方法を習得する。 到達目標 1. 大学院生は，統計学の基本的知識が理解できる。 2. 大学院生は，最新の統計解析の手法を理解できる。 3. 大学院生は，質的研究の妥当性を高める手法を理解できる。
概要	この講義では、さまざまな研究法に関する理解を深められる。大学院生は自身の研究を遂行していく中で、高度な研究法を遂行できるチカラが養える。それにより保健科学研究の遂行に必要な技術を理解できる。
評価方法	研究指導全過程を通して評価する。 評価の配分は以下の通りである。 ・積極的な研究態度・・・20% ・文献読解と研究課題の設定と研究法の理解・・・20% ・明確な質疑応答と論理的な考察・・・20% ・作成された論文の妥当性、信頼性、倫理的配慮・・・40% なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	積極的な参加を求める。
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日：月曜5限目、金曜5限目 場所：6号館4階6428号室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 測定誤差	AL	京極真			
2. 独立変数と従属変数の選び方	AL	京極真			
3. サンプルの選択	AL	京極真			
4. 記述研究	AL	京極真			
5. 観察データに基づく因果推論	AL	京極真			
6. 症例対照研究	AL	京極真			
7. 統計的推論	AL	京極真			
8. 研究成果の一般化可能性	AL	京極真			
9. バイアスや交絡因子	AL	京極真			
10. 研究の内部・外部妥当性	AL	京極真			
11. 構造方程式モデリング	AL	京極真			
12. マルチレベル分析	AL	京極真			
13. 質的データの妥当性	AL	京極真			
14. 理論的飽和率	AL	京極真			
15. 発表・まとめ	AL	京極真			

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	●修士論文を作成する過程において、土台となる「研究計画」を立案することは非常に重要である。 ●質の高い研究計画を立案するために、まずは「文献レビュー」を十分に行わせる。 ●文献レビューを行なえるようになれば、「研究テーマ」を明確にさせる。 以上の手順をふまえて、学生は、実行／実現が可能な「研究計画の立案」ができるようになる。
概要	●「高齢者」・「介護予防」・「認知症」・「QOL」などをキーワードとした研究指導を行う。 ●行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ●文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ●データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
評価方法	●講義時の「質疑応答・文献講読の状況（20%）」、研究計画調書の内容（80%）などから総合的に評価する。 ●なお、講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	●本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日４～5時限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.科学的情報収集法	講義	佐藤			
2.研究テーマ検討／策定	講義	佐藤			
3.研究テーマに沿った基礎知識	講義	佐藤			
4.先行研究の発表①	講義	佐藤			
5.先行研究の発表②	講義	佐藤			
6.先行研究の発表③	講義	佐藤			
7.先行研究の概要発表	講義	佐藤			
8.先行研究の概要精査	講義	佐藤			
9.研究テーマの確定	講義	佐藤			
10.研究計画調書作成	講義	佐藤			
11.介護予防研究手法の指導①	講義	佐藤			
12.介護予防研究手法の指導②	講義	佐藤			
13.介護予防研究手法の指導③	講義	佐藤			
14.研究計画調書の再検討と修正	講義	佐藤			
15.研究計画発表用資料の確認	講義	佐藤			

教科書１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　貴子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションができる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文をしてまとめることができる。						
概要	我が国においてうつ病、自殺、PTSD、発達障害など精神的な問題は大きく取り上げられ、医療計画に精神疾患が加わり、「五大疾患」となった。しかし、支援は不十分で、精神看護領域の専門家が取り組むべき課題は山積みしている。近年、Evidence-based nursing(EBN)重視のもと、科学的根拠に基づき看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、精神看護のエビデンスの探究に関する研究に取り組む。						
評価方法	講義時の質疑応答(20%)、文献購読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるよう整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必要であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2時間目　：　6号館4階　6422研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集	AL	中嶋			
2.データ収集	AL	中嶋			
3.データ収集	AL	中嶋			
4.データ収集	AL	中嶋			
5.データ収集	AL	中嶋			
6.データ分析	AL	中嶋			
7.データ分析	AL	中嶋			
8.データ分析	AL	中嶋			
9.結果の整理	AL	中嶋			
10.結果の整理	AL	中嶋			
11.結果の解釈	AL	中嶋			
12.結果の解釈	AL	中嶋			
13.結果の解釈	AL	中嶋			
14.修士論文作成について	AL	中嶋			
15.修士論文発表について	AL	中嶋			
16.プレゼンテーションについて	AL	中嶋			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究データの収集、研究データの分析、口頭発表、論文原稿の方法論について学修する。 到達目標 1. 研究結果の整理、解釈を作成し考察できる。 2. 自己の研究課題について口頭発表できる。 3. 自己の研究課題について論文原稿を作成する。						
概要	自己の研究課題についてデータの収集、データの分析を行い、結果を整理し考察する。また、口頭発表の手法・準備を行い、研究課題に対してプレゼンができるようになる。そして、章立てによる論文原稿を作成し修士論文を完成させる。						
評価方法	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）、講義における口頭試問、修士論文の内容、修士論文発表のプレゼンテーション内容で評価する（60%）。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.データ収集①	講義	井上茂樹			
2.データ収集②	講義	井上茂樹			
3.データ収集③	講義	井上茂樹			
4.データ収集④	講義	井上茂樹			
5.データ収集⑤	講義	井上茂樹			
6.データ分析①	講義	井上茂樹			
7.データ分析②	講義	井上茂樹			
8.データ分析③	講義	井上茂樹			
9.結果の整理①	講義	井上茂樹			
10.結果の整理②	講義	井上茂樹			
11.結果の解釈①	講義	井上茂樹			
12.結果の解釈②	講義	井上茂樹			
13.修士論文作成について①	講義	井上茂樹			
14.修士論文作成について②	講義	井上茂樹			
15.修士論文作成について③	講義	井上茂樹			

教科書１	講義毎に文献や研究資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「修士論文執筆のための知識習得」をテーマとして、医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。修士論文の完成に向けて、研究成果をまとめて口頭、書面で発表できるようになることを目標とする。						
概要	保健科学の領域において、基礎、臨床研究を通して信頼性のある結果を蓄積していくことがこの領域の発展につながる。特にEvidenced Based Medicineの確立にあたっては、先行研究を批判的吟味し、適切な研究デザインのもとに論理的に分析、考察を進めていくことが重要となる。 本講義では、特に電気生理学的計測法を用いた研究手法の立案、研究結果の分析に焦点を当てて、先行研究のレビューから結果の解釈までの講義を行う。						
評価方法	本講義では保健科学の領域の研究手法を身につけることを目的としており、自ら学ぶ姿勢が大事であることから、評価は各回の提示する課題の内容(50%)と最終試験(口頭試問)50%とする。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義時間を厳守し、自らの研究に必要なデータ、文献、パソコン等を持参し、自ら研究結果のプレゼンテーションが出来るようにしておくこと。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にてお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	AL	森下			
2. 研究課題の選び方	AL	森下			
3. 文献レビューの方法	AL	森下			
4. 研究デザインとデータ収集法	AL	森下			
5. データの分析方法の解説	AL	森下			
6. データの分析演習	AL	森下			
7. データの分析と統計学的検定の選定	AL	森下			
8. 統計学的分析	AL	森下			
9. 信頼性と妥当性	AL	森下			
10. 多変量解析	AL	森下			
11. 分析結果の執筆法(はじめに)	AL	森下			
12. 分析結果の執筆法(方法・結果)	AL	森下			
13. 分析結果の執筆法(考察)	AL	森下			
14. 図表の作成	AL	森下			
15. 研究成果の報告	AL	森下			
16. 口頭試問	試験	森下			

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。 ② 新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。 ③ 新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。 保健科学研究法IIでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方と知識について応用的に学習するものである。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	口頭試問(30%), 研究計画書の内容(40%), プレゼンテーション(30%)により総合的に評価する. なお, 課題類は採点結果を返却し, 必要な内容を授業, または資料配付でフィードバックする.
履修条件・注意事項	研究テーマと進捗状況に応じて指導する
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	AL	狩長			
2. 研究課題の選び方	AL	狩長			
3. 文献レビューの方法	AL	狩長			
4. 研究にける倫理	AL	狩長			
5. 研究デザインとデータ収集法	AL	狩長			
6. 信頼性と妥当性	AL	狩長			
7. 記述統計	AL	狩長			
8. 差の検定	AL	狩長			
9. 分散分析	AL	狩長			
10. 多変量解析	AL	狩長			
11. 分析結果の執筆法（はじめに）	AL	狩長			
12. 分析結果の執筆法（方法・結果）	AL	狩長			
13. 分析結果の執筆法（考察）	AL	狩長			
14. 図表の作成	AL	狩長			

教科書１	適宜, 指定する.
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中瀬　克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	特定地域の住民や職域の労働者等を対象とした，公衆衛生学的なアプローチが必要な研究に際して，対象者の選定や調査方法，データの集計・分析方法等を身につける。						
概要	疫学的調査論文の批判的吟味を通じて，調査研究の方法や実行方法・分析方法と，その問題点や限界等を理解し，自身の研究に生せるようにする。 とくに，バイアスや交絡，因果関係の考え方に重点を置きたい。 一方通行の講義ではなく，ディスカッションを通じて課題を解決できるように授業を進めたい。						
評価方法	試験結果(50%)，課題の提出(40%)，ディスカッション等を含めた受講態度(10%)で総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究遂行にあたっての疑問点や問題点を整理して授業に臨むことを期待する。						
自己学習	研究の実施・論文の作成と直結した内容であるため，研究テーマに即して行う予定である。 当然のことながら，自ら主体的に学習することが求められる。 毎回課題を出すので，必ず提出すること。課題達成にはかなりの時間を割くことになるはずである。 これらを含め，1回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6424研究室(変更があり得る)にて，毎週水曜2限(教授会がある日を除く)または木曜2限を，オフィスアワーとする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 疫学の基礎(1)疫学指標の意義	講義・演習	中瀬			
2. 疫学の基礎(2)暴露指標の意義	講義・演習	中瀬			
3. 疫学の基礎(3)研究方法	講義・演習	中瀬			
4. 疫学の基礎(4)母集団と標本	講義・演習	中瀬			
5. 誤差とバイアス	講義・演習	中瀬			
6. 交絡とその制御	講義・演習	中瀬			
7. 因果関係の考え方	講義・演習	中瀬			
8. 疫学における因果関係と実践への応用	講義・演習	中瀬			
9. 既存統計資料の利用	講義・演習	中瀬			
10. スクリーニングの考え方	講義・演習	中瀬			
11. スクリーニングの有効性の評価	講義・演習	中瀬			
12. 実践活動への応用(1)現状把握・ニーズの分析	講義・演習	中瀬			
13. 実践活動への応用(2)介入の方法	講義・演習	中瀬			
14. 実践活動への応用(3)活動評価	講義・演習	中瀬			
15. まとめ	講義・演習	中瀬			
16. 試験(口頭試問)	試験	中瀬			

教科書１	使用しない
教科書２	
参考書１	その都度紹介する。
参考書２	

授業科目名	内科学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	服部　俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の3時限目に実施.。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.内科学概論 2.心不全 3.高血圧 4.虚血性心疾患、不整脈 5.慢性腎臓病 6.腎不全 7.急性腎炎症候群 8.腫瘍性肺疾患 9.肺炎 10.アレルギー性肺疾患など 11.食道疾患 胃・十二指腸疾患 12. 肝、胆、膵疾患 13.急性肝炎、慢性肝炎 14.肝硬変、肝腫瘍 15.感染症 16.課題についてのレポートを提出する。	1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部			

教科書１	わかりやすい内科学　第4版 著者:井村裕夫 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2030-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	内科学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の3時限目に実施.。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.内科学概論(第1回)[内科学と、その進歩、老化、加齢、疾病など] 2.循環器疾患の診断と治療(第2-4回)[心不全、高血圧、虚血性心疾患、不整脈など] 3.腎疾患の診断と治療(第5-7回)[慢性腎臓病、腎不全、急性腎炎症候群など] 4.呼吸器疾患の診断と治療(第8-10回)[腫瘍性肺疾患、胸膜の疾患、アレルギー性肺疾患など] 5.消化器疾患の診断と治療(第11-12回)[食道疾患、胃・十二指腸疾患など] 6.肝、胆、膵疾患の診断と治療(第13-15回)[急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝腫瘍まど] 16回目に課題についてのレポートを提出する。	1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部			

教科書１	わかりやすい内科学　第4版 著者:井村裕夫 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2030-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	内科学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	服部　俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめ講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜日の2時限目に実施.。6号館　408号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.血液、造血器疾患の診断と治療(第1-2回)[赤血球系の疾患、白血球系の疾患など] 2.代謝性疾患の診断と治療(第3-4回)[肥満症、やせ、糖尿病、脂質異常症、痛風、骨粗鬆症] 3.内分泌疾患の診断と治療(第5-6回)[間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患など] 4.感染症の診断と治療(第7-8回)[ウイルス感染症、細菌感染症、スピロヘータ感染症など] 5.膠原病アレルギーの診断と治療(第9-10回)[関節リウマチ、全身エリトマトーデスなど] 6.「臨床と病理概論」(第11回)[臨床的事項を病理学的手法により理解する。] 7.実験病理学概論(第12回)「実験病理の手法及び考え方] 8.消化器発癌予防に関する論文情報の活用(第13回)[論文収集に関する考え方] 9.発表例：活性型ビタミンD3による消化器発癌予防(第14回)[胃・大腸・肝臓発癌の抑制] 10.発表例：H.pyloriと消化器癌(第15回)[H.pylori感染に対するビタミンD3の作用] 16回目に課題についてのレポートを提出する。	1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.講義 16.レポート	1.服部 2.服部 3.服部 4.服部 5.服部 6.服部 7.服部 8.服部 9.服部 10.服部 11.服部 12.服部 13.服部 14.服部 15.服部 16.服部

教科書１	わかりやすい内科学　第4版 著者：井村裕夫 出版社：文光堂 ISBN：978-4-8306-2030-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	内科学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では、学生が内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。						
概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液)の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめ講義する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、内科臨床医としての実務経験を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書での予習、復習を前提にして授業を進める。教科書を必ず持参して授業を受けること。授業に対する取り組みの姿勢については厳しく指導する。						
自己学習	必ず予習、復習をおこなうこと。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室(6414)にて、水曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 代謝性疾患(1)-糖尿病	1.講義	1.高橋
			2. 代謝性疾患(2)-脂質異常症、痛風、骨粗鬆症	2.講義	2.高橋
			3. 内分泌疾患(1)-症候、検査、治療、下垂体疾患	3.講義	3.高橋
			4. 内分泌疾患(2)-甲状腺・副甲状腺・副腎疾患	4.講義	4.高橋
			5. 腎・泌尿器疾患(1)-症候、検査、治療	5.講義	5.高橋
			6. 腎・泌尿器疾患(2)-慢性腎臓病、腎不全	6.講義	6.高橋
			7. 腎・泌尿器疾患(3)-糸球体腎炎	7.講義	7.高橋
			8. 腎・泌尿器疾患(4)-泌尿器科疾患	8.講義	8.高橋
			9. 血液疾患(1)-症候、検査、治療	9.講義	9.高橋
			10. 血液疾患(2)-貧血、白血病	10.講義	10.高橋
			11. 血液疾患(3)-悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患	11.講義	11.高橋
			12. 膠原病・アレルギー疾患(1)-症候、検査、治療、関節リウマチ	12.講義	12.高橋
			13. 膠原病・アレルギー疾患(2)-SLE、皮膚筋炎、強皮症、血管炎	13.講義	13.高橋
			14. 感染症(1)-症候、検査、治療、細菌性疾患	14.講義	14.高橋
			15. 感染症(2)-真菌性疾患、ウイルス性疾患	15.講義	15.高橋
			16. 試験	16.レポート	16.高橋

教科書１	なるほどなっとく！内科学 第2版 著者:浅野嘉延（編集） 出版社:南山堂 ISBN:978-4-525-20722-9
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	小児科学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺﨑　智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。
概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。
評価方法	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテイションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
自己学習	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかった点をチェックして， 調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の寺崎研究室(6420)おいて、毎週火曜日の4限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	講義	寺崎			
2. 成長と発達総論	講義	寺崎			
3. 成長と発達、評価方法	講義	寺崎			
4. 脳および反射の発達変化と疾患	講義	寺崎			
5. 運動発達と疾患	講義	寺崎			
6. 心理学的発達と疾患	講義	寺崎			
7. 循環器の発達と疾患	講義	寺崎			
8. 呼吸器の発達と疾患	講義	寺崎			
9. 消化器の発達と疾患	講義	寺崎			
10. 腎・泌尿器の発達と疾患	講義	寺崎			
11. 先天異常・先天奇形	講義	寺崎			
12. 新生児の特性と疾患	講義	寺崎			
13. 乳児の特性と疾患	講義	寺崎			
14. 乳幼児健康診断と予防注射	講義	寺崎			
15. 学童・思春期の特性と疾患	講義	寺崎			
16. 小児科領域におけるトピック	講義	寺崎			

教科書１	特に指定しない。その都度資料を配付する。
教科書２	
参考書１	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。
参考書２	

授業科目名	小児科学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	寺﨑　智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。
概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。
評価方法	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテイションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
自己学習	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかった点をチェックして， 調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の寺崎研究室(6420)おいて、毎週金曜日の3限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. オリエンテーション	講義	寺崎
			2. 成長と発達総論	講義	寺崎
			3. 成長と発達、評価方法	講義	寺崎
			4. 脳および反射の発達変化と疾患	講義	寺崎
			5. 運動発達と疾患	講義	寺崎
			6. 心理学的発達と疾患	講義	寺崎
			7. 循環器の発達と疾患	講義	寺崎
			8. 呼吸器の発達と疾患	講義	寺崎
			9. 消化器の発達と疾患	講義	寺崎
			10. 腎・泌尿器の発達と疾患	講義	寺崎
			11. 先天異常・先天奇形	講義	寺崎
			12. 新生児の特性と疾患	講義	寺崎
			13. 乳児の特性と疾患	講義	寺崎
			14. 乳幼児健康診断と予防注射	講義	寺崎
			15. 学童・思春期の特性と疾患	講義	寺崎
			16. 小児科領域におけるトピック	講義	寺崎

教科書１	特に指定しない。その都度資料を配付する。
教科書２	
参考書１	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。
参考書２	

授業科目名	比較行動学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	香田　康年					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	【テーマ】 前半:コメディカル領域の研究や研究論文の理解に必要な使用頻度の高い生物統計学(ノンパラ メトリック統計学、パラメトリック統計学)の基本の理解。 後半:ヒトの行動特性を理解するためのシンカ理論の理解。 【到達目標】 前半:統計検定とは、「何をするためのものか」と「検定の意味」が理解できるようになる。データに合わせた統計検定方法が選択できるようになる。 後半:先ず、ヒトの行動特性はシンカ(遺伝子セットの内容の更新)によって、ヒトに獲得された性質であることを理解する。次いで、生物シンカ(遺伝子セットの内容の更新)がどのようにして起こったのか、生物シンカ理論を理解する。
概要	概要 前半は、主として理学療法学や作業療法学などの研究や研究論文の理解に必要な生物統計学の基本(特にノンパラメトリック統計学)について講義する。 まず、科学と統計の関係の理解を深める。その後、統計検定とは,どのような概念であるか、検定方法の選び方、検定法の論理について、講義する。 後半は、人間の対人関係の行動特性について、それらがなぜシンカ(遺伝子セットの内容の更新)して来たのかが理解できるようになるための基礎理論の講義を行う。 ただし、受講生のこの授業分野の既存の知識や理解度によっては講義内容を、受講生のレベルに合わせて適宜変更する。 講義実績:研究科創設以来担当者として講義を行って来た
評価方法	毎回の授業中の質疑応答により、理解の程度を評価するとともに、フィードバックを行う。毎回10点満点で評価し、その合計点を100点満点に直して最終評価とする。
履修条件・注意事項	参考書などは受講生の理解度によって変更する可能性があるので、講義開始後受講生と協議して決定する。
自己学習	【復習】 前半の統計学は、普通の数学と異なり、なじみの薄い考え方であるため、理解するのに時間を要するのが 普通である。充分理解し，毎回2時間程度を目安にノート整理しておくこと。 後半の内容は、常識とことなることが多く、遺伝子の更新シンカの視点というなじみのない考え方を理解するために、復習に十分(2時間程度)をかけて行うこと。 【予習】 次回の授業内容について参考書などを利用し、2時間程度かけ調べ、なるべく質問できるようにしておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜の昼休み中、または、三限終了後に非常勤講師室にて行う。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 生き物をあつかう科学と統計学 2. 検定法の尺度 3. サンプルとは 4. データの対応と独立 5. 検定法の論理 6. ノンパラメトリック検定法 7. パラメトリック検定法 8. 生物(種)としての人間 9. ヒトおよび他の動物のシンカ 10. 進化について誤解と人間進化に関する誤解 11. 生物シンカ理論の歴史 12. 遺伝子とは何か 13. 遺伝子と生物シンカ 14. 自然淘汰説の理解 15. 自然淘汰説と中立説	毎回 講義＆AL	毎回 香田康年			

教科書１	教科書は使わない予定。なお参考書などは、逐次紹介する。
教科書２	
参考書１	バイオサイエンスの統計学 著者:市原清志 出版社:南江堂 ISBN:ISBN4-524-22036-4
参考書２	生物統計学入門 著者:石居進 出版社:培風館 ISBN:ISBN4-563-03734-6

授業科目名	比較行動学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	香田　康年					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	【テーマと到達目標】 ヒトの様々な性質や行動特性が、なぜそうなのかを生物学的に理解するため、進化生物学や比較動物行動学（エソロジー）の考え方を身につけ、人間の新しい見方ができるようになる。
概要	人間は、地球の歴史の中で進化して出来て来た社会的動物であるととらえる比較行動学（エソロジー）の考え方は、人間行動の観察や理解の仕方に新たな視点を導入し、ヒューマンエソロジーの分野を切り開いた。エソロジーの進展に伴い進化学理論は急速に発展し、人間行動および人間の様々な性質、すなわち人間の本性とも言えるものの、かつて無かった理解の枠組みとその方法を生み出した。本講義では、比較行動学の考え方を紹介し、人間の本性の新たな理解の仕方の基本を理解させる。 ただし、受講生のこの授業分野の既存の知識や理解度によっては講義内容を、受講生のレベルに合わせて適宜変更する。 講義実績：研究科創設以来担当者として講義を行って来た。
評価方法	毎回の授業中の質疑応答により、理解の程度を評価するとともに、フィードバックを行う。毎回10点満点で評価し、その合計点を100点満点に直して最終評価とする。
履修条件・注意事項	参考書など授業開始後受講生のこの分野の理解度に応じて変更する可能性がある。決定後はなるべくはやく入手し、予習復習に努めること。
自己学習	【復習】 本講義の内容は、なじみの薄い考え方であるため、理解するのに時間を要するのが 普通である。内容は、常識とことなることが多く、遺伝子の更新シンカの視点というなじみのない考え方を理解するために、復習に十分な時間をかけ（2時間程度）、内容を整理しておくこと 【予習】 次回の授業内容について参考書などを利用し、2時間程度は予習し、なるべく質問できるようにしておくこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜の昼休み中または三限目終了後、非常勤講師室にておこなう。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			① 比較動物行動学とは ② 行動生態学 ③ 進化生物学 ④ 適応と適応度 ⑤ 遺伝子および行動と遺伝子の関係 ⑥ 利己的遺伝子とは何か ⑦ 淘汰の単位の階層性 ⑧ ヒトの進化 ⑨ 血縁淘汰 ⑩ 親子、兄弟など血縁者間の葛藤 ⑪ 非血縁者と利他行動、協力行動などの進化 ⑫ ゲーム理論とシンカ ⑬ ヒトの繁殖と配偶システム ⑭ 配偶者選択と配偶者防衛 ⑮ 環境、学習、文化と遺伝	毎回 講義＆AL	毎回 香田康年

教科書１	教科書は使用しない予定。参考書などは、そのつど紹介する。
教科書２	
参考書１	進化と人間行動 著者：長谷川寿一、長谷川眞理子 出版社：東京大学出版会 ISBN：4-13-012032-8
参考書２	ヒトの本性 著者：川合伸幸 出版社：講談社現代新書 ISBN：978-4-06-288344-3

授業科目名	感染予防特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。						
概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。						
評価方法	議論の内容（30%）およびレポート等（70%）により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.初期の隔離法1	講義	長町			
2.初期の隔離法2	講義	長町			
3.CDC隔離システム1	講義	長町			
4.CDC隔離システム2	講義	長町			
5.普遍的予防策および標準予防策1	講義	長町			
6.普遍的予防策および標準予防策2	講義	長町			
7.病院の感染対策の原理1	講義	長町			
8.病院の感染対策の原理2	講義	長町			
9. 隔離予防策の原理1	講義	長町			
10. 隔離予防策の原理2	講義	長町			
11.感染経路別予防策1	講義	長町			
12.感染経路別予防策2	講義	長町			
13.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用1	講義	長町			
14.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用2、管理上の対策	講義	長町			

教科書１	適宜指定する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	感染予防特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。						
概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。						
評価方法	議論の内容（30%）およびレポート等（70%）により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.管理上の対策1	講義	長町
			2.管理上の対策2	講義	長町
			3. 標準予防策1	講義	長町
			4. 標準予防策2	講義	長町
			5.空気予防策1	講義	長町
			6.空気予防策2	講義	長町
			7.飛沫予防策1	講義	長町
			8.飛沫予防策2	講義	長町
			9.接触予防策1	講義	長町
			10.接触予防策2	講義	長町
			11.感染症および病態別予防策1	講義	長町
			12.感染症および病態別予防策2	講義	長町
			13.感染症および病態別予防策3	講義	長町
			14.職業上曝露および曝露後の対応1	講義	長町
			15.職業上曝露および曝露後の対応2	講義	長町

教科書１	適宜指定する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	細胞・組織学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探求する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。						
概要	生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り広げられる場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 遺伝子の構造	講義	加納			
2. 遺伝子の複製	講義	加納			
3. 遺伝子の発現（1）転写	講義	加納			
4. 遺伝子の発現（2）翻訳	講義	加納			
5. 蛋白質の働き	講義	加納			
6. 細胞の構造（1）細胞膜	講義	加納			
7. 細胞の構造（2）細胞小器官	講義	加納			
8. 細胞の構造（3）細胞骨格	講義	加納			
9. 細胞膜の透過性	講義	加納			
10. 細胞内シグナル伝達機構（1	講義	加納			
11. 細胞内シグナル伝達機構（2）	講義	加納			
12. 細胞内シグナル伝達機構（3）	講義	加納			
13. 細胞内シグナル伝達機構（4）	講義	加納			
14. 細胞骨格の機能	講義	加納			
15. 細胞運動	講義	加納			

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者：Alberts et al. 出版社：Garland Science ISBN：0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	細胞・組織学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探求する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。						
概要	生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り広げられる場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。（20%）さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。（20%）一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。（60%）なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 細胞間コミュニケーション	講義	加納
			2. 細胞周期の機構	講義	加納
			3. 細胞周期の分子機構	講義	加納
			4. 細胞の増殖と分化（1）	講義	加納
			5. 細胞の増殖と分化（2）	講義	加納
			6. 細胞の老化（1）	講義	加納
			7. 細胞の老化（2）	講義	加納
			8. 細胞死	講義	加納
			9. 組織形成	講義	加納
			10. 器官形成	講義	加納
			11. 実習：細胞培養	実習	加納
			12. 実習：細胞と組織の染色	実習	加納
			13. 実習：DNA, RNAの分析	実習	加納
			14. 実習：遺伝子組み換え	実習	加納
			15. 実習：蛋白質の分析	実習	加納

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者：Alberts et al. 出版社：Garland Science ISBN：0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	生理機能特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の機能のうち、より高度で複雑な生体の調節系について学び、研究のテーマの決定、研究の進め方などを身につけることが出来る。						
概要	看護保健分野とリハビリテーション援助分野に共通な領域として、自律機能(循環・呼吸・消化など)と運動機能(筋・神経・感覚など)について、学部教育をより高度なものに発展させる。生体の機能を学ぶと同時に、生理機能研究法を身につけることができる。						
評価方法	授業態度、質疑応答状態による理解度を50点、期末試験の結果を50点として総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.生理機能研究法I	講義	水谷			
2.生理機能研究法II	講義	水谷			
3.生理機能研究法III	講義	水谷			
4.循環機能とその神経性・体液性調節機構	講義	水谷			
5.心臓のポンプ機能	講義	水谷			
6.血管・リンパ管の運動機能	講義	水谷			
7.循環中枢による心・血管系の調節機構	講義	水谷			
8.心血管運動に対する自律神経とホルモンの働き	講義	水谷			
9.呼吸反射、呼吸中枢での神経回路網	講義	水谷			
10.化学受容器反射による呼吸運動、ガス交換の調節	講義	水谷			
11.機械受容器による呼吸運動、ガス交換の調節	講義	水谷			
12.呼吸中枢ニューロンの自動性と吸息・呼息の交代性発現のメカニズム	講義	水谷			
13.消化器の運動機能	講義	水谷			
14.摂食・嚥下(誤嚥)のメカニズム	講義	水谷			
15.嘔吐反射の中枢性メカニズム	試験	水谷			
16.試験					

教科書１	標準生理学　第8版 著者:小澤瀞司・福田康一郎 【監修】 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-00301-8
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生理機能特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の機能のうち、より高度で複雑な生体の調節系について学び、研究のテーマの決定、研究の進め方を身につけることが出来る。						
概要	看護保健分野とリハビリテーション援助分野に共通な領域として、自律機能(循環・呼吸・消化など)と運動機能(筋・神経・感覚など)について、学部教育をより高度なものに発展させる。生体の機能を学ぶと同時に、生理機能研究法を身につけることができる。						
評価方法	授業態度、質疑応答状態による理解度を50点、期末試験の結果を50点として総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。また後半の英語論文抄読においては英語訳をしっかり行ってくることが必須条件である。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.排便反射機構(排尿反射との相似性)	AL	水谷
			2.腸壁内神経系と腸内反射(蠕動反射)のメカニズム	AL	水谷
			3.筋収縮のメカニズム	AL	水谷
			4.骨格筋の収縮の分子機構	AL	水谷
			5.収縮エネルギー供給機構	AL	水谷
			6.脊髄反射機構とα－γ連関	AL	水谷
			7.感覚器官(筋紡錘とゴルジ腱器官)	AL	水谷
			8.英語論文の抄読 (Introduction)	AL	水谷
			9.英語論文の抄読 (Method1)	AL	水谷
			10.英語論文の抄読 (Method2)	AL	水谷
			11.英語論文の抄読 (Results1)	AL	水谷
			12.英語論文の抄読 (Results2)	AL	水谷
			13.英語論文の抄読 (Discussion1)	AL	水谷
			14.英語論文の抄読 (Discussion2)	AL	水谷
			15.英語論文の抄読 (References & Summary)	AL	水谷
			16.試験	試験	水谷

教科書１	標準生理学　第8版 著者:小澤瀞司・福田康一郎 【監修】 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-00301-8
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長町　榮子、掛谷　益子、市村　美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	看護は実践の科学といわれる。ここでは「看護技術」に焦点をあて、看護技術の現状と看護技術研究の現状から今後の看護技術研究のあり方までを模索し、各自の興味ある看護技術の事象を明らかにできる。 看護技術に関する文献検索を行い研究の背景が明らかにでき、文献レビューを作成できる。						
概要	「看護技術」に関して、基礎研究、実験研究、調査研究の3側面から文献検索し、研究の背景についてまとめ文献レビューを作成し、プレゼンテーションを行う。 各回、レポーターを定め、進捗状況を報告するとともにディスカッションを行なう。 レポーターに当たっていない者は、資料を事前に必ず読んで出席し、討議に参加する。						
評価方法	レポーターとしての取り組み姿勢（40%）　　討議への参加度（20%） 文献レビューおよびプレゼンテーション（40%） なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	看護技術に関して興味・関心、問題意識をもっており、研究テーマに考えている。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関しての論文を検索し、いつでも利用できるように整理する。これらの文献の中から自己の研究課題に近い論文を読み込み、プレゼンテーションできるようにまとめる。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	AL	長町・掛谷・市村			
2. 看護技術に関する基礎研究の文献検索	AL	長町			
3. 看護技術に関する基礎研究の文献検索	AL	長町			
4. 看護技術に関する基礎研究の背景	AL	長町			
5. 看護技術に関する基礎研究の文献レビュー	AL	長町			
6. 看護技術に関する基礎研究の背景のプレゼンテーション	AL	長町			
7. 看護技術に関する実験研究の文献検索	AL	市村			
8. 看護技術に関する実験研究の背景	AL	市村			
9. 看護技術に関する実験研究の文献レビュー	AL	市村			
10. 看護技術に関する実験研究の背景のプレゼンテーション	AL	市村			
11. 看護技術に関する調査研究の文献検索	AL	掛谷			
12. 看護技術に関する調査研究の背景	AL	掛谷			
13. 看護技術に関する調査研究の文献レビュー	AL	掛谷			
14. 看護技術に関する調査研究のプレゼンテーション	AL	掛谷			

教科書１	必要時提示
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長町　榮子、掛谷　益子、市村　美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	作成した研究計画書を基に、データを収集、整理し、分析を行うことができる。						
概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法等を学ぶ。						
評価方法	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議での発言状況などの参加度（20%）　を総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自己の研究課題に近い論文から、データ収集・整理方法や分析方法などについてディスカッションするので、十分な理解が必要である。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. データ収集及びディスカッション（1）	AL	長町・掛谷・市村			
2. データ収集及びディスカッション（2）					
3. データ収集及びディスカッション（3）	AL	長町・掛谷・市村			
4. データ収集及びディスカッション（4）					
5. データ収集及びディスカッション（5）	AL	長町・掛谷・市村			
6. データ整理及びディスカッション（1）					
7. データ整理及びディスカッション（2）	AL	長町・掛谷・市村			
8. データ整理及びディスカッション（3）					
9. データ整理及びディスカッション（4）	AL	長町・掛谷・市村			
10. データ整理及びディスカッション（5）	AL	長町・掛谷・市村			
11. データ分析及びディスカッション（1）	AL	長町・掛谷・市村			
12. データ分析及びディスカッション（2）	AL	長町・掛谷・市村			
13. データ分析及びディスカッション（3）	AL	長町・掛谷・市村			
14. データ分析及びディスカッション（4）	AL	長町・掛谷・市村			
	AL	長町・掛谷・市村			
	AL	長町・掛谷・市村			
	AL	長町・掛谷・市村			
	AL	長町・掛谷・市村			

教科書１	必要時指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	長町　榮子、掛谷　益子、市村　美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	基礎保健看護学特論Ⅰでの関連文献の検索をもとに、文献検討を実施することで、クリティークの視点を持つことができる。また、先行文献で何がどこまで解明されているかについて明らかにし、実現可能な研究計画書を作成することができる。						
概要	基礎保健看護学特論Ⅰで検索した文献の感染予防、臨床薬理学、看護技術それぞれの中から論文を選択し、文献検討を実施する。文献検討をじっくり行うことで、学生自身の研究テーマが明らかになり、そのテーマに関して何がどこまで解明されているかを明らかにする。また、さらなる文献はどういうものが必要かを討議する。						
評価方法	文献検討に取り組む姿勢20％ 文献検討についてのプレゼンテーション内容および準備資料60％ 研究計画書の作成状況20％ なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2限目　研究室（6号館4階）にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.感染予防の基礎知識に関する文献検討(1)	AL	長町
			2.感染予防の基礎知識に関する文献検討(2)	AL	長町
			3.臨床薬理学に関する文献検討(1)	AL	長町
			4.臨床薬理学に関する文献検討(2)		長町
			5.看護技術のエビデンスに関する文献検(1)	AL	市村
			6.看護技術のエビデンスに関する文献検(2)	AL	市村
			7.看護技術・実験研究に関する文献検討(1)	AL	市村
			8.看護技術・実験研究に関する文献検討(2)	AL	市村
			9.看護技術・調査研究に関する文献検討(1)	AL	掛谷
			10.看護技術・調査研究に関する文献検討(2)	AL	掛谷
			11.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(1)	AL	掛谷
			12.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(2)	AL	掛谷
			13.研究計画書(1)	AL	長町
			14.研究計画書(2)	AL	市村
			15.研究計画書(3)	AL	掛谷
			16.まとめ	AL	長町・掛谷・市村

教科書１	随時指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	長町　榮子、掛谷　益子、市村　美香					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	文献検索、プレゼンテーションの方法を学び、修士論文を作成することができる。						
概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法等を学んだ。この基礎保健看護学特論Ⅰ演習に引き続き、考察、文献検索、抄録の作成方法、プレゼンテーション（パワーポイント作成、発表方法）について学び、論文を作成する。						
評価方法	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議での発言状況などの参加度（20%）　を総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「看護技術」に関して興味・関心、問題意識をもっており、研究テーマについて考えている。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにすること。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自分の研究課題に近い論文を引用文献とするので、論文内容について十分に理解する。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.考察及び文献検索（1）	AL	長町・掛谷・市村
			2.考察及び文献検索（2）	AL	〃
			3.考察及び文献検索（3）	AL	〃
			4.考察及び文献検索（4）	AL	〃
			5.考察及び文献検索（5）	AL	〃
			6.論文作成（1）	AL	〃
			7.論文作成（2）	AL	〃
			8.論文作成（3）	AL	〃
			9.論文作成（4）	AL	〃
			11.論文作成（5）	AL	〃
			11.プレゼンテーション（1）	AL	〃
			12.プレゼンテーション（2）	AL	〃
			13.プレゼンテーション（3）	AL	〃
			14.プレゼンテーション（4）	AL	〃
			15.抄録作成	AL	〃
			16.論文確認	AL	〃

教科書１	必要時指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺﨑　智行、安福　真弓、福岡　美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義|演習
テーマと到達目標	テーマ：母子保健 到達目標： ・母子看護領域における看護の役割が説明できる。 ・母子看護の変遷や母子保健領域の統計や法律について説明できる。 ・女性のライフサイクルにおける体の変化と健康について説明できる。 ・子どもの成長発達について説明できる。						
概要	人間は、胎生期の成長過程においては母体の心身の健康状態に強い影響を受け、人の基盤形成期である乳幼児期においてはその子どもを取り巻く家族や地域の環境の影響を受けながら、相互作用の中で成長・発達していく。母子を対象とする保健・医療・福祉分野においては、子どもと家族を一体ととらえて、その子の健やかな成長・発達の促進と家族の安心した生活が確保されるようなケアが求められる。そのための基礎を修得する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。						
評価方法	レポート（50％）・プレゼンテーション（30％）、授業への取組状況（20％）により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。						
自己学習	事前に示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりのノートを作成する。なお、予習・復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日2限（11：10～12：40）に個人研究室（6405）にて対応。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1．オリエンテーション	講義	寺﨑・福岡・			
2．母子看護の目指すところ（対象・目標・役割）	AL	安福 安福			
3．母子看護の変遷	AL				
4．母子看護に関する諸統計	AL	安福			
5．母子看護に関する法律	AL	安福			
6．母性の健康（1）思春期のからだ	AL	安福			
7．母性の健康（2）妊娠と出産（正常）	AL	福岡			
8．母性の健康（2）妊娠と出産（異常）	AL	福岡			
9．子どもの成長・発達の原則	AL	福岡			
10．乳児期の子どもの成長・発達	AL				
11．幼児期の子どもの成長・発達	AL	寺﨑			
12．学童期の子どもの成長・発達	AL	寺﨑			
13．思春期の子どもの成長・発達	AL	寺﨑			
14．発育の評価（1）形態的成長の観察と評価	AL	寺﨑			
15．発育の評価（2）心理社会的発達	AL	寺﨑 寺﨑			

教科書１	適宜提示する。
教科書２	
参考書１	生涯人間発達学 著者：上田礼子 出版社：三輪書房
参考書２	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺﨑　智行、安福　真弓、福岡　美和					NO.	KM3115206
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	現代社会に生きる子どもと家族の今日的な問題について考究し、母子看護の役割を説明できる。						
概要	少子・高齢社会の中で、子どもや家族の生活も多様化している。現代社会に生きる子どもと家族の今日的な問題について文献検討を行いながら、看護支援の在り方を探求する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。						
評価方法	レポート（50%）・プレゼンテーション（30%）、授業への取組み状況（20%）により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないように、事前準備、ディスカッションなどを含め積極的な学習を望む。						
自己学習	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりのノートを作成する。なお予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜2限(11:10～12:40)に個人研究室（6405）にて対応。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション(導入と進行確認)	講義	寺﨑・福岡・安福			
2. 母子保健・医療・福祉・看護の動向・多様化する家族	AL	福岡			
3. 子どもの身体変化と生活習慣	AL				
4. メディア社会に生きる子どもと家族の健康	AL	安福 安福			
5. 不登校	AL				
6. 子どものうつ病	AL	安福			
7. 子どもや家族を取り巻く環境と育児不安	AL	安福 安福			
8. 児童虐待とDV	AL				
9. 子どもの不慮の事故	AL	安福			
10. 思春期の喫煙・飲酒・薬物	AL	寺﨑			
11. 若者の性意識と性感染症	AL	寺﨑			
12. 子どもとアレルギー	AL	福岡			
13. 現代社会と子どもの生・死	AL	寺﨑			
14. 子どもの発達障害と大人の発達障害	AL	安福 寺﨑			
15. ワクチンで防げる感染症（予防接種事情）	AL	寺﨑			

教科書１	適宜提示する
教科書２	
参考書１	適時提示する
参考書２	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	寺﨑　智行、安福　真弓、福岡　美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義|演習
テーマと到達目標	・子どもや家族を支える諸理論・概念について説明できる。 ・母子保健、医療、福祉、看護分野の現状について理解を深める。 ・子どものストレス反応や対処行動に関する考え方について理解を深める。 ・母子看護領域のチーム医療における看護の役割について理解を深める。 ・子どもの権利擁護の考え方を基盤に、小児看護の倫理的課題について説明できる。						
概要	人間は、胎生期の成長過程においては母体の心身の健康状態に強い影響を受け、人の基盤形成期である乳幼児期においてはその子どもを取り巻く家族や地域の環境の影響を受けながら、相互作用の中で成長・発達していく。母子を対象とする保健・医療・福祉分野においては、子どもと家族を一体ととらえて、その子の健やかな成長・発達の促進と家族の安心した生活が確保されるようなケアが求められる。母性・小児看護学特論Ⅰに引き続き、そのための基礎を習得する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。						
評価方法	レポート（50%）・プレゼンテーション（30%）、授業への取組状況（20%）により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。						
自己学習	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりのノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜2限（11:10～12:40）に個人研究室（6405）にて対応。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1．オリエンテーション（導入と進行確認）	講義	寺﨑・福岡・安福
			2．母性看護と医療制度	AL	
			3．小児看護と医療制度	AL	福岡
			4．母子看護とストレスコーピング理論	AL	安福 福岡
			5．子どものストレスコーピング（文献検討）	AL	安福
			6．遊びの発達とプレパレーション（1）	AL	安福
			7．遊びの発達とプレパレーション（2）（文献検討）	AL	安福
			8．小児看護における倫理（1）	AL	
			9．小児看護における倫理（2）文献検討	AL	安福 安福
			10．母性看護と看護理論（1）	AL	
			11．母性看護と看護理論（2）文献検討	AL	福岡 福岡
			12．小児看護と看護理論（1）		
			13．小児看護と看護理論（2）文献検討	AL	
			14．母性看護と多職種連携	AL	安福 安福
			15．小児看護と多職種連携	AL	
				AL	福岡 安福

教科書１	適宜提示する。
教科書２	
参考書１	適宜提示する。
参考書２	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	寺﨑　智行、安福　真弓、福岡　美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	健康障害をもった子どもと家族を取り巻く問題・課題について考究し、母子看護の役割を説明できる。						
概要	医療の進歩や衛生状態の改善は、わが国の疾病構造に大きな変化をもたらし、健康障害をもつ子どもと家族を取り巻く環境は複雑、多様化している。慢性疾患や急性疾患による健康障害をもった子どもと家族を取り巻く社会・家庭における問題・課題について文献検討を行いながら、看護支援の在り方を探求する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。						
評価方法	レポート（50%）・プレゼンテーション（30%）、授業への取組状況（20%）により総合的に評価する。なお、講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。						
自己学習	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりにノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜2限(11:10～12:40)に個人研究室(6405)にて対応						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. オリエンテーション（導入と進行確認）	講義	寺﨑・安福
			2. 周産期医療の現状		
			3. 小児救急医療の現状	AL	福岡
			4. 先天性心疾患を持つ子どもと家族（1）	AL 講義	寺﨑 安福
			5. 先天性心疾患を持つ子どもと家族（2）文献検討	AL	安福
			6. 障害児（者）をとりまく社会・家庭・学校環境	AL	安福
			7. 子どもの障害告知と家族のゆらぎ（重症心身障害）	AL	安福
			8. 子どもの障害告知と家族のゆらぎ（発達障害）	AL	安福
			9. 子どもの障害告知と家族のゆらぎ（危機的状況）	AL	安福
			10. 子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス(1)	講義	安福
			11. 子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス（2）文献検討	AL	安福
			12. 子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス（3）発表	AL	安福
			13. 障害児(者)と家族のライフコース上の危機について	AL	安福
			14. 障害児(者)と家族の発達	AL	安福
			15. 障害児(者)と家族への地域サポート	AL	安福

教科書１	適宜提示する。
教科書２	
参考書１	適宜提示する
参考書２	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅰ					履修期	2020年度 春学期
担当者	竹﨑　和子、柘野　浩子、門倉　康恵					NO.	
配当学科	看護					年次	1
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	成人期・老年期は人生の中で最も長い期間を占めており、様々な課題とともに健康問題が生じやすい。このため家族も含めた人生の集大成に向けての歩みを支えることが求められる。 この授業では、臨床における実践や文献をもとに授業での討論を経て、成人期・老年期に求められる看護について考察を深める。						
概要	各課題に対する文献や自分自身の体験をもとに論述する。 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験をいかして指導する。						
評価方法	課題へ取り組む姿勢、発表態度、レポート等を組み合わせて評価（取組の姿勢・態度評価：50％、レポート評価50％）する。なお、評価のために実施した課題など授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献レビューをもとに自らの考察をしたうえで授業に出席すること。						
自己学習	予習：毎回の課題とする文献をクリティークし、レポートにまとめ授業に臨むこと。 　　文献抄読、レポート作成のために最低2時間は必要である。 復習：毎回の授業内容を確認し、自分なりにノートに纏めるため最低2時間は必要である。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜2限、6号館4階　看護セミナー室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.研究計画の策定 2.参考文献の調査 3.参考文献の精読 4.参考文献の精読 5.調査方法の検討 6.調査方法の確定 7.研究対象者に対する倫理的配慮 8.研究計画書の概要説明 9.研究計画書の作成 10.研究計画書の内容確認 11.院生のプレゼンテーションとディスカッション 12.院生のプレゼンテーションとディスカッション 13.研究計画書の修正 14.研究計画書の完成 15.まとめ	1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.演習 11.AL 12.AL 13.演習 14.演習 15.演習	1. 門倉 2. 門倉 3. 門倉 4. 門倉 5. 門倉 6. 竹﨑 7. 竹﨑 8. 竹﨑 9. 竹﨑 10. 竹﨑 11. 柘野 12. 柘野 13. 柘野 14. 柘野 15. 柘野			

教科書１	資料及び参考論文は適宜配布する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	竹﨑　和子、柘野　浩子、門倉　康恵					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	成人・老年保健看護学の視点から成人期・老年期の対象とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、自らの研究課題を絞り込むことができる。						
概要	人・老年保健看護学領域での研究の課題と新規性について講義すると共に自らも課題提示をする。 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験をいかして指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された課題レポートの内容について評価する（60%）。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにはみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を抽出し、 明確な質疑応答ができること。						
自己学習	自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しレポートに纏める。また講義の中でも自ら研究課題に関してまとめておくこと。また自己学習をもとに討議できるようにしておく。 自己学習時間は,予習、復習各最低2時間は確保すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜2限、6号館4階　看護セミナー室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.キーワードの選定 2.文献検索 3.文献検索 4.関連論文の査読 5.関連論文の査読 6.関連論文の査読 7.関連論文の査読 8.関連文献の査読 9.関連論文の査読 10.院生のプレゼンテーションとディスカッション 11.院生のプレゼンテーションとディスカッション 12.院生のプレゼンテーションとディスカッション 13.院生のプレゼンテーションとディスカッション 14.院生のプレゼンテーションとディスカッション 15.まとめ	1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.AL 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.演習	1. 門倉 2. 門倉 3. 門倉 4. 門倉 5. 門倉 6. 竹﨑 7. 竹﨑 8. 竹﨑 9. 竹﨑 10. 竹﨑 11. 柘野 12. 柘野 13. 柘野 14. 柘野 15. 柘野			

教科書１	資料及び参考論文は適宜配布する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	竹﨑　和子、柘野　浩子、門倉　康恵					NO.	
配当学科	看護				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	自ら取り組みたい研究テーマに関連する研究課題を絞り込み、成人・老年保健看護学特論Ⅰに引き続いて受講することを前提に、成人・老年保健看護学領域で修士論文の作成を希望する者が、本領域における研究の基礎となる知識を理解し、論文作成に取り組む。						
概要	成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、研究課題を絞り込むことができる。成人・老年期の看護に関連する研究的課題を概観するとともに、自らも看護的な側面から成人・老年期の人々が抱える課題に関心と興味を持つとともに、自らの研究課題をフォーカスする。 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験をいかして指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された課題レポートの内容について評価する(60%)。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにはみなおしておくこと						
履修条件・注意事項	毎回、指示された課題に関してレポートとしてまとめ発表する。自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しリポートに纏める。また講義の中でも自ら研究発表ができるように研究課題に関して、まとめておくこと。						
自己学習	各講義について、指定文献の読み込みやレポート提出に向けて、予習、復習各最低2時間の自己学習時間を確保する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日　昼休憩　6号館4階　看護セミナー室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.ガイダンス 2.研究計画の策定 3.参考文献の調査 4.参考文献の調査 5.参考文献の精読 6.参考文献の精読 7.調査方法の検討 8.調査方法の検討 9.調査方法の確定 10.調査の実施 11.調査の実施 12.調査結果の収集 13.調査結果の整理 14.調査方法の見直し 15.まとめ	1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.AL 11.AL 12.演習 13.演習 14.演習 15.演習	1. 門倉 2. 門倉 3. 門倉 4. 門倉 5. 門倉 6. 竹﨑 7. 竹﨑 8. 竹﨑 9. 竹﨑 10. 竹﨑 11. 柘野 12. 柘野 13. 柘野 14. 柘野 15. 柘野

教科書１	資料及び参考文献は適宜配布する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	竹﨑　和子、柘野　浩子、門倉　康恵					NO.	
配当学科	看護				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、自らの研究課題を絞り込むことができる。						
概要	成人・老年保健看護学領域での研究の課題と新規性について講義すると共に自らも課題提示をする。 この科目は、看護師の実務経験があり課程を博士前期課程を修了した教員がその経験をいかして指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また最終提出された課題レポートの内容について評価する(60%)。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにはみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	成人・老人保健看護学特論Ⅱの履修を条件とする。						
自己学習	自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しリポートに纏める。また講義の中でも自ら研究課題に関してまとめておくこと。また自己学習をもとに討議できるようにしておく。その準備に予習、復習各最低4時間の自己学習時間を確保すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日　昼休憩　6号館4階　看護セミナー室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.ガイダンス 2.研究対象者に対する倫理的配慮 3.質的研究方法の考察 4.質的研究方法の問題点についてディスカッション 5.質的データの分析① 6.質的データの分析② 7.質的データの考察① 8.質的データの考察② 9.研究論文作成方法① 10.研究論文作成方法② 11.論文の書き方 12.院生のプレゼンテーションとディスカッション① 13.院生のプレゼンテーションとディスカッション② 14.研究発表方法 15.まとめ	1.演習 2.演習 3.演習 4.演習 5.演習 6.演習 7.演習 8.演習 9.演習 10.演習 11.演習 12.AL 13.AL 14.演習 15.演習	1. 門倉 2. 門倉 3. 門倉 4. 門倉 5. 門倉 6. 竹﨑 7. 竹﨑 8. 竹﨑 9. 竹﨑 10. 竹﨑 11. 柘野 12. 柘野 13. 柘野 14. 柘野 15. 門倉 竹﨑 柘野

教科書１	資料及び参考論文は適宜配布する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中瀬　克己、田中　富子、中嶋　貴子、増本　由紀子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	疫学入門：調査研究理論と方法 集団を対象とした保健活動を進めるにあたって、健康問題の把握・実践活動・評価の各段階で、疫学的な検討が欠かせない。一方、疫学はEBMの基礎理論でもあり、応用範囲は広がっている。 この授業により，自ら調査研究を行う場合はもちろん、他の文献を読み、吟味する際にも必要な基礎知識が身につく。						
概要	受講生の疫学に関する理解度・習熟度は入学までの経歴等によって様々なので、講義内容は受講生によって変わる可能性がある。また、受講者の研究計画なども考慮して、できるだけ柔軟に対応したい。大まかな内容としては、疫学的アプローチの方法、集めたデータの処理法、文献の批判的吟味などを考えている。 以下の授業計画は，保健師課程を履修していない全くの初心者を想定している。						
評価方法	試験（80％）のみでなく、受講態度（10％）、レポートの内容（10％）で総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、積極的な学習を望む。						
自己学習	疫学初心者にとっては取っつきにくいかも知れないので，予習復習を欠かさず，疑問点を持ち越さないこと。 毎回，予習復習を兼ねた課題を課すので，次回までに必ず仕上げて提出すること。 これらを含め，1回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6424研究室（変更があり得る）にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜2限を，オフィスアワーとする。。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1．オリエンテーション，疫学とは	講義	中瀬			
2．調査理論(1)　母集団と標本	講義	中瀬			
3．調査理論(2)　質問紙の作成法	演習	中瀬			
4．疫学調査法(1)　疾病量の把握法	講義	中瀬			
5．疫学調査法(2)　コホート調査と症例対照調査	講義	中瀬			
6．疫学調査法(3)　疫学指標	講義	中瀬			
7．疫学調査法(4)　介入調査	講義	中瀬			
8．疫学調査法(5)　バイアスと交絡因子	講義	中瀬			
9．疫学調査法(6)　因果関係	講義	中瀬			
10．疫学に必要な統計(1)　既存統計の利用	講義	中瀬			
11．疫学に必要な統計(2)　記述統計	講義	中瀬			
12．疫学に必要な統計(3)　推定と検定の考え方と方法	講義	中瀬			
13．疫学に必要な統計(4)　推定と検定の実際	演習	中瀬			
14．疫学に必要な統計(5)　多変量解析入門	講義	中瀬			
15．臨床疫学入門	講義	中瀬			
16．試験（口頭試問）	試験	中瀬			

教科書１	
教科書２	
参考書１	その都度紹介する。
参考書２	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己、増本　由紀子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	疫学調査研究を計画し，実行し，収集したデータを処理して，結果を考察し，報告書や論文にまとめられる能力を身につける。 あわせて，研究倫理についても身につける。						
概要	内容は，研究テーマや調査方法によって柔軟に対応したいが，これまでに蓄積された調査データを元に，個人が特定できないよう一部加工してあるものを中心に，実際にデータの分析等を試みる。						
評価方法	期末試験（50%），提出課題の内容（40%）を重視するが，受講態度や授業中の発言などを含め（10%），総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	データの集計等では，当然のことながら，パソコンを使用する。 自前のパソコンを用意しておくことが望ましい。						
自己学習	毎回課題を出すので，次回までにやっておくこと。 それが予習・復習にもなり，毎回かなりの時間を割くことになるはずである。 これらを含め，1回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6424研究室（変更があり得る）にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜2限を，オフィスアワーとする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 調査計画（目的・対象・方法等）	演習	中瀬			
2. 調査にあたっての手続き・関係者との調整（倫理審査を含む）	演習	中瀬			
3. 調査の実施（回収法・回収率等の検討）	演習	中瀬			
4. データのチェックと入力（矛盾回答・無効回答などの扱い）	演習	中瀬			
5. データの集計（素集計と入力ミスのチェック）	演習	中瀬			
6. カテゴリ・データの扱い（クロス集計）	演習	中瀬			
7. カテゴリ・データの扱い（3次元以上のクロス集計）	演習	中瀬			
8. 数値データの扱い	演習	中瀬			
9. 順序データの扱い	演習	中瀬			
10. 集計結果についての検定と推定 (1)カテゴリ・データ	演習	中瀬			
11. 集計結果についての検定と推定 (2)数値データ	演習	中瀬			
12. 集計結果についての検定と推定 (3)順序データ	演習	中瀬			
13. 多変量解析の意義	演習	中瀬			
14. 結果についての考察	演習	中瀬			
15. . 試験（口頭試問）	試験	中瀬			

教科書１	教科書の使用は考えていない。
教科書２	
参考書１	その都度紹介する。
参考書２	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中瀬　克己、田中　富子、中嶋　貴子、増本　由紀子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	公衆衛生看護活動を提供する職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面において，対象者を総合的に捉えライフサイクルに添った継続的・包括的な看護ケアに関する、文献レビューや現地調査・支援介入・アクションリサーチに関する方法論をとおして研究的視点で学ぶ。職域や地域・学校等における公衆衛生看護に関連する領域の文献により研究を進める上での基本的知識を身につける。また，各担当者毎にレポートや発言内容のフードバックを行い，理解を深める.						
概要	地域看護活動の中の、職場・地域・家庭・学校のそれぞれの領域における先行研究や関係資料の探索や購読力を養う。また、ディスカッションを行う中で社会的背景や健康課題の理解を深め、研究的思考力を高めるようにする。授業担当者ごとに講義の最後の日は学んだことをプレゼンテーションで発表させ、参加者同士で質疑応答や意見交流をする中でプレゼンテーション能力、質問力も身につける。 この科目は，学校保健や行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし，地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした授業・研究指導を行う。						
評価方法	認定試験(50%)，受講態度(10%)，レポートの内容(20%)，ディスカッションでの発言内容(20%) などによる総合的な評価とする。評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
自己学習	公衆衛生看護の中の職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面における包括的看護ケアに関して、文献レビューや調査・介入に関連する領域の文献から基本的知識を身につけておくこと。なお，予習・復習にかかる時間は各2時間程度とする。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各個人研究室（田中は6406号室、中嶋は6422号室、増本は6421号室）にて火曜日4次限で行う。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.公衆衛生看護活動の展開方法と対象	AL	田中
			2.地域ケアシステムの育成と保健師の機能	AL	田中
			3.ソーシャルキャピタル醸成と地域づくり	AL	田中
			4.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク①	AL	田中
			5.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク②	AL	田中
			6.訪問看護・ACTに関する理論と実践	AL	中嶋
			7.リエゾン精神看護に関する理論と実践	AL	中嶋
			8.地域で生活している精神障害者に対する健康支援	AL	中嶋
			9.地域精神看護領域の文献レビューとクリティーク	AL	中嶋
			10.の拠点事業精神領域における多職種連携	AL	中嶋
			11.心理学の視点から学ぶメンタルヘルスケア	AL	増本
			12.学校におけるヘルスプロモーション	AL	増本
			13.子どもの健康課題と養護教諭の役割	AL	増本
			14.学校保健領域の文献レビューとクリテイーク	AL	増本
			15..連携スキル学習の概要	AL	増本

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己、増本　由紀子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	公的機関が提供する公衆衛生看護活動，地域組織活動，地域社会資源，学校などでのフィールドワークをとおして，各領域の看護活動の実際や公衆衛生看護の役割と課題を学ぶことが出来る。各領域毎に担当教員がレポートやディスカッション内容によるフィードバックを行い，総合的な理解を深める.						
概要	公衆衛生看護活動や地域組織活動 、精神科領域における地域社会資源である施設や病院、地域の学校、と授業担当者のそれぞれの専門領域において、演習や実習などのフィールドワークを行う。フィールドワークは1～2週間の期間とし、そこでの学びにおいて研究的視点の涵養を図る。 この科目は，学校保健や行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし，地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした演習や研究指導を行う。						
評価方法	実習の参加態度(10%)，レポートの内容(20%)，質疑応答(20%)，認定試験(50%)などから総合的に評価する。 評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	フィールドワークにおける地域特性や背景，目的等は事前に理解を深め，積極的な実習態度で臨むこと。実習施設は各担当教員が調整する。						
自己学習	職場・地域・家庭・学校などの様々な生活場面における包括的看護活動に関する，文献レビューを行い、調査・介入に関連する基本的知識を身につけておくこと。予習復習を行い、自分なりにノートにまとめておき、積極的に学習に臨むこと。なお，予習・復習にかかる時間は各2時間程度である。フィールドワークの実習場所ごとにレポート提出し、プレゼンテーションの資料とする。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室（田中は6406号室、中嶋は6422号室、増本は6421号室）にて火曜日4次限で行う。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 公衆衛生看護学の実習①公衆衛生看護技術	AL	田中
			2. 公衆衛生看護学の実習②高齢者を対象とした保健指導	AL	田中
			3. 公衆衛生看護学の実習③母子を対象とした多職種連携	AL	田中
			4. 公衆衛生看護学の実習④健康問題を抱える対象への家庭訪問	AL	田中
			5. 公衆衛生看護学の実習⑤地区診断演習・まとめ発表	AL	田中
			6. 精神看護の実習①精神科病院における精神看護	AL	中嶋
			7. 精神看護の実習②地域における精神看護	AL	中嶋
			8. 精神看護の実習③一般病院における精神看護	AL	中嶋
			9. 精神看護の実習④多職種連携による健康支援	AL	中嶋
			10. 課題プレゼンテーション発表	AL	中嶋
			11. 学校保健の実習①		
			12. 学校保健の実習②	AL	増本
			13. 学校保健の実習③	AL	増本
			14. 子どもの発達と健康課題への対応	AL	増本
			15. 課題プレゼンテーション発表	AL	増本
				AL	増本

教科書１	特に定めない。担当教員毎に必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1 回:動作解析の方法論①	AL	河村顕治			
第2 回:動作解析の方法論②	AL	河村顕治			
第3 回:動作解析の方法論③	AL	河村顕治			
第4 回:Closed Kinetic Chain①	AL	河村顕治			
第5 回:Closed Kinetic Chain②	AL	河村顕治			
第6 回:Closed Kinetic Chain③	AL	河村顕治			
第7 回:立ち上がりの筋張力解析①	AL	河村顕治			
第8 回:立ち上がりの筋張力解析②	AL	河村顕治			
第9 回:歩行動作の筋張力解析①	AL	河村顕治			
第10回:歩行動作の筋張力解析②	AL	河村顕治			
第11回:CKCでの二関節筋の作用①	AL	河村顕治			
第12回:CKCでの二関節筋の作用②	AL	河村顕治			
第13回:CKCでの二関節筋の作用③	AL	河村顕治			
第14回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治			
第15回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	リハビリテーション基礎医学の分野である解剖組織学と生化学研究に関する種々の研究手法を理解し、その分野の研究データーを理解・解釈ができることを到達目標とする。						
概要	組織細胞学に関する先行研究の文献を用いた指導を行う。次に履修者に研究テーマを設定させ、研究テーマに関する文献検索、研究計画の作成を行う。研究分野：廃用性筋萎縮や関節拘縮などの臨床状態に対応した組織形態や細胞の変化について調べ、その予防法と治療法のEBMを検証しながら学習を進め、授業を行う。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	受け身ではなく、能動的かつ積極的な学習が重要である。						
自己学習	関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	秋山研究室（2号館4F）にて木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.筋の基本的機能の復習	講義	秋山			
2.骨格の基本的機能の復習	講義	秋山			
3.運動・感覚神経系の基本機能の復習	講義	秋山			
4.筋系の病理組織学	講義	秋山			
5.筋系の細胞機能	AL	秋山			
6.筋系の萎縮・再生とその予防	AL	秋山			
7.骨格の病理組織学	AL	秋山			
8.骨の細胞機能	AL	秋山			
9.骨格の萎縮・再生とその予防	AL	秋山			
10.運動・感覚神経系の病理学	AL	秋山			
11.運動・感覚神経系細胞機能	AL	秋山			
12.運動・感覚神経系の障害と予防	AL	秋山			
13.廃用症候群の臨床	AL	秋山			
14.廃用症候群の組織学	AL	秋山			
15.廃用症候群の予防	AL	秋山			

教科書１	標準組織学 総論 著者：藤田　尚男　他 出版社：医学書院 ISBN：978-4260015318
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期） □				年次	1	
必修・選択	選択 □	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 □
テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。ここでは変形性膝関節症を取り上げる。 変形性膝関節症に対する理学療法を学び，治療理論，機序について説明できる。						
概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患への考察を深め，障害および症状に対する理学療法について説明できる力を獲得する。						
評価方法	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。						
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておくこと。 予習および復習には各2時間程度を有する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週水曜日をオフィスアワーとする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.関節軟骨の解剖生理（関節軟骨の構造）	講義	中嶋正明			
2.関節軟骨の解剖生理（軟骨細胞の新陳代謝）	講義	中嶋正明			
3.関節軟骨の解剖生理（滑りと流体力学）	講義	中嶋正明			
4.変形性膝関節症の病態（1構造的変化）	講義	中嶋正明			
5.変形性膝関節症の病態（サイトカイン，MMP）	講義	中嶋正明			
6.変形性膝関節症における膝の痛み（痛みの責任箇所）	講義	中嶋正明			
7.変形性膝関節症における膝の痛み（pain-producing substance）	講義	中嶋正明			
8.変形性膝関節症における膝の痛み（pain-enhancing substance）	講義	中嶋正明			
9.筋血流とprecapillary sphincter	講義	中嶋正明			
10.血管平滑筋のコントロール	講義	中嶋正明			
11.軟骨細胞へのメカニカルストレスと抗炎症サイトカイン	講義	中嶋正明			
12.軟骨細胞へのメカニカルストレスと抗マトリックスプロテアーゼ	講義	中嶋正明			
13.メカニカルストレスと軟骨細胞のアポトーシス	講義	中嶋正明			
14.変形性膝関節症の保存療法の再考					

教科書１	適宜，指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持ってくること。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. リハビリテーションと研究	講義	井上茂樹			
2. リハビリテーション研究の概要	講義	井上茂樹			
3. リハビリテーション研究の過程	講義	井上茂樹			
4. リハビリテーション研究の範囲	講義	井上茂樹			
5. リハビリテーション研究の流れ	講義	井上茂樹			
6. リハビリテーションにおける今日的課題①	講義	井上茂樹			
7. リハビリテーションにおける今日的課題②	講義	井上茂樹			
8. リハビリテーションにおける今日的課題③	講義	井上茂樹			
9. 研究テーマの探し方①	講義	井上茂樹			
10.研究テーマの探し方②	講義	井上茂樹			
11.研究の展開と問題解決手順①	講義	井上茂樹			
12.研究の展開と問題解決手順②	講義	井上茂樹			
13.研究の流れと研究計画①	講義	井上茂樹			
14.研究の流れと研究計画②	講義	井上茂樹			
15.統計学的手法の選択	講義	井上茂樹			

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「脳血管障害の理学療法介入」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を学習し、エビデンスの高い理学療法介入に関して説明できることを目標とする。						
概要	脳血管障害のリハビリテーションにおいて、様々な治療的介入が存在する中で、臨床において標準的な介入が運動器疾患ほど浸透していない理由に関して考えていきたい。また、脳血管障害の機能回復機序を最新の知見をもとに考え、標準的かつ有効な介入方法を検討していく。特にガイドライン、研究発表で有効とされている内容と臨床の理学療法士が経験的に有効と確信していることとのギャップがなぜ生まれるのか、どのようにして解消するのかということにも焦点を当てていく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 脳血管障害の概要	講義	森下			
2. 正常な脳機能の知見	講義	森下			
3. 脳機能障害と回復の知見	講義	森下			
4. 脳機能とリハビリテーション	講義	森下			
5. 神経生理学、神経科学的解釈	講義	森下			
6. 神経心理学的解釈	講義	森下			
7. 運動学習理論	講義	森下			
8. ガイドラインとエビデンス	講義	森下			
9. 臨床における現状の問題点	講義	森下			
10. 現在行われている治療法の批判的吟味	講義	森下			
11. 適切なアウトカム指標	講義	森下			
12. 推奨される治療的介入	講義	森下			
13. 課題プレゼンテーション1	AL	森下			
14. 課題プレゼンテーション2	AL	森下			

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の成因と診断・治療」をテーマに講義する。関節の解剖・生理、関節障害の病態、痛みの発生機序や最新の診断法、治療法を学び、理学療法士として、研究者としての基礎知識を身につけることを目標とする。						
概要	本講では関節障害の成因と診断・治療に主眼をおき講義する。まず、関節軟骨の基礎、軟骨障害の診断と再生治療を中心とした最新の軟骨修復について講義する。また、関節障害に起因する痛みの基礎を学び痛みへの対処法について探求する。さらに、関節障害の診断について、理学的検査から内視鏡を中心とした観血的診断法まで、最新の検査法や、理学療法士に必要な関節運動の生体力学的解析法について講義する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試験)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.軟骨の基礎	講義	森			
2.軟骨障害の基礎	講義	森			
3.軟骨修復の基礎	講義	森			
4.軟骨修復の臨床	講義	森			
5.関節痛の構造的病態	講義	森			
6.関節痛の生理	講義	森			
7.関節痛の治療(薬物治療)	講義	森			
8.関節痛の治療(理学療法)	講義	森			
9.関節障害の診断(理学的検査)	講義	森			
10.関節障害の診断(血液生化学的検査)	講義	森			
11.関節障害の診断(画像的診断XP)	講義	森			
12.関節障害の診断(画像的診断MRI)					
13.関節障害の診断(観血的診断)	講義	森			
14.関節障害の診断(関節音の解析)	講義	森			
15.まとめ(口頭試問)	講義	森			
	AL	森			

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを資料を配付する。
教科書２	
参考書１	骨と軟骨のバイオロジー　－基礎から臨床への展開 著者:藤井克之　井上一 出版社:金原出版社 ISBN:978-4-307-25117-4
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本演習では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。 また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1 回:動作解析の方法論①	AL	河村顕治			
第2 回:動作解析の方法論②	AL	河村顕治			
第3 回:動作解析の方法論③	AL	河村顕治			
第4 回:Closed Kinetic Chain①	AL	河村顕治			
第5 回:Closed Kinetic Chain②	AL	河村顕治			
第6 回:Closed Kinetic Chain③	AL	河村顕治			
第7 回:立ち上がりの筋張力解析①	AL	河村顕治			
第8 回:立ち上がりの筋張力解析②	AL	河村顕治			
第9 回:歩行動作の筋張力解析①	AL	河村顕治			
第10回:歩行動作の筋張力解析②	AL	河村顕治			
第11回:CKCでの二関節筋の作用①	AL	河村顕治			
第12回:CKCでの二関節筋の作用②	AL	河村顕治			
第13回:CKCでの二関節筋の作用③	AL	河村顕治			
第14回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治			
第15回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	リハビリテーション基礎医学の分野での組織細胞化学に関する研究の手技能力とその技術の研究テーマへの計画立案やデーター適応ができることを到達目標とする。						
概要	組織細胞学に関する各種実験を実際に行い、実験の手技を習得す。実験目的からの手技分野:廃用性筋萎縮や関節拘縮などでの筋、骨、関節、神経、について各種組織学的染色法や生化学的試験法(遺伝子、酵素等)についての技術を系統的に探求する。						
評価方法	演習の各項目毎の理解と実習について、概論や作業工程の理論(50%)と実習・実技試験(50%)により成績評価を行う。また、その都度の評価試験について理解不足や誤りのついてフィードバック指導学習を行う。						
履修条件・注意事項	特になし。受け身ではなく、能動的かつ積極的な学習が重要である。						
自己学習	関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	秋山研究室(2号館4F)にて木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.解糖系・抗酸化系酵素	AL	秋山			
2.解糖系・抗酸化系酵素の測定	AL	秋山			
3.各種タンパク合成に関する遺伝子発現理論	AL	秋山			
4.筋組織の酵素	AL	秋山			
5.骨産生組織の酵素	AL	秋山			
6.解糖系酵素理論学習	AL	秋山			
7.抗酸化系酵素理論学習	AL	秋山			
8.筋組織の解糖系酵素の測定実習	AL	秋山			
9.骨組織の解糖系酵素の測定実習	AL	秋山			
10.筋組織の抗酸化系酵素の測定	AL	秋山			
11.骨組織の抗酸化系酵素の測定	AL	秋山			
12.神経機能の評価法	AL	秋山			
13..組織の遺伝子発現の測定	AL	秋山			
14.組織の各種タンパク合成に関する遺伝子発現の測定	AL	秋山			
15組織各種特殊組織染色実習	AL	秋山			

教科書１	「Medical Technology」別冊　最新染色法のすべて 著者:水口　國雄　編 出版社:医歯薬出版 ISBN:雑誌コード08608−03
教科書２	Essential　細胞生物学 著者:B.et al.Alberts　中村桂子他 訳 出版社:南江堂
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期) □				年次	2	
必修・選択	選択 □	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 □

テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 ここでは変形性膝関節症を取り上げ，変形性膝関節症に対する理学療法を学び，治療理論，機序を再考す。
概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患への考察を深め，障害および症状に対する理学療法について文献抄読および実習を通して再考し，問題点について論ずる力を獲得する。
評価方法	文献収集等の取り組み姿勢(30%)，内容の理解や質疑応答における発言状況(30%)，および問題点について論理的に論ずる力(40%)を総合的に評価する. なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	適宜，実習を行う。
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日3限，水曜日3限，6号館3階中嶋研究室(6329)にて

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.変形性膝関節症の痛み(評価1)	講義とAL	中嶋正明			
2.変形性膝関節症の痛み(評価2)	講義とAL	中嶋正明			
3.変形性膝関節症と膝関節アライメント	講義とAL	中嶋正明			
4. 膝関節アライメントと軟骨細胞のアポトーシス	講義とAL	中嶋正明			
5.変形性膝関節症と下肢筋力					
6.大腿四頭筋筋力強化(OKC，CKC)	講義とAL	中嶋正明			
7.大腿四頭筋筋力強化(拮抗筋の同時収縮)	講義とAL	中嶋正明			
8.筋力強化(筋肥大の条件1)	講義とAL	中嶋正明			
9.筋力強化(筋肥大の条件2)	講義とAL	中嶋正明			
10.関節運動と抗炎症サイトカイン1	講義とAL	中嶋正明			
11.関節運動と抗炎症サイトカイン2	講義とAL	中嶋正明			
12.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝1(強度)	講義とAL	中嶋正明			
13.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝1(頻度)	講義とAL	中嶋正明			
14.変形性膝関節症の保存療法の実際	講義とAL	中嶋正明			

教科書１	適宜，指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを探求する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 動作解析方法論①	講義	井上茂樹			
2. 動作解析方法論②	講義	井上茂樹			
3. 動作解析方法論③	講義	井上茂樹			
4. 静的姿勢について①	AL	井上茂樹			
5. 静的姿勢について②	Al	井上茂樹			
6. 動的姿勢について①	AL	井上茂樹			
7. 動的姿勢について②	AL	井上茂樹			
8. 立位姿勢解析①	AL	井上茂樹			
9. 立位姿勢解析②	AL	井上茂樹			
10. 立位姿勢解析③	AL	井上茂樹			
11. 立位姿勢解析④	AL	井上茂樹			
12. 立位姿勢解析⑤	AL	井上茂樹			
13. 計測結果の分析①	AL	井上茂樹			
14. 計測結果の分析②	AL	井上茂樹			
15. 計測結果の分析③	AL	井上茂樹			

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合した、より対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入に関して説明できるようになることを目標とする。						
概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。 標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法と臨床実践に関しても探究していく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究内容に関する最新の知見の講義	講義	森下			
2. 研究内容に関する文献の収集方法	演習	森下			
3. 研究内容に関する収集文献の発表1	AL	森下			
4. 研究内容に関する収集文献の発表2	AL	森下			
5. 教員による総括	演習	森下			
6. 研究方法論に関して(臨床疫学)	演習	森下			
7. 研究方法論に関して(データ収集)	演習	森下			
8. 研究方法論に関して(データ解析)	演習	森下			
9. 研究内容の発表の方法	演習	森下			
10. 研究内容の要旨の報告	演習	森下			
11. 研究内容のプレゼンテーション	演習	森下			
12. 研究内容のまとめ方	演習	森下			
13. 研究内容の報告書の作成	AL	森下			
14. 全体的総括	AL	森下			

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害診断の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI画像の読影、筋電計や重心動揺計を用いた動作解析、新しい診断法とである超音波や関節音診断の実際を学び、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能を身につけることを目標とする。						
概要	本講では関節障害の診断と動作解析に主眼をおき講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図を実際の症例について学ぶと共に新しい診断法となりうる超音波診断や関節音の分析について実技指導する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。 なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.関節障害の診断(理学的検査の現況)	講義	森			
2.関節障害の診断(理学的検査の実技)	講義	森			
3.関節障害の診断(X線・MRI画像診断の現況)	講義	森			
4.関節障害の診断(X線・MRI画像読影の実技1)	講義	森			
5.関節障害の診断(X線・MRI画像読影の実技2)	講義	森			
6.関節障害の診断(超音波画像診断の現況)	講義	森			
7.関節障害の診断(超音波画像診断の実技1)	講義	森			
8.関節障害の診断(超音波画像診断の実技2)	講義	森			
9.関節障害診断への筋電計利用の現況	講義	森			
10.関節障害診断への筋電計応用の実際	講義	森			
11.関節音診断の現況	講義	森			
12.関節音の基礎	講義	森			
13.関節音分析の実技1	講義	森			
14.関節音分析の実技2	講義	森			
15. まとめ(口頭試問)	AL	森			

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。
教科書２	
参考書１	関節のMRI 第2版 著者:福田国彦　上谷雅孝　杉本英治　江原茂 出版社:メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN:978-4-89592-732-1
参考書２	運動器の超音波 著者:木野達司 出版社:南山堂 ISBN:978-4-525-22631-2

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1 回：動作解析の方法論①	AL	河村顕治
			第2 回：動作解析の方法論②	AL	河村顕治
			第3 回：動作解析の方法論③	AL	河村顕治
			第4 回：Closed Kinetic Chain①	AL	河村顕治
			第5 回：Closed Kinetic Chain②	AL	河村顕治
			第6 回：Closed Kinetic Chain③	AL	河村顕治
			第7 回：立ち上がりの筋張力解析①	AL	河村顕治
			第8 回：立ち上がりの筋張力解析②	AL	河村顕治
			第9 回：歩行動作の筋張力解析①	AL	河村顕治
			第10回：歩行動作の筋張力解析②	AL	河村顕治
			第11回：CKCでの二関節筋の作用①	AL	河村顕治
			第12回：CKCでの二関節筋の作用②	AL	河村顕治
			第13回：CKCでの二関節筋の作用③	AL	河村顕治
			第14回：単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治
			第15回：単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	リハビリテーション基礎医学の分野での組織細胞化学に関する研究テーマについて自ら計画立案できることを到達目標とする。						
概要	組織細胞学に関する先行研究の文献を用いた指導を行う。次に履修者に研究テーマを設定させ、研究テーマに関する文献検索、研究計画の作成を行う。研究分野:各種皮疹、褥創、廃用性筋萎縮や関節拘縮などの臨床状態に対応した組織形態や細胞の変化について調べ、その予防法とより有効な治療法についての授業を行う。						
評価方法	各項目毎の理解と実習について、概論や作業工程の理論(50%)と実習・実技試験(50%)により成績評価を行う。また、その都度の評価試験について理解不足や誤りのついてフィードバック指導学習を行う。						
履修条件・注意事項	自身で考える積極的な学習の姿勢が重要である。						
自己学習	関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて木曜日の3時限目に実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.廃用性筋萎縮と関節拘縮の臨床、予防とその治療(1)	講義	秋山
			2.廃用性筋萎縮と関節拘縮の臨床、予防とその治療(2)	講義	秋山
			3.廃用性筋萎縮と関節拘縮の臨床、予防とその治療(3)	講義	秋山
			4.廃用性筋萎縮と関節拘縮の臨床、予防とその治療(4)	講義	秋山
			5.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(1)	講義	秋山
			6.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(2)	講義	秋山
			7.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(3)	講義	秋山
			8.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(4)	講義	秋山
			9.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(5)	講義	秋山
			10.廃用性筋萎縮の発症要因に関する病理纏哉形態学(6)	講義	秋山
			11.関節拘縮の発症要因に関する病理組織形態学	講義	秋山
			12.関節拘縮の発症要因に関する病理組織形態学	講義	秋山
			13.関節拘縮の発症要因に関する病理組織形態学	講義	秋山
			14.その他の筋、骨、神経の統合的所見	講義	秋山
			15.その他の筋、骨、神経の統合的所見	講義	秋山

教科書１	標準　組織学　総論 著者:藤田　尚男　他 出版社:医学書院 ISBN:978-4260015318
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期） □				年次	1	
必修・選択	選択 □	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について学ぶ。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について，その治療理論，機序について説明できることを目標とする。						
概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患への考察を深め，障害および症状に対する理学療法について説明できる力を獲得する。						
評価方法	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。						
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日3限，水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.筋の解剖生理（構造）	講義	中嶋正明
			2.筋の解剖生理（筋張力）	講義	中嶋正明
			3.筋の解剖生理（筋肥大の条件）	講義	中嶋正明
			4.筋の解剖生理（同時収縮）	講義	中嶋正明
			5.下肢筋力強化法の実際（OKC）	講義	中嶋正明
			6.下肢筋力強化法の実際（CKC）	講義	中嶋正明
			7.下肢筋力強化法の実際（拮抗筋の同時収縮）	講義	中嶋正明
			8.運動単位（遅筋，速筋）	講義	中嶋正明
			9.運動単位（サイズの原理）	講義	中嶋正明
			10.運動単位（サイズの原理の例外）	講義	中嶋正明
			11.筋リクルートメントパターンの破綻（肩インピンジメント）	講義	中嶋正明
			12.筋リクルートメントパターンの破綻（慢性腰痛）	講義	中嶋正明
			13.破綻した筋リクルートメントパターンの修正1	講義	中嶋正明
			14.破綻した筋リクルートメントパターンの修正2	講義	中嶋正明
				AL	中嶋正明

教科書１	適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持ってくること。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 文献の検索，収集，整理，レビュー1	講義	井上茂樹
			2. 文献の検索，収集，整理，レビュー2		
			3. 文献の検索，収集，整理，レビュー3	講義	井上茂樹
			4. 研究結果のまとめ方1		
			5. 研究結果のまとめ方2	講義	井上茂樹
			6. 研究結果のまとめ方3		
			7. 研究発表の実際1	講義	井上茂樹
			8. 研究発表の実際2	講義	井上茂樹
			9. 研究発表の実際3	講義	井上茂樹
			10.論文の書き方1	講義	井上茂樹
			11.論文の書き方2	講義	井上茂樹
			12.論文の書き方3	講義	井上茂樹
			13.研究トピック1	講義	井上茂樹
			14.研究トピック2	講義	井上茂樹
			15.研究トピック3	講義	井上茂樹
				講義	井上茂樹
				講義	井上茂樹
				講義	井上茂樹

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「脳血管障害に関するトピックス」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を実際の論文をレビューしながら学習する。 神経心理学的研究、リハビリテーション研究、行動科学的研究の各方法に関して、研究デザインを説明できることを目標とする。						
概要	現状の脳科学、神経生理学、神経心理学の研究に関して、レビューを行い、それぞれの研究からの知見、批判的吟味を通しての問題点、限界、リハビリテーションへの応用などについて考えていく。将来、脳に関する研究はどのように進んでいくべきなのか、リハビリテーションの立場から見た現状の脳機能研究の問題点に関しても考えていく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 正常な脳機能に関する研究1	講義	森下
			2. 正常な脳機能に関する研究2	講義	森下
			3. 神経生理学的研究1	講義	森下
			4. 神経生理学的研究2	講義	森下
			5. 神経心理学的研究1	講義	森下
			6. 神経心理学的研究2	講義	森下
			7. 行動科学的研究1	講義	森下
			8. 行動科学的研究2	講義	森下
			9. 運動学、力学的研究1	講義	森下
			10. 運動学、力学的研究2	講義	森下
			11. リハビリテーションにおける実験的研究1	講義	森下
			12. リハビリテーションにおける実験的研究2	講義	森下
			13. リハビリテーションにおける実験的研究3	講義	森下
			14. 課題プレゼンテーション1	AL	森下
			15. 課題プレゼンテーション2	AL	森下

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や思考力を身につけることを目標とする。						
概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の現況と今後の課題について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査の現況を文献を中心に学び、今後の課題について考えると共に、新しい診断法となりうる関節音の分析の基礎について講義する。さらにこれらの関節の治療方法を紹介すると共に新しい展開について考えていく。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準:参加態度(30%), 課題(70%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.肩関節障害の病態生理	講義	森
			2.肩関節障害に対する診断・治療の現況	講義	森
			3.肩関節障害に対する診断・治療の今後の展開	講義	森
			4.股関節障害の病態生理	講義	森
			5.股関節障害に対する診断・治療の現況1	講義	森
			6.股関節障害に対する診断・治療の現況2	講義	森
			7.股関節障害に対する診断・治療の今後の展開	講義	森
			8.膝関節障害の病態生理	講義	森
			9.膝関節障害に対する診断治療の現況1	講義	森
			10.膝関節障害に対する診断治療の現況2	講義	森
			11.膝関節障害に対する診断・治療の今後の展開	講義	森
			12.足関節障害の病態生理	講義	森
			13.足関節障害に対する診断治療の現況	講義	森
			14.足関節障害に対する診断・治療の今後の展開	講義	森
			15.まとめ(口頭試問)	AL	森

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。
教科書２	
参考書１	多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法 著者:井原秀俊　木藤伸宏　加藤浩 出版社:全日本病院出版会 ISBN:978-4-8817-040-3
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求める。						
概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。						
自己学習	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。 また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1 回:動作解析の方法論①	AL	河村顕治
			第2 回:動作解析の方法論②	AL	河村顕治
			第3 回:動作解析の方法論③	AL	河村顕治
			第4 回:Closed Kinetic Chain①	AL	河村顕治
			第5 回:Closed Kinetic Chain②	AL	河村顕治
			第6 回:Closed Kinetic Chain③	AL	河村顕治
			第7 回:立ち上がりの筋張力解析①	AL	河村顕治
			第8 回:立ち上がりの筋張力解析②	AL	河村顕治
			第9 回:歩行動作の筋張力解析①	AL	河村顕治
			第10回:歩行動作の筋張力解析②	AL	河村顕治
			第11回:CKCでの二関節筋の作用①	AL	河村顕治
			第12回:CKCでの二関節筋の作用②	AL	河村顕治
			第13回:CKCでの二関節筋の作用③	AL	河村顕治
			第14回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治
			第15回:単関節筋と二関節筋の協調	AL	河村顕治

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	リハビリテーション基礎医学の分野での組織細胞化学に関する研究の手技能力とその技術の研究テーマへの・計画とその研究結果を臨床適応させることができるようになる。						
概要	組織細胞学に関する各種実験を実際に行い、実験の手技を習得す。実験目的からの手技分野：褥創、廃用性筋萎縮や関節拘縮などでの皮膚、筋、骨、関節、神経、血管等について各種郷蔵学的試験法や生化学的試験法(遺伝子、酵素等)についての技術を系統的に探求する。また同じく培養細胞モデルについても同様に系統的探求を行う。						
評価方法	演習時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	自身での積極的な学習姿勢が重要。						
自己学習	演習項目の事前の学習とデーターの整理解析を行うこと。関連する基礎的な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて木曜日の3時限目に実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(1)	AL	秋山
			2.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(2)	AL	秋山
			3.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(3)	AL	秋山
			4.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(4)	AL	秋山
			5.軟部組織および硬組織の各種免疫組織染色とin situ hybridizationの総合演習(5)	AL	秋山
			6.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(1)	AL	秋山
			7.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(2)	AL	秋山
			8.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(3)	AL	秋山
			9.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(4)	AL	秋山
			10.動物の各種生体組織からの細胞分離培養総合演習(5)	AL	秋山
			11.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(1)	AL	秋山
			12.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(2)	AL	秋山
			13.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(3)	AL	秋山
			14.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(4)	AL	秋山
			15.培養細胞モデルの作成および評価総合演習(5)	AL	秋山

教科書１	標準　組織学　総論 著者：藤田　尚男　他 出版社：医学書院 ISBN：9.78E+12
教科書２	サルコペニアの基礎と臨床 著者：鈴木隆雄／監修　島田裕之／編集 出版社：真興貿易(株)医書出版部 ISBN：978-4-880003-884-5
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期） □				年次	2	
必修・選択	選択 □	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習 □
テーマと到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 各運動器疾患に対する理学療法を学び，治療理論，機序を再考す。						
概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患への考察を深め，障害および症状に対する理学療法について文献抄読および実習を通して再考し，問題点について論ずる力を獲得する。						
評価方法	文献収集等の取り組み姿勢（30%），内容の理解や質疑応答における発言状況（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。						
自己学習	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 2時間以上の予習復習を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日3限，水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.下肢筋力強化法の実際（Quad setting，SLR）	講義とAL	中嶋正明
			2.下肢筋力強化法の実際（Squat）	講義とAL	中嶋正明
			3.下肢筋力強化法の実際（modified Quad setting）	講義とAL	中嶋正明
			4.下肢筋力強化法の実際（スロートレーニング1）	講義とAL	中嶋正明
			5.下肢筋力強化法の実際（スロートレーニング2）	講義とAL	中嶋正明
			6.下肢筋力強化法の実際（求心性収縮，遠心性収縮）	講義とAL	中嶋正明
			7.筋リクルートメントパターン（肩インピンジメント）	講義とAL	中嶋正明
			8. 筋リクルートメントパターン（慢性腰痛）	講義とAL	中嶋正明
			9. 筋リクルートメントパターンと疼痛	講義とAL	中嶋正明
			10.破綻した筋リクルートメントパターンの修正（肩インピンジメント）	講義とAL	中嶋正明
			11. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　bird-dog Ex）	講義とAL	中嶋正明
			12. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　modified bird-dog Ex）	講義とAL	中嶋正明
			13. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　背臥位で出来る多裂筋Ex）	講義とAL	中嶋正明
			14. 筋力強化と筋リクルートメントパターン	講義とAL	中嶋正明
			15. まとめ（口頭試問）	AL	中嶋正明

教科書１	適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。						
概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを学習し探求する。						
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。						
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 動作解析方法論①	講義	井上茂樹
			2. 動作解析方法論②	講義	井上茂樹
			3. 動作解析方法論③	講義	井上茂樹
			4. 静的姿勢について①	AL	井上茂樹
			5. 静的姿勢について②	AL	井上茂樹
			6. 動的姿勢について①	AL	井上茂樹
			7. 動的姿勢について②	AL	井上茂樹
			8. 正常歩行解析①	AL	井上茂樹
			9. 正常歩行解析②	AL	井上茂樹
			10. 正常歩行解析③	AL	井上茂樹
			11. 応用歩行解析①	AL	井上茂樹
			12. 応用歩行解析②	AL	井上茂樹
			13. 歩行周期解析	AL	井上茂樹
			14. 計測結果の分析①	AL	井上茂樹
			15. 計測結果の分析②	AL	井上茂樹

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合したより対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入の方法を列挙できることを目標とする。						
概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。 標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法と臨床実践に関しても探究していく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義の中でも受講者に積極的に発言を求めていく。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。 また、研究内容のプレゼンテーションの際には他人に伝えるということを意識して、分かりやすく行うことが重要である。						
自己学習	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室で適宜実施する						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究内容に関する最新の知見の講義	演習	森下
			2. 研究内容に関する文献の収集方法	演習	森下
			3. 研究内容に関する収集文献の発表1	演習	森下
			4. 研究内容に関する収集文献の発表2		
			5. 教員による総括	演習	森下
			6. 研究方法論に関して(臨床疫学)		
			7. 研究方法論に関して(データ収集)	演習	森下
			8. 研究方法論に関して(データ解析)	演習	森下
			9. 研究内容の発表の方法	演習	森下
			10. 研究内容の要旨の報告	演習	森下
			11. 研究内容のプレゼンテーション	演習	森下
			12. 研究内容のまとめ方	演習	森下
			13. 研究内容の報告書の作成	演習	森下
			14. 研究報告と質疑応答	演習	森下
			15. 全体的総括	演習	森下
				演習	森下
				演習	森下

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療手技について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能、思考力を身につけることを目標とする。						
概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の実際について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査を実際の症例について経験すると共に、今後の課題について考える。また、新しい診断法となりうる関節音の分析の実際について実技指導する。さらに、現在行われている治療について症例をあげながら解説指導する。						
評価方法	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準：参加態度（30%），課題（70%） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.肩関節障害の画像的診断の実際（x線写真、MRI）	講義	森
			2.肩関節障害の画像的診断の実際（超音波画像）	講義	森
			3.肩関節障害に対する関節音診断の実際	講義	森
			4.肩関節障害の治療の実際と今後の展開	講義	森
			5.股関節障害の画像的診断の実際（x線写真、MRI）	講義	森
			6.股関節障害の治療の実際と今後の展開	講義	森
			7.膝関節障害の画像的診断の実際（x線写真、MRI）	講義	森
			8.膝関節障害の画像的診断の実際（超音波画像）	講義	森
			9.膝関節障害に対する関節音診断の実際	講義	森
			10.膝関節障害の治療の実際と今後の展開	講義	森
			11.足関節障害の画像的診断の実際（x線写真、MRI）	講義	森
			12.足関節障害の画像的診断の実際（超音波画像）	講義	森
			13.足関節障害に対する関節音診断の実際	講義	森
			14.足関節障害の治療の実際と今後の展開	講義	森
			15.まとめ（口頭試問）	AL	森

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。
教科書２	
参考書１	関節のMRI 第2版 著者：福田国彦　上谷雅孝　杉本英治　江原茂 出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN：978-4-89592-732-1
参考書２	運動器の超音波 著者：木野達司 出版社：南山堂 ISBN：978-4-525-22631-2

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	地域リハビリテーション論ー高齢者を対象としてー　少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。
概要	本特論は1年次の配当科目であることから、調査研究を目指さない受講者も含めて履修しやすいように配慮するため2部構成としている。まずⅠ部(1～10)は、調査研究の進め方の基本を学ぶ。実験系などの院生で単位取得を目指したオムニバスの履修希望に対しては1～5まで、あるいは1～10までの二分割とし前期で終了するよう配慮する。次いで、調査研究に取り組んでいる院生については、後期からⅡ部（11～15）を履修し、健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。 必要な資料等は適宜配布する。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート・課題発表等の内容で評価する。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。なお、授業中に出された課題等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。
履修条件・注意事項	本科目は4単位の選択科目で、担当教員によるオムニバス方式で行う予定であるが、履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。 十分な理解に到達するために，予習と復習を行うこと。
自己学習	・自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 ・必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 実証研究の進め方	講義,AL	平上二九三			
2. 現象をとらえる	講義,AL	平上二九三			
3. 文献検索	講義,AL	平上二九三			
4. 研究デザインの作成	講義,AL	平上二九三			
5. 調査計画と進め方	講義,AL	平上二九三			
6. 調査票の作成	講義,AL	平上二九三			
7. データの収集と統計解析	講義,AL	平上二九三			
8. 解析結果のまとめ方	講義,AL	平上二九三			
9. 研究結果の発表の仕方	講義,AL	平上二九三			
10. 論文の書き方	講義,AL	平上二九三			
11. 具体例と研究指導 － 1	講義,AL	平上二九三			
12. 具体例と研究指導 － 2	講義,AL	平上二九三			
13. 具体例と研究指導 － 3	講義,AL	平上二九三			
14. 具体例と研究指導 － まとめ	講義,AL	平上二九三			
15. 単位認定試験	レポート	平上二九三			

教科書１	適宜、資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	本特論では，生活機能障害の援助に資する基本的な研究方法論の修得をテーマに，その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。 リハビリテーション援助を，「QOL」や「生活」に影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え，当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	近年「健康感」は疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることと考えられるようになった。健康に関する研究では，生活機能の自立性や生活の質（QOL）が重視され、適切な効果判定と科学的支援が求められている。本特論では，リハビリテーションをQOLに影響する健康増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的にはQOL等の評価と規定要因の解明、因果モデル構築に資する研究方法論を身につけるための学修を進める。その他，社会活動などのライフスタイルも取り上げる。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	事前課題に取り組むことや自らの研究を更に発展させるためにも，予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.実証研究の進め方ー問題意識の明確化ー理論	AL	齋藤			
2. 実証研究の進め方ー問題意識の明確化ー応用	AL	齋藤			
3.現象をとらえるー変数とその測定ー理論	AL	齋藤			
4.現象をとらえるー変数とその測定ー応用	AL	齋藤			
5. 文献検索ー先行研究のレビューー理論	AL	齋藤			
6.文献検索ー先行研究のレビューー応用	AL	齋藤			
7.研究デザインの作成ーモデルと仮説の構築ー理論	AL	齋藤			
8. 研究デザインの作成ーモデルと仮説の構築ー応用	AL	齋藤			
9.調査計画と進め方ー対象と方法の決定ー理論	AL	齋藤			
10.調査計画と進め方ー対象と方法の決定ー 応用	AL	齋藤			
11.調査票の作成ー理論	AL	齋藤			
12.調査票の作成ー応用	AL	齋藤			
13.データの収集と統計解析ー理論	AL	齋藤			
14.データの収集と統計解析ー応用	AL	齋藤			
15. 既出事項のまとめ	AL	齋藤			

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	調査研究の進め方の基本を学ぶ。 健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。
概要	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質(Quality of life;QOL)が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 実証研究の進め方 ー問題意識の明確化ー	講義	原田			
2. 現象をとらえる ー変数とその測定ー	AL	原田			
3. 文献検索 ー先行研究のレビューー					
4. 研究デザインの作成 ーモデルと仮説の構築ー	AL	原田			
5. 調査計画と進め方 ー対象と方法の決定ー	AL	原田			
6. 調査票の作成	AL	原田			
7. データの収集と統計解析					
8. 解析結果のまとめ方	AL	原田			
9. 研究結果の発表の仕方	AL	原田			
10. 論文の書き方	AL	原田			
11. 調査票の作成	AL	原田			
12. データの収集と統計解析	AL	原田			
13. 解析結果のまとめ方	AL	原田			
14. 研究結果の発表の仕方	AL	原田			
15. 論文の書き方	AL	原田			
16. 試験	AL	原田			
	試験	原田			

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え、当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	調査研究の進め方の基本を学ぶ。健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。
評価方法	レポートの内容で評価する。評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	担当教員によるオムニバス方式で行う予定であるが、履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。十分な理解に到達するために，予習と復習を行うこと。
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 実証研究の進め方 ー問題意識の明確化ー	講義,AL	高橋			
2. 現象をとらえる ー変数とその測定ー	講義,AL	高橋			
3. 文献検索 ー先行研究のレビューー	講義,AL	高橋			
4. 研究デザインの作成 ーモデルと仮説の構築ー	講義,AL	高橋			
5. 調査計画と進め方 ー対象と方法の決定ー	講義,AL	高橋			
6. 調査票の作成	講義,AL	高橋			
7. データの収集と統計解析	講義,AL	高橋			
8. 解析結果のまとめ方	講義,AL	高橋			
9. 研究結果の発表の仕方	講義,AL	高橋			
10. 論文の書き方	講義,AL	高橋			
11. 調査票の作成	講義,AL	高橋			
12. データの収集と統計解析	講義,AL	高橋			
13. 解析結果のまとめ方	講義,AL	高橋			
14. 研究結果の発表の仕方	講義,AL	高橋			
15. 論文の書き方	講義,AL	高橋			
16. 試験	レポート	高橋			

教科書１	必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	●地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。 ●健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会のトレンドをふまえた実証研究の具体例を学ぶ。 以上より、学生は、本邦の地域社会におけるトレンドと研究とのつながりを理解することができるようになる。
概要	●日本の国家予算における「社会保障」にカテゴライズされている「介護費」の削減は加速している。 ●このような背景をふまえると、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。 ●健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要がある。 ●要するに「生活機能の自立」や「生活の質（Quality of life；QOL）の維持／向上」が求められているのである。 ●我々は、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論の探求を実践する。 ●本特論では、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探求について教授する。
評価方法	●レポート・課題発表等の内容で評価する(100%)。 ●なお、講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日４～5時限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究の進め方	講義	佐藤			
2. 現象のとらえ方	講義	佐藤			
3. 文献検索（先行研究のレビュー）	講義	佐藤			
4. 研究デザインの作成	講義	佐藤			
5. 研究計画と進め方	講義	佐藤			
6. エンドポイントの決め方	講義	佐藤			
7. データの収集と統計解析	講義	佐藤			
8. 解析結果のまとめ方	講義	佐藤			
9. 研究結果の発表の仕方	講義	佐藤			
10. 論文の書き方	講義	佐藤			
11. 調査票や同意書などの作成	講義	佐藤			
12. データの収集と統計解析	講義	佐藤			
13. 解析結果のまとめ方	講義	佐藤			
14. 研究結果の発表の仕方	講義	佐藤			
15. 論文の書き方	講義	佐藤			

教科書１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	地域リハビリテーション演習；我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質（Quality of Life;QOL）の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅲから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
概要	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。このことから授業構成は、各自が取り組んでいる研究テーマについて下記の内容1～7について発表し、積極的なディスカッションを行い指導する形態をとる。講義計画として2年次の前期は1～10までとし、後期から11以降の作業に入る予定とする。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポートや発表の内容、および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと
履修条件・注意事項	本科目は4単位の選択科目。2年次配当の特別研究（8単位・必修科目）とあわせて履修を希望する場合は、1年次の後期から指導に入ることもある。
自己学習	自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。必ず予習と復習を各1時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. キーワードの選定	講義,AL	平上二九三			
2. 関連論文の抄読	講義,AL	平上二九三			
3. 社会的背景の議論	講義,AL	平上二九三			
4. 研究背景の要約	講義,AL	平上二九三			
5. 実証研究の手続き	講義,AL	平上二九三			
6. サンプリングの手法	講義,AL	平上二九三			
7. 統計解析の方法	講義,AL	平上二九三			
8. 研究計画書の作成	講義,AL	平上二九三			
9. 調査票の作成	講義,AL	平上二九三			
10. 調査の実施とデータの解析	講義,AL	平上二九三			
11. データ解析の妥当性	講義,AL	平上二九三			
12. 結果の解釈と意義	講義,AL	平上二九三			
13. 研究結果の吟味	講義,AL	平上二九三			
14. 研究成果のまとめ　学会発表と論文作成	講義,AL	平上二九三			
15. 単位認定試験	レポート	平上二九三			

教科書１	適宜、資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	本特論では，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考と知識技術を身につける。 地域リハビリテーションの立場に立って，生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	高齢社会の進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハビリテーション専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ、能力低下や障害原因を探るとともに、将来を見据えた援助が必要である。この演習では地域リハビリテーションの立場に立って、身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論を身につけるための学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況(80%)，ならびに研究課題の進捗状況(20%)を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.キーワードの選定ー方法論	AL	齋藤			
2.キーワードの 選定ー実際	AL	齋藤			
3.関連論文の抄読ー方法論	AL	齋藤			
4.関連論文の抄読ー実際	AL	齋藤			
5.社会的背景の議論ー理論	AL	齋藤			
6.社会的背景の議論ー実際	AL	齋藤			
7.研究 背景の要約ー理論	AL	齋藤			
8.研究背景の要約ー実際	AL	齋藤			
9.実証研究の手続きー方法論	AL	齋藤			
10.実証研究の手続きー実際	AL	齋藤			
11.サンプリングの手法ー方法論	AL	齋藤			
12. サンプリングの手法ー実際	AL	齋藤			
13.統計解析の方法ー理論	AL	齋藤			
14.統計解析の方法ー実際	AL	齋藤			
15.既出事項のまとめ	AL	齋藤			

教科書１	使用しない(適宜必要な文献および資料等を提示する)
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。 各自が取り組んでいる研究テーマについて発表し、積極的なディスカッションの力を身につける。
概要	リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Vから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	人の行動を単位とするリハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. キーワードの選定	講義	原田			
2. 関連論文の抄読	AL	原田			
3. 社会的背景の議論	AL	原田			
4. 研究背景の要約	AL	原田			
5. 実証研究の手続き	AL	原田			
6. サンプリングの手法	AL	原田			
7. 統計解析の方法	AL	原田			
8. 研究計画書の作成	AL	原田			
9. 調査票の作成	AL	原田			
10. 調査の実施とデータの解析	AL	原田			
11. データ解析の妥当性	AL	原田			
12. 結果の解釈と意義	AL	原田			
13. 研究結果の吟味	AL	原田			
14. 研究成果のまとめ方 −1 学会発表	AL	原田			
15. 研究成果のまとめ方 −2 論文作成	AL	原田			
16. 試験	試験	原田			

教科書１	学生の発表を加え、必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。 こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質（Quality of Life;QOL）の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。 本特論では，生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	この演習では、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. キーワードの選定	講義,AL	高橋			
2. 関連論文の抄読	講義,AL	高橋			
3. 社会的背景の議論	講義,AL	高橋			
4. 研究背景の要約	講義,AL	高橋			
5. 実証研究の手続き	講義,AL	高橋			
6. サンプリングの手法	講義,AL	高橋			
7. 統計解析の方法	講義,AL	高橋			
8. 研究計画書の作成	講義,AL	高橋			
9. 調査票の作成	講義,AL	高橋			
10. 調査の実施とデータの解析	講義,AL	高橋			
11. データ解析の妥当性	講義,AL	高橋			
12. 結果の解釈と意義	講義,AL	高橋			
13. 研究結果の吟味	講義,AL	高橋			
14. 研究成果のまとめ　学会発表	講義,AL	高橋			
15. 研究成果のまとめ　論文作成	講義,AL	高橋			
16. 試験	レポート	高橋			

教科書１	必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	●本科目は、大学院修士課程2年次の配当科目である。 ●よって、受講する大学院生は、研究による修士論文の作成を志す者である自覚を根付かせる。 学生は、自身が取り組んでいる研究テーマについて発表し、哲学的水準での熟考力を習得できる。						
概要	●介護現場に携わる専門職には、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められる。 ●その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。 ●本演習では、リハビリテーション援助特論Vから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。						
評価方法	●レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。 ●なお、講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	●毎回予習と復習を課す。						
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究キーワード選定	講義	佐藤			
2. 文献レビュー（抄読）	講義	佐藤			
3. 社会的背景に関する討議	講義	佐藤			
4. 研究背景要約	講義	佐藤			
5. 研究手続きの検討	講義	佐藤			
6. サンプリングの手法	講義	佐藤			
7. 統計解析の方法	講義	佐藤			
8. 研究計画書の作成	講義	佐藤			
9. 調査票の作成	講義	佐藤			
10. 調査の実施とデータの解析	講義	佐藤			
11. データ解析の妥当性	講義	佐藤			
12. 結果の解釈と意義	講義	佐藤			
13. 研究結果の吟味	講義	佐藤			
14. 研究成果のまとめ方 ―1 プレゼンテーション	講義	佐藤			
15. 研究成果のまとめ方 ―2 論文作成	講義	佐藤			

教科書１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	地域リハビリテーション論ー高齢者を対象としてー；少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。
概要	本特論は1年次の配当科目であることから、調査研究を目指さない受講者も含めて履修しやすいように配慮するため2部構成としている。まずⅠ部(1～10)は、調査研究の進め方の基本を学ぶ。実験系などの院生で単位取得を目指したオムニバスの履修希望に対しては1～5まで、あるいは1～10までの二分割とし前期で終了するよう配慮する。次いで、調査研究に取り組んでいる院生については、後期からⅡ部（11～15）を履修し、健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート・課題発表等の内容で評価する。 授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと
履修条件・注意事項	本科目は4単位の選択科目で、担当教員によるオムニバス方式で行う予定であるが、履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。 十分な理解に到達するために，予習と復習を行うこと。
自己学習	・事前に課題を出すので、それについて調べてきたことを元にして授業を行う。必ず予習と復習を各1時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 実証研究の進め方	AL	平上二九三
			2. 現象をとらえる	AL	平上二九三
			3. 文献検索	AL	平上二九三
			4. 研究デザインの作成	AL	平上二九三
			5. 調査計画と進め方	AL	平上二九三
			6. 調査票の作成	AL	平上二九三
			7. データの収集と統計解析	AL	平上二九三
			8. 解析結果のまとめ方	AL	平上二九三
			9. 研究結果の発表の仕方	AL	平上二九三
			10. 論文の書き方	AL	平上二九三
			11. 具体例と研究指導 －1	AL	平上二九三
			12. 具体例と研究指導 －2	AL	平上二九三
			13. 具体例と研究指導 －3	AL	平上二九三
			14. 具体例と研究指導 － まとめ	AL	平上二九三
			15. 単位認定試験	レポート試験	平上二九三

教科書１	適宜、資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。 地域リハビリテーション論の立場に立って，主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ，能力低下や障害原因を探るとともに，将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での研究方法論について更なる学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成ー方法論	AL	齋藤
			2.研究計画書の作成ー実際	AL	齋藤
			3.調査票の作成ー方法論	AL	齋藤
			4.調査票の作成ー実際	AL	齋藤
			5.調査の実施とデータの解析ー方法論	AL	齋藤
			6.調査の実施とデータの解析ー実際	AL	齋藤
			7.データ解析の妥当性ー理論	AL	齋藤
			8.データ解析の妥当性ー実際	AL	齋藤
			9.結果の解釈と意義ー理論	AL	齋藤
			10. 結果の解釈と意義ー実際	AL	齋藤
			11.研究結果の吟味ー方法論	AL	齋藤
			12.研究結果の吟味ー実際	AL	齋藤
			13.研究成果のまとめ方ー学会発表ー	AL	齋藤
			14.研 究成果のまとめ方ー論文作成ー	AL	齋藤
			15.既出事項のまとめ	AL	齋藤

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。 調査研究の進め方の基本を学ぶ。						
概要	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究テーマに関するレビュー：検索指導	講義	原田
			2. 研究テーマに関するレビュー指導－題目	AL	原田
			3. 研究テーマに関するレビュー指導－緒言	AL	原田
			4. 研究テーマに関するレビュー指導－方法	AL	原田
			5. 研究テーマに関するレビュー指導－結果	AL	原田
			6. 研究テーマに関するレビュー指導－考察	AL	原田
			7. 研究テーマに関するレビュー指導－文献孫引き	AL	原田
			8. 研究テーマに関するレビュー指導－アブストラクトテーブル	AL	原田
			9. 研究テーマに関するレビュー指導－メタアナリシス	AL	原田
			10. アブストラクトテーブル作成指導－項目	AL	原田
			11. アブストラクトテーブル作成指導－介入内容	AL	原田
			12. アブストラクトテーブル作成指導－アウトカム	AL	原田
			13. アブストラクトテーブル作成指導－対象	AL	原田
			14. アブストラクトテーブル作成指導－備考	AL	原田
			15. 研究テーマの背景と必然性指導（まとめ）	AL	原田
			16. 試験	試験	原田

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え、当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。						
概要	調査研究の進め方の基本を学ぶ。健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。						
評価方法	レポートの内容で評価する。評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	担当教員によるオムニバス方式で行う予定であるが、履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。十分な理解に到達するために，予習と復習を行うこと。						
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.解析結果のまとめ方ー理論		高橋
			2.解析結果のまとめ方ー応用	AL	高橋
			3.研究結果の発表の仕方ー理論	AL	高橋
			4.研究結果の発表 の仕方ー応用	AL	高橋
			5.論文の書き方ー理論	AL	高橋
			6.論文の書き方ー応用	AL	高橋
			7.研究トピックーQOL	AL	高橋
			8.研究トピックー自立支援	AL	高橋
			9. 研究トピックー障害予防	AL	高橋
			10.研究トピックー測定指標の開発	AL	高橋
			11.研究トピックー測定指標の開発とその応用	AL	高橋
			12.研究トピックー 記述研究	AL	高橋
			13.研究トピックー分析研究（関連）	AL	高橋
			14.研究トピックー分析研究（因果）	AL	高橋
			15.既出事項のまとめ	AL	高橋
			16. 試験	AL レポート試験	高橋

教科書１	必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	●地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。 ●健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会のトレンドをふまえた実証研究の具体例を学ばせる。 ●社会のトレンドと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究を題材にして解説する。 学生は、自身の研究課題と社会のトレンドとの関連性や自身の研究における社会的意義を明確に理解できるようになる。
概要	●日本の国家予算における「社会保障」にカテゴライズされている「介護費」の削減は加速している。 ●このような背景をふまえると、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。 ●健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要がある。 ●要するに「生活機能の自立」や「生活の質（Quality of life；QOL）の維持／向上」が求められているのである。 ●我々は、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論の探求を実践する。 ●本特論では、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探求について教授する。
評価方法	●レポート・課題発表等の内容で評価する(100%)。 ●なお、講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.解析結果のまとめ方①（理論）	講義	佐藤
			2.解析結果のまとめ方②（応用）	講義	佐藤
			3.研究結果の発表の仕方①（理論）	講義	佐藤
			4.研究結果の発表 の仕方②（応用）	講義	佐藤
			5.論文の書き方①（理論）	講義	佐藤
			6.論文の書き方②（応用）	講義	佐藤
			7.研究トピック①（介護予防とQOL）	講義	佐藤
			8.研究トピック②（自立支援）	講義	佐藤
			9. 研究トピック③（障害予防）	講義	佐藤
			10.研究トピック④（測定指標の開発）	講義	佐藤
			11.研究トピック⑤（測定指標の開発とその応用）	講義	佐藤
			12.研究トピック⑥（記述研究）	講義	佐藤
			13.研究トピック⑦（分析研究：関連）	講義	佐藤
			14.研究トピック⑧（分析研究：因果）	講義	佐藤
			15.まとめ	講義	佐藤

教科書１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	地域リハビリテーション演習； 我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質（Quality of Life;QOL）の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅲから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
概要	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。このことから授業構成は、各自が取り組んでいる研究テーマについて下記の内容1～7について発表し、積極的なディスカッションを行い指導する形態をとる。講義計画として2年次の前期は1～10までとし、後期から11以降の作業に入る予定とする。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポートや発表の内容、および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと
履修条件・注意事項	本科目は4単位の選択科目。2年次配当の特別研究（8単位・必修科目）とあわせて履修を希望する場合は、1年次の後期から指導に入ることもある。
自己学習	・事前に課題を出すので、それについて調べてきたことを元にして授業を行う。必ず予習と復習を各1時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. キーワードの選定	AL	平上二九三
			2. 関連論文の抄読	AL	平上二九三
			3. 社会的背景の議論	AL	平上二九三
			4. 研究背景の要約	AL	平上二九三
			5. 実証研究の手続き	AL	平上二九三
			6. サンプリングの手法	AL	平上二九三
			7. 統計解析の方法	AL	平上二九三
			8. 研究計画書の作成	AL	平上二九三
			9. 調査票の作成	AL	平上二九三
			10. 調査の実施とデータの解析	AL	平上二九三
			11. データ解析の妥当性	AL	平上二九三
			12. 結果の解釈と意義	AL	平上二九三
			13. 研究結果の吟味	AL	平上二九三
			14. 研究成果のまとめ方　学会発表と論文作成	AL	平上二九三
			15. 単位認定試験	レポート試験	平上二九三

教科書１	適宜、資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。 地域リハビリテーション論の立場に立って，主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ，能力低下や障害原因を探るとともに，将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での研究方法論について更なる学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成ー方法論	AL	齋藤
			2.研究計画書の作成ー実際	AL	齋藤
			3.調査票の作成ー方法論	AL	齋藤
			4.調査票の作成ー実際	AL	齋藤
			5.調査の実施とデータの解析ー方法論	AL	齋藤
			6.調査の実施とデータの解析ー実際	AL	齋藤
			7.データ解析の妥当性ー理論	AL	齋藤
			8.データ解析の妥当性ー実際	AL	齋藤
			9.結果の解釈と意義ー理論	AL	齋藤
			10. 結果の解釈と意義ー実際	AL	齋藤
			11.研究結果の吟味ー方法論	AL	齋藤
			12.研究結果の吟味ー実際	AL	齋藤
			13.研究成果のまとめ方ー学会発表ー	AL	齋藤
			14.研 究成果のまとめ方ー論文作成ー	AL	齋藤
			15.既出事項のまとめ	AL	齋藤

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。 各自が取り組んでいる研究テーマについて発表し、積極的なディスカッションの力を身につける.
概要	リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅵから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	毎回，予習と復習を課す。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究モデル指導－1　関連性	講義	原田
			2. 研究モデル指導－2　アウトカム	AL	原田
			3. 研究モデル指導－3　説明変数	AL	原田
			4. 研究モデル指導－4　交絡変数	AL	原田
			5. 研究モデル指導－5	AL	原田
			6. 研究デザイン指導－6　内部妥当性	AL	原田
			7. 研究デザイン指導－7　データ要約	AL	原田
			8. 研究デザイン指導－8	AL	原田
			9. 研究デザイン指導－9	AL	原田
			10. 修論プレゼンテーション指導－1　パワポ	AL	原田
			11. 修論プレゼンテーション指導－2　絵コンテ	AL	原田
			12. 修論プレゼンテーション指導－3	AL	原田
			13. 修論プレゼンテーション指導－4	AL	原田
			14. 修論プレゼンテーション指導－5	AL	原田
			15. 研究テーマの背景と必然性指導（まとめ）	AL	原田
			16. 試験	試験	原田

教科書１	学生の発表を加え、必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	我が国において国民の念願であった寿命の延伸は、平均寿命世界一という形で達成された。しかし、この事は、高齢化社会という新たな局面を生み出すとともに、生活習慣病の増加もあいまって、要介護者や認知症者が急増するなど新たな社会問題を生み出している。このような背景の下、健康増進に対する国民の意識は高まりを示すとともに、単に平均寿命を延伸するだけではなく、自立した質の高い長寿が国民の大きな関心事となっている。 こうした社会的要請に応えるべく、保健科学研究においては、近年WHOが提唱した自立して健康に暮らせる期間である「健康寿命」の延伸が重要なテーマになっている。また、生活の質（Quality of Life;QOL）の理念の普及に伴い、医療や保健福祉の現場では、生活満足度や達成感がアウトカムとして重視されるようになってきている。こうした状況の下、リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。 本特論では，生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	この演習では、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
自己学習	予習と復習が必須であり、各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成ー方法論	AL	高橋
			2.研究計画書の作成ー実際	AL	高橋
			3.調査票の作成ー方法論	AL	高橋
			4.調査票の作成ー実際	AL	高橋
			5.調査の実施とデータの解析ー方法論	AL	高橋
			6.調査の実施とデータの解析ー実際	AL	高橋
			7.データ解析の妥当性ー理論	AL	高橋
			8.データ解析の妥当性ー実際	AL	高橋
			9.結果の解釈と意義ー理論	AL	高橋
			10. 結果の解釈と意義ー実際	AL	高橋
			11.研究結果の吟味ー方法論	AL	高橋
			12.研究結果の吟味ー実際	AL	高橋
			13.研究成果のまとめ方ー学会発表ー	AL	高橋
			14.研究成果のまとめ方ー論文作成ー	AL	高橋
			15.まとめ	AL	高橋
			16.試験	レポート試験	高橋

教科書１	必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生が取り組んでいる研究テーマについて発表し合い、積極的かつ意義の高いディスカッションや検討を展開できる力を身につける。						
概要	この演習では、リハビリテーション援助特論VIから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要であることを教授する。						
評価方法	●レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。 ●なお、講義中評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回予習と復習を課す。						
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究計画書の作成（方法論）	講義	佐藤
			2.研究計画書の作成（実際）	講義	佐藤
			3.調査票の作成（方法論）	講義	佐藤
			4.調査票の作成（実際）	講義	佐藤
			5.調査の実施とデータの解析（方法）	講義	佐藤
			6.調査の実施とデータの解析（実際）	講義	佐藤
			7.データ解析の妥当性（理論）	講義	佐藤
			8.データ解析の妥当性（実際）	講義	佐藤
			9.結果の解釈と意義（理論）	講義	佐藤
			10. 結果の解釈と意義（実際）	講義	佐藤
			11.研究結果の吟味（方法論）	講義	佐藤
			12.研究結果の吟味（実際）	講義	佐藤
			13.研究成果のまとめ方（プレゼンテーション）	講義	佐藤
			14.研 究成果のまとめ方（論文作成）	講義	佐藤
			15.まとめ	講義	佐藤

教科書１	特に指定せず、講義の中で適宜指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ:大学院生は、作業に根ざした実践(ocupation-based practice, OBP)の理解を深め、実践と研究に活用できるようになる。 到達目標:大学院生は、先行研究の動向と課題を理解でき、新しいOBPについて総合的に理解することができる。 大学院生は、自身の実践と研究の関連性を理解できる。						
概要	下記の講義計画にしたがい、OBPの理解を深める。具体的には、さまざまな文献の精読を通して、OBPの理論構造を解明し、典型的なアプローチについて学修する。また自身の実践と研究の関連について議論を通して理解を深めることができる。						
評価方法	課題(50%)・発表(50%)で総合評価する. なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的な参加を求める。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	講義	京極真			
2. 先行研究の輪読1(OB)	AL	京極真			
3. 先行研究の輪読2(MOHO)	AL	京極真			
4. 先行研究の輪読3(CMOPE)	AL	京極真			
5. 先行研究の輪読4(OTIPM)	AL	京極真			
6. 先行研究の輪読5(PEOM)	AL	京極真			
7. 先行研究の輪読6(OAT)	AL	京極真			
8. 先行研究の輪読7(RM)	AL	京極真			
9. OBPの課題1:哲学	AL	京極真			
10. OBPの課題2:理論	AL	京極真			
11. OBPの課題3:実践	AL	京極真			
12. 新OBP1:作業機能障害の種類	AL	京極真			
13. 新OBP2:信念対立	AL	京極真			
14. 新OBP3:OBP2.0	AL	京極真			
15. まとめ	AL	京極真			

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	講義のテーマは,「自己の関心のある作業療法と作業機能障害の知識を学ぶ」とする. 修士論文を作成する過程において, 先ず研究計画, 研究方針を策定する第一の科目である. 先行研究より, 作業療法の現状と作業機能障害について知識を深め, 研究テーマを明確にした上で, 研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする.
概要	作業療法基礎教育及び生涯教育を円滑に行うには「教育」と「作業機能障害」に関する見識をもった指導者の育成が重要となる。この授業では、自己関心が高い作業療法教に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に, 作業療法士の資格を有する教員が経験に基づき、修士論文テーマの設定, 研究計画書の策定, 実施方法などを具体的に指導する. リハビリテーション援助特論と平行して、作業療法の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。前期は、量的なデータ収集・解析、後期は質的なデータ収集・モデルの構築を目標とする。
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。
履修条件・注意事項	毎週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. 予習・復習を2時間以上行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること. レポートや課題については, 提出した翌週の講義内にフィードバックを行う.
自己学習	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下, 予習・復習はもとより, 教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. その予習・復習を十分に行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること.
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする(岩田)

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.作業療法と作業機能障害の概要	AL	岩田			
2.研究テーマの策定	AL	岩田			
3.作業療法の基礎知識の確認	AL	岩田			
4.作業療法の先行研究の調査	AL	岩田			
5.作業療法の先行研究の概要発表	発表	岩田			
6.作業療法の概要発表の講評	AL	岩田			
7.研究テーマと先行研究の比較	AL	岩田			
8.研究テーマの確定	AL	岩田			
9.中間フォロー	口頭試問	岩田			
10.作業機能障害の基礎知識の確認	AL	岩田			
11.作業機能障害の先行研究の調査	AL	岩田			
12.作業機能障害の先行研究の発表	AL	岩田			
13.作業機能障害の概要発表の講評	AL	岩田			
14.研究テーマと先行研究の比較	AL	岩田			
15.研究計画書発表用資料の完成	AL	岩田			
16. 研究計画発表	口頭試問	岩田			

教科書１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	作業療法がわかるPBLテュートリアル Step by Step 著者:編集:宮前　珠子／新宮　尚人 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-01700-8
参考書２	作業療法研究法 著者:竹田徳則、大浦智子 出版社:医学書院 ISBN:978-4-263-21676-7

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	テーマ:本特論では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標:注意・記憶・半側空間無視を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方ついて理解を深めることを目的とする。
概要	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業(平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業)の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお，課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする.
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.高次脳機能障害リハビリテーションの歴史	AL	狩長			
2.高次脳機能障害の特殊性	AL	狩長			
3.高次脳機能障害の回復の基盤	AL	狩長			
4.注意の障害	AL	狩長			
5.注意障害の評価	AL	狩長			
6.注意障害の治療的訓練	AL	狩長			
7.記憶の障害	AL	狩長			
8.記憶障害の評価	AL	狩長			
9.記憶障害の治療的訓練	AL	狩長			
10.半側無視とは	AL	狩長			
11.半側無視の評価	AL	狩長			
12.半側無視の治療的訓練	AL	狩長			
13.視覚性認知の障害	AL	狩長			
14.視覚性認知の障害の評価	AL	狩長			

教科書１	高次脳機能障害の作業療法 著者:鎌倉矩子，本多留美 出版社:三輪書店 ISBN:978-4-89590-359-2
教科書２	
参考書１	Neurobehavioural Disability and Social Handicap Following Traumatic Brain Injury 著者:Rodger LI.Wood,Tom M.McMillan 出版社:Psychology Press ISBN:0-86377-890-9
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	三宅　優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	テーマは「作業機能障害」である。作業機能障害とは、生活行為を適切にやり遂げられない状態をいい、それにより健康状態が悪化したり、QOLが低下するといわれている。疾病や障害の予防の重要性が強調されている現在、作業機能障害の実態を明らかにする意義は非常に大きい。 目標は以下である。 1)学生は作業機能障害について知識を深めることができる 2)学生は疫学研究の方法論について理解することができる
概要	以下の講義の計画に沿って、進めていく。作業療法学は個人を対象にする学問であるが、疫学は集団を対象とするポピュレーションアプローチである。作業療法分野での大規模疫学研究はほとんどないが、これから予防医学、産業分野で作業療法士が活躍していくためには、必要なことである。そのため文献レビューを行い、研究の動向を知りながら研究テーマをしぼっていく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	1. 演習の理解度(50%) 2. 発表内容(50%)で評価する 総合的に評価する
履修条件・注意事項	研究テーマにより内容の変更あり。 与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、質疑応答ができるようにすること。 課題のフィードバックは演習中に行う。
自己学習	予習として、1時間各授業計画に記載されている部分について教科書を読み、理解できない点をまとめておき、講義内でディスカッションする。また文献レビューをすすめておく。 復習として、1時間程度文献整理、レビューを行う。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階研究室において毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回　オリエンテーション	講義	三宅			
第2回　作業機能障害の文献抄読(国内)	AL	三宅			
第3回　作業機能障害の文献抄読(海外)	AL	三宅			
第4回　作業機能障害の文献抄読(国内　海外)	AL	三宅			
第5回　作業機能障害の文献まとめ	AL	三宅			
第6回　作業機能障害の文献まとめ・発表	AL	三宅			
第7回　予防的作業療法研究の文献抄読(国内)	AL	三宅			
第8回　予防的作業療法研究の文献抄読(海外)	AL	三宅			
第9回　予防的作業療法研究の文献抄読(国内　海外)	AL	三宅			
第10回　産業作業療法	AL	三宅			
第11回　産業作業療法における作業療法士の役割	AL	三宅			
第12回　文献のまとめ1	AL	三宅			
第13回　文献のまとめ2	AL	三宅			
第14回　疫学	AL	三宅			
第15回　作業療法　まとめ	AL	三宅			

教科書１	必要に応じて指示します
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ: 大学院生は、国内外の先行研究のレビューを行い、多様な研究法を理解して、洗煉された研究計画を作成することができる。 到達目標: 大学院生は、先行研究のレビューが行え、量的・質的な研究法を理解でき、研究計画を立案できる。						
概要	この演習では、修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。						
評価方法	課題（50%）と発表（50%）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的参加を求める。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日：月曜5限目、金曜5限目 場所：6号館4階6428号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	講義	京極真			
2. 研究テーマの焦点化	AL	京極真			
3. 先行研究の収集	AL	京極真			
4. レビューマトリクス	AL	京極真			
5. レビューマトリクスの発表会	AL	京極真			
6. 量的研究と質的研究の特徴	AL	京極真			
7. RCTとコホート研究	AL	京極真			
8. 調査研究と相関研究	AL	京極真			
9. 尺度開発	AL	京極真			
10. GTAとKJ法	AL	京極真			
11. 事例コードマトリクス	AL	京極真			
12. TEM	AL	京極真			
13. 研究計画の立案1はじめに	AL	京極真			
14. 研究計画の立案2方法	AL	京極真			
15. 研究経過発表会／まとめ	AL	京極真			

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	講義のテーマは,「自己の関心のある作業療法と作業機能障害の知識を学ぶ」とする. 修士論文を作成する過程において, 先ず研究計画, 研究方針を策定する第二の科目である. 先行研究より, 作業療法教育の現状と作業機能障害について知識を深め, 研究テーマを明確にした上で, 研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする.
概要	授業では、自己の関心の高い作業療法の指導者に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に, 修士論文テーマの設定, 研究計画書の策定, 実施方法などを具体的に指導する. リハビリテーション援助特論と平行して、作業療法教育の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。
履修条件・注意事項	毎週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. 予習・復習を2時間以上行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること. レポートや課題については, 提出した翌週の講義内にフィードバックを行う.
自己学習	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下, 予習・復習はもとより, 教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. その予習・復習を十分に行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること.
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする(岩田)

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.作業療法と作業機能障害の概要	AL	岩田			
2.研究テーマの策定	AL	岩田			
3.作業療法の基礎知識の確認	AL	岩田			
4.作業療法の先行研究の調査	AL	岩田			
5.作業療法の先行研究の概要発表	発表	岩田			
6.作業療法の概要発表の講評	AL	岩田			
7.研究テーマと先行研究の比較	AL	岩田			
8.研究テーマの確定	AL	岩田			
9.中間フォロー	口頭試問	岩田			
10.作業機能障害の基礎知識の確認	AL	岩田			
11.作業機能障害の先行研究の調査	AL	岩田			
12.作業機能障害の先行研究の発表	AL	岩田			
13.作業機能障害の概要発表の講評	AL	岩田			
14.研究テーマと先行研究の比較	AL	岩田			
15.研究計画書発表用資料の完成	AL	岩田			
16.研究発表	AL	岩田			
	口頭試問	岩田			

教科書１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:執筆:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ:高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。 到達目標:研究実施やデータ分析のための方法について理解し，文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。
概要	本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に関心テーマについて要約する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお，課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする.
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. キーワード選定の方法	AL	狩長			
2. キーワード選定の実際	AL	狩長			
3. 文献検索の方法	AL	狩長			
4. 文献検索の実際	AL	狩長			
5. 文献レビューの方法	AL	狩長			
6. 文献レビューの実際	AL	狩長			
7. 量的研究と質的研究	AL	狩長			
8. 量的研究の手法ーランダム化比較試験	AL	狩長			
9. 量的研究の手法ーコホート研究	AL	狩長			
10. 量的研究の手法ー横断研究	AL	狩長			
11. 量的研究の手法ーシングルシステムデザイン	AL	狩長			
12. 信頼性と妥当性	AL	狩長			
13. 統計解析の方法	AL	狩長			
14. 統計解析の実際	AL	狩長			

教科書１	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	三宅　優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科（修士）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生は身体障害領域の作業療法に必要な知識や技術の習得を目標とする。 自身の関心テーマに応じて以下の課題に取り組む。研究方法論について、随時提示する参考書を利用しながら理解を深める。						
概要	下記計画にしたがい、学生の研究テーマを考慮した内容を教授する。具体的には、キーワードに関連する文献の輪読やレビューを行い、それらの内容と各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	演習の理解度（50%）、発表（50%）で総合的に評価						
履修条件・注意事項	研究テーマにより演習内容の変更あり 授業内容を参考に、予習復習には各2時間程度要する。課題にフィードバックは、演習内で行う。						
自己学習	文献整理、計画書作成を随時行う						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階研究室　毎週水曜日3限						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回　オリエンテーション	講義	三宅			
第2回　医学研究	AL	三宅			
第3回　研究テーマについて	AL	三宅			
第4回　研究対象者の選定	AL	三宅			
第5回　測定方法の計画1	AL	三宅			
第6回　測定方法の計画2	AL	三宅			
第7回　サンプルサイズ	AL	三宅			
第8回　研究デザイン　コホート研究	AL	三宅			
第9回　研究デザイン　ケースコントロール研究	AL	三宅			
第10回　観察研究	AL	三宅			
第11回　ランダム化臨床試験	AL	三宅			
第12回　その他のデザイン1	AL	三宅			
第13回　その他のデザイン2	AL	三宅			
第14回　研究計画作成1	AL	三宅			
第15回　研究計画作成2	AL	三宅			

教科書１	必要に応じて指定
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ：大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究計画書の立案ができる。 到達目標 1. 大学院生は、研究テーマの設定ができる。 2. 大学院生は、研究テーマに関連した文献検討ができる。 3. 大学院生は、予備研究ができる。 4. 大学院生は、研究計画書の立案ができる。						
概要	作業機脳障害研究を行うためには，適切な研究計画の立案が欠かせない。本科目では，作業機脳障害研究の計画立案に求められる基礎知識を学び，自ら理解し、実際に計画の立案を行い，理解を深め，実行力を養うことができる。						
評価方法	出席（20%）・レポート（40%）・発表（40%）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	本科目は，作業機能障害援助特論Ⅱ演習とあわせて必ず履修すること。予習と復習，積極的な発言が求められる。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日：月曜5限目、金曜5限目 場所：6号館4階6428号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 作業機能障害研究概要	講義	京極真
			2. 研究テーマの設定	AL	京極真
			3. 研究テーマにそった研究基礎論	AL	京極真
			4. 文献検索	AL	京極真
			5. 文献検索結果の発表	AL	京極真
			6. 研究テーマの吟味と設定	AL	京極真
			7. 研究計画と研究倫理	AL	京極真
			8. 研究計画書の執筆	AL	京極真
			9. 研究計画書の吟味	AL	京極真
			10. 予備研究の準備	AL	京極真
			11. 予備研究の実施	AL	京極真
			12. 予備研究の結果の分析とまとめ	AL	京極真
			13. 研究計画書の洗練	AL	京極真
			14. 研究計画書の発表	AL	京極真
			15. 研究計画書の完成	AL	京極真

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	講義のテーマは,「作業療法の知識を学ぶ」とする. 修士論文を作成する過程において, 先ず研究計画, 研究方針を策定する第一の科目である. 先行研究より, 作業療法教育の現状について知識を深め, 研究テーマを明確にした上で, 研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする.						
概要	授業では、作業療法の指導者に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に, 作業療法研究の実務経験のある作業療法士が、修士論文テーマの設定, 研究計画書の策定, 実施方法などを具体的に指導する.						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下, 予習・復習はもとより, 教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。本科目は, 作業機能障害援助特論II演習と合同開催され, 受講を必修とする						
自己学習	毎週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. 予習・復習を2時間以上行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること. レポートや課題については, 提出した翌週の講義内にフィードバックを行う.						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする(岩田)						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.作業療法研究の概要	AL	岩田
			2.研究テーマの策定	AL	岩田
			3.テーマに沿った基礎知識の確認	AL	岩田
			4.研究テーマに関する先行研究の調査	AL	岩田
			5.研究テーマに関する先行研究の概要発表	発表	岩田
			6.概要発表の講評	AL	岩田
			7.研究テーマと先行研究の比較	AL	岩田
			8.研究テーマの確定	AL	岩田
			9.中間フォロー	口頭試問	岩田
			10.研究計画書の執筆概要	AL	岩田
			11.研究計画書の確認および講評	AL	岩田
			12.研究計画書の完成	AL	岩田
			13.研究計画書発表資料の執筆概要の作成	AL	岩田
			14.研究計画書資料の確認および講評	AL	岩田
			15.研究計画書発表用資料の完成	AL	岩田
			16. 研究計画発表	口頭試問	岩田

教科書１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義

テーマと到達目標	テーマ:リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標:身体意識・運動/行為・遂行機能障害を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方ついて理解を深めることを目的とする。
概要	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお，課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.空間認知の障害とは	AL	狩長
			2.空間認知の障害の評価	AL	狩長
			3.空間認知の障害の治療的訓練	AL	狩長
			4.読字・書字・計算の障害とは	AL	狩長
			5.読字・書字・計算の障害の評価	AL	狩長
			6.読字・書字・計算の障害の治療的訓練	AL	狩長
			7.身体意識の障害とは	AL	狩長
			8.身体意識の障害の評価	AL	狩長
			9.身体意識の障害の治療的対応	AL	狩長
			10.運動/動作の高次障害とは	AL	狩長
			11.運動/動作の高次障害の評価	AL	狩長
			12.運動/動作の高次障害の治療的訓練	AL	狩長
			13.遂行機能障害とは	AL	狩長
			14.遂行機能所具合の評価	AL	狩長
			15.遂行機能障害の治療的訓練と支援	AL	狩長 狩長

教科書１	高次脳機能障害の作業療法 著者:鎌倉矩子・本多留美 出版社:三輪書店 ISBN:978-4-89590-359-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	三宅　優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	講義のテーマは,「身体障害領域の作業療法」とする. 学生は先行研究より, 身体障害領域の作業療法の現状を調査し, 研究テーマを明確にしたうえで研究計画書を作成することを目標とする.						
概要	身体障害領域に関する研究の調査を行い研究命題を明確にし, 計画書の作成を行う. ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では,作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし,作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する.						
評価方法	発表内容(50%), 特論の理解度(50%)で総合的に判断する.						
履修条件・注意事項	本科目は, 作業機能障害援助特論II演習と合同開催され, 受講を必修とする.						
自己学習	予習として、研究計画書作成と文献レビューを行う。 復習として、研究計画書の修正、文献整理を行う。 予習復習には、各2時間程度要する。課題に対するフィードバックは演習内で行う。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階研究室で、毎週水曜3限をオフィスアワーとする						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1回.作業療法研究の概要	AL	三宅
			第2回.研究テーマの策定	AL	三宅
			第3回.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	三宅
			第4回.研究テーマに関する先行研究の調査	AL	三宅
			第5回.研究テーマに関する先行研究の概要発表	AL	三宅
			第6回.概要発表の講評	AL	三宅
			第7回.研究テーマと先行研究の比較	AL	三宅
			第8回.研究テーマの確定	AL	三宅
			第9回.中間フォロー	AL	三宅
			第10回.研究計画書の執筆概要	AL	三宅
			第11回.研究計画書の確認および講評	AL	三宅
			第12回.研究計画書の完成	AL	三宅
			第13回.研究計画書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	三宅
			第14回.研究計画書資料の確認および講評	AL	三宅
			第15回.研究計画書発表用資料の完成	AL	三宅

教科書１	必要に応じて提示する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ:大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究基礎論を学ぶことができる. 到達目標 1. 大学院生は, 研究の過程を理解できる. 2. 大学院生は, 作業機能障害に関連した研究テーマの設定ができる. 3. 大学院生は, 作業機能障害研究で必要な主だった研究法を理解できる. 4. 大学院生は, 研究を遂行し, 論文にまとめ, 発表ができる.
概要	作業機能障害研究に関連した研究を実際に行い, 修士学位論文の執筆と発表を行う.
評価方法	発表(20%), 口頭試問(30%), 論文(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Ⅰに続く科目である. 院生は予習と復習, 研究の遂行が求められる.
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究倫理	講義	京極真
			2. 研究の基本的な過程	AL	京極真
			3. 研究テーマの吟味	AL	京極真
			4. 文献検討	AL	京極真
			5. 研究テーマの設定	AL	京極真
			6. 研究法の設定	AL	京極真
			7. 予備研究	AL	京極真
			6. 本研究のデータ収集	AL	京極真
			7. データの整理	AL	京極真
			8. データ解析	AL	京極真
			9. 結果の整理	AL	京極真
			10. 学位論文執筆(方法と結果)	AL	京極真
			11. 学位論文執筆(考察)	AL	京極真
			12. 学位論文執筆(はじめに)	AL	京極真
			13. 学位論文の洗練	AL	京極真
			14. 口頭試問の準備		
			15. 発表		

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	講義のテーマは,「作業療法の知識を学ぶ」とする. 修士論文を作成する過程において, 先ず研究計画, 研究方針を策定する第一の科目である. 先行研究より, 作業療法教育の現状について知識を深め, 研究テーマをそった修士論文の作成を到達目標とする						
概要	これ迄の作業機能障害援助特論の科目を総括となる科目である. 研究テーマにそって研究を実施し, 作業療法研究の実務経験のある作業療法士が修士論文作成の指導を行なう						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Iと演習に続く講義である。研究テーマと進歩状況に応じて指導する						
自己学習	毎週1回の講義終了時に, 研究の進行に合わせて, 課題を提示する. 予習・復習を2時間以上行うこと. また, 必ず, 毎回レポートを作成し報告すること. レポートや課題については, 提出した翌週の講義内にフィードバックを行う.						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする(岩田)						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.発表会の確認と題目の確定 2.必要資料点検と不備の確認 3.不備内容を補完する実験／調査の実施 4.上記実験／調査結果の収集 5.上記実験／調査結果の整理 6.修士論文の構成の点検と修正 7.修士論文の執筆 8. 修士論文の中間発表 9. 修士論文の内容確認と講評 10. 修士論文の修正 11.修士論文の提出 12.修士論文査読結果の確認 13.修士論文の修正 14.修正の全体の見直し 15.模擬口頭試問への準備 16.模擬口頭試問の実施と講評	AL AL AL AL AL AL AL 口頭試問 AL AL AL AL AL AL AL 口頭試問	岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田 岩田

教科書１	必作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ:高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。 到達目標:研究実施やデータ分析のための方法について理解し，文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。
概要	本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に関心テーマについて要約する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20% なお，課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする.
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.実験・調査方法の検討	AL	狩長
			2.実験・調査方法の確定	AL	狩長
			3.実験・調査の実施	AL	狩長
			4.実験・調査結果の収集	AL	狩長
			5.実験・調査結果の整理	AL	狩長
			6.研究進歩状況報告書の概要説明	AL	狩長
			7.研究進歩状況報告書の作成	AL	狩長
			8.研研究進歩状況報告書の内容確認と講評	AL	狩長
			9.研究進歩状況報書の提出と研究の推進	AL	狩長
			10.実験・調査方法の見直し	AL	狩長
			11.実験・調査の再実施	AL	狩長
			12.実験・調査結果の再収集	AL	狩長
			13.実験・調査結果の分析	AL	狩長
			14.分析結果のまとめ方	AL	狩長
			15.研究成果の報告	AL	狩長

教科書１	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	三宅　優紀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(修士)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	講義のテーマは,「身体障害領域の作業療法」を学ぶとする. 学生は修士論文を作成する過程において, 研究計画書, 調査方法のを明確にすることを目的とし, 論文を作成することを目標とする.						
概要	下記演習計画に従い学生の研究テーマを考慮した内容を教授する。 具体的には、文献レビューなどを行い、それらの内容と各自の修士論文テーマを踏まえた発表をする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	口頭試問(20%)・レポート(40%)・発表(40%)で総合評価する.						
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論IとI演習に続く講義である. 研究テーマと進歩状況に応じて指導する.						
自己学習	論文執筆、加筆修正を行っていく 予習復習には各2時間程度要する。疑問点などの受付, フィードバックは、演習内で行う						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階　毎週水曜日3限						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1回.発表会の結果の確認と論文題目の確定	AL	三宅
			第2回.現在までの資料点検と不備の確認	AL	三宅
			第3回.不備内容を補完する実験／調査の実施	AL	三宅
			第4回.上記実験／調査結果の収集	AL	三宅
			第5回.上記実験／調査結果の整理	AL	三宅
			第6回.修士論文の構成の点検と修正	AL	三宅
			第7回.修士論文の執筆	AL	三宅
			第8回.修士論文の内容確認と講評	AL	三宅
			第9回.修士論文の修正	AL	三宅
			第10回.修士論文の提出	AL	三宅
			第11回.修士論文査読結果と修正内容の確定	AL	三宅
			第12回.修士論文の修正	AL	三宅
			第13回.修正箇所の確認と全体の見直し	AL	三宅
			第14回.模擬口頭試問への準備	AL	三宅
			第15回.模擬口頭試問の実施と講評	AL	三宅

教科書１	必要に応じて指示をします
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	ロコモテイブ症候群という概念を理解し、介護予防につなげることができるようになる。						
概要	高齢化社会となり、運動器の障害から要介護状態となる方が増えている。 原因となる疾病を理解し、特にその予防法について学習する. 以上の課程の中で、臨床家としての技能を高める。						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に学習した整形外科の教科書を見直すこと。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;ロコモティブ症候群の背景	講義	中角			
2;ロコモティブ症候群の定義	講義	中角			
3;ロコモティブ症候群の葉重症度	講義	中角			
4;日本の高齢化社会	講義	中角			
5;平均寿命と健康寿命	講義	中角			
6;要介護・要支援の経年推移	講義	中角			
7;要介護の原因	講義	中角			
8;ロコモティブ症候群の疫学	講義	中角			
9;変形性膝関節症	講義	中角			
10;変形性股関節症	講義	中角			
11;変形性脊椎症	講義	中角			
12;骨粗しょう症	講義	中角			
13;転倒による脆弱性骨折	講義	中角			
14;大腿骨近位部骨折	講義	中角			
15;脊椎圧迫骨折	講義	中角			
16:期末試験					

教科書１	ロコモティブ症候群診療ガイド 著者:日本整形外科学会 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2763-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	山本　倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	学生が、病いに関する本質ついて文献を詳読しながらを考察し討議を行なうことで医療人としての介入・援助の方法の理解を深めることができる。						
概要	学生がこれまでの自身の生活経験や、自身の臨床経験を振り返り対象者の状態を分析し、どのような関わりができたかを討論する。文献の詳読も取り入れる。 学生は、精神障害作業療法の実務経験を有し、精神障害リハビリテーション研究の実践経験を有する教員の助言・指導を受け学習を深めていく。						
評価方法	授業への参加度50%、レポート50% 提出課題は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各講義テーマの内容をもとに討論形式で授業を進めます。そのためには教科書の該当部分(1回目の授業でオリエンテーション)を詳読しておくことが必要です(予習)。討論の内容で理解が深まったこと、新たな課題などをノートにまとめる(復習)。						
自己学習	予習として、各授業計画について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日3時限目に、6号館4階6417研究室にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.オリエンテーション、症状と障害の意味	1.講義/AL	1.山本			
2.病の個人的な意味と社会的意味	2.講義/AL	2.山本			
3.痛みの脆弱性と脆弱性の痛み	3.講義/AL	3.山本			
4.生きることの痛み	4.講義/AL	4.山本			
5.慢性の痛み	5.講義/AL	5.山本			
6.神経衰弱症	6.講義/AL	6.山本			
7.慢性の病をもつ患者のケアにおける相反する説明モデル	7講義/AL	7.山本			
8.大いなる願望と勝利	8.講義/AL	8.山本			
9.死に至る病	9.講義/AL	9.山本			
10.病のスティグマと羞恥心	10.講義/AL	10.山本			
11.慢性であることの社会的文脈	11.講義/AL	11.山本			
12.疾患を作り出すこと	12.講義/AL	12.山本			
13.治療者たち	13.講義/AL	13.山本			
14.慢性の病を持つ患者をケアするための1つの方法	14.講義/AL	14.山本			
15.医学教育と医療実践のための、意味を中心としたモデルのチャレンジ	15.講義/AL	15.山本			

教科書１	病いの語り 著者:アーサー・クラインマン　著 江口重幸/五木田紳/上野豪志　訳 出版社:誠信書房 ISBN:4-414-42910-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	保健科学領域におけるトピックの一つであるActivities of Daily Living（ADL）の最前線を中心に学ぶ。特に、日常生活におけるフロー体験に着目し、様々な疾患のADLの問題点と今後の展望を検討する。加えて、ADLに関する課題を与えディスカッションを交えながら知識を深める。 国際基準のADLの基礎的知識および根拠に基づいた実践方法を修得するために、学生が各種疾患のADLの現状と評価および根拠に基づいた介入戦略を理解し、フローの観点からADLを捉えることができることを到達目標とする。						
概要	作業行動理論を提唱したMary Reillyは，1960年のEleanor Clarke Slagle記念講演において，「人間は自分の精神と意志とによって活気づけられた両手の使用を通して，自らの健康状態に影響を与えることができる」と述べた。これは当時還元主義パラダイムのまっただ中にあったアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので，その後，アメリカの作業療法士達は自らのアイデンディティを取り戻したのである。 しかし，わが国の作業療法実践は，依然として機能訓練を中心とした還元主義的アプローチが主流である。その結果，診療報酬や介護報酬において，作業療法が単独で評価されない事態となっている。したがって，日本の作業療法士達は「作業」に根ざした実践を通して，クライエントの健康に影響を与える専門家であることを示す必要がある。 そこで心身機能障害支援学特論Ⅰでは，日常生活におけるフロー体験に着目し、様々な疾患のADLの問題点と今後の展望を検討し，作業療法実践への適用についても学修する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40％）。また、最終提出されたレポートの内容について評価する（60％）。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習および復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. Health Status and Acute Exacerbations of Chronic Obstructive Pulmonary Disease	講義	平尾			
2. Functional Upper Limb Evaluation of Activities of Daily Living in People with Neurological Disorders	講義	平尾			
3. Status of Capability ADL and Performance ADL (ADL Gap) in Community Elderly with Disabilities and Development of ADL Gap Self-Efficacy Scale	講義	平尾			
4. Impact of Mobility Equipment on Performance and Quality of Life	講義	平尾			
5. Severity of Unilateral Spatial Neglect and Activities of Daily Living at Discharge	講義	平尾			
6. Ageing Outside: An Integrative Approach to the Daily Mobility of the Elderly	講義	平尾			
7. Influences of Activities of Daily Living Dependency on Family Caregiver Burden and the Strategies of Adaptation	講義	平尾			
8. Intervention with Modified Constraint Induced Movement Therapy in Occupational Therapy and Influence on Activities of Daily Living	講義	平尾			
9. Rehabilitation Strategies for People with Cognitive Impairments	講義	平尾			
10. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life (Physical)	講義	平尾			
11. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life (Mental)	講義	平尾			
12. Flow Experience in Daily Living and Sense of Coherence	講義	平尾			
13. Flow Experience in Daily Living and Negative Feelings	講義	平尾			
14. Flow Experience in Daily Living and Stress	講義	平尾			
15. Flow Experience in Daily Living and Prefrontal Cortex	講義	平尾			
16.口頭試問					

教科書１	Activities of Daily Living: Performance, Impact on Life Quality and Assistance 著者:Jean Baptiste Giroux and Charlotte Vallee 出版社:Nova Science Publishers ISBN:978-1-62417-957-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	ロコモテイブ症候群という概念を理解し、介護予防につなげることができるようになる。						
概要	高齢化社会となり、運動器の障害から要介護状態となる方が増えている。 原因となる疾病を理解し、特にその予防法について学習する。 以上の課程の中で、臨床家としての技能を高める。						
評価方法	期末試験(100%)試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した整形外科の教科書を見直すこと						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;バランス機能の低下	講義	中角			
2;筋力低下	講義	中角			
3;ロコモティブ症候群の早期発見	講義	中角			
4;ロコモティブ症候群のトレーニング	講義	中角			
5;ロコモティブ症候群のトレーニング	講義	中角			
6;ロコモティブ症候群のトレーニング7;ロコモティブ症候群のトレーニング	講義	中角			
8;ロコモティブ症候群のトレーニング9;ロコモティブ症候群のトレーニング10;ロコモティブ症候群トレーニング	講義	中角			
11;ロコモティブ症候群トレーニング12;ロコモティブ症候群トレーニング	講義	中角			
13;ロコモティブ症候群トレーニング	講義	中角			
14;変形性膝関節症に対する治療体操	講義	中角			
15;腰痛に対する治療体操	講義	中角			
16:期末試験	講義	中角			

教科書１	ロコモティブ症候群診療ガイド 著者:日本整形外科学会 出版社:文光堂 ISBN:978-4-8306-2763-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	山本　倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ: 傾聴するとは、どういうことかという問いについて議論し対象者への支援方法を探求していく 目標:院生は、精神機能障害の支援について考察を深め，支援方法を探求していくことができる。						
概要	心身機能障害に対する支援を理解するために，心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では，傾聴する、対話するちはどういうことか、という問いに着目し，学習します。また，学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していきます。院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めます。						
評価方法	授業出席態度50%、レポート内容50%で、総合評価とする。 レポートは授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること						
自己学習	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義に関する教科書範囲を読むこと。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.傾聴とオープンダイアログ 3.有効なネットワークについて 4.専門職が陥りがちなこと 5.感情の共有について 6.クライシスについて 7.対話の分かりやすさについて 8.水平と垂直の対話について 9.いま・ここの可能性について 10.「ともに」のありようについて 11.専門職における対話について 12.事例検討1(母子関係) 13.事例検討2(地域支援) 14.学習発表準備 15.学習発表会	1.講義/AL 2.講義/AL 3.講義/AL 4.講義/AL 5.講義/AL 6.講義/AL 7.講義/AL 8.講義/AL 9.講義/AL 10.講義/AL 11.講義/AL 12.講義/AL 13.講義/AL 14.講義/AL 15.講義/AL	1. 山本 2. 山本 3. 山本 4. 山本 5. 山本 6. 山本 7. 山本 8. 山本 9. 山本 10. 山本 11. 山本 12. 山本 13. 山本 14. 山本 15. 山本

教科書１	オープンダイアログを実践する 出版社:日本評論社 ISBN:978-4-535-9844-3-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ演習				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマは、フロー理論の作業療法実践への適用．作業療法実践におけるフロー理論の基礎的知識および根拠に基づいた実践方法を修得するために、学生が「フロー理論の特徴および最新のフロー研究の動向を説明できる」「フロー理論の作業療法実践への適用を説明できる」を到達目標とする．
概要	作業行動理論を提唱したMary Reillyは，1960年のEleanor Clarke Slagle記念講演において，「人間は自分の精神と意志とによって活気づけられた両手の使用を通して，自らの健康状態に影響を与えることができる」と述べた。これは当時還元主義パラダイムのまっただ中にあったアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので，その後，アメリカの作業療法士達は自らのアイデンディティを取り戻したのである。 しかし，わが国の作業療法実践は，依然として機能訓練を中心とした還元主義的アプローチが主流である。その結果，診療報酬や介護報酬において，作業療法が単独で評価されない事態となっている。したがって，日本の作業療法士達は「作業」に根ざした実践を通して，クライエントの健康に影響を与える専門家であることを示す必要がある。 そこで心身機能障害援助特論Ⅰ演習では，ポジティブ心理学の中心的な理論である「フローモデル」の理解を深めるとともに，作業療法実践への適用についても学修する。
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出されたレポートの内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習および復習には、各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1 フロー理論の概要	講義	平尾			
2 自己目的的パーソナリティー	講義	平尾			
3 最近のフロー研究の動向	講義	平尾			
4 身体機能障害とフロー	講義	平尾			
5 精神機能障害とフロー	講義	平尾			
6 作業療法とフロー	講義	平尾			
7 日常生活活動とフロー	講義	平尾			
8 余暇活動とフロー	講義	平尾			
9 仕事とフロー	講義	平尾			
10 フローの主観的評価	講義	平尾			
11 フローの客観的評価	講義	平尾			
12 フローの正の側面	講義	平尾			
13 フローの負の側面	講義	平尾			
14 身体機能障害者のためのフロー理論に基づいた作業療法実践	講義	平尾			
15 精神機能障害者のためのフロー理論に基づいた作業療法実践	講義	平尾			
16 口頭試問					

教科書１	フロー理論の展開 著者:今村 浩明，浅川 希洋志 出版社:世界思想社 ISBN:4790710041
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	看護、理学・作業療法への神経生理検査の応用						
概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;臨床神経生理学の歴史	講義	中角			
2;神経生理の基礎	講義	中角			
3;末梢神経の構造と機能	講義	中角			
4;神経筋接合部の構造と機能	講義	中角			
5;筋線維と運動単位	講義	中角			
6;検査装置と器具	講義	中角			
7;神経伝導検査の基本原理	講義	中角			
8;遅発電位とその臨床的意義	講義	中角			
9;H反射について	講義	中角			
10;F波について	講義	中角			
11;神経伝導検査の実際	講義	中角			
12;神経筋接合部の検査法	講義	中角			
13;脳幹部反射	講義	中角			
14;磁気刺激による運動誘発電位	講義	中角			
15;体性感覚誘発電位	講義	中角			
16;期末試験					

教科書１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	山本　倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	テーマ: ひとの心がどのようにしてつくられるか，という問いについて知覚，記憶，思考，情動，想像，意思に着目し学習する。 目標:院生は、精神機能障害の支援について考察を深め，支援方法を探求していくことができる。						
概要	心身機能障害に対する支援を理解するために，心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では，人の心がどのようにつくられるのかという問いに対して知覚，記憶，思考，情動，想像，意思に着目し，学習します。また，学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していきます。院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めます。						
評価方法	科目修了試験50%、提出課題内容50%で、総合評価とする。 提出課題は授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること						
自己学習	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義に関する教科書範囲を読むこと。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.知覚について 3.記憶について 4.思考について 5.情動について 6.想像について 7.意思について 8.知覚、記憶、思考の関連について 9.情動、想像、意思の関連について 10.こころがつくられるについて 11.精神機能障害との関連について 12.作業療法支援とこころについて 13.事例検討1(こども、成人) 14.学習発表会 15.単位認定試験(筆記試験)	1.講義 2.講義 3.講義 4.講義 5.講義 6.講義 7.講義 8.講義 9.講義 10.講義 11.講義 12.講義 13.講義 14.講義 15.筆記試験	1. 山本 2. 山本 3. 山本 4. 山本 5. 山本 6. 山本 7. 山本 8. 山本 9. 山本 10. 山本 11. 山本 12. 山本 13. 山本 14. 山本 15. 山本

教科書１	子どもの心はつくられる　ヴィゴツキーの心理学講座　普及版 著者:ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎　監訳 / 広瀬信雄　訳 出版社:新読書社
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	授業テーマは、国際基準のADLの基礎的知識を学ぶ。 具体的には、日常生活におけるフローと健康関連QOLの基礎知識を学ぶことによりADLと障害、健康との関係を理解することができるようになる。						
概要	保健科学領域におけるトピックの一つであるActivities of Daily Living（ADL）の最前線を中心に学ぶ。特に、日常生活におけるフロー体験に着目し、様々な疾患のADLの問題点と今後の展望を検討する。加えて、ADLに関する課題を与えディスカッションを交えながら知識を深める。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出されたレポートの内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	わからないことがあれば、オフィスアワーや電子メールを利用して確認すること。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習および復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. Health Status and Acute Exacerbations of Chronic Obstructive Pulmonary Disease	講義	平尾
			2. Ageing Outside: An Integrative Approach to the Daily Mobility of the Elderly	講義	平尾
			3. Functional Upper Limb Evaluation of Activities of Daily Living in People with Neurological Disorders	講義	平尾
			4. Influences of Activities of Daily Living Dependency on Family Caregiver Burden and the Strategies of Adaptation	講義	平尾
			5. Status of Capability ADL and Performance ADL in Community Elderly with Disabilities and Development of ADL Gap Self-Efficacy Scale	講義	平尾
			6. Intervention with Modified Constraint Induced Movement Therapy in Occupational Therapy and Influence on Activities of Daily Living	講義	平尾
			7. Impact of Mobility Equipment on Performance and Quality of Life	講義	平尾
			8. Severity of Unilateral Spatial Neglect and Activities of Daily Living at Discharge	講義	平尾
			9. Rehabilitation Strategies for People with Cognitive Impairments	講義	平尾
			10. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 1	講義	平尾
			11. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 2	講義	平尾
			12. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 3	講義	平尾
			13. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 4	講義	平尾
			14. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 5	講義	平尾
			15. Flow Experience in Daily Living and Health-Related Quality of Life 6	講義	平尾
			16. 口頭試問		

教科書１	Activities of Daily Living: Performance, Impact on Life Quality and Assistance 著者:Jean Baptiste Giroux and Charlotte Vallee 出版社:Nova Science Publishers ISBN:978-1-62417-957-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	看護、理学・作業療法への神経生理検査の応用						
概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1;針筋電図の概要 2;刺入時電位と安静時電位 3;運動単位電位 4;単一筋線維筋電図 5;症例1 6;症例2 7;症例3 8;症例4 9;症例5 10;症例6 11;神経筋の解剖 12;局所診断 13;生体信号の測定原理 14;筋電図用語 15;記録波形の実際 16;期末試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角

教科書１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	山本　倫子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ: ・感情の働きに着目し学習する。 ・精神機能障害の支援について考察を深め，支援方法を探求していく。 目標:院生は、感情の働きについて探求，学習し，精神機能障害の支援について考察を深め探求していくことができる。
概要	心身機能障害に対する支援を理解するために，心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では，情動に着目し，進化史に触れながら、気分操作の技法や機械と情動について学習します。また，学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していきます。 院生は、精神障害リハビリテーション研究について実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めていきます。
評価方法	提出課題50%と学習発表会への取り組み50%により総合評価 提出課題は授業でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	各自、積極的に授業に参加し、授業テーマに関する知識を主体的に身につけるよう、努力すること。
自己学習	授業開始前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。予習、復習には該当講義の教科書範囲を読むこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜3時限目、6号館4階6417研究室にて

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.第1章輪読 3.第1章と精神機能障害の検討 4.第2章輪読 5.第2章と精神機能障害支援について検討 6.第3章輪読 7.第3章と臨床実践について検討 8.第4章輪読 9.第4章と臨床実践について検討 10.第5章輪読 11.第5章と臨床実践について検討 12.事例検討1(こども) 13.事例検討2(成人) 14.事例検討3(老年期) 15.発表会	1.講義 2.講義 3.AL 4.講義 5.AL 6.講義 7.AL 8.講義 9.AL 10.講義 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.AL	1.山本 2.山本 3.山本 4.山本 5.山本 6.山本 7.山本 8.山本 9.山本 10.山本 11.山本 12.山本 13.山本 14.山本 15.山本

教科書１	感情 著者:訳・解説　遠藤利彦 出版社:岩波書社
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	授業テーマは、フローと心身機能の基礎的知識を学ぶ。 具体的には、フローとオートテリックパーソナリティの基礎知識を学ぶことによりフローの臨床応用へのアイデアを抽出することができるようになる。						
概要	保健科学領域におけるトピックの一つであるフローの最前線を中心に学ぶ。特に、フローと心身の健康、フロー体験中の前頭前皮質の活動、フローの臨床応用について理解を深める。加えて、フローに関する課題を与えディスカッションを交えながら知識を深める。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出されたレポートの内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	わからないことがあれば、オフィスアワーや電子メールを利用して確認すること。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習および復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. フローの概要	演習	平尾
			2. フローとオートテリックパーソナリティー	演習	平尾
			3. フローと身体的健康	演習	平尾
			4. フローと精神的健康	演習	平尾
			5. フローと心理的傾向	演習	平尾
			6. フロー体験時の脳活動	演習	平尾
			7. オートテリックパーソナリティーと脳活動	演習	平尾
			8. フローと依存	演習	平尾
			9. 身体障害領域におけるフローの臨床応用1	演習	平尾
			10. 身体障害領域におけるフローの臨床応用2	演習	平尾
			11. 老年期領域にフローの臨床応用1	演習	平尾
			12. 老年期領域にフローの臨床応用2	演習	平尾
			13. 精神障害領域におけるフローの臨床応用1	演習	平尾
			14. 精神障害領域におけるフローの臨床応用2	演習	平尾
			15. 発達障害領域におけるフローの臨床応用	演習	平尾
			16. 口頭試問		

教科書１	Flow in the Health Sciences for Disease Prevention and Health Promotion 著者：Kazuki Hirao 出版社：Nova Science Publishers ISBN：978-1-63482-999-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させ る。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1..研究の意義、研究倫理等	講義	長町
			2.基本的な研究方法1	講義	長町
			3.基本的な研究方法2	講義	長町
			4.科学的情報収集法1	講義	長町
			5.科学的情報収集法2	講義	長町
			6.系統的文献検索法1	講義	長町
			7.系統的文献検索法2	講義	長町
			8.系統的文献検索法3	講義	長町
			9.系統的文献検索法4	講義	長町
			10.実験計画法1	講義	長町
			11実験計画法2	講義	長町
			12.実験計画法3	講義	長町
			13.実験計画法4	講義	長町
			14.研究課題とデザイン1	講義	長町
			15.研究課題とデザイン2	講義	長町
			16.研究課題とデザイン3	講義	長町
			17.研究課題とデザイン4	講義	長町
			18.研究論文作成法1	講義	長町
			19.研究論文作成法2	講義	長町
			20.研究論文作成法3	講義	長町
			21.研究論文作成法4	講義	長町
			22.研究論文作成法5	講義	長町
			23.研究計画書作成1	講義	長町
			24.研究計画書作成2	講義	長町
			25.研究計画書作成3	講義	長町
			26.研究計画書作成4	講義	長町
			27.研究計画書作成5	講義	長町
			28.研究発表方法1	講義	長町
			29.研究発表方法2	講義	長町
			30.研究発表方法3	講義	長町

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中瀬　克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させ る。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6424研究室にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜2限を，オフィスアワーとする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1..研究の意義、研究倫理等	講義	中瀬
			2.基本的な研究方法1	講義	
			3.基本的な研究方法2	講義	
			4.科学的情報収集法1	講義	
			5.科学的情報収集法2	講義	
			6.系統的文献検索法1	講義	
			7.系統的文献検索法2	講義	
			8.系統的文献検索法3	講義	
			9.系統的文献検索法4	講義	
			10.実験計画法1	講義	
			11実験計画法2	講義	
			12.実験計画法3	講義	
			13.実験計画法4	講義	
			14.研究課題とデザイン1	講義	
			15.研究課題とデザイン2	講義	
			16.研究課題とデザイン3	講義	
			17.研究課題とデザイン4	講義	
			18.研究論文作成法1	講義	
			19.研究論文作成法2	講義	
			20.研究論文作成法3	講義	
			21.研究論文作成法4	講義	
			22.研究論文作成法5	講義	
			23.研究計画書作成1	講義	
			24.研究計画書作成2	講義	
			25.研究計画書作成3	講義	
			26.研究計画書作成4	講義	
			27.研究計画書作成5	講義	
			28.研究発表方法1	講義	
			29.研究発表方法2	講義	
			30.研究発表方法3	講義	

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ					履修期	2020年度 秋学期
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)					年次	1
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を発表することを目標とする。						
概要	1, 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法を学ぶ。						
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する(30%)。実験において、態度を評価する(30%)。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する(40%)。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
自己学習	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 腫瘍生物学総論	1. 講義	1. 高橋
			2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋
			3. 実験(1)	3. AL	3. 高橋
			4. 実験(2)	4. AL	4. 高橋
			5. 実験(3)	5. AL	5. 高橋
			6. 実験(4)	6. AL	6. 高橋
			7. 実験(5)	7. AL	7. 高橋
			8. 実験(6)	8. AL	8. 高橋
			9. 実験(7)	9. AL	9. 高橋
			10.実験(8)	10.AL	10.高橋
			11.実験(9)	11.AL	11.高橋
			12.実験(10)	12.AL	12.高橋
			13.実験(11)	13.AL	13.高橋
			14.実験(12)	14.AL	14.高橋
			15.実験(13)	15.AL	15.高橋
			16.実験(14)	16.AL	16.高橋
			17.実験(15)	17.AL	17.高橋
			18.実験(16)	18.AL	18.高橋
			19.実験(17)	19.AL	19.高橋
			20.実験(18)	20.AL	20.高橋
			21.実験(19)	21.AL	21.高橋
			22.実験(20)	22.AL	22.高橋
			23.実験(21)	23.AL	23.高橋
			24.実験(22)	24.AL	24.高橋
			25.実験(23)	25.AL	25.高橋
			26.実験(24)	26.AL	26.高橋
			27.実験(25)	27.AL	27.高橋
			28.実験結果検討会	28.AL	28.高橋
			29.研究計画書作成	29.AL	29.高橋
			30.研究計画発表の予行演習	30.AL	30.高橋

教科書１	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	ワインバーグ がんの生物学(原書第2版) 著者: ロバート・A. ワインバーグ (著), 武藤 誠 (翻訳), 青木 正博 (翻訳) 出版社:南江堂 ISBN:978-4524265817
参考書２	がん-4000年の歴史- 上、下 (ハヤカワ文庫NF) 著者:シッダールタ ムカジー (著), Siddhartha Mukherjee (その他), 田中 文 (翻訳) 出版社:早川書房 ISBN:978-4150504670|978-4150504687

授業科目名	特別研究Ⅰ	履修期	2020年度 秋学期
担当者	河村　顕治	NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)	年次	1

必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習

テーマと到達目標	修士論文を作成する過程においてまずしっかりした研究計画を立てることが重要である。研究計画を立てるために様々なバイオメカニクス的解析手法を学び、研究テーマを明確にした上で、実行可能な研究計画を立てることを到達目標とする。
概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された研究計画書について、研究テーマの妥当性、研究方法の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文研究計画を完成させることが求められている。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			第1回:科学的情報収集法①	講義	河村顕治
			第2回:科学的情報収集法②	講義	河村顕治
			第3回:研究テーマ策定①	AL	河村顕治
			第4回:研究テーマ策定②	AL	河村顕治
			第5回:基礎知識の確認①	AL	河村顕治
			第6回:基礎知識の確認②	AL	河村顕治
			第7回:先行研究の調査①	AL	河村顕治
			第8回:先行研究の調査②	AL	河村顕治
			第9回:先行研究の調査③	AL	河村顕治
			第10回:先行研究の調査④	AL	河村顕治
			第11回:先行研究の調査⑤	AL	河村顕治
			第12回:先行研究の調査⑥	AL	河村顕治
			第13回:先行研究の概要発表①	AL	河村顕治
			第14回:先行研究の概要発表②	AL	河村顕治
			第15回:先行研究の概要発表の講評①	AL	河村顕治
				AL	河村顕治
			第16回:先行研究の概要発表の講評②	AL	河村顕治
				AL	河村顕治
			第17回:研究テーマの確定①	AL	河村顕治
			第18回:研究テーマの確定②	AL	河村顕治
			第19回:研究計画調書作成①	AL	河村顕治
			第20回:研究計画調書作成②	AL	河村顕治
			第21回:バイオメカニクス研究指導①	AL	河村顕治
			第22回:バイオメカニクス研究指導②	AL	河村顕治
			第23回:バイオメカニクス研究指導③	AL	河村顕治
			第24回:バイオメカニクス研究指導④	AL	河村顕治
			第25回:バイオメカニクス研究指導⑤	AL	河村顕治
			第26回:バイオメカニクス研究指導⑥	AL	河村顕治
			第27回:研究計画調書再検討と修正①	AL	河村顕治
				AL	河村顕治
			第28回:研究計画調書再検討と修正①		
			第29回:研究計画発表用資料確認①		
			第30回:研究計画発表用資料確認②		

教科書1	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書2	
参考書1	
参考書2	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等について学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	基礎研究:物理刺激が培養細胞に与える影響、臨床研究:理学療法の治療効果に関する研究、教育研究:療法士の臨床教育モデルの構築、以上の3つの領域から自ら研究テーマを決める。その上で論文を作成するための、先行研究のレビューなどを含めて方法論について学ぶ。そして研究仮説を立案し、実験または調査の綿密な計画を立てて論文を完成させる。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度(40%)、確認小テスト(40%)、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した指導教授1名と副指導教員2名によって指導する。 十分な理解に到達するために、予習と復習を行うこと。						
自己学習	・事前に課題を出すので、それについて調べてきたことを元にして授業を行う。必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 実証研究の進め方	AL	平上二九三
			2. キーワードの選定	AL	平上二九三
			3. 現象とその測定	AL	平上二九三
			4. 関連論文の抄録	AL	平上二九三
			5. 社会的背景の整理	AL	平上二九三
			6. 文先行研究のレビュー	AL	平上二九三
			7. 研究背景の要約	AL	平上二九三
			8. 研究デザインの作成	AL	平上二九三
			9. 実証研究の手続き	AL	平上二九三
			10.　対象と方法の決定	AL	平上二九三
			11. サンプリングの手法	AL	平上二九三
			12. 調査票の作成	AL	平上二九三
			13. 統計解析の方法	AL	平上二九三
			14. データの収集と統計解析	AL	平上二九三
			15. 研究計画書の作成	AL	平上二九三
			16. 調査票の作成	AL	平上二九三
			17. 解析結果のまとめ方	AL	平上二九三
			18. 調査の実施とデータ解析	AL	平上二九三
			19. データ解析の妥当性	AL	平上二九三
			20. 結果の解釈と意義	AL	平上二九三
			21. 研究結果の吟味	AL	平上二九三
			22. 研究結果の発表の仕方	AL	平上二九三
			23. 論文の書き方	AL	平上二九三
			24. 具体例と研究指導－1	AL	平上二九三
			25. 具体例と研究指導－2	AL	平上二九三
			26. 具体例と研究指導－3	AL	平上二九三
			27. 具体例と研究指導－4	AL	平上二九三
			28. 具体例と研究指導－5(まとめ)学会発表と論文作成	AL	平上二九三
			30. 単位認定試験	試験	平上二九三

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	1) 摂食機能に及ぼす香りの研究 2) 摂食調節および胃運動機構に関する研究 3) 排便機能と自律神経活性に関する研究 4) 排便障害に対する運動療法の検討 研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果として研究計画書を作成することができるようになる。						
概要	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめるために以下のような指導を行う。 1.　先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.　文献の講読を行いながら研究仮説をたて、実験計画を立案させる。 3.　データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。優れた多くの先行研究論文を読み、時間をかけて研究計画を作成する。いい結果が出ない場合でもあきらめず、粘り強く続けること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究テーマの策定1	演習	水谷
			2. 研究テーマの策定2	演習	水谷
			3. 研究テーマに関する講義1	演習	水谷
			4. 研究テーマに関する講義2	演習	水谷
			5. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法1	演習	水谷
			6. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法2	演習	水谷
			7. 研究テーマに関する先行研究の調査1	演習	水谷
			8. 研究テーマに関する先行研究の調査2	演習	水谷
			9. 研究テーマに関する先行研究の発表1	演習	水谷
			10. 研究テーマに関する先行研究の発表2	演習	水谷
			11. 発表内容に関する講義1	演習	水谷
			12. 発表内容に関する講義2	演習	水谷
			13. 研究テーマの概要の確定1	演習	水谷
			14. 研究テーマの概要の確定2	演習	水谷
			15. 研究計画の吟味1	演習	水谷
			16. 研究計画の吟味2	演習	水谷
			17. 研究計画のための先行研究の発表1	演習	水谷
			18. 研究計画のための先行研究の発表2	演習	水谷
			19. 研究計画書の書き方1	演習	水谷
			20. 研究計画書の書き方2	演習	水谷
			21. 研究における倫理1	演習	水谷
			22. 研究における倫理2	演習	水谷
			23. 研究計画書の原案と指導1	演習	水谷
			24. 研究計画書の原案と指導2	演習	水谷
			25. 研究計画書の完成1	演習	水谷
			26. 研究計画書の完成2	演習	水谷
			27. 研究計画発表用資料の原案と指導1	演習	水谷
			28. 研究計画発表用資料の原案と指導2	演習	水谷
			29. 研究研究計画発表の予行演習1	演習	水谷
			30. 研究研究計画発表の予行演習　2	演習	水谷

教科書１	使用しない(研究に関連した論文を適宜配布)。
教科書２	
参考書１	Physiology of the Gastrointestinal Tract. Volume 1 Sixth Edition 　著者:Ed. by Hamid M. Said 　出版社:Elsevier Academic Press

	ISBN:978-0-12-815901-9
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な手続き，態度および方法を身につけ，修士論文の研究計画書としてまとめることを到達目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. 適切なデータの収集，分析方法について先行研究や専門書を基に立案する思考性を身につける。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	課題の取り組み状況（40%），研究課題の進捗状況（20%），研究計画書の達成度（30%）から評価する。研究計画書については，知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなす。なお，評価のために実施した各種課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1･2. 研究計画のアウトライン	AL	齋藤
			3･4. 社会的背景の吟味	AL	齋藤
			5･6. 研究レビューの吟味	AL	齋藤
			7･8. 研究方法の吟味	AL	齋藤
			9･10. 研究対象選定の吟味	AL	齋藤
			11･12. 統計処理方法の吟味	AL	齋藤
			13･14. 予想される結果と研究意義の吟味	AL	齋藤
			15･16. 緒言の執筆　社会的背景	AL	齋藤
			17･18. 緒言の執筆　先行研究の到達点と課題	AL	齋藤
			19･20. 緒言の執筆　研究目的	AL	齋藤
			21･22. 研究方法の執筆	AL	齋藤
			23･24. 予想される結果と研究意義の吟味の執筆	AL	齋藤
			25･26. 研究計画書の最終確認	AL	齋藤
			27･28. 研究計画発表会に向けた準備	AL	齋藤
			29･30. 研究計画発表会に向けた最終確認	AL	齋藤

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」,「地域高齢者の評価に関する研究」に関して 研究を行うのに必要な手続き，態度および方法について指導し，研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積，分析，論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は，最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			(前半)		
			1. 研究領域の検討と策定	講義	原田
			2. 研究領域に沿った基礎知識の確認	AL	原田
			3. 研究領域に沿った先行研究の調査1	AL	原田
			4. 研究領域に沿った先行研究の調査2	AL	原田
			5. 研究領域に沿った先行研究の調査3	AL	原田
			6. 研究領域に沿った先行研究のまとめ	AL	原田
			7. 研究テーマの候補	AL	原田
			8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	原田
			9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	原田
			10. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	原田
			11. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	原田
			12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	原田
			13. 研究計画書の作成1	AL	原田
			14. 研究計画書の作成2	AL	原田
			15. 研究計画書の決定	AL	原田
			(後半)		原田
			16. 研究計画の修正	講義	
			17.参考文献の調査	AL	原田
			18.参考文献の精読	AL	原田
			19.調査方法の検討	AL	原田
			20.調査方法の確定	AL	原田
			21.調査の実施	AL	原田
			22.調査結果の収集	AL	原田
			23.調査気課の整理	AL	原田
			24.研究進捗状況報告書の概要説明	AL	原田
			25.研究進捗状況報告書の作成	AL	原田
			26.研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	原田
			27.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗	AL	原田
			28.調査方法の見直し	AL	原田
			29.調査の再実施	AL	原田
			30.調査結果の最収集，他まとめ	AL	原田
			試験	試験	原田

教科書１	医学的研究のデザイン:研究の質を高める疫学的アプローチ　第3版 出版社:ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ ISBN:978-4-89592-583-9
教科書２	

参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	薬剤やリハビリテーション刺激による神経細胞活性化の解析を行い、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。(20%)さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。(20%)一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。(60%)なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 細胞培養液の作成	講義	加納
			2. 培養器具の滅菌と試薬の作成	講義	加納
			3. 細胞培養の実際	講義	加納
			4. 細胞への薬剤の投与	講義	加納
			5. 神経細胞の培養法とリハビリテーション刺激	講義	加納
			6. 細胞分化と細胞死の観察	講義	加納
			7. 細胞からのDNAとRNAの抽出	講義	加納
			8. 細胞からのタンパク質の抽出	講義	加納
			9. タンパク質のウエスタンブロット法による解析	講義	加納
			10. リハビリテーション刺激を与えた神経細胞のウエスタンブロット法による解析	講義	加納
			11. 薬剤によるシグナル伝達タンパク質の解析	講義	加納
			12. 神経活性に働く薬剤とリハビリテーション刺激の解析	講義	加納
			13. 実験結果のまとめ1	講義	加納
			14. 実験結果のまとめ2	講義	加納
			15. 実験結果のまとめ3	講義	加納
			16. 神経細胞の携帯観察1	AL	加納
			17. 神経細胞の携帯観察2	AL	加納
			18. 神経細胞の携帯観察3	AL	加納
			19. 外部刺激による神経細胞の変化の解析1	AL	加納
			20. 外部刺激による神経細胞の変化の解析2	AL	加納
			21. 外部刺激による神経細胞の変化の解析3	AL	加納
			22. シグナル伝達のウエスタン解析1	AL	加納
			23. シグナル伝達のウエスタン解析2	AL	加納
			24. シグナル伝達のウエスタン解析3	AL	加納
			25. 神経細胞のウエスタン解析1	AL	加納
			26. 神経細胞のウエスタン解析2	AL	加納
			27. 神経細胞のウエスタン解析3	AL	加納
			28. 論文作成1	AL	加納
			29. 論文作成2	AL	加納
			30. 論文作成3	AL	加納

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者:Alberts et al. 出版社:Garland Science ISBN:0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	看護、理学・作業療法へ神経生理検査を応用できるようになる						
概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;臨床神経生理学の歴史	講義	中角			
2;神経生理の基礎	講義	中角			
3;筋の構造と機能1	講義	中角			
4;筋の構造と機能2	講義	中角			
5;神経筋接合部の構造と機能	講義	中角			
5;末梢神経の構造と機能1	講義	中角			
6;末梢神経の構造と機能2	講義	中角			
7;脊髄の構造と機能1	講義	中角			
8;脊髄の構造と機能2	講義	中角			
9;脳幹の構造と機能1	講義	中角			
10;脳幹の構造と機能2	講義	中角			
11;小脳の構造と機能1	講義	中角			
12;小脳の構造と機能2	講義	中角			
13;間脳の構造と機能1	講義	中角			
14;間脳の構造と機能2	講義	中角			
15;大脳の構造と機能1	講義	中角			
16;大脳の構造と機能2	講義	中角			
17;大脳の構造と機能3	講義	中角			
18;大脳の構造と機能4	講義	中角			
19;検査装置と器具	講義	中角			
20;神経伝導検査の基本原理	講義	中角			
21;遅発電位とその臨床的意義	講義	中角			
22;H反射について	講義	中角			
23;F波について	講義	中角			
24;神経伝導検査の実際	講義	中角			
25;神経筋接合部の検査法	講義	中角			
26;脳幹部反射	講義	中角			
27;脳刺激による運動誘発電位	講義	中角			
28;体性感覚誘発電位	講義	中角			
29;視覚誘発電位	講義	中角			
30;聴覚誘発電位	講義	中角			
31;期末試験		中角			

教科書１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	自らの臨床疑問や研究疑問を研究課題とし、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果として研究計画書を作成することを目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.修士課程における研究の概要	講義	森
			2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	森
			3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	AL	森
			4. 研究と倫理1	講義	森
			5. 研究と倫理2	講義	森
			6. 参考文献の調査	講義	森
			7. 研究テーマの作成	講義	森
			8. 研究対象者の選択	講義	森
			9. 測定方法の計画1	講義	森
			10. 測定方法の計画2	講義	森
			11. サンプルサイズの推定1	講義	森
			12. サンプルサイズの推定2	講義	森
			13. 研究デザイン(コホート研究)	講義	森
			14. 研究デザイン(横断研究とケースコントロール研究)	講義	森
			15. 研究デザイン(観察研究における交絡と交互作用)	講義	森
			16. 研究テーマの検討と策定	AL	森
			17. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	森
			18. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	森
			19. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	森
			20. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	森
			21. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	森
			22. 研究テーマの確定	AL	森
			23. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	森
			24. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	森
			25. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	森
			26. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	森
			27. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	森
			28. 研究計画書の作成1:	AL	森
			29. 研究計画書の作成2	AL	森
			30. 研究計画書の発表	AL	森

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。
教科書２	
参考書１	医学的研究のデザイン　第4版 著者:木原雅子(翻訳), 木原正博(翻訳) 出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:978-4-89592-783-3
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	服部　俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	実習
テーマと到達目標	骨から由来するオステオポンチンなどの蛋白の感染・免疫に及ぼす影響						
概要	オステオポンチンの組織での局在を細胞株、組織で解析し、感染・免疫疾患において、どのような役割をするかを研究する。同時に同じマトセルラー蛋白であるガレクチン9についても検討し、比較する。						
評価方法	実験データーや、それに関する研究現況の把握。 レポートの提出後はその内容に関してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週木曜日午前11時から12時 6号館　408号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究テーマの検討と策定	講義	服部
			2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	服部
			3. 研究テーマに沿った先行研究の調査	AL	服部
			4. 研究テーマに沿った海外文献の精査	AL	服部
			5. 研究テーマの確定	AL	服部
			6. 研究テーマにおける測定方法の計画案策定	AL	服部
			7. 研究テーマに沿った測定方法の計画案の検討	AL	服部
			8. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	服部
			9. 研究計画書の作成	AL	服部
			10. 研究計画書の作成作成案の検討	AL	服部
			11. 研究計画書の決定	AL	服部
			12. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	服部
			13. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の問題）	AL	服部
			14. 本実験と問題点のディスカッション（まとめ）	AL	服部
			15. 実験結果の中間収集、整理	AL	服部
			16. 中間発表の問題点の整理	AL	服部
			17. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の確認）	AL	服部
			18. 本実験と問題点のディスカッション（実験器具の確認）	AL	服部
			19. 本実験全般における問題点のディスカッション	AL	服部
			20.研究報告書の概要	AL	服部
			21.研究報告書の整理と確認	AL	服部
			23.研究報告書の統計処理の整理	AL	服部
			24.研究報告書の考察整理	AL	服部
			25. 研究報告書作成（緒論）	AL	服部
			26. 研究報告書作成（方法）	AL	服部
			27. 研究報告書（考察）	AL	服部
			28.研究報告書（まとめ）	AL	服部
			29.研究報告書の発表とディスカッション練習	AL	服部
			30.研究報告書作成	AL	服部

教科書１	Janeway's Imunobiology, 9th ed. K.Murphy & C. Weaver Garland Science ISBN: 978-0-8153-4551-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	寺﨑　智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1.先行研究や原著論文について指導し、文献検索や原著の読解力を養い、思考力を高める。 2. 文献を十分検索したうえで研究仮説を立案し、研究計画を作成する。 3.データの集積、分析、論文作成などについて指導する。						
評価方法	講義時の設問(30%)、研究計画の内容(30%)、研究計画の発表内容(40%)で評価する。						
履修条件・注意事項	研究指導はその研究に適した指導教員で行う。						
自己学習	各授業計画に沿っての予習、授業内容の確認を行う復習ににには各々2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	金曜日2限、6号館4階6420研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1;研究の意義・倫理	講義	寺﨑
			2;基本的研究方法1	講義	寺﨑
			3;基本的研究方法2	講義	寺﨑
			4;情報収集法1	講義	寺﨑
			5;情報収集法2	講義	寺﨑
			6;文献検索法1	講義	寺﨑
			7;文献検索法2	講義	寺﨑
			8;文献検索法3	講義	寺﨑
			9;文献検索法4	講義	寺﨑
			10;研究課題とデザイン1	講義	寺﨑
			11;研究課題とデザイン2	講義	寺﨑
			12;研究課題とデザイン3	講義	寺﨑
			13;研究課題とデザイン4	講義	寺﨑
			14;研究論文作成方法1	講義	寺﨑
			15;研究論文作成方法2	講義	寺﨑
			16;研究論文作成方法3	講義	寺﨑
			17;研究論文作成方法4	講義	寺﨑
			18;研究論文作成方法5	講義	寺﨑
			19;研究計画書作成1	講義	寺﨑
			20;研究計画書作成2	講義	寺﨑
			21;研究計画書作成3	講義	寺﨑
			22;研究計画書作成4	講義	寺﨑
			23;研究計画書作成5	講義	寺﨑
			24;研究発表方法1	講義	寺﨑
			25;研究発表方法2	講義	寺﨑
			26;研究発表方法3	講義	寺﨑
			27;研究発表方法4	講義	寺﨑
			28;研究発表方法5	講義	寺﨑

教科書１	必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	田中　富子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	保健看護学分野で、修士論文の作成に取り組むうえでの基本的な考え方や知識を学ぶことができる。 研究計画書を書くことができる。						
概要	研究の基礎となる文献検索と文献検討の方法、量的、質的研究方法、研究デザインの基本的構成、倫理的課題などを学ぶとともに、研究計画書を書き、発表する。 この科目は，行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし，地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした授業・研究指導を行う。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力を等を評価する(40%)。また 最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにはみなおしておくこと。 研究への取り組み状況、プレゼンテーションの内容、出席状況等も評価する。						
履修条件・注意事項	日常の看護事象を研究的視点から見るようにする。関連領域の研究論文をクリティークする習慣をつける。						
自己学習	問題意識を持って保健科学分野での論文を自ら進んで文献をクリティークし、研究論文を作成するための基本を理解をする。自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しリポートに纏める。また講義の中でも自ら研究発表ができるように研究課題に関する疑問や課題を整理しておくこと。なお、予習や復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日　12:40～13:30　6号館　6407研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究とは何か	講義・演習	田中
			2. 研究的視点と研究課題の対峙	講義・演習	田中
			3.文献渉猟	講義・演習	田中
			4.文献渉猟	講義・演習	田中
			5. 文献渉猟	講義・演習	田中
			6. 論文のクリティークの方法	講義・演習	田中
			7.論文のクリティーク(1)	講義・演習	田中
			8.. 論文のクリティーク(2)	講義・演習	田中
			9.　論文のクリティーク(3)	講義・演習	田中
			11.研究デザインと研究方法	講義・演習	田中
			12、量的研究法	講義・演習	田中
			13、質的研究法	講義・演習	田中
			14..事例検討法	講義・演習	田中
			15. 研究課題と研究方法	講義・演習	田中
			16.. 研究方法の検討	講義・演習	田中
			17..研究デザインを描く	講義・演習	田中
			18..研究デザインを描く	講義・演習	田中
			19.研究方法の検討	講義・演習	田中
			20. 研究と倫理的課題	講義・演習	田中
			21研究計画書の作成	講義・演習	田中
			23. 研究計画書の作成	講義・演習	田中
			24. 研究計画書の発表	講義・演習	田中
			25.研究テーマと先行研究	講義・演習	田中
			26.研究テーマと先行研究	講義・演習	田中
			27.研究対象者の選択	講義・演習	田中
			28.研究「対象者n選択	講義・演習	田中
			28.文献の再整理	講義・演習	田中
			29.文献の再整理	講義・演習	田中
			30..まとめ	講義・演習	田中

教科書１	よくわかる看護研究論文のクリティーク 著者: 山川みやえ　他 出版社:日本看護協会出版会
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	掛谷　益子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うために必要な手続き，方法，および向き合い方について理解でき，自身の研究疑問を明確にしたうえで研究計画書を作成でき、研究計画に沿ってデータの収集と結果の分析に着手できることを到達目標とする.						
概要	1.先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める. 2.データの集積，分析，論文執筆について理解を深める.						
評価方法	研究指導全般を通じて，研究へ取り組む姿勢・積極性(50%)，提出課題の内容(50%)をあわせて評価する. 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	研究指導は最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う. 与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答ができるように準備しておく。						
自己学習	自らの課題に対して、事前に調べた資料を読み込み、理解できない点をまとめておき、授業を受ける。授業後は、事前に理解できていなかった点が確実に理解できるように授業の内容を再確認する。「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、自己学習には事前・事後学習ともに各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日2限、研究室(6402)にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 修士課程における研究の概要	AL	掛谷
			2. 研究疑問・研究課題の検討	AL	掛谷
			3. 研究課題における社会的背景の検討	AL	掛谷
			4. 研究課題における社会的背景の整理	AL	掛谷
			5. 研究における倫理的配慮1	AL	掛谷
			6. 研究における倫理的配慮2	AL	掛谷
			7. 文献レビューとは	Al	掛谷
			8. 文献レビューの方法と管理	AL	掛谷
			9. 文献の活用	AL	掛谷
			10. 研究テーマの検討	AL	掛谷
			11. 研究テーマの決定	AL	掛谷
			12. 研究デザインの検討	AL	掛谷
			13. 研究方法の検討	AL	掛谷
			14. 研究対象者の検討	AL	掛谷
			15. 測定方法の検討	AL	掛谷
			16. サンプルサイズの推定	AL	掛谷
			17. データ収集の注意点	AL	掛谷
			18. データ収集1	AL	掛谷
			19. データ収集2	AL	掛谷
			20. 収集したデータの整理	AL	掛谷
			21. 収集したデータの分析の視点	AL	掛谷
			22. 分析方法・統計的手法の妥当性	AL	掛谷
			23. データの分析	AL	掛谷
			24. 分析結果の検討1	AL	掛谷
			25. 分析結果の検討2	AL	掛谷
			26. 図表の作成	AL	掛谷
			27. 分析結果の報告	AL	掛谷
			28. 分析結果の再検討	AL	掛谷
			29. 分析結果のまとめ	AL	掛谷
			30. 今後の方針	AL	掛谷

教科書１	適宜指示する.
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:大学院生は、研究計画の立案ができるようになる。 到達目標:大学院生は、先行研究の調査、研究計画の吟味と立案、倫理審査を受けることができる。						
概要	この講義では、大学院生が自身の研究課題を研究計画として立案し遂行まで導くものである。 学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域を明らかにする。 未解明の領域のなかで社会的意義があるテーマを検討し、研究目的を明確化していく。 研究目的に照らし合わせて、具体的な研究方法を定め、研究計画書を立案していく。 そのうえで研究倫理審査の承認を受ける。						
評価方法	課題(50%)・発表(50%)　で評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的にかつ自律的に参加すること。　必ず予習と復習を行うこと。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究の概要	講義	京極
			2.　社会背景の検討	AL	京極
			3. 研究倫理	AL	京極
			4. 先行研究の調査	AL	京極
			5.　先行研究の吟味	AL	京極
			6. 先行研究の整理	AL	京極
			7. 研究テーマの検討	AL	京極
			8. 研究テーマの作成	AL	京極
			9. 対象者の選定基準	AL	京極
			10. 対象者の除外基準	AL	京極
			11. 理論的研究のデザイン	AL	京極
			12. 理論的研究の実行	AL	京極
			13.　理論的研究の報告	AL	京極
			14. 質的研究の目的	AL	京極
			15. 質的研究の方法	AL	京極
			16. 質的研究の評価基準	AL	京極
			17. 量的研究の目的	AL	京極
			18. 量的研究の方法	AL	京極
			19. 量的研究の評価基準	AL	京極
			20. 混合研究法の目的	AL	京極
			21. 混合研究法の方法	AL	京極
			22. 混合研究法の評価基準	AL	京極
			23. 研究計画書の形式	AL	京極
			24. 研究計画書の作成	AL	京極
			25. 研究計画書の決定	AL	京極
			26. 研究計画書の発表	AL	京極
			27. 研究計画書の吟味	AL	京極
			28. 研究計画書の修正	AL	京極
			29. 研究計画書の再作成	AL	京極
			30.　まとめ	AL	京極

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	柘野　浩子					NO.	
配当学科	看護				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	講義|演習|
テーマと到達目標	医療安全に関する研究課題に対し、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、研究計画書を作成する。 1. 具体的な研究課題を明確にできる 2. 研究テーマに沿った適切な研究方法が選択できる。 3. 実践可能な研究計画書を作成する。						
概要	研究目的を明らかにし、研究デザイン、研究方法を具体的に計画する。関連ある専攻文献を検索し、読み込む中でより具体的な研究上の課題や方法論の適性、対象者の選定方法などを詳細に検討する。研究倫理に関する確認、得られる結果の予測と仮説の設定、関連機関との依頼など、実行可能な研究計画書を作成する。						
評価方法	プレゼンテーション、ディスカッション内容、学習態度、課題レポートから総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	研究は科学的探究心をもって、主体的かつ創造的に取り組む。国内外の先行研究のクリティークを通して課題を明らかにし、研究テーマにそった研究方法論に基づく研究計画書を作成する。						
自己学習	主体的に国内外の先行研究の検索およびクリティークを幅広く行う。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	講義終了後およびEメールを使用して行う。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. ガイダンス	講義・演習	柘野
			2. 研究課題の検討	講義・演習	柘野
			3. 文献検討	講義・演習	柘野
			4. 文献検討	講義・演習	柘野
			5. 文献検討	講義・演習	柘野
			6. 研究の背景、研究課題の明確化	講義・演習	柘野
			7. 研究計画書について	講義・演習	柘野
			8. 研究デザイン、研究方法	講義・演習	柘野
			9. 質的研究方法	講義・演習	柘野
			10. 質的研究方法	講義・演習	柘野
			11. 事例研究方法	講義・演習	柘野
			12. 量的研究方法	講義・演習	柘野
			13. 実験研究方法	講義・演習	柘野
			14. 文献クリティークの方法	講義・演習	柘野
			15. 文献クリティーク	講義・演習	柘野
			16. 文献クリティーク	講義・演習	柘野
			17. 文献クリティーク	講義・演習	柘野
			18. 研究課題と研究方法の検討	講義・演習	柘野
			19. 研究課題と研究方法の検討	講義・演習	柘野
			20. 研究対象、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮の検討	講義・演習	柘野
			21. 研究対象、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮の検討	講義・演習	柘野
			22. 研究計画書の作成	講義・演習	柘野
			23. 研究計画書の作成	講義・演習	柘野
			24. 研究計画書の作成	講義・演習	柘野
			25. 倫理審査書類の作成	講義・演習	柘野
			26. 研究計画書発表プレゼンテーション資料作成	講義・演習	柘野
			27. 研究計画書プレゼンテーション	講義・演習	柘野
			28.. 文献整理	講義・演習	柘野
			29. 文献整理	講義・演習	柘野
			30. まとめ	講義・演習	柘野

教科書１	履修者の学習の進展程度に合わせて随時紹介する。
教科書２	
参考書１	・「看護における研究第2版」 出版社:南裕子、野島砂由美　日本看護協会出版会
参考書２	・「看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん」 出版社:　大木秀一　医歯薬出版

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	竹﨑　和子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ 修士論文作成にむけて自己の研究課題を明確にし、研究テーマを設定する。 到達目標 ①研究課題の明確化 ②文献検討 ③研究における倫理的配慮についての言語化 ④研究計画書の立案
概要	主にリハビリテーション看護領域の研究指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究テーマ、研究目的を明確化する。 3. 研究目的に照らし合わせて、具体的な研究方法を定め、研究計画書を立案していく 4. 研究倫理審査の承認を受ける。
評価方法	研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%) 課題の内容や質疑応答における発言状況(20%) 作成された研究計画書について、研究テーマの妥当性、研究方法の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること。 必ず、予習・復習を行うこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること(60分)。 復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること(60分)。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜日　5限:6号館　6404研究室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究の概要	講義	竹﨑
			2.　社会背景の検討	講義	竹﨑
			3. 研究倫理	AL	竹﨑
			4. 先行研究の調査	AL	
			5.　先行研究の吟味	AL	竹﨑
			6. 先行研究の整理	AL	
			7. 研究テーマの検討	AL	竹﨑
			8. 研究テーマの作成	AL	竹﨑
			9. 対象者の選定基準	AL	竹﨑
			10. 対象者の除外基準	AL	竹﨑
			11. 理論的研究のデザイン	AL	竹﨑
			12. 理論的研究の実行	AL	竹﨑
			13.　理論的研究の報告	AL	竹﨑
			14. 質的研究の目的	AL	竹﨑
			15. 質的研究の方法	AL	竹﨑
			16. 質的研究の評価基準	AL	竹﨑
			17. 量的研究の目的	AL	竹﨑
			18. 量的研究の方法	AL	竹﨑
			19. 量的研究の評価基準	AL	竹﨑
			20. 混合研究法の目的	AL	竹﨑
			21. 混合研究法の方法	AL	竹﨑
			22. 混合研究法の評価基準	AL	竹﨑
			23. 研究計画書の形式	AL	竹﨑
			24. 研究計画書の作成	AL	竹﨑
			25. 研究計画書の決定	AL	竹﨑
			26. 研究計画書の発表	AL	竹﨑
			27. 研究計画書の吟味	AL	竹﨑
			28. 研究計画書の修正	AL	竹﨑
			29. 研究計画書の再作成	AL	竹﨑
			30.　まとめ	AL	竹﨑
					竹﨑
					竹﨑

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な考え方、取り組みの項目を把握し、研究計画が自分で作成できることを到達目標とする。						
概要	1.研究テーマの先行研究や原著について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める指導を行う。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる指導をおこなう。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導を行う。						
評価方法	研究指導全般での講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によっておこなう。 本授業を受講するに当たっての予習、また、授業後の復習が必要であり、各2時間程度を必要とする。						
自己学習	関連する研究に必要な項目を自身で積極的に学習することが重要。各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。 また、毎回の学習したの内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室のて木曜日の3時限に実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.保健科学研究領域の概要(1)	講義	秋山
			2.保健科学研究領域の概要(2)	講義	秋山
			3.研究テーマの策定(1)	講義	秋山
			4.研究テーマの策定(2)	講義	秋山
			5.研究テーマの基礎知識の確認(1)	演習	秋山
			6.研究テーマの基礎知識の確認(2)	演習	秋山
			7.研究テーマの先行研究の調査(1)	演習	秋山
			8.研究テーマの先行研究の調査(2)	演習	秋山
			9.研究テーマの先行研究の概要発表(1)	演習	秋山
			10.研究テーマの先行研究の概要発表(2)	演習	秋山
			11.概要発表の講評(1)	演習	秋山
			12.概要発表の講評(2)	演習	秋山
			13.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(培養細胞)(1)	演習	秋山
			14.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(培養細胞)(2)	演習	秋山
			15.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(培養細胞)(1)	演習	秋山
			16.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(培養細胞)(2)	講義	秋山
			17.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(動物実験)(1)	講義	秋山
			18.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(動物実験)(2)	講義	秋山
			19.研究テーマの確定(1)	講義	秋山
			20.研究テーマの確定(2)	演習	秋山
			21.研究計画の概要作成(1)	演習	秋山
			22.研究計画の概要作成(2)	演習	秋山
			23.研究計画の確認および修正(1)	演習	秋山
			24.研究計画の確認および修正(2)	演習	秋山
			25.研究計画の完成(1)	演習	秋山
			26.研究計画の完成(2)	演習	秋山
			27.研究計画発表資料の作成(1)	演習	秋山
			28.研究計画発表資料の作成(2)	演習	秋山
			29.研究計画発表資料の確認及び修正(1)	演習	秋山
			30.研究計画発表資料の確認及び修正(2)	演習	秋山

教科書１	実験計画法　活用編 著者:山田秀／編著 出版社:日科技連出版社 ISBN:978-4-8171-0390-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期課程)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究思考を身につけ、研究計画を立てることができることを目標とする。						
概要	1.研究テーマにかかわる先行研究にあたり分かっていること、分かっていないことを明確にさせる指導を行う。 2.研究を始めるに至った背景を説明できるよう指導を行う。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導を行う。						
評価方法	講義時および研究指導時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察力を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。						
履修条件・注意事項	研究指導は、その研究内容に合った主指導教員1名と副指導教員2名によって行われる。 予習、復習を各2時間程度を必要とする。						
自己学習	研究に関連する項目について自身で学習すること。授業で学習したの内容については、自分なりにノートにまとめること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて水曜日3時限に実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.保健科学研究領域の概要(1)	講義	中嶋
			2.保健科学研究領域の概要(2)	講義	中嶋
			3.研究テーマの策定(1)	講義	中嶋
			4.研究テーマの策定(2)	講義	中嶋
			5.研究テーマの基礎知識の確認(1)	演習	中嶋
			6.研究テーマの基礎知識の確認(2)	演習	中嶋
			7.研究テーマの先行研究の調査(1)	演習	中嶋
			8.研究テーマの先行研究の調査(2)	演習	中嶋
			9.研究テーマの先行研究の概要発表(1)	演習	中嶋
			10.研究テーマの先行研究の概要発表(2)	演習	中嶋
			11.概要発表の講評(1)	演習	中嶋
			12.概要発表の講評(2)	演習	中嶋
			13.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(1)	演習	中嶋
			14.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(2)	演習	中嶋
			15.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(1)	演習	中嶋
			16.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(2)	講義	中嶋
			17.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(1)	講義	中嶋
			18.研究テーマ遂行に必要な実験手技の指導(2)	講義	中嶋
				講義	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋
				演習	中嶋

教科書１	実験計画法　活用編 著者:山田秀／編著 出版社:日科技連出版社 ISBN:978-4-8171-0390-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生は、自身の研究を行なうために必要な考え方や取り組みの項目を適切に把握し、研究計画を自分で作成できるようになる。						
概要	1.先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	研究指導全般での講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する(60%)。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によっておこなう。						
自己学習	関連する研究に必要な項目を自身で積極的に学習することが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。 また、復習として、毎回の学習したの内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室のて木曜日の3時限に実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.保健科学研究領域の概要(1)	講義	佐藤
			2.保健科学研究領域の概要(2)	講義	佐藤
			3.研究テーマの策定(1)	講義	佐藤
			4.研究テーマの策定(2)	講義	佐藤
			5.研究テーマの基礎知識の確認(1)	演習	佐藤
			6.研究テーマの基礎知識の確認(2)	演習	佐藤
			7.研究テーマの先行研究の調査(1)	演習	佐藤
			8.研究テーマの先行研究の調査(2)	演習	佐藤
			9.先行研究の概要発表(1)	演習	佐藤
			10.先行研究の概要発表(2)	演習	佐藤
			11.概要発表の講評(1)	演習	佐藤
			12.概要発表の講評(2)	演習	佐藤
			13.研究に必要な実験手技の指導(1)	演習	佐藤
			14.研究に必要な実験手技の指導(2)	演習	佐藤
			15.研究に必要な実験手技の指導(3)	演習	佐藤
			16.研究に必要な実験手技の指導(4)	講義	佐藤
			17.研究に必要な実験手技の指導(5)	講義	佐藤
			18.研究に必要な実験手技の指導(6)	講義	佐藤
			19.研究テーマ確定(1)	講義	佐藤
			20.研究テーマ確定(2)	演習	佐藤
			21.研究計画の概要作成(1)	演習	佐藤
			22.研究計画の概要作成(2)	演習	佐藤
			23.研究計画の確認および修正(1)	演習	佐藤
			24.研究計画の確認および修正(2)	演習	佐藤
			25.研究計画の完成(1)	演習	佐藤
			26.研究計画の完成(2)	演習	佐藤
			27.研究計画発表資料の作成(1)	演習	佐藤
			28.研究計画発表資料の作成(2)	演習	佐藤
			29.研究計画発表の確認/修正(1)	演習	佐藤
			30.研究計画発表の確認/修正(2)	演習	佐藤

教科書１	実験計画法　活用編 著者:山田秀／編著 出版社:日科技連出版社 ISBN:978-4-8171-0390-1
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:研究テーマに沿った考察の進展と論文作成 到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。 1と2の実施過程において、作業療法研究の実務経験のある作業療法士が、指導・助言を行う。						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日2限　6429研究室(岩田)とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究計画内容、仮説の再検討1	AL	岩田
			2. 研究計画内容、仮説の再検討2	AL	岩田
			3. データ収集の再検討1	AL	岩田
			4. データ収集の再検討2	AL	岩田
			5. 関連文献からの検討(1)調査結果	AL	岩田
			6. 関連文献からの検討(1)先行研究	AL	岩田
			7. 関連文献からの検討(2)引用表現1	AL	岩田
			8. 関連文献からの検討(2)引用表現2	AL	岩田
			9.　関連文献からの検討(3)論点1	AL	岩田
			10. 関連文献からの検討(3)論点2	AL	岩田
			11. 引用文献の挿入1	AL	岩田
			12. 引用文献の挿入2	AL	岩田
			13. データの全体的特徴の把握1	AL	岩田
			14. データの全体的特徴の把握2	AL	岩田
			15. データ処理方法	AL	岩田
			16. 研究目的達成に向けた解析	AL	岩田
			17. 解析結果の解釈1	AL	岩田
			18.　解析結果の解釈2	AL	岩田
			19. 中間発表の準備　1　全体の構成1	AL	岩田
			20. 中間発表の準備　1　全体の構成2	AL	岩田
			21. 中間発表の準備2　論文構成の課題1	AL	岩田
			22. 中間発表の準備2　論文構成の課題2	AL	岩田
			23. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	岩田
			24. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	岩田
			25. 中間発表の準備4　結果の提示1	AL	岩田
			26. 中間発表の準備4　結果の提示2	試験	岩田
			27. 中間発表の準備5　考察と検討		
			28. 中間発表の準備5　結論の検討		
			29. プレゼンテーションの実施の仕方		
			30. 最終試験 最終レポート		

教科書１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	授業で具体的に指示する。
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	(テーマ)自己の持つ理学療法領域の疑問を研究疑問にする。 (到達目標)理学療法の研究領域にはどのような研究があるのかを把握し、自己の疑問がどの領域にあるのかを明らかにする。						
概要	理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。						
評価方法	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究を行ううえでの基本姿勢①	AL	井上茂樹
			2. 研究を行ううえでの基本姿勢②	AL	井上茂樹
			3. 研究の過程・範囲・流れ①	AL	井上茂樹
			4. 研究の過程・範囲・流れ②	AL	井上茂樹
			5. 研究テーマの探し方①	AL	井上茂樹
			6. 研究テーマの探し方②	AL	井上茂樹
			7. 研究の展開と問題解決手順①	AL	井上茂樹
			8. 研究の展開と問題解決手順②	AL	井上茂樹
			9. 研究テーマの策定①	AL	井上茂樹
			10. 研究テーマの策定②	AL	井上茂樹
			11. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法①	AL	井上茂樹
			12. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法②	AL	井上茂樹
			13. 研究テーマに関する先行研究の調査①	AL	井上茂樹
			14. 研究テーマに関する先行研究の調査②	AL	井上茂樹
			15. 研究テーマに関する先行研究の調査③	AL	井上茂樹
			16. 研究テーマに関する先行研究の調査④	AL	井上茂樹
			17. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成①	AL	井上茂樹
			18. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成②	AL	井上茂樹
			19. 研究計画のための先行研究の発表①	AL	井上茂樹
			20. 研究計画のための先行研究の発表②	AL	井上茂樹
			21. 研究における倫理①	AL	井上茂樹
			22. 研究における倫理②	AL	井上茂樹
			23. 研究計画書の原案と指導①	AL	井上茂樹
			24. 研究計画書の原案と指導②	AL	井上茂樹
			25. 研究計画書の完成	AL	井上茂樹
			26. 研究計画発表用資料作成と指導①	AL	井上茂樹
			27. 研究計画発表用資料作成と指導②	AL	井上茂樹
			28. 研究計画発表用資料作成と指導③	AL	井上茂樹
			29. 研究計画発表の予行演習①	AL	井上茂樹
			30. 研究計画発表の予行演習②	AL	井上茂樹

教科書１	必要に応じて文献や研究資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	「研究手続きの習得」をテーマとして、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめることを目標とする。						
概要	研究の手続き、方法を学ぶためには単にデータを収集して分析するだけででなく、綿密な研究計画、結果の予想、文章の構成能力が必要である。本講義では特に以下の点に関して指導していく。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案する。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	修士論文に関わる研究の理解度、臨む姿勢に関して評価するために、各回の課題(20%)、最終レポート課題(40%)、研究計画プレゼンテーションの内容(40%)で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は，主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。各回に提示される課題だけではなく、自ら進んで研究の問題点の把握に努め、担当教員の質疑応答に回答できるよう考えをまとめておくことが必要である。出された課題に基づく予習、研究指導の内容に関する復習を必ず行うこと。						
自己学習	リハビリテーションにおける研究では正確な情報収集能力と批判的吟味を通した正しい理解が必要である。各回に課題を提示するので、その課題を通して十分な予習・復習を行うこと。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. オリエンテーション	演習	森下
			2. 研究疑問の見つけ方	演習	森下
			3. 研究疑問の定式化	演習	森下
			4. 研究疑問からテーマの関連	演習	森下
			5. 研究テーマの策定	演習	森下
			6. 研究テーマに関する講義	演習	森下
			7. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法	演習	森下
			8. 文献の検索方法	演習	森下
			9. 研究テーマに関する先行研究の調査	演習	森下
			10. 研究テーマに関する先行研究の発表	演習	森下
			11. 先行研究の整理	演習	森下
			12. 発表内容に関する講義	演習	森下
			13. 研究テーマの概要の確定	演習	森下
			14. 解析項目の選定	演習	森下
			15. 解析項目の信頼性と妥当性	演習	森下
			16. サンプルサイズの計算(単変量)	演習	森下
			17. サンプルサイズの計算(多変量)	演習	森下
			18. 統計学的検定(差の検定)	演習	森下
			19. 統計学的検定(相関)	演習	森下
			20. 統計学的検定(多変量)	演習	森下
			21. 統計学的検定の結果の解釈	演習	森下
			22. 予想される結果の整理	演習	森下
			23. 先行研究との関連	演習	森下
			24.　研究計画の吟味	演習	森下
			25. 研究計画書の書き方	演習	森下
			26. 研究における倫理	演習	森下
			27. 研究計画書の原案と指導	演習	森下
			28. 研究計画書の完成	演習	森下
			29. 研究計画発表用資料の原案と指導	演習	森下
			30. 研究研究計画発表の予行演習	演習	森下

教科書１	臨床研究first stage 著者:網本和、高倉保幸編 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03227-8
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	福岡　美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	ディスカッション
テーマと到達目標	自らの研究を探求できる						
概要	自ら研究テーマを決め、論文作成するため、先行研究や原著論文について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。文献の購読を行いながら仮説を立案し、計画を立案させる。 計画書を完成させ、データの収集方法や分析方法について指導する。　学会発表、論文投稿完成に向けてタイムスケジュールを調整する。						
評価方法	研究の遂行、指導に対する姿勢((20%) 研究への取り組み(20%) 研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮について総合的に評価する。 (60%)						
履修条件・注意事項	各自文献を読んでくること。 理解できないことはそのままにしないこと。 グループで良く協議すること。その際、自分の意見を述べること。						
自己学習	自己にて復習を行うこと。課題に沿って研究を進めていくこと						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　13:30～15:00						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究動機について	AL	福岡
			2. 文献検索について	AL	福岡
			3. 文献検索の方法	AL	福岡
			4. 文献検索	AL	福岡
			5. 文献の整理	AL	福岡
			6. 文献検討	AL	福岡
			7. 文献検討2回目	AL	福岡
			8. 文献検索2回目	AL	福岡
			9. 文献の整理2回目	AL	福岡
			10. 文献検討3回目	AL	福岡
			11. 文献検討4回目	AL	福岡
			12. 研究目的の検討	AL	福岡
			13. 研究デザインの検討	AL	福岡
			14. テーマの検討	AL	福岡
			15. 研究方法の検討:対象	AL	福岡
			16. 研究方法の検討:人数	AL	福岡
			17. プレテスト	AL	福岡
			18. プレテストの検討	AL	福岡
			19. プレテスト結果	AL	福岡
			20. プレテスト結果の検討	AL	福岡
			21. プレテスト結果の検討	AL	福岡
			22. 研究方法の検討:分析方法	AL	福岡
			23. 予想される結果と研究意義	AL	福岡
			24. 研究計画書作成:はじめに	AL	福岡
			25. 研究計画書作成:目的と意義	AL	福岡
			26. 研究計画書作成:研究方法	AL	福岡
			27. 研究計画書作成:最終確認	AL	福岡
			28. 研究計画発表会に向けた準備	AL	福岡
			29. 研究計画発表練習	AL	福岡
			30. 研究計画発表にむけた最終確認	AL	福岡
				AL	福岡

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:修士論文のテーマの設定、研究フィールドの確定、研究計画の策定 到達目標:院生の掲げている計画内容について、目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理する。また、研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを目標とする。研究テーマに沿った研究手法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講生各自が自らの研究活動(調査や、フィールドワーク等)に臨む。研究に係わる文献の収集と先行研究の検討を十分に行い、研究を開始させることを到達目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回の講義にて実施した内容についてプレゼンをすること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究の概要	AL	狩長
			2. 研究疑問の見つけ方	AL	狩長
			3. 文献検索方法	AL	狩長
			4. 研究倫理	AL	狩長
			5. 先行研究の調査	AL	狩長
			6. 先行研究の吟味	AL	狩長
			7. 先行研究の整理	AL	狩長
			8. 研究テーマの検討	AL	狩長
			9. 研究テーマの作成	AL	狩長
			10. 対象者の選定基準	AL	狩長
			11. 対象者の除外基準	AL	狩長
			12. 研究のデザイン	AL	狩長
			13. 調査研究の目的	AL	狩長
			14. 調査研究の方法	AL	狩長
			15. 観察研究の目的	AL	狩長
			16. 観察研究の方法	AL	狩長
			17. 量的研究の目的	AL	狩長
			18. 量的研究の方法	AL	狩長
			19. 質的研究の目的	AL	狩長
			20. 質的研究の方法	AL	狩長
			21. ミックスメソッド	AL	狩長
			22. 研究計画書の書き方	AL	狩長
			23. 研究計画書の作成(タイトル)	AL	狩長
			24. 研究計画書の作成(論拠)		
			25. 研究計画書の作成(目的)	AL	狩長
			26. 研究計画書の作成(仮説)	AL	狩長
			27. 研究計画書の作成(方法)	AL	狩長
			28. 発表の準備(プレゼン資料作成)	AL	狩長
			29. 発表の準備(プレゼンの練習)	AL	狩長
			30. 研究計画発表会(発表)	AL	狩長
				AL	狩長

教科書１	授業で具体的に指示する。
教科書２	
参考書１	授業で具体的に指示する。
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマは、保健科学に貢献できる研究を遂行するための基本的知識を学ぶことである。 保健科学に貢献できる研究テーマを設定し、研究計画の立案ができるようになることが到達目標である。						
概要	1. 先行研究を批判的に吟味し、すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを整理する。 2. 各種ガイドラインに基づいた研究計画を立案する。 3. 倫理的配慮について十分に理解する。						
評価方法	計画発表会における発表内容および質疑応答(50%) 修士論文計画書の内容(50%) なお、課題類については採点結果を返却しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員と副指導教員2名によって実施する。						
自己学習	予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. オリエンテーション	講義	平尾
			2. 研究計画の概要	AL	平尾
			3. 研究倫理	AL	平尾
			4. 先行研究の批判的吟味	AL	平尾
			5. 研究テーマの絞り込み	AL	平尾
			6. 観察研究(横断研究)	AL	平尾
			7. 観察研究(コホート研究)	AL	平尾
			8. 観察研究(ケースコントロール研究)	AL	平尾
			9. 実験研究(単群前後比較研究)	AL	平尾
			10. 実験研究(ヒストリカル対照研究)	AL	平尾
			11. 実験研究(準ランダム化比較対照研究)	AL	平尾
			12. 実験研究(ランダム化比較対照研究)	AL	平尾
			13. システマティックレビュー	AL	平尾
			14. メタアナリシス	AL	平尾
			15. 対象者とセッティング	AL	平尾
			16. アウトカム	AL	平尾
			17. 調査計画の検討	AL	平尾
			18. 具体的調査方法の検討	AL	平尾
			19. 分析方法の検討(単変量解析)	AL	平尾
			20. 分析方法の検討(多変量解析)	AL	平尾
			21. 研究計画書の作成(タイトル)	AL	平尾
			22. 研究計画書の作成(アブストラクト)	AL	平尾
			23. 研究計画書の作成(背景)	AL	平尾
			24. 研究計画書の作成(論拠)	AL	平尾
			25. 研究計画書の作成(目的)	AL	平尾
			26. 研究計画書の作成(仮説)	AL	平尾
			27. 研究計画書の作成(方法)	AL	平尾
			28. 発表の準備(プレゼン資料作成)	口頭試問	平尾
			29. 発表の準備(プレゼンの練習)		
			30. 研究計画発表会		

教科書１	適宜、具体的に指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅰ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	寺岡　睦					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:大学院生は，研究計画の立案が出来るようになる 到達目標:大学院生は，先行研究の調査，研究計画の立案，倫理審査の承認が行える						
概要	この講義では，学生の関心を研究として遂行できるようにするために，先行研究をレビューし，研究動向と未解明の領域を明らかにする. 未解明の領域の中で医療福祉領域の発展に社会的意義があるテーマを検討し，研究目的を具体化していく. 研究目的に照らしあわせ，具体的な研究方法を定め，研究計画書の立案を行う. その上で倫理審査委員会の承認を受ける.						
評価方法	課題50%，発表50%で評価する						
履修条件・注意事項	評価のために実施した課題等は，講義でフィードバックするので最終講義までに見直しておくこと						
自己学習	予習・復習は各2時間ほど必要となる. 講義終了後は毎回課題を課す. その課題を遂行することによって次回の講義参加が円滑に進むため必ず行うこと.						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜4限に6430研究室で対応する						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1. 研究の概要	講義	寺岡
			2. 社会背景の理解	AL	寺岡
			3. 研究倫理	AL	寺岡
			4. 先行研究の文献検索	AL	寺岡
			5. 文献の吟味	AL	寺岡
			6. 先行研究の整理	AL	寺岡
			7. 研究テーマの検討	AL	寺岡
			8. 研究テーマの吟味	AL	寺岡
			9. 対象者の選定	AL	寺岡
			10. 対象者の除外基準	AL	寺岡
			11. 理論研究のデザイン	AL	寺岡
			12. 理論研究の実行	AL	寺岡
			13. 理論研究の報告	AL	寺岡
			14. 質的研究の目的	AL	寺岡
			15. 質的研究の方法	AL	寺岡
			16. 質的研究の評価基準	AL	寺岡
			17. 量的研究の目的	AL	寺岡
			18. 量的研究の方法	AL	寺岡
			19. 量的研究の評価基準	AL	寺岡
			20. 混合研究の目的	AL	寺岡
			21. 混合研究の方法	AL	寺岡
			22. 混合研究の評価基準	AL	寺岡
			23. 研究計画書の作成	AL	寺岡
			24. 研究計画書の内容整理	AL	寺岡
			25. 研究計画書の決定	AL	寺岡
			26. 研究計画書の発表	AL	寺岡
			27. 研究計画書の吟味	AL	寺岡
			28. 研究計画書の修正	AL	寺岡
			29. 研究計画書の再作成	AL	寺岡
			30. まとめ	AL	寺岡

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが概要となる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室(6425号室)にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.実験に関するディスカッション1	AL	長町			
2.実験に関するディスカッション2	AL	長町			
3.実験に関するディスカッション3	AL	長町			
4.実験に関するディスカッション4	AL	長町			
5.実験に関するディスカッション5	AL	長町			
6.データの収集1	AL	長町			
7.データの収集2	AL	長町			
8.データの収集3	AL	長町			
9.データの収集4	AL	長町			
10データの収集5	AL	長町			
11.データの解析1	AL	長町			
12.データの解析2	AL	長町			
13.データの解析3	AL	長町			
14.データの解析4	AL	長町			
15.データの解析5	AL	長町			
16.実験結果の考察1	AL	長町			
17.実験結果の考察2	AL	長町			
18.実験結果の考察3	AL	長町			
19.実験結果の考察4	AL	長町			
20.実験結果の考察5	AL	長町			
21.研究論文作成1	AL	長町			
22.研究論文作成2	AL	長町			
23.研究論文作成3	AL	長町			
24.研究論文作成4	AL	長町			
25.研究論文作成5	AL	長町			
26.プレゼンテーションとディスカッション1	AL	長町			
27.プレゼンテーションとディスカッション1	AL	長町			
28.プレゼンテーションとディスカッション2	AL	長町			
29.プレゼンテーションとディスカッション3	AL	長町			
30.プレゼンテーションとディスカッション4	AL	長町			

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中瀬　克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが概要となる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階6424研究室にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜2限を，オフィスアワーとする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.研究に関するディスカッション1	AL	中瀬			
2.研究に関するディスカッション2	AL				
3.研究に関するディスカッション3	AL				
4.研究に関するディスカッション4	AL				
5.研究に関するディスカッション5	AL				
6.データの収集1	AL				
7.データの収集2	AL				
8.データの収集3	AL				
9.データの収集4	AL				
10データの収集5	AL				
11.データの解析1	AL				
12.データの解析2	AL				
13.データの解析3	AL				
14.データの解析4	AL				
15.データの解析5	AL				
16.研究結果の考察1	AL				
17.研究結果の考察2	AL				
18.研究結果の考察3	AL				
19.研究結果の考察4	AL				
20.研究結果の考察5	AL				
21.研究論文作成1	AL				
22.研究論文作成2	AL				
23.研究論文作成3	AL				
24.研究論文作成4	AL				
25.研究論文作成5	AL				
26.プレゼンテーションとディスカッション1	AL				
27.プレゼンテーションとディスカッション2	AL				
28.プレゼンテーションとディスカッション3	AL				
29.プレゼンテーションとディスカッション4	AL				
30.プレゼンテーションとディスカッション5	AL				

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文(日本語)としてまとめ、発表することを目標とする。						
概要	1, 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法、論文執筆法を学ぶ。 ※実務経験のある教員による授業科目 内科医としての実務経験と血液学・細胞生物学・腫瘍生物学の研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する(10%)。実験において、態度を評価する(20%)。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する(30%)。修士論文の内容で方法への理解、思考法を評価する(20%)。修士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する(20%)。講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
自己学習	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室(6414)にて、水曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画の再吟味	1. AL	1. 高橋			
2. 実験(1)	2. AL	2. 高橋			
3. 実験(2)	3. AL	3. 高橋			
4. 実験(3)	4. AL	4. 高橋			
5. 実験(4)	5. AL	5. 高橋			
6. 実験(5)	6. AL	6. 高橋			
7. 実験(6)	7. AL	7. 高橋			
8. 実験(7)	8. AL	8. 高橋			
9. 実験(8)	9. AL	9. 高橋			
10.実験(9)	10.AL	10.高橋			
11.実験(10)	11.AL	11.高橋			
12.実験(11)	12.AL	12.高橋			
13.実験(12)	13.AL	13.高橋			
14.中間発表準備	14.AL	14.高橋			
15.実験(13)	15.AL	15.高橋			
16.実験(14)	16.AL	16.高橋			
17.実験(15)	17.AL	17.高橋			
18.実験(16)	18.AL	18.高橋			
19.実験(17)	19.AL	19.高橋			
20.実験(18)	20.AL	20.高橋			
21.実験(19)	21.AL	21.高橋			
22.実験結果検討会	22.AL	22.高橋			
23.修士論文執筆(1)	23.AL	23.高橋			
24.修士論文執筆(2)	24.AL	24.高橋			
25.修士論文執筆(3)	25.AL	25.高橋			
26.修士論文執筆(4)	26.AL	26.高橋			
27.第1次修士論文発表会準備	27.AL	27.高橋			
28.修士論文執筆(5)	28.AL	28.高橋			
29.修士論文執筆(6)	29.AL	29.高橋			
30.第2次修士論文発表会準備	30.AL	30.高橋			

教科書１	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	ワインバーグ がんの生物学(原書第2版) 著者: ロバート・A. ワインバーグ (著), 武藤 誠 (翻訳), 青木 正博 (翻訳) 出版社:南江堂 ISBN:978-4524265817
参考書２	がん-4000年の歴史- 上、下 (ハヤカワ文庫NF) 著者:シッダールタ ムカジー (著), Siddhartha Mukherjee (その他), 田中 文 (翻訳) 出版社:早川書房 ISBN:978-4150504670|978-4150504687

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	特別研究Ⅰで立てた研究計画を実行に移し、実験研究の結果得られたデータを解析する。その結果を実験中間報告書にまとめ研究中間報告を行えることを到達目標とする。						
概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された研究中間報告書について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	本講義を通して実験研究を実施し、修士論文研究中間報告を行うことが求められている。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1 回:研究計画の再確認①	AL	河村顕治			
第2 回:研究計画の再確認②	AL	河村顕治			
第3 回:先行研究調査①	AL	河村顕治			
第4 回:先行研究調査②	AL	河村顕治			
第5 回:実験研究の準備①	AL	河村顕治			
第6 回:実験研究の準備②	AL	河村顕治			
第7 回:実験研究の実施①	AL	河村顕治			
第8 回:実験研究の実施②	AL	河村顕治			
第9 回:実験研究の実施③	AL	河村顕治			
第10回:実験研究の実施④	AL	河村顕治			
第11回:実験研究の実施⑤	AL	河村顕治			
第12回:実験研究の実施⑥	AL	河村顕治			
第13回:実験研究の実施⑦	AL	河村顕治			
第14回:実験研究の実施⑧	AL	河村顕治			
第15回:実験研究の実施⑨	AL	河村顕治			
第16回:実験研究の実施⑩	AL	河村顕治			
第17回:実験データの分析①	AL	河村顕治			
第18回:実験データの分析②	AL	河村顕治			
第19回:実験データの分析③	AL	河村顕治			
第20回:実験データの分析④	AL	河村顕治			
第21回:研究中間報告書の作成①	AL	河村顕治			
第22回:研究中間報告書の作成②	AL	河村顕治			
第23回:研究中間報告書の作成③	AL	河村顕治			
第24回:研究中間報告書の作成④	AL	河村顕治			
第25回:研究中間報告書の作成⑤	AL	河村顕治			
第26回:研究中間報告書の作成⑥	AL	河村顕治			
第27回:研究中間報告資料の作成①	AL	河村顕治			
第28回:研究中間報告資料の作成②	AL	河村顕治			
第29回:研究中間報告発表資料確認	AL	河村顕治			
第30回:研究中間報告発表資料確認	AL	河村顕治			

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等について学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	基礎研究：物理刺激が培養細胞に与える影響、臨床研究：理学療法の治療効果に関する研究、教育研究：療法士の臨床教育モデルの構築、以上の3つの領域から自ら研究テーマを決める。その上で論文を作成するための、先行研究のレビューなどを含めて方法論について学ぶ。そして研究仮説を立案し、実験または調査の綿密な計画を立てて論文を完成させる。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した指導教授1名と副指導教員2名によって指導する。 十分な理解に到達するために、予習と復習を行うこと。						
自己学習	・自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。予習は事前に課題を出すので、それを調べて授業を受けることが必須であり、また授業内でも課題を出すので必ずノート整理し復習を怠らないこと。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 実証研究の進め方	講義,AL	平上二九三			
2. キーワードの選定	講義,AL	平上二九三			
3. 現象とその測定	講義,AL	平上二九三			
4. 関連論文の抄録	講義,AL	平上二九三			
5. 社会的背景の整理	講義,AL	平上二九三			
6. 文先行研究のレビュー	講義,AL	平上二九三			
7. 研究背景の要約	講義,AL	平上二九三			
8. 研究デザインの作成	講義,AL	平上二九三			
9. 実証研究の手続き	講義,AL	平上二九三			
10.　対象と方法の決定	講義,AL	平上二九三			
11. サンプリングの手法	講義,AL	平上二九三			
12. 調査票の作成	講義,AL	平上二九三			
13. 統計解析の方法	講義,AL	平上二九三			
14. データの収集と統計解析	講義,AL	平上二九三			
15. 研究計画書の作成	講義,AL	平上二九三			
16. 調査票の作成	講義,AL	平上二九三			
17. 解析結果のまとめ方	講義,AL	平上二九三			
18. 調査の実施とデータ解析	講義,AL	平上二九三			
19. データ解析の妥当性	講義,AL	平上二九三			
20. 結果の解釈と意義	講義,AL	平上二九三			
21. 研究結果の吟味	講義,AL	平上二九三			
22. 研究結果の発表の仕方	講義,AL	平上二九三			
23. 論文の書き方	講義,AL	平上二九三			
24. 具体例と研究指導－1	講義,AL	平上二九三			
25. 具体例と研究指導－2	講義,AL	平上二九三			
26. 具体例と研究指導－3	講義,AL	平上二九三			
27. 具体例と研究指導－4	講義,AL	平上二九三			
28. 具体例と研究指導－5（まとめ）学会発表と論文作成	講義,AL	平上二九三			
29. 単位認定試験	レポート				

教科書１	必要な資料等は適宜配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習

テーマと到達目標	1) 摂食機能に及ぼす香りの研究 2) 摂食調節および胃運動機構に関する研究 3) 排便機能と自律神経活性に関する研究 4) 排便障害に対する運動療法の検討 研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果として研究計画書を作成することができるようになる。
概要	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめるために以下のような指導を行う。 1.　先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.　文献の講読を行いながら研究仮説をたて、実験計画を立案させる。 3.　データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。優れた多くの先行研究論文を読み、時間をかけて研究計画を作成する。いい結果が出ない場合でもあきらめず、粘り強く続けること。　優れた多くの先行研究論文を読み、時間をかけて研究計画を作成する。いい結果が出ない場合でもあきらめず、粘り強く続けること。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.　実験途中結果の分析1	演習	水谷			
2.　実験途中結果の分析2	演習	水谷			
3.　実験途中結果の分析3	演習	水谷			
4.　実験途中結果の分析4	演習	水谷			
5.　研究の中間発表	演習	水谷			
6.　研究計画の見直し	演習	水谷			
7.　実験の施行1	演習	水谷			
8.　実験の施行2	演習	水谷			
9.　実験の施行　3	演習	水谷			
10.　実験の施行4	演習	水谷			
11.　実験の施行5	演習	水谷			
12.　実験の施行6	演習	水谷			
13.　実験の施行7	演習	水谷			
14.　実験の施行8	演習	水谷			
15.　実験の施行9	演習	水谷			
16.　実験の施行10	演習	水谷			
17.　実験の施行11	演習	水谷			
18.　実験の施行12	演習	水谷			
19.　実験の施行13	演習	水谷			
20.　実験の施行14	演習	水谷			
21.　実験の施行15	演習	水谷			
22.　実験の施行16	演習	水谷			
23.　実験結果の分析1	演習	水谷			
24.　実験結果の分析2	演習	水谷			
25.　実験結果の分析3	演習	水谷			
26.　実験結果の分析4	演習	水谷			
27.　修士論文の作成1	演習	水谷			
28.　修士論文の作成2	演習	水谷			
29.　修士論文の作成3	演習	水谷			
30.　修士論文の作成4	演習	水谷			
31.　修士論文の公開発表(試験)	試験	水谷			

教科書１	使用しない(研究に関連した論文を適宜配布)。
教科書２	
参考書１	Physiology of the Gastrointestinal Tract. Volume 1 Sixth Edition 著者:Ed. by Hamid M. Said 出版社:Elsevier Academic Press ISBN:978-0-12-815901-9
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な手続き，態度および方法を身につけ，研究成果を論文としてまとめることを到達目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積，分析，論文執筆などについて指導する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	課題の取り組み状況（40%），研究課題の進捗状況（20%），研究成果の達成度（30%）から評価する。研究成果については，知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなす。 なお，評価のために実施した各種課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。						
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，春学期は金曜日5時限目，秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 第 1回　研究計画の再吟味 第 2回　データ収集の再吟味	AL	齋藤			
2. 第 3回　社会的背景の再吟味 第 4回　研究レビューの再吟味	AL	齋藤			
3. 第 5回　データ整理方法再吟味 第 6回　集計対象の属性分析	AL	齋藤			
4. 第 7回　データの特徴把握 第 8回　変数の特徴把握	AL	齋藤			
5. 第 9回　研究目的に向けた解析 第10回　解析結果の解釈	AL	齋藤			
6. 第11回　解析のアウトライン 第12回　解析の方法論	AL	齋藤			
7. 第13回　解析の実施 第14回　解析結果の再吟味	AL	齋藤			
8. 第15回　解析提示内容の確定1 第16回　解析提示内容の確定2	AL	齋藤			
9. 第17回　論文構成の検討1 第18回　論文構成の検討2	AL	齋藤			
10. 第19回　緒言の執筆1 第20回　緒言の執筆2	AL	齋藤			
11. 第21回　方法・結果の執筆1 第22回　方法・結果の執筆2	AL	齋藤			
12. 第23回　考察の執筆1 第24回　考察の執筆2	AL	齋藤			
13. 第25回　中間発表の全体構成 第26回　中間発表 背景・目的	AL	齋藤			
14. 第27回　中間発表 結果提示 第28回　中間発表 考察	AL	齋藤			
15. 第29回　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの仕方1 第30回　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの仕方2	AL	齋藤			

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」,「地域高齢者の評価に関する研究」の方法論に関して, 研究を行うのに必要な手続き, 態度および方法について指導し, 研究成果を論文としてまとめることができる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し, 文献の検索や読解力を養い, 思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し, リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また, 文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積, 分析, 論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は, 最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回, 予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して, 自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において, 毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
(前半)					
1. 修士課程における研究の概要	講義	原田			
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	原田			
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	AL	原田			
4. 研究と倫理1	AL	原田			
5. 研究と倫理2	AL	原田			
6. 参考文献の調査	AL	原田			
7. 研究テーマの作成	AL	原田			
8. 研究対象者の選択	AL	原田			
9. 測定方法の計画1	AL	原田			
10. 測定方法の計画2	AL	原田			
11. サンプルサイズの推定1	AL	原田			
12. サンプルサイズの推定2	AL	原田			
13. 研究デザイン(コホート研究)	AL	原田			
14. 研究デザイン(横断研究とケースコントロール研究)	AL	原田			
15. 研究デザイン(観察研究における交絡と交互作用)	AL	原田			
16.修論研究領域の概要	講義	原田			
17.研究テーマの策定	AL	原田			
18.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	原田			
19.研究テーマに関する先行研究の調査	AL	原田			
20.研究テーマに関する先行研究の概要発表	AL	原田			
31.概要発表の講評	AL	原田			
22.研究テーマと先行研究の比較	AL	原田			
23.研究テーマの確定	AL	原田			
24.中間フォロー	AL	原田			
25.研究計画調書の執筆概要の説明と作成	AL	原田			
26.研究計画調書の確認および講評	AL	原田			
27.研究計画調書の完成	AL	原田			
28.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	原田			
29.研究計画調書発表資料の確認及び講評	AL	原田			
30.研究計画調書発表資料の完成	AL	原田			
試験	試験	原田			

教科書１	医学的研究のデザイン:研究の質を高める疫学的アプローチ　第3版 出版社:ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ ISBN:978-4-89592-583-9
教科書２	
参考書１	

参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	薬剤やリハビリテーション刺激による神経細胞活性化の解析を行い、研究成果を論文にまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する(20%)。さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える（20％）。一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める（60％）。なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 細胞培養液の作成	講義	加納			
2. 培養器具の滅菌と試薬の作成	講義	加納			
3. 細胞培養の実際	講義	加納			
4. 細胞への薬剤の投与	講義	加納			
5. 神経細胞の培養法とリハビリテーション刺激	講義	加納			
6. 細胞分化と細胞死の観察	講義	加納			
7. 細胞からのDNAとRNAの抽出	講義	加納			
8. 細胞からのタンパク質の抽出	講義	加納			
9. タンパク質のウエスタンブロット法による解析	講義	加納			
10. リハビリテーション刺激を与えた神経細胞のウエスタンブロット法による解析	講義	加納			
11. 薬剤によるシグナル伝達タンパク質の解析	講義	加納			
12. 神経活性に働く薬剤とリハビリテーション刺激の解析	講義	加納			
13. 実験結果のまとめ1	講義	加納			
14. 実験結果のまとめ2	AL	加納			
15. 実験結果のまとめ3	AL	加納			
16.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析1	講義	加納			
17.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析2	講義	加納			
18.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析3	講義	加納			
19.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析4	講義	加納			
20.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析5	講義	加納			
21.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析6	講義	加納			
22.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析7	講義	加納			
23.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析8	講義	加納			
24.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析9	講義	加納			
25.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析10	講義	加納			
26.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析11	講義	加納			
27.神経細胞における細胞内シグナル伝達機構の解析12	講義	加納			
28.論文作成1	講義	加納			
29.論文作成2	講義	加納			
30.論文作成3	講義	加納			

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者：Alberts et al. 出版社：Garland Science

	ISBN:0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	看護、理学作業療法へ神経生理検査を応用できるようになる。						
概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;運動単位電位	講義	中角			
2;複合筋活動電位	講義	中角			
3;針筋電図の概要	講義	中角			
4;刺入時電位と安静時電位	講義	中角			
5;随意収縮時の電位	講義	中角			
6;単一筋線維筋電図	講義	中角			
7;症例1	講義	中角			
8;症例2	講義	中角			
9;症例3	講義	中角			
10;症例4	講義	中角			
11;症例5	講義	中角			
12;症例6	講義	中角			
13;症例7	講義	中角			
14;症例8	講義	中角			
15;症例9	講義	中角			
16;症例10	講義	中角			
17;症例11	講義	中角			
18;症例12	講義	中角			
19;症例13	講義	中角			
20;症例14	講義	中角			
21;電気生理学的部位診断1	講義	中角			
22;同上2	講義	中角			
23;同上3	講義	中角			
24;同上4	講義	中角			
25;電気生理学的重症度診断1	講義	中角			
26;同上2	講義	中角			
27;同上3	講義	中角			
28;生体信号の測定原理	講義	中角			
29;筋電図用語	講義	中角			
30;記録波形の実際	講義	中角			
31;期末試験		中角			

教科書１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 著者:木村淳、幸原伸夫 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	服部　俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を実施し、論文にまとめることができるようになるための、第二段階となる科目である。研究を実施しながら、データの整理、表現法などを身につける。また、平行して論文作成や口頭発表のための方法を身につける。						
概要	データの集積や研究成果をまとめ検討するのに必要な方法について指導する。						
評価方法	研究指導全般を通して態度及び研究発表に必要な能力などを総合的に評価する。毎回の講義において口頭試問を行う（30%）。また宿題としてレポートを課す（30%）。および、最終提出の研究概要の内容（40%）で評価を行う。なお、毎回最初に前回のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。						
自己学習	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。 また、復習として、その回の内容をノートにまとめておくこと。なお、予習と復習にはそれぞれ二時間以上を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	2号館262研究室にて、毎週火曜日11:00～11:30　　13:30～14:30　および　毎週木曜日11:00～11:30　をオフィスアワーとするが、次の授業の準備の都合により短縮することもある。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
①研究実施、またそれにに伴う問題点の検討 ②研究実施、またそれにに伴う問題点の検討 ③研究推進と研究テーマに沿った基礎知識の確認 ④研究推進と基礎知識の確認 ⑤研究推進と内容に関連した文献の再検索 ⑥研究推進及び収集文献抄読 ⑦研究推進及び収集文献抄読 ⑧研究進行に伴う問題点の検討 ⑨研究進行に伴う問題点の改善 ⑩研究推進と平行してデータの整理 ⑪研究推進と平行して引き続きデータの整理 ⑫データの整理と統計処理 ⑬データの整理 ⑭研究結果の初段階考察 ⑮ 研究結果の考察続き ⑯研究結果の考察まとめ ⑰研究論文のイントロの検討 ⑱続研究論文のイントロの検討 ⑲研究論文の材料方法のまとめ検討 ⑳研究論文の材料方法のまとめ ㉑研究論文の結果まとめ検討 ㉒研究論文の結果まとめ ㉓研究論文の考察検討 ㉔研究論文の考察発展 ㉕研究論文の文献整理 ㉖続研究論文の文献整理 ㉗口頭発表の検討と資料作成 ㉘続口頭発表の検討と資料作成 ㉙口頭発表リハーサルⅠ回目 ㉚口頭発表リハーサル2回目	毎回AL	毎回　香田康年			

教科書１	特に指定せず
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺﨑　智行					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な手続き、取り組む姿勢および方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や原著などを理解し、文献の検索やその読解力磨き、思考力を高める。その結果、研究仮説を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成まで行う。						
評価方法	完成論文の内容(50%)と研究発表会における質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。評価のため実施した課題等は、授業でフィールドバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ集積、分析、考察を行う等、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を読み、その理解を深めることが重要である。他国の論文を理解するには時間を要するが、内容を整理することで論文作成に重要となる。予習として、論文概要を把握し、復習として、授業中検討した論文の内容を深く理解する。予習復習には少なくとも各々2時間程度は必要である。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜3限、6号館4階6420研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
研究テーマの再検討	講義	寺崎			
1;研究計画内容、仮説の再検討	講義	寺崎			
3;研究テーマに基づいた文献の分析方法	講義	寺崎			
4;研究テーマに基づいた文献の先行研究との比較	講義	寺崎			
5;研究テーマに基づいた文献の図表等の表し方	講義	寺崎			
6;研究テーマに基づいた文献のまとめ	講義	寺崎			
7;研究テーマの確定	講義	寺崎			
8;データの集積	講義	寺崎			
9;データ入力	講義	寺崎			
10;データ生理	講義	寺崎			
11;データ分析1	講義	寺崎			
12;データ分析2	講義	寺崎			
13;データ分析結果の検討	講義	寺崎			
14;プレゼンテーション技術(スライド作成について)	講義	寺崎			
15;プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)	講義	寺崎			
16;中間発表とディスカッション	講義	寺崎			
17;中間発表の問題点の整理	講義	寺崎			
18;結果に対する考察の検討1	講義	寺崎			
19;結果に対する考察の検討2	講義	寺崎			
20;結果に対する考察の検討3	講義	寺崎			
21;研究論文作成1(目的)	講義	寺崎			
22;研究論文作成目的2(意義)	講義	寺崎			
23;研究論文作成3(方法)	講義	寺崎			
24;研究論文作成4(結果)	講義	寺崎			
25;研究論文作成5(考察)	講義	寺崎			
26;研究論文作成6(結論)	講義	寺崎			
27;結論の検討	講義	寺崎			
28;看護への活用	講義	寺崎			
29;論論文の完成に向けての注意事項	講義				
30;研究論文の作成・発表	講義				
	講義				
	講義				
	講義				

教科書１	適宜、必要な文献・資料等を提示する。 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-0085-2
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	田中　富子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	学生が 臨床上の疑問を研究の疑問とする課題を見出し、看護研究の方法(研究計画から論文作成までの一連の過程)を実践的に学び、研究成果を研究論文としてまとめ発表することができることを目標とする。						
概要	看護研究における研究計画の立案から論文作成までの一連の過程を学ぶ。具体的には、質的・量的研究方法ともに先行研究や原著についての文献検索や読解力を養い思考能力を高める。研究仮説を立案し研究計画に基づくデータ収集・分析・論文の執筆への指導を行い論文を完成する。 進捗状況に合わせた指導を行う。 この科目は，行政機関で多様な領域や健康レベルの対象者に対する公衆衛生看護実践に長年携わった経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を行う。						
評価方法	研究態度20%、研究内容30%、文献検索30%、論文作成プロセス20% 演習毎に課題や研究内容等についてフィードバックし議論を深める.						
履修条件・注意事項	研究に取り組む姿勢が重要になる。学生の自主的な姿勢が大切になるので、積極的に研究に取り組むこと						
自己学習	研究テーマにそった文献検索をしまとめる。文献レビューの発表ができるよう準備する。 演習毎に課題を提示するので、予習復習は2コマを目安に行い充分準備をして臨むこと						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室において授業終了後及び毎週木曜日5限をオフィスアワーの時間とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.キーワードの選定	演習				
2.論文に取り組む心構え	演習	田中			
3.研究計画書の作成	演習	田中			
4. 研究計画書の作成	演習	田中			
5. データ整理	演習	田中			
6. データ分析	演習	田中			
7. データ分析	演習	田中			
8.データを読み解く	演習	田中			
9.背景・社会動向の分析	演習	田中			
10.はじめにを書く	演習	田中			
11.はじめにを書く	演習	田中			
12. 研究方法を書く	演習	田中			
13.結果に必要な図表の検討	演習	田中			
14.結果の書き方	演習	田中			
15.結果を書く	演習	田中			
16. 考察を書く	演習	田中			
17.考察を書く	演習	田中			
18.考察を書く	演習	田中			
19.研究のまとめ	演習	田中			
20. 研究のまとめ	演習	田中			
21.論文全体の校正	演習	田中			
22. 論文全体の校正	演習	田中			
23.学会発表の方法を知る	演習	田中			
24. 研究要約を書く	演習	田中			
25.プレゼンテーションの準備	演習	田中			
26. プレゼンテーションの準備	演習	田中			
27.プレゼンテーションの準備	演習	田中			
28. 研究論文として纏める	演習	田中			
29.研究論文として纏める	演習	田中			
30. 振り返り・まとめ	演習	田中			
31.まとめ	演習	田中			

教科書１	適宜指示する
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	掛谷　益子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究結果の分析及び考察を深めたうえで、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までを行う。						
評価方法	完成論文の内容(50%)と研究発表会における研究内容及び質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ収集、分析、考察を行うなど、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を読み、理解を深めることが重要である。外国の論文を理解するには、かなりの時間を要するが、内容を整理することで論文の作成につながる。予習として、論文の概要を把握しておき、復習として、授業中検討した論文の内容の意味を深く理解する。予習復習には各2時間程度は必要である。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜日昼休憩、研究室(6402)にて実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究テーマの再検討	AL	掛谷			
2. 研究計画内容、仮説の再検討	AL	掛谷			
3. 研究テーマに沿った文献の再検討(分析方法について)	AL	掛谷			
4. 研究テーマに沿った文献の再検討(調査結果と先行研究との比較)	AL	掛谷			
5. 研究テーマに沿った文献の再検討(図・表等の表現について)	AL	掛谷			
6. 研究テーマに沿った文献検討(まとめ)	AL	掛谷			
7. 研究テーマの確定					
8. データ収集	AL	掛谷			
9. データ入力	AL	掛谷			
10. データ整理	AL	掛谷			
11. データ分析1	AL	掛谷			
12. データ分析2	AL	掛谷			
13. データ分析結果の検討	AL	掛谷			
14. プレゼンテーション技術(スライド構成について)	AL	掛谷			
15. プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)	AL	掛谷・非常勤講師			
16. 中間発表とディスカッション		掛谷・非常勤講師			
17. 中間発表の問題点の整理	AL	掛谷			
18. 結果に対する考察の検討1	AL	掛谷・非常勤講師			
19. 結果に対する考察の検討2	AL	掛谷・非常勤講師			
20. 結果に対する考察の検討3	AL	掛谷・非常勤講師			
21. 研究論文作成1(目的)	AL	掛谷			
22. 研究論文作成2(意義)	AL	掛谷			
23. 研究論文作成3(方法)	AL	掛谷			
24. 研究論文作成4(結果)	AL	掛谷			
25. 研究論文作成5(考察)	AL	掛谷			
26. 研究論文作成6(結論)	AL	掛谷			
27. 結論の検討	AL	掛谷			
28. 看護への活用	AL	掛谷			

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:大学院生は、自身の研究実施プロセスを理解できることである。 到達目標 1. 大学院生は，自身の研究に必要な予備実験ができる. 2. 大学院生は，自身の研究の本実験ができる. 3. 大学院生は，自身の研究をまとめ，発表ができる.						
概要	この演習では、自身の立てた研究計画にそって研究を遂行しながら研究を完遂するテクニックを学ぶ。研究の意義と独創性、実証的成果を明らかにしながら、研究の限界について検討していく。						
評価方法	課題(50%)、発表(50%)　で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	積極的にかつ自律的に参加すること。						
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日:月曜5限目、金曜5限目 場所:6号館4階6428号室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 対象のリクルートの方法	AL	京極			
2.　対象のリクルートの課題	AL	京極			
3. 研究における利点の議論	AL	京極			
4. 研究における問題点の議論	AL	京極			
5. プレ研究の方法	AL	京極			
6. プレ研究における利点の検討	AL	京極			
7. プレ研究における問題点の検討	AL	京極			
8.　研究法の概要(質的研究)	AL	京極			
9.　研究法の概要(量的研究)	AL	京極			
10.　研究法の概要(混合研究)	AL	京極			
11.　各研究法の利点	AL	京極			
12.　各研究法の欠点	AL	京極			
13. 研究法の吟味	AL	京極			
14. 研究法の最終確定	AL	京極			
15. 本研究と利点の議論	AL	京極			
16. 本研究と問題点の議論	AL	京極			
17.　本研究の修正の議論	AL	京極			
18. 本研究結果の中間報告	AL	京極			
19.　中間報告の結果を踏まえた議論	AL	京極			
20.　社会的背景の整理	AL	京極			
21.　社会的背景の確認	AL	京極			
22. 本研究方法の整理	AL	京極			
23. 本研究方法の確認	AL	京極			
24. 研究結果の整理	AL	京極			
25. 研究結果の確認	AL	京極			
26. 研究結果に対する考察	AL	京極			
27. 研究結果に対する限界	AL	京極			
28. 論文作成1	AL	京極			
29. 作成論文の発表と議論	AL	京極			
30. 論文作成・発表(試験)	AL	京極			

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	柘野　浩子					NO.	HS-NU-4-819
配当学科	看護				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	講義|AL
テーマと到達目標	研究計画書に基づいた研究の実践をとおして、研究のプロセスを習得する。研究を実践することで得た知見を、看護学の発展に寄与する研究論文として作成する。 1. 研究のプロセスを実践できる。 2. 独自性のある研究論文としてまとめ、発表できる。						
概要	研究のプロセスに沿って研究を実践する。研究における倫理的配慮のもと、データを収集し分析する方法論を習得する。先行研究からの知見と研究結果をもとに考察を深め、独自性のある研究論文をまとめる。指導を受け、修士論文を作成する。						
評価方法	研究計画書に沿った研究の遂行状況20%、課題提出20%、修士論文の内容40%、修士論文発表内容・態度20%						
履修条件・注意事項	研究に取り組む姿勢が重要になる。主体的に研究に取り組むこと。						
自己学習	研究テーマにそった文献検索をし,まとめる。文献レビューの発表ができるよう準備する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	Eメールを使用して実施する。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. ガイダンス	講義・演習	柘野			
2. 研究計画の確認	講義・演習	柘野			
3. 研究対象・研究フィールドの選定	講義・演習	柘野			
4. 研究対象・研究フィールドとの調整	講義・演習	柘野			
5. 研究対象・研究フィールドとの調整	講義・演習	柘野			
6. データ収集準備、依頼	講義・演習	柘野			
7. データ収集準備、依頼	講義・演習	柘野			
8. データ収集	講義・演習	柘野			
9. データ収集、データ整理	講義・演習	柘野			
10. データ収集、データ整理	講義・演習	柘野			
11. データ整理	講義・演習	柘野			
12. データ整理、データ分析	講義・演習	柘野			
13. データ分析	講義・演習	柘野			
14. データ分析	講義・演習	柘野			
15. 結果の整理	講義・演習	柘野			
16. 結果の整理	講義・演習	柘野			
17. 研究論文の作成 研究動機、研究背景、研究目的について論述する	講義・演習	柘野			
18. 研究論文の作成 研究動機、研究背景、研究目的について論述する	講義・演習	柘野			
19. 研究論文の作成 研究方法、結果について論述する	講義・演習	柘野			
20. 研究論文の作成 研究結果を目的と対応させて考察する	講義・演習	柘野			
21. 研究論文の作成 研究結果を目的と対応させて考察する	講義・演習	柘野			
22. 研究論文の作成 研究結果を目的と対応させて考察する	講義・演習	柘野			
23. 研究論文の作成 研究結果を目的と対応させて考察する	講義・演習	柘野			
24. 研究論文の作成 研究課題に対して明らかになったことおよび示唆された課題と研究の限界について論術する	講義・演習	柘野			
25. 研究論文の作成	講義・演習	柘野			
26. 研究論文の作成	講義・演習	柘野			
27. 修士論文プレゼンテーションの準備	講義・演習	柘野			
28. 修士論文プレゼンテーションの準備	講義・演習	柘野			
29. 修士論文プレゼンテーションの準備	講義・演習	柘野			
30. 修士論文発表					

教科書１	適宜提示する。
教科書２	
参考書１	

参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	竹﨑　和子					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ 研究論文作成のために必要なプロセスについて学び、研究成果を論文としてまとめる。 到達目標 ①研究計画書にそってデータ収集、データ分析、考察などの過程を記述できる。 ②研究論文を作成し、発表できる。						
概要	1. 研究計画書にそって研究を遂行する。 2. 研究の意義、独創性、実証的成果を明らかにし、研究の限界について検討する。 3. 研究論文を作成する。						
評価方法	修士論文の内容(50%) 研究発表会における研究内容及び質疑応答の内容(50%)						
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること。 必ず、予習・復習を行うこと。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を読み、理解を深めることが重要である。 予習として、論文の概要を把握しておく(60分。) 復習として、授業中検討した論文の内容の意味を深く理解する(60分)。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜日5限:6号館　6404研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究テーマの再検討	AL	竹﨑			
2. 研究計画内容、仮説の再検討	AL	竹﨑			
3. 研究テーマに沿った文献の再検討(分析方法について)	AL	竹﨑			
4. 研究テーマに沿った文献の再検討(調査結果と先行研究との比較)	AL	竹﨑			
5. 研究テーマに沿った文献の再検討(図・表等の表現について)	AL	竹﨑 竹﨑			
6. 研究テーマに沿った文献検討(まとめ)	AL	竹﨑 竹﨑			
7. 研究テーマの確定	AL	竹﨑			
8. データ収集	AL	竹﨑			
9. データ入力	AL	竹﨑			
10. データ整理	AL	竹﨑			
11. データ分析1	AL	竹﨑			
12. データ分析2	AL	竹﨑			
13. データ分析結果の検討	AL	竹﨑			
14. プレゼンテーション技術(スライド構成について)	AL	竹﨑 竹﨑			
15. プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)	AL	竹﨑 竹﨑			
16. 中間発表とディスカッション	AL	竹﨑			
17. 中間発表の問題点の整理	AL	竹﨑			
18. 結果に対する考察の検討1	AL	竹﨑			
19. 結果に対する考察の検討2	AL	竹﨑			
20. 結果に対する考察の検討3	AL	竹﨑			
21. 研究論文作成1(目的)	AL	竹﨑			
22. 研究論文作成2(意義)	AL	竹﨑			
23. 研究論文作成3(方法)	AL	竹﨑			
24. 研究論文作成4(結果)	AL	竹﨑			
25. 研究論文作成5(考察)	AL	竹﨑			
26. 研究論文作成6(結論)	AL	竹﨑			
27. 結論の検討	AL				
28. 看護への活用	AL				
29. 論文の完成に向けての注意事項	AL				
30. 研究論文作成・発表	AL				

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な手続き・手順および進行方法について学び、研究成果データーを論文としてまとめることができることを到達目標とする。						
概要	1.先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める授業を行う。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる授業を行う。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導の授業を行う。						
評価方法	研究指導全般での講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 本授業を受講するに当たっての予習、また、授業後の復習が必要であり、各2時間程度を必要とする。						
自己学習	各自の興味のある卒業研究へのテーマ設定、また関連する先行研究の調査など自身で積極的に進めることが重要。 関連する研究に必要な項目を予習として、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。復習として、毎回学習した内容や実験結果を、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて月曜日の3時限目、木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画の策定(1)	演習	秋山			
2. 研究計画の策定(2)	演習	秋山			
3.参考文献の調査(1)	演習	秋山			
4.参考文献の調査(2)	演習	秋山			
5.参考文献の精読(1)	演習	秋山			
6.参考文献の精読(2)	演習	秋山			
7.実験方法の検討(1)	演習	秋山			
8.実験方法の検討(2)	演習	秋山			
9.実験方法の確定(1)	演習	秋山			
10.実験方法の確定(2)	演習	秋山			
11.実験の実施(1)	演習	秋山			
12.実験の実施(2)	演習	秋山			
13.実験結果の収集(1)	演習	秋山			
14.実験結果の収集(2)	演習	秋山			
15.実験結果資料の整理(1)	演習	秋山			
16.実験結果資料の整理(2)	演習	秋山			
17.研究進捗状況報告書の概要説明(1)	演習	秋山			
18.研究進捗状況報告書の概要説明(2)	演習	秋山			
19.研究進捗状況報告書作成(1)	演習	秋山			
20.研究進捗状況報告書作成(2)	演習	秋山			
21.研究進捗状況報告書作成(3)	演習	秋山			
22.研究進捗状況報告書作成(4)	演習	秋山			
23.研究進捗状況報告書作成(5)	演習	秋山			
24.研究進捗状況報告書作成(6)	演習	秋山			
25.研究進捗状況報告書作成(7)	演習	秋山			
26.研究進捗状況報告書作成(8)	演習	秋山			
27.実験結果・考察の確認(1)	演習	秋山			
28.実験結果・考察の確認(2)	演習	秋山			
29. 実験結果の最終まとめ	AL	秋山			
30. 研究論文の統合まとめ	AL	秋山			

教科書１	動物実験の技術と応用　実践編 著者：日本実験動物協会 出版社：アドスリー ISBN：90065945-2 C3047
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期) □				年次	2	
必修・選択	必修 □	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習 □
テーマと到達目標	理学療法領域における高度な専門知識と研究者として研究テーマを抽出し研究を進めていくことのできる基礎能力を身につける。						
概要	理学療法領域における課題を見極め，系統的に探求し修士論文にまとめる基礎能力を習得する。 特別研究Ⅰで立てた研究計画に従い研究を実施し，その研究成果を修士論文として完成させる。						
評価方法	講義時の口頭試問，提出レポートおよび修士論文の審査により評価する。 なお，評価のために実施した課題等は授業でフィードバックするので審査までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	指導教員の指導を受け修士論文を完成させること以上に，その過程で研究に必要な論理的思考能力を身につけるべく能動的な取り組み姿勢が欠かせない。						
自己学習	研究テーマに関する学術論文をできるだけたくさん読み，深い理解の基，研究を進めて欲しい。 予習および復習には各2時間程度を有する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週月曜日3限，水曜日3限に中嶋研究室(6329)にて。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画の再確認①	演習	中嶋正明			
2. 研究計画の再確認②	演習	中嶋正明			
3. 先行研究調査①	演習	中嶋正明			
4. 先行研究調査②	演習	中嶋正明			
5. 実験研究の準備①	演習	中嶋正明			
6. 実験研究の準備②	演習	中嶋正明			
7. 実験研究の実施①	演習	中嶋正明			
8. 実験研究の実施②	演習	中嶋正明			
9. 実験研究の実施③	演習	中嶋正明			
10. 実験研究の実施④	演習	中嶋正明			
11. 実験研究の実施⑤	演習	中嶋正明			
12. 実験研究の実施⑥	演習	中嶋正明			
13. 実験研究の実施⑦	演習	中嶋正明			
14. 実験研究の実施⑧	演習	中嶋正明			
15. 実験研究の実施⑨	演習	中嶋正明			
16. 実験研究の実施⑩	演習	中嶋正明			
17. 実験データの分析①	演習	中嶋正明			
18. 実験データの分析②	演習	中嶋正明			
19. 実験データの分析③	演習	中嶋正明			
20. 実験データの分析④	演習	中嶋正明			
21. 研究中間報告書の作成①	演習	中嶋正明			
22. 研究中間報告書の作成②	演習	中嶋正明			
23. 研究中間報告書の作成③	演習	中嶋正明			
24. 研究中間報告書の作成④	演習	中嶋正明			
25. 研究中間報告書の作成⑤	演習	中嶋正明			
26. 研究中間報告書の作成⑥	演習	中嶋正明			
27. 研究中間報告資料の作成	演習	中嶋正明			
28. 研究中間報告発表資料確認	演習	中嶋正明			

教科書１	適宜，指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	修士課程での研究を行なうために必要な手続き・手順および進行方法について指導する。 学生は、研究成果を論文としてまとめことができるようになる。						
概要	1.先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	研究指導全般での講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なを、評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	各自の興味のある卒業研究へのテーマ設定、また関連する先行研究の調査など自身で積極的に進めることが重要。 関連する研究に必要な項目を予習として、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。復習として、毎回学習した内容や実験結果を、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて月曜日の3時限目、木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画の策定(1)	講義	佐藤			
2. 研究計画の策定(2)	講義	佐藤			
3.参考文献の調査(1)	講義	佐藤			
4.参考文献の調査(2)	講義	佐藤			
5.参考文献の精読(1)	実習	佐藤			
6.参考文献の精読(2)	実習	佐藤			
7.実験方法の検討(1)	実習	佐藤			
8.実験方法の検討(2)	実習	佐藤			
9.実験方法の確定(1)	実習	佐藤			
10.実験方法の確定(2)	実習	佐藤			
11.実験の実施(1)	実習	佐藤			
12.実験の実施(2)	実習	佐藤			
13.実験結果の収集(1)	実習	佐藤			
14.実験結果の収集(2)	実習	佐藤			
15.実験結果資料の整理(1)	実習	佐藤			
16.実験結果資料の整理(2)	実習	佐藤			
17.進捗状況報告書の概要説明(1)	実習	佐藤			
18.進捗状況報告書の概要説明(2)	実習	佐藤			
19.研究進捗状況報告書作成(1)	実習	佐藤			
20.研究進捗状況報告書作成(2)	実習	佐藤			
21.研究進捗状況報告書作成(3)	実習	佐藤			
22.研究進捗状況報告書作成(4)	実習	佐藤			
23.研究進捗状況報告書作成(5)	実習	佐藤			
24.研究進捗状況報告書作成(6)	実習	佐藤			
25.研究進捗状況報告書作成(7)	実習	佐藤			
26.研究進捗状況報告書作成(8)	実習	佐藤			
27.実験結果・考察の確認(1)	実習	佐藤			
28.実験結果・考察の確認(2)	実習	佐藤			
29. 実験結果の最終まとめ	実習	佐藤			
30. 研究論文の統合まとめ	実習	佐藤			

教科書１	動物実験の技術と応用　実践編 著者：日本実験動物協会 出版社：アドスリー ISBN：90065945-2 C3047
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	岩田　美幸					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ:研究テーマに沿った考察の進展と論文作成 到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、研究に役立つ授業を実施する。
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日2限　6429研究室(岩田)とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画内容、仮説の再検討1	AL	岩田			
2. 研究計画内容、仮説の再検討2	AL	岩田			
3. データ収集の再検討1	AL	岩田			
4. データ収集の再検討2	AL	岩田			
5. 関連文献からの検討(1)調査結果	AL	岩田			
6. 関連文献からの検討(1)先行研究	AL	岩田			
7. 関連文献からの検討(2)引用表現1	AL	岩田			
8. 関連文献からの検討(2)引用表現2	AL	岩田			
9.　関連文献からの検討(3)論点1	AL	岩田			
10. 関連文献からの検討(3)論点2	AL	岩田			
11. 引用文献の挿入1	AL	岩田			
12. 引用文献の挿入2	AL	岩田			
13. データの全体的特徴の把握1	AL	岩田			
14. データの全体的特徴の把握2	AL	岩田			
15. データ処理方法	AL	岩田			
16. 研究目的達成に向けた解析	AL	岩田			
17. 解析結果の解釈1	AL	岩田			
18.　解析結果の解釈2	AL	岩田			
19. 中間発表の準備　1　全体の構成1	AL	岩田			
20. 中間発表の準備　1　全体の構成2	AL	岩田			
21. 中間発表の準備2　論文構成の課題1	AL	岩田			
22. 中間発表の準備2　論文構成の課題2	AL	岩田			
23. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	岩田			
24. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	岩田			
25. 中間発表の準備4　結果の提示1	AL	岩田			
26. 中間発表の準備4　結果の提示2	AL	岩田			
27. 中間発表の準備5　考察と検討	AL	岩田			
28. 中間発表の準備5　結論の検討	AL	岩田			
29. プレゼンテーションの実施の仕方	AL	岩田			
30. 最終試験 最終レポート	試験	岩田			

教科書１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 著者:友利　幸之介／京極　真／竹林　崇 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03662-7
教科書２	
参考書１	授業で具体的に指示する。
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	(テーマ)理学療法研究領域における自己のテーマに沿って、データを集め、分析し、論文にまとめる。 (到達目標)修士論文を仕上げる。						
概要	自己のテーマに沿った先行文献の読み込み、データの収集を行い、分析し、結果を考察する。 そして、文章化して修士論文を完成させる。						
評価方法	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。						
自己学習	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室(6437)において、毎週火曜日2時限目(11:10～12:40)をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画の策定①	AL	井上茂樹			
2. 研究計画の策定②	AL	井上茂樹			
3. 参考文献調査①	AL	井上茂樹			
4. 参考文献調査②	AL	井上茂樹			
5. 参考文献調査③	AL	井上茂樹			
6. 実験研究の準備①	AL	井上茂樹			
7. 実験研究の準備②	AL	井上茂樹			
8. 実験研究の実施①	AL	井上茂樹			
9. 実験研究の実施②	AL	井上茂樹			
10. 実験研究の実施③	AL	井上茂樹			
11. 実験研究の実施④	AL	井上茂樹			
12. 実験研究の実施⑤	AL	井上茂樹			
13. 実験研究の実施⑥	AL	井上茂樹			
14. 実験研究の実施⑦	AL	井上茂樹			
15. 実験研究の実施⑧	AL	井上茂樹			
16. 実験データの分析①	AL	井上茂樹			
17. 実験データの分析②	AL	井上茂樹			
18. 実験データの分析③	AL	井上茂樹			
19. 実験データの分析④	AL	井上茂樹			
20. 実験データの分析⑤	AL	井上茂樹			
21. 研究中間報告書の作成①	AL	井上茂樹			
22. 研究中間報告書の作成②	AL	井上茂樹			
23. 研究中間報告書の作成③	AL	井上茂樹			
24. 研究中間報告書の作成④	AL	井上茂樹			
25. 研究中間報告書の作成⑤	AL	井上茂樹			
26. 研究中間報告資料の作成①	AL	井上茂樹			
27. 研究中間報告資料の作成②	AL	井上茂樹			
28. 研究中間報告資料の作成③	AL	井上茂樹			
29. 研究中間報告発表用資料の確認	AL	井上茂樹			
30. 研究中間報告発表用資料の完成	AL	井上茂樹			

教科書１	必要に応じて文献や研究資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	「修士論文の執筆の実際」をテーマとして、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめることを目標とする。						
概要	研究計画が立案されれば、速やかに研究の実施、結果の分析、考察が必要となる。 1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献のレビューを行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案する。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	修士論文に関わる研究の理解度、臨む姿勢に関して評価するために、各回の課題(20%)、最終レポート課題(40%)、研究成果プレゼンテーションの内容(40%)で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は，主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。各回に提示される課題だけではなく、自ら進んで研究の問題点の把握に努め、担当教員の質疑応答に回答できるよう考えをまとめておくことが必要である。						
自己学習	リハビリテーションにおける研究では正確な情報収集能力と批判的吟味を通した正しい理解が必要である。各回に課題を提示するので、その課題を通して十分な予習・復習を行うこと。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	演習	森下			
2. 研究実施計画の策定	演習	森下			
3. 実験実施計画書、倫理申請書の作成	演習	森下			
4. 対象者募集方法の検討	演習	森下			
5. 予備実験の実施1	演習	森下			
6. 予備実験の実施2	演習	森下			
7. 予備実験の実施3	演習	森下			
8. 予備実験結果の解析、検討	演習	森下			
9. 予備実験での結果の整理	演習	森下			
10. 予備実験での問題点の整理	演習	森下			
11. 研究計画の修正、見直し	演習	森下			
12. 本実験計画の整理	演習	森下			
13. 本実験の機材の整理	演習	森下			
14. 本実験の実施1	演習	森下			
15. 本実験の実施2	演習	森下			
16. 本実験の実施3	演習	森下			
17. 実験結果の解析	演習	森下			
18. 実験結果の解釈、考察1	演習	森下			
19. 実験結果の解釈、考察2	演習	森下			
20. 実験結果のまとめと追加実験の検討	演習	森下			
21. 中間報告の作成	演習	森下			
22. 追加実験の実施1	演習	森下			
23. 追加実験の実施2	演習	森下			
24. 実験結果のまとめ、解析	演習	森下			
25. 修士論文の書き方	演習	森下			
26. 修士論文の作成	演習	森下			
27. 最終発表のスライドの作成	演習	森下			
28. 修士論文の原案提出	演習	森下			
29. 修士論文の指導	演習	森下			
30. 修士論文の提出	演習	森下			

教科書１	適宜資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	福岡　美和					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士前期）				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	「母性看護学に関連した調査」に必要な手続き、態度、方法について指導し調査を実施する。研究について深く学ぶことにより、自らの研究を探求できる態度を養う。また自己の研究に取り組む姿勢を振り返ることにより、研究者としての自己の傾向を知ることができる。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文作成するため、先行研究や原著論文について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。 2年次に実施する学会発表、論文作成に向けて、タイムスケジュールを立てていく。　論文の書き方やプレゼンテーションの方法について指導する。　母性看護学または研究のテーマに関連した学会への投稿を行う。　担当教員は看護師、助産師として臨床経験があり、また、教育機関での経験もあるため、母性看護学に関連した研究に詳しいため、より専門的な研究に取り組むことができる。						
評価方法	文献検索し、先行研究の内容理解や研究について自ら探求する姿勢や指導や助言に対する姿勢(20%) 課題内容の理解や質疑応答における発言内容(20%) 作成された研究計画書をもとに論文作成を行い、論文の完成度やプレゼンテーション能力について総合的に評価する。(60%)						
履修条件・注意事項	興味関心のあるトピックス等は常にチェックしておくこと。また各自、事前に文献を読み内容を理解してくること。 理解できない内容はそのままにせず、必ず解決すること。授業の予習、復習は必ず実施し、研究がスムーズに遂行できるようにする。自己の意見をはっきり他者に伝えることができること、また他者の意見を取り入れ、自己の意見との相違を考えることができること。						
自己学習	事前に予習を行い、提示された参考書、または文献を読み理解しておくこと。理解できない部分はノートにまとめておき質問すること。また授業で習った用語や研究方法につては必ず復習し理解を深めること。課題が出された場合は、速やかに提出または発表等の指示された内容について作成する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	土曜日　13:30～15:00						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.研究計画書をもとに計画の見直しと修正	講義	福岡
			2. 先行研究のレビュー①	AL	福岡
			3. 先行研究のレビュー②	AL	福岡
			4. 調査方法の検討①	AL	福岡
			5. 調査方法の検討②	AL	福岡
			6. 調査方法の確定	AL	福岡
			7. 調査の実施①	AL	福岡
			8. 調査の実施②	AL	福岡
			9. 調査結果の収集	AL	福岡
			10. 調査結果の整理①	AL	福岡
			11. 調査結果の整理②	AL	福岡
			12. 研究進捗状況の報告書の概要説明	AL	福岡
			13. 研究進捗状況報告書の作成①	AL	福岡
			14. 研究進捗状況報告書の作成②	AL	福岡
			15. 研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	福岡
			16. 研究進捗状況報告書の提出	AL	福岡
			17. 調査方法の見直し	AL	福岡
			18. 調査の再実施①	AL	福岡
			19. 調査の再実施②	AL	福岡
			20. 調査結果の再収集①	AL	福岡
			21. 調査結果の再収集②	AL	福岡
			22. 調査結果の分析①	AL	福岡
			23. 調査結果の分析②	AL	福岡
			24. 結果のまとめ①	AL	福岡
			25. 結果のまとめ②	AL	福岡
			26. 結果のまとめ③	AL	福岡
			27. 発表準備①	AL	福岡
			28. 発表準備②と講評		
			29. 論文投稿の準備		
			30. 論文投稿		

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	狩長　弘親					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:研究テーマに沿った考察の進展と論文作成 到達目標:研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員や外部講師がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日4限　6427研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究計画内容、仮説の再検討	AL	狩長			
2. 研究計画内容、仮説の再検討	AL	狩長			
3. データ収集の再検討1	AL	狩長			
4. データ収集の再検討2	AL	狩長			
5. 関係する文献からの検討(1)調査結果と先行研究1	AL	狩長			
6. 関係する文献からの検討(1)調査結果と先行研究2	AL	狩長			
7. 関係する文献からの検討(2)引用表現の工夫1	AL	狩長			
8. 関係する文献からの検討(2)引用表現の工夫2	AL	狩長			
9. 関係する文献からの検討(3)論点の議論1	AL	狩長			
10. 関係する文献からの検討(3)論点の議論2	AL	狩長			
11. 関係する文献からの検討(4)引用文献の挿入1	AL	狩長			
12. 関係する文献からの検討(4)引用文献の挿入2	AL	狩長			
13. データの全体的特徴の把握	AL	狩長			
14. データの全体的特徴の把握	AL	狩長			
15. データ処理方法について1　研究目的達成に向けた解析1	AL	狩長			
16. データ処理方法について1　研究目的達成に向けた解析2	AL	狩長			
17. データ処理方法について2　解析結果の解釈1	AL	狩長			
18. データ処理方法について2　解析結果の解釈1	AL	狩長			
19. 中間発表の準備1　全体の構成	AL	狩長			
20. 中間発表の準備1　全体の構成	AL	狩長			
21. 中間発表の準備2　論文構成の課題1	AL	狩長			
22. 中間発表の準備2　論文構成の課題2	AL	狩長			
23. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	狩長			
24. 中間発表の準備3　要旨のまとめ方1	AL	狩長			
25. 中間発表の準備4　結果の提示の仕方1	AL	狩長			
26. 中間発表の準備4　結果の提示の仕方2	AL	狩長			
27. 中間発表の準備5　考察と結論の検討1	AL	狩長			
28. 中間発表の準備5　考察と結論の検討2	AL	狩長			
	AL	狩長			

教科書１	授業で具体的に指示する。
教科書２	
参考書１	授業で具体的に指示する。
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平尾　一樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマは、保健科学に貢献できる研究を遂行するための基本的知識を学ぶことである。 研究を遂行するために必要な方法や態度を理解した上で、データを収集し、得られたデータを色のない目でみて、妥当な解釈をし、修士論文としてまとめることができることを到達目標とする。						
概要	1. 研究計画書に基づいて、データを収集する。 2. 研究計画書に基づいて、得られたデータを分析・解釈する。 3. 各種ガイドラインに基づいて、修士論文を執筆する。						
評価方法	中間発表会における発表内容、質疑応答(50%) 修士論文の進捗状況(50%) なお、課題類については採点結果を返却しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員と副指導教員2名によって実施する。						
自己学習	予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限 6314研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	講義	平尾			
2. データの分析法(サンプルサイズ)	AL	平尾			
3. データの分析法(交絡因子)	AL	平尾			
4. データの分析法(単変量解析)	AL	平尾			
5. データの分析法(多変量解析)	AL	平尾			
6. 論文執筆法(タイトル)	AL	平尾			
7. 論文執筆法(アブストラクト)	AL	平尾			
8. 論文執筆法(背景)	AL	平尾			
9. 論文執筆法(論拠)	AL	平尾			
10. 論文執筆法(目的)	AL	平尾			
11. 論文執筆法(仮説)	AL	平尾			
12. 論文執筆法(研究デザイン)	AL	平尾			
13. 論文執筆法(セッティング)	AL	平尾			
14. 論文執筆法(参加者)	AL	平尾			
15. 論文執筆法(アウトカム)	AL	平尾			
16. 論文執筆法(暴露)	AL	平尾			
17. 論文執筆法(予測因子)	AL	平尾			
18. 論文執筆法(交絡因子)	AL	平尾			
19. 論文執筆法(測定方法)	AL	平尾			
20. 論文執筆法(介入)	AL	平尾			
21. 論文執筆法(サンプルサイズ)	AL	平尾			
22. 論文執筆法(分析手法)	AL	平尾			
23. 論文執筆法(結果)	AL	平尾			
24. 論文執筆法(図表)	AL	平尾			
25. 論文執筆法(考察)	AL	平尾			
26. 論文執筆法(強みと限界)	AL	平尾			
27. 論文執筆法(解釈)	AL	平尾			
28. 発表の準備(プレゼン資料作成)	AL	平尾			
29. 発表の準備(プレゼンの練習)	AL	平尾			
30. 修士論文中間発表会(発表)	口頭試問	平尾			

教科書１	適宜、具体的に指示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	寺岡　睦					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	テーマ:大学院生は，研究実施プロセスを理解できる 到達目標:大学院生は，自身の研究に必要な知識を収集できる. 大学院生は，自身の研究の実施が出来る. 大学院生は，自身の研究を適切にまとめ，発表ができる						
概要	研究計画に沿って研究を遂行しながら，研究をやり遂げるテクニックを学ぶ. その中で研究の意義と独創性，実証的成果を明らかにしながら研究の限界について検討する.						
評価方法	課題50%，発表50%で行う 評価のために実施した課題等は講義内でフィードバックを行う.						
履修条件・注意事項	講義前後で研究を遂行していくこと 講義内での議論や検討に積極的に参加すること						
自己学習	研究遂行のための予習・復習には各2時間行う必要がある. 毎回の講義終了時には次回の研究報告を円滑に行うために課題を課す. それを遂行することによって次回講義への円滑な参加が行える.						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜4限，6430教室で行う.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究法概要	AL	寺岡			
2. 研究における利点の議論	AL	寺岡			
3. 研究における問題点の議論	AL	寺岡			
4. 対象のリクルート方法	AL	寺岡			
5. 対象のリクルートによる課題	AL	寺岡			
6. プレ研究の方法	AL	寺岡			
7. プレ研究における利点の検討	AL	寺岡			
8. プレ研究における問題点の検討	AL	寺岡			
9. 質的研究の概要	AL	寺岡			
10. 量的研究の概要	AL	寺岡			
11. 各研究法の利点と欠点	AL	寺岡			
12. 研究法の吟味	AL	寺岡			
13. 研究法の最終確定	AL	寺岡			
14. 本研究と利点の議論	AL	寺岡			
15. 本研究と問題点の議論	AL	寺岡			
16. 本研究の修正の議論	AL	寺岡			
17. 本研究結果の中間報告	AL	寺岡			
18. 中間報告の結果を踏まえた議論	AL	寺岡			
19. 社会的背景の整理	AL	寺岡			
20. 社会的背景の確認	AL	寺岡			
21. 本研究の方法の整理	AL	寺岡			
22. 本研究の方法の確認	AL	寺岡			
23. 研究結果の整理	AL	寺岡			
24. 研究結果の確認	AL	寺岡			
25. 研究結果に対する考察	AL	寺岡			
26. 研究結果に対する限界の検討	AL	寺岡			
27. 論文作成1	AL	寺岡			
28. 作成論文の発表と議論	AL	寺岡			
29. 論文作成・発表(単位認定試験)	AL	寺岡			

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	特別研究Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士前期)				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果を研究論文としてまとめ発表することを目標とする。						
概要	1. 研究における倫理的配慮について学ぶ。 2. 測定方法の信頼性、妥当性について学習する。 3. データの集積、分析、論文執筆、発表方法などについて指導する。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する(40%)。また、まとめ時における口頭試問の内容について評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室:火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究対象者に対する倫理的配慮1	1.講義	1.森			
2. 研究者に対する倫理的配慮2	2.講義	2.森			
3. 実験における問題点のディスカッション(対象者)	3.AL	3.森			
4. 実験における問題点のディスカッション(方法)1	4.AL	4.森			
5. 実験における問題点のディスカッション(方法)2	5.AL	5.森			
6. 実験結果の統計処理(方法の選択)	6.AL	6.森			
7. 実験結果の統計処理1	7.AL	7.森			
8. 実験結果の統計処理2	8.AL	8.森			
9. 実験結果の統計処理3	9.AL	9.森			
10. 実験結果の考察・整理1	10.AL	10.森			
11. 実験結果の考察・整理2	11.AL	11.森			
12. 実験結果の考察・ディスカッション1	12.AL	12.森			
13. 実験結果の考察・ディスカッション2					
14. 実験結果の考察・ディスカッション3	13.AL	13.森			
15. 研究論文作成法1					
16. 研究論文作成法2	14.AL	14.森			
17. 研究発表方法1					
18. 研究発表方法2	15.講義	15.森			
19. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(緒論)1	16.講義	16.森			
	17.講義	17.森			
20. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(緒論)2	18.講義	18.森			
	19.AL	19.森			
21. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(対象及び方法)1	20.AL	20.森			
22. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(対象及び方法)2	21.AL	21.森			
23. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(結果)1	22.AL	22.森			
24. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(結果)2	23.AL	23.森			
25. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(結果)3	24.AL	24.森			
26. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(考察)1	25.AL	25.森			
27. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(考察)2	26.AL	26.森			
28.院生のプレゼンテーションとディスカッション(考察)3	27.AL	27.森			
29. 院生のプレゼンテーションとディスカッション(今後の課題)	28.AL	28.森			
30. まとめ(口頭試問)	29.AL	29.森			
	30.AL	30.森			

教科書１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。
教科書２	
参考書１	医学的研究のデザイン　第4版 著者:木原雅子(翻訳), 木原正博(翻訳)

	出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:978-4-89592-783-3
参考書２	

Syllabus

保健科学研究科
博士（後期）課程

吉備国際大学

授業科目名	分子生物学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の正常な動きと疾患を遺伝子レベルで理解する。 具体的には、遺伝子の複製とDNA修復、遺伝子の転写とスピライシング、それに蛋白質の合成と出来上がった蛋白質の構造と機能について、実物を観察し実験を行いながら理解する。						
概要	分子生物学特講では保健科学領域の中で行われる各種アプローチを遺伝子や蛋白質のレベルから検証する。近年、分子生物学の発達によって従来不明であった疾患の原因が次々と明らかにされている。リハビリテーションと関係が深い神経や筋の変性疾患についても同様である。さらに遺伝子診断や遺伝子の発現制御と遺伝子導入による新しい治療法が試みられている。原因遺伝子あるいは遺伝的要素の解明は、諸々の疾患の予防や治療さらにはケアの発展の基盤となる重要な要素である。保健科学は生命の分子レベルでの理解なしには成立しないので、分子生物学特講ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、染色体の基本構造を述べる。そして我々の遺伝情報の維持と生物進化に関係の深い遺伝子の複製とDNA修復それに遺伝子組み換えの解説を行う。次に遺伝子が生命現象として発現する最初のメカニズムである遺伝子の転写とスプライシングについて述べる。また遺伝子発現の後半の蛋白質の生合成について考え、さらにできあがった蛋白質についてはその構造と機能を論ずる。講義は英語論文を用い、細胞、組織そして生体の働きを遺伝子や蛋白質のレベルから解説し、会わせて疾患の原因、機能回復の分子メカニズムについても解説する。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。(20%)さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。(20%)一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。(60%)なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 遺伝子の化学的構造	講義	加納	16. 蛋白質の機能(1)	講義	加納
2. 遺伝子の高次構造	講義	加納	17. 蛋白質の機能(2)	講義	加納
3. クロマチンの構造	講義	加納	18. 蛋白質の機能(3)	講義	加納
4. 染色体の構造	講義	加納	19. 蛋白質の立体構造	講義	加納
5. 遺伝子の複製	講義	加納	20. 蛋白質間の相互作用	講義	加納
6. 遺伝子の修復と組み換え	講義	加納	21. 蛋白質ー核酸相互作用	講義	加納
7. 遺伝子の発現(1)転写	講義	加納	22. ヒトゲノム計画	講義	加納
8. 遺伝子の発現(2)スプライシング	講義	加納	23. ヒト遺伝病(1)	講義	加納
			24. ヒト遺伝病(2)	講義	加納
9. 遺伝子の発現(3)RNAの輸送	講義	加納	25. 遺伝子と癌	講義	加納
			26. 実習:DNAの抽出	実習	加納
10. 遺伝子の翻訳(1)	講義	加納	27. 実習:RNAの抽出	実習	加納
11. 遺伝子の翻訳(2)	講義	加納	28. 実習:DNA, RNAの分析	実習	加納
12. 遺伝子の翻訳(3)	講義	加納	29. 実習:蛋白質の抽出	実習	加納
13. 蛋白質の修飾	講義	加納	30. 実習:蛋白質の分析	実習	加納
14. 蛋白質の1次構造	講義	加納			
15. 蛋白質の高次構造	講義	加納			

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者:Alberts et al. 出版社:Garland Science ISBN:0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	細胞組織学特講				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	細胞組織学特講では、リハビリテーション医療に応用される各種の物理的刺激に対する生体反応や治療メカニズムを細胞レベルで明らかにすることが重要な基礎研究になっていることから、理学療法や作業療法で有効な刺激量を培養細胞により検討する。特に物理療法は人体に物理的刺激を加えることにより、生体が本来備えている自然治癒力を促し機能の回復を高めるものである。 その治療効果のメカニズムや最適量についての統一見解はなく、治療効果を高めるための最適な刺激量については不明な点が多いことに院生は目を向けることができる。
概要	細胞組織学特講－Ⅱでは、培養線維芽細胞を用い三次元様増殖をパラメータとして各種物理療法の最適条件に関する研究を行う。物理刺激の種類、強度、時間、頻度などを変化させ、三次元様増殖形成や分化に必要な閾値や致死量を解明し、物理療法における最適な刺激量の基礎とする。これまでに温熱刺激を含むいろいろな物理刺激の効果を培養細胞と人工骨（ハイドロキシアパタイト、以下HA）を用いて迅速に調べる方法を開発してきた。すなわち、マウス由来のC3H10T1/2培養細胞を用い、機械的刺激やレーザー照射を与え、あるいは電磁場刺激や超音波刺激を与えHAと混合培養するとその周り200μm以上の幅で周りを囲んだ細胞群が出現し三次元様増殖が形成されるのである。本特講では、これまでマウス線維芽細胞のHAを媒体とした、三次元様増殖形成に物理刺激が効果的に働き出す至適刺激量を明らかにした研究成果を踏まえ、臨床理学療法と細胞組織学の接点についての講義を行う。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度（40%）、確認小テスト（40%）、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと
履修条件・注意事項	1年次は1～8、2年次では8～15 、3年次では論文作成を目標として履修を進めたい。なお、本特講の履修にあたっては分子生物学特講をあわせて履修することが望ましい。特に8～10などは加納教授の指導により、また11～14などは秋山准教授の指導により実験法を習得することになる。
自己学習	・自らの課題について、調べてきたことや実験したことなどを元にして「自ら学ぶ」「実験から学ぶ」実践型の学習が必須である。 ・必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とするが随時対応可能。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 細胞組織学関連分野からの検討	AL	平上二九三	1. 細胞組織学関連分野からの検討	AL	平上二九三
2. 臨床理学療法学との関連性	AL	平上二九三	2. 臨床理学療法学との関連性	AL	平上二九三
3. 使用細胞と培養	AL	平上二九三	3. 使用細胞と培養	AL	平上二九三
4. 人工媒体の選定	AL	平上二九三	4. 人工媒体の選定	AL	平上二九三
5. 物理的刺激の条件設定	AL	平上二九三	5. 物理的刺激の条件設定	AL	平上二九三
6. 機械的刺激の処理方法	AL	平上二九三	6. 機械的刺激の処理方法	AL	平上二九三
7. 三次元様増殖の形態観察	AL	加納良男	7. 三次元様増殖の形態観察	AL	加納良男
8. 三次元様増殖形成率	実験	加納良男	8. 三次元様増殖形成率	実験	加納良男
9. ウエスタンブロット法	実験	加納良男	9. ウエスタンブロット法	実験	加納良男
10. ストレス蛋白の誘導と測定	実験	秋山純一	10. ストレス蛋白の誘導と測定	実験	秋山純一
11. 細胞内外マトリックスの染色	実験	秋山純一	11. 細胞内外マトリックスの染色	実験	秋山純一
12. 細胞・組織の免疫染色	実験	秋山純一	12. 細胞・組織の免疫染色	実験	秋山純一
13. 細胞ダメージの定量的検討	実験	秋山純一	13. 細胞ダメージの定量的検討	実験	秋山純一
14. 三次元様増殖と理学療法	AL	平上二九三	14.　三次元様増殖と理学療法	AL	平上二九三
15. 単位認定試験	レポート試験		15. 単位認定試験	レポート試験	

教科書１	「顕微鏡写真で見る細胞組織学」を教科書とし 適宜必要な文献および資料などを提示する。 著者:坂井 建雄 ・石村 和敬（翻訳） 出版社:メディカルサイエンスインターナショナル ISBN:ISBNコード:9784895924399
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	細胞組織学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探求する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。						
概要	生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り広げられる場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。						
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。（20％）さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。（20％）一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。（60％）なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 遺伝子の構造	講義	加納	1. 細胞間コミュニケーション	講義	加納
2. 遺伝子の複製	講義	加納	2. 細胞周期の機構	講義	加納
3. 遺伝子の発現（1）転写	講義	加納	3. 細胞周期の分子機構	講義	加納
4. 遺伝子の発現（2）翻訳	講義	加納	4. 細胞の増殖と分化（1）	講義	加納
5. 蛋白質の働き	講義	加納	5. 細胞の増殖と分化（2）	講義	加納
6. 細胞の構造（1）細胞膜	講義	加納	6. 細胞の老化（1）	講義	加納
7. 細胞の構造（2）細胞小器官	講義	加納	7. 細胞の老化（2）	講義	加納
8. 細胞の構造（3）細胞骨格	講義	加納	8. 細胞死	講義	加納
9. 細胞膜の透過性	講義	加納	9. 組織形成	講義	加納
10. 細胞内シグナル伝達機構（1	講義	加納	10. 器官形成	講義	加納
11. 細胞内シグナル伝達機構（2）	講義	加納	11. 実習：細胞培養	実習	加納
12. 細胞内シグナル伝達機構（3）	講義	加納	12. 実習：細胞と組織の染色	実習	加納
13. 細胞内シグナル伝達機構（4）	講義	加納	13. 実習：DNA, RNAの分析	実習	加納
14. 細胞骨格の機能	講義	加納	14. 実習：遺伝子組み換え	実習	加納
15. 細胞運動	講義	加納	15. 実習：蛋白質の分析	実習	加納

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者：Alberts et al. 出版社：Garland Science ISBN：0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	細胞組織学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	本特論においては、リハビリテーションにおける物理療法について、温熱、寒冷、電気、光線、あるいは浮力や牽引力などの外力をはじめとする様々な物理的ストレスに対する生体の反応を、細胞組織学的に検討を進める事により、当該領域の研究課題での適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を目標とする。
概要	リハビリテーションにおける物理療法は、温熱、寒冷、電気、光線、あるいは浮力や牽引力などの外力をはじめとする様々な物理的ストレスに対する生体の反応を、主として筋・骨格系障害の治療に応用するものである。その中で温熱療法は、古くから行われている重要な治療法であり医療の中で広く用いられている。これまでに、神経細胞を用いた研究においては、2.45GHz（200ワット）60分間の非温熱下による電磁波刺激により、少し細胞死の影響はあるが神経突起の形成を促進することを見出している。その中で、200ワット 30分の電磁波刺激により ストレス応答シグナル伝達経路に働くp38 MAPキナーゼの活性化とCREBの発現がみられ、PC12m3細胞において電磁波照射はCREB系路を介して神経突起誘導を引き起こす研究成果を踏まえ、リハビリテーションにおける様々な物理療法と細胞組織学の接点について講義を行う。
評価方法	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する(70%)。さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、演習を正しく行っているかについても評価に加える(30%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 細胞組織学との関連性	演習	井上茂樹	1. 細胞と組織の染色（1）	演習	井上茂樹
2. リハビリテーションとの関連性	演習	井上茂樹	2. 細胞と組織の染色（2）	演習	井上茂樹
3. 物理療法との関連性	演習	井上茂樹	3. 細胞と組織の染色（3）	演習	井上茂樹
4. 細胞と培養（1）	演習	井上茂樹	4. 細胞生存率（1）	演習	井上茂樹
5. 細胞と培養（2）	演習	井上茂樹	5. 細胞生存率（2）	演習	井上茂樹
6. 細胞と培養（3）	演習	井上茂樹	6. 細胞生存率（3）	演習	井上茂樹
7. 物理的刺激の条件設定（1）	演習	井上茂樹	7. 細胞内シグナル伝達機構（1）	演習	井上茂樹
8. 物理的刺激の条件設定（2）	演習	井上茂樹	8. 細胞内シグナル伝達機構（2）	演習	井上茂樹
9. 物理的刺激の条件設定（3）	演習	井上茂樹	9. 細胞内シグナル伝達機構（3）	演習	井上茂樹
10. 神経突起の観察（1）	演習	井上茂樹	10. ウエスタンブロット法（1）	演習	井上茂樹
11. 神経突起の観察（2）	演習	井上茂樹	11. ウエスタンブロット法（2）	演習	井上茂樹
12. 神経突起の観察（3）	演習	井上茂樹	12. ウエスタンブロット法（3）	演習	井上茂樹
13.神経突起形成率（1）	演習	井上茂樹	13. ウエスタンブロット法（4）	演習	井上茂樹
14. 神経突起形成率（2）	演習	井上茂樹	14. ウエスタンブロット法（5）	演習	井上茂樹
15. 神経突起形成率（3）	演習	井上茂樹	15. ウエスタンブロット法（6）	演習	井上茂樹
16. 単位認定試験	定期試験	井上茂樹	16. 単位認定試験	定期試験	井上茂樹

教科書１	毎回の講義内容に沿った資料を事前に配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	生理機能学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	生体の生理機能のうち、消化管運動機能における最新研究のレビューを読み、研究テーマの決定、研究の進め方、論文の書き方などを学ぶ。と同時により高度で複雑な生体の調節系について学ぶ。これらの学修により、研究者としての一歩を踏み出すことが出来る。						
概要	消化管を構成している口から肛門までの各臓器における平滑筋および壁内神経系について、その解剖・組織学的知識、および生理学的知識を学び、各臓器毎の機 能と形態の特徴についても学ぶ。その上で各臓器における消化管運動を調節している壁内神経機能、またそれをさらに調節している自律神経機構について学ぶ。 また自律神経機構をコントロールしている中枢の働き、および消化管運動に影響を及ぼす反射のメカニズムについて学ぶ。ホルモンによる調節系についても学 ぶ。これらの生理機能とその臨床との関連性をも講義する。これらの知識を踏まえた上で欧文論文を抄読し、実際の論文の書き方などを学ぶ。						
評価方法	授業態度、質疑応答の状態を50点、各学期末に行うテストの結果を50点として総合的に評価する。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	英語のテキストを用いて行うので家庭での十分な予習と復習が必要です。とくに英語訳をしっかり行ってくることが必須条件である。時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に英語訳をしっかり行ってくることが必須条件である。その上で、参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. Development of the Enteric Nervous System (ENS)	AL	水谷	1. Neural and Hormoral Controls of Food Intake and Satiety	AL	水谷
2. Cellular Physiology of Gastrointestinal (GI) Smooth Muscle (SM)	AL	水谷	2. Pharyngeal Motor Function	AL	水谷
3. Organization and Electrophysiology of ICC and SM Cell	AL	水谷	3. Motor Function of the Esophagus	AL	水谷
4. Functional Histoanatomy of the ENS	AL	水谷	4. Neurophysiologic Mechanisms of Gastric Reservoir Function	AL	水谷
5. Physiology of Prevertebral Sympathetic Ganglia	AL	水谷	5. Small Intestinal Motility	AL	水谷
6. Cellular Neurophusiology of Enteric Neurons	AL	水谷	6. Function and Regulation of Colonic Contractions in Health and Disease	AL	水谷
7. Integrative Functions of the ENS	AL	水谷	7. Neural Control of Pelvic Floor Muscles	AL	水谷
8. Extrinsic Sensory Afferent Nerves Innervating the GI Tract	AL	水谷	8. Pathophysiology Underlying th eIrritable Bowel Syndrome	AL	水谷
9. Processing of GI Sensory Signals in the Brain	AL	水谷	9. 欧文論文の抄読会1（Introduction）	AL	水谷
10. Enteric Neural Regulation of Mucosal Secretion	AL	水谷	10. 欧文論文の抄読会2（Method1）	AL	水谷
11. Effect of Stress on GI Motility	AL	水谷	11. 欧文論文の抄読会3（Method2）	AL	水谷
12. Central CRF and HPAA in GI Physiology	AL	水谷	12. 欧文論文の抄読会4（Results1）	AL	水谷
13. Neural Regulation of GI Blood Flow	AL	水谷	13. 欧文論文の抄読会5（Results2）	AL	水谷
14. Neural Regulation of Gallbladder and Sphincter of Oddi	AL	水谷	14. 欧文論文の抄読会6（Discussion 1）	AL	水谷
15. Brainstem Control of Gastric Function	試験	水谷	15. 欧文論文の抄読会7（Discussion 2）	AL	水谷
16. Test			16. Test	試験	水谷

教科書１	Physiology of the Gastrointestinal Tract. Volume 1 Sixth Edition 著者：Ed. by Hamid M. Said 出版社：Elsevier Academic Press ISBN：978-0-12-815901-9
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	身体機能を回復させるリハビリテーションの基礎として、身体運動に関する特講を行う。動作解析のデータに基づくコンピュータシミュレーションの技術と知識を身につける。
概要	骨・筋肉の解剖学、生理学、物理学を基礎とした運動機能を専門的に講義した後、ヒトの関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求する。さらにコンピューターシミュレーションの技法を用いて、計測不可能な筋張力、筋パワーなどを求める理論について研究する。運動機能に関する研究には、歴史的な背景として筋力強化を単関節運動による筋肥大のみを目的とした時代から、多関節機能、パフォーマンスを重視する方向へと変化する流れが存在する。そのような流れの中でclosed kinetic chain exercise が注目されてきている。身体運動をopen kinetic chainとclosed kinetic chainに分類し、両者の筋出力特性の相違を詳細に検討し、特に二関節筋の果たす重要な役割について探求する。まとめとして人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について3次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。
自己学習	事前に「筋骨格系のキネシオロジー　」を用いて予習が必須である。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 身体運動学について	講義	河村顕治	16. OKCとCKC	AL	河村顕治
2. 関節の基本構造	講義	河村顕治	17. OKCとCKC	AL	河村顕治
3. 力源としての筋肉	講義	河村顕治	18. 二関節筋の特性	AL	河村顕治
4. 生体力学の基本	講義	河村顕治	19. 二関節筋の特性	AL	河村顕治
5. 上肢(肩)	講義	河村顕治	20. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
6. 上肢(肘・前腕)	講義	河村顕治	21. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
7. 上肢(手根)	講義	河村顕治	22. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
8. 上肢(手)	講義	河村顕治	23. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
9. 体軸骨格(頭頚部)	講義	河村顕治	24. 歩行	AL	河村顕治
10. 体軸骨格(胸部)	講義	河村顕治	25. 歩行	AL	河村顕治
11. 体軸骨格(腰部)	講義	河村顕治	26. 立ち上がり動作	AL	河村顕治
12. 下肢(股関節)	講義	河村顕治	27. 立ち上がり動作	AL	河村顕治
13. 下肢(膝関節)	講義	河村顕治	28. スクワット	AL	河村顕治
14. 下肢(足関節・足部)	講義	河村顕治	29. スクワット	AL	河村顕治
15. まとめ	講義	河村顕治	30. まとめ	AL	河村顕治

教科書１	筋骨格系のキネシオロジー 著者：Donald A.Neumann 出版社：医歯薬出版 ISBN：978-4-263-21287-5
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	運動機能学特講				履修期	2020年度 春学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	K3D0512012
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	身体機能障害に対する理学療法の基礎として、身体機能障害について特講を行う。各身体機能障害の症状とその発生機序を説明できることをめざす。						
概要	身体機能障害について解剖学、生理学、運動学を基にその障害の発生機序について論理的に探求する。既存の考え方について再考し、論理的飛躍がある所を明らかにする。筋電図、重心動揺計、近赤外線分光器などを用い検証しながら検討する。そしてより効果的なアプローチを探求していく。本講義では腰痛，膝痛などの整形外科的障害に対するアプローチおよび筋力強化方法を中心に学ぶ。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	解剖学、生理学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。						
自己学習	事前に文献等を配布するので読んで理解しておくこと。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階個人研究室6983にて、火曜日の3，4時限目，水曜日3-5限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 身体機能障害について	講義	中嶋	15. 廃用性筋萎縮	AL	中嶋
2. 腰痛	講義	中嶋	16. サルコペニア	AL	中嶋
3. 腰痛と多裂筋	講義	中嶋	17.サルコペニア	AL	中嶋
4. 腰痛と疼痛性反射抑制	講義	中嶋	18. スクワットエクササイズ	AL	中嶋
5. 腰痛とローカル筋・グローバル筋	講義	中嶋	19. スクワットエクササイズ	AL	中嶋
6. 腰痛と脊柱の分節的運動	講義	中嶋	20. OKCとCKC	AL	中嶋
7. 腰痛予防エクササイズ	講義	中嶋	21.　二関節筋の特性	AL	中嶋
8. 変形性膝関節症	講義	中嶋	22.スロートレーニング	AL	中嶋
9. 変形性膝関節症と痛み	講義	中嶋	23. 痛みと筋緊張	AL	中嶋
10.　痛みと固有受容器	講義	中嶋	24. 筋血流とマイオカイン	AL	中嶋
11.　ブラジキニン、プロスタグランジン	講義	中嶋	25. 筋血流とマイオカイン	AL	中嶋
12. 血流改善（前毛細血管括約筋）	講義	中嶋	26. 筋血流とマイオカイン	AL	中嶋
13.　血管平滑筋と炭酸ガス	講義	中嶋	27. 筋血流とマイオカイン（イリシン）	AL	中嶋
14. 膝痛に対する理学療法	講義	中嶋	28. 筋血流とマイオカイン（イリシン）	AL	中嶋
	講義	中嶋	29. まとめ	AL	中嶋

教科書１	
教科書２	
参考書１	適宜、配布する。
参考書２	

授業科目名	障害評価学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	多くの疾患や症候群（症状）から起因する障害像の把握を目指して，障害構造分析の視点を量的なものから質的なものまで幅を拡げて評価方法を検証する．同時に，得られた評価結果を対象者へフィードバック情報として提供することを念頭に置き，効果判定の提示法について模索する．　表面筋電図を用いた動作解析の知識と技術を身につける。
概要	障害像を把握する上で，どのような機器を用いて，いかにわかりやすい指標を提示するのか？ということが課題となる．とりわけ身体運動・活動に影響をもたらす関節運動や筋活動をどのような視点で捉えて評価するのか重要である．さらには，立位姿勢や歩行動作といった身体運動を統合する平衡機能の評価も障害像を捉える上では大切である．そしてこれらの運動器系や平衡機能系が統合されて身体運動や活動・行動につながっている．このようなことからも，さまざまな疾患や症候群の特性を把握する上では，それぞれの機能を評価すると同時に“動作分析”を行うことによって，障害像を捉えていくことが臨床上でも適切であると考えられる． 近年では，機能・身体構造レベルおける症候分析と，活動・参加レベルにおける障害分析の視点から動作を観察していく症候障害学的な統合と解釈の必要性が提唱されている．症候障害学とは，「健康状態および環境の変化によって引き起こされる現象としての動作の観察を基軸として，機能不全の要因とともに活動の適応を究明する」と定義づけられている．この概念は，臨床思考過程を実践していく上で重要となる． 症候障害学的な統合と解釈を行う上で，実際の“動作分析”を行うことによって機能・身体構造レベルにおける問題点を推敲し，さらにここの機能レベルを評価・測定することによって確証を得るという一連の行程を辿る必要がある． 　障害評価学特講では，より客観性・信頼性の高い評価・測定方法の習得を目指して，さまざまな身体機能・活動を評価できる方法論について検証する．さらには得られた結果を症候障害学的な統合と解釈に結びつけて，フィードバック情報として提供できる手段の構築を目指す．
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	人体解剖、力学、運動学の基礎的事項を理解していることを前提とする。
自己学習	事前に資料を用いて予習が必須である。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.障害評価学総論	講義	河村顕治	16. OKCとCKC	AL	河村顕治
2.表面筋電図（1）	AL	河村顕治	17. OKCとCKC	AL	河村顕治
3表面筋電図（2）	AL	河村顕治	18. 二関節筋の特性	AL	河村顕治
4.表面筋電図（3）	AL	河村顕治	19. 二関節筋の特性	AL	河村顕治
5.筋力測定（1）	AL	河村顕治	20. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
6.筋力測定（2）	AL	河村顕治	21. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
7.筋力測定（3）	AL	河村顕治	22. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
8.平衡機能評価（1）	AL	河村顕治	23. コンピューターシミュレーション	AL	河村顕治
9.平衡機能評価（2）	AL	河村顕治	24. 歩行	AL	河村顕治
10.平衡機能評価（3）	AL	河村顕治	25. 歩行	AL	河村顕治
11.動作解析（1）	AL	河村顕治	26. 立ち上がり動作	AL	河村顕治
12.動作解析（2）	AL	河村顕治	27. 立ち上がり動作	AL	河村顕治
13.動作解析（3）	AL	河村顕治	28. スクワット	AL	河村顕治
14.動作解析（4）	AL	河村顕治	29. スクワット	AL	河村顕治
15.まとめ	AL	河村顕治	30. まとめ	AL	河村顕治

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	機能回復学特講				履修期	2020年度 春学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	AL
テーマと到達目標	脳血管障害における運動障害、感覚障害、高次脳機能障害の回復に焦点を当て、機能の回復が生じる神経生理学的、脳科学的なメカニズムを学習する。その上で、リハビリテーション介入がどのように実施されるべきかを探求していく。本講義では脳血管障害において機能回復が生じるメカニズムを説明できること、それに対するリハビリテーションがもたらす神経学的変化に関して説明できることを目標とする。						
概要	近年、非侵襲的な評価方法による脳機能の知見がめざましく進歩している。脳血管障害に対するリハビリテーションは現れている症状そのものに対する介入に加えて、神経学的な変化を促すことが必要不可欠になっている。そのためには、正常な運動、感覚、高次脳機能の制御機構を知り、それが障害された場合にはどのような変化が生じるのかを知る必要がある。さらに障害された制御機構がどのように回復するのかを脳科学的な知見をもとに理解する必要がある。本講義では、特に脳機能に焦点を当て、保健科学領域全般に必要となる先行研究の理解、現状の問題点の整理、研究デザインの設計を行い、脳血管障害に対して有効と考えられる根拠のあるリハビリテーションを検証できる能力を身につける。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義時に課題として課すレポートについて、先行研究の整理、自身の考察能力を評価する(40%)。また、最終試験として実施する口頭試問に関して、講義を通じた理解度を評価する。(60%)。なお、評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので最終口頭試問までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	与えられた課題の達成のみならず、教員とディスカッションが出来るよう自己学習を行った上で、調べた内容に関して自分なりの考えを持っておくこと。あくまでも教員による一方的な講義ではなく、履修者との議論によって講義が進められていくので注意すること。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す. それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6418号室で火曜日2限に実施する。その他授業前、昼休みは随時対応しています。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション	講義	森下	1. 電気刺激療法	AL	森下
2. 脳の体性局在	AL	森下	2. 運動イメージとリハビリテーション1	AL	森下
3. 脳による運動制御	AL	森下	3. 運動イメージとリハビリテーション2		
4. 脳による感覚制御	AL	森下	4. 課題特異的練習	AL	森下
5. 高次脳機能	AL	森下	5. 有効な介入方法の探索(それぞれの介入の利点、欠点の整理)	AL	森下
6. 脳の可塑性1	AL	森下	6. 研究疑問の設定	AL	森下
7. 脳の可塑性2	AL	森下	7. 研究としての新規性、実用性の検討		
8. 運動学習理論1	AL	森下	8. 研究デザインの妥当性の検証	AL	森下
9. 運動学習理論2	AL	森下	9. 研究計画書の作成方法	AL	森下
10. 運動学習理論3	AL	森下	10. 研究計画書における先行研究の整理	AL	森下
11. 使用依存的変化とCI療法	AL	森下	11. 研究計画書における倫理的配慮	AL	森下
12. 運動学習理論とCI療法	AL	森下	12. 研究計画書についての意見交換	AL	森下
13. ロボットを使用したリハビリテーション	AL	森下	13. 研究計画書における予想される結果の整理	AL	森下
14. ニューロモデュレーション	AL	森下	14. 研究計画の発表	AL	森下
15. 中間試験(口頭試問)	試験	森下	15. 実施計画の整理、見直し	AL	森下
			16. 最終試験(口頭試問)	AL	森下
				AL	森下
				試験	森下

教科書１	適宜、資料を配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	機能回復学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	森　芳史					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	骨関節系障害の病態を理解し、その機能及び障害に対する評価・治療を適切に行えるよう系統的に探求する。種々の動作課題を、筋力測定装置および動作筋電図や神経反射測定筋電図および重心動揺計にて分析し、コンピューターでデータを解析し運動療法の科学性を探求できる知識や技能を修得する。						
概要	高齢化が進むにつれ、健康寿命の重要性が叫ばれ、骨関節疾患の治療のみならず、予防についての進歩が著しい。これはまた、スポーツ医学の分野においても同様である。こういった現状において理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。本講は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習し、従来慣習的に行われてきた理学療法手段の信頼性・妥当性を文献及び実験的に明らかにし、新しい診断法・治療法に取り組むべき科学性を身につける。						
評価方法	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので最終口頭試問までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	理学療法学の分野で修士論文作成を希望する者に対して講義を行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。						
自己学習	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.関節・脊椎障害の診断（理学的検査の現況）	講義	森	1. オリエンテーション	講義	森
2.関節・脊椎障害の診断（理学的検査の実技）	講義	森	2. 関節の問題点に関するディスカッション	AL	森
3.関節・脊椎障害の診断（X線・MRI画像診断の現況）	講義	森	3. 脊椎障害の問題点に関するディスカッション	AL	森
4.関節・脊椎障害の診断（X線画像読影の実技）	講義	森	4. 関節障害の系統的文献検索	講義	森
5.関節・脊椎障害の診断（MRI画像読影の実技）	講義	森	5.脊椎障害の系統的文献検索	講義	森
6.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の現況）	講義	森	6. 関節・脊椎障害の系統的文献検索・実技	AL	森
7.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の実技・上肢）	講義	森	7. 今後の課題に関するディスカッション・学生意見発表	AL	森
8.関節・脊椎障害の診断（超音波画像診断の実技・下肢）	講義	森	8. 今後の課題に関するディスカッション・新規性の検討	AL	森
9.関節・脊椎障害診断への筋電計利用の現況	講義	森	9. 今後の課題に関するディスカッション・まとめ	AL	森
10.関節・脊椎障害診断への筋電計応用の実際・針筋電図	講義	森	10. 研究課題の作成・研究目的	講義	森
11.関節・脊椎障害診断への筋電計応用の実際・表面筋電図・誘発筋電図	講義	森	11. 研究計画書の作成・方法	講義	森
12重心動揺計の現況と意義			12.研究計画書の作成・倫理的配慮	講義	森
13重心動揺計使用の実際	講義	森	13. 研究計画書に関するディスカッション・新規性	AL	森
14.筋力測定の現況と意義	講義	森	14. 研究計画書に関するディスカッション・問題点	AL	森
15. 関節音の現況と意義	講義	森	15. まとめ（口頭試問）	AL	森
	講義	森			

教科書１	前もって資料・テキストを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	リハビリテーション領域における地域を舞台とした研究方法論の修得をテーマに，その遂行に必要な思考と知識技術を身につける。 本授業では，リハ専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要援護高齢者に対する地域支援に焦点を当て，研究トピック，ならびに研究方法論について解説しながら，研究課題を見極め適切な研究デザインを設定する ための科学的思考を身につける事を到達目標とする。
概要	リハの理念は「全人間的復権」であり社会生活の自立と共生が本来の姿である。入院リハと共に慢性期支援や健康増進など地域を舞台とする支援が重視する今日の状況は，本来の理念を具現化するものである。EBMの潮流の下で，経験則重視から科学的支援への転換が図られ研究課題は山積しており，研究課題を見極め研究デザインに結びつける知識や思考の修得が必要である。本特講では，地域を舞台とした支援に焦点を当て，リハ専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピックや研究方法論を解説し，研究的思考を身につける。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ，優れた研究成果を上げるためにも，能動的な学修態度を留意すること。なおリハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で 2単位。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，春学期は金曜日5時限目，秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時 対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.保健医療対策の効果ー理論	AL	齋藤	1.リハビリテーション援助の現状	AL	齋藤
2.保健医療対策の効果ー応用	AL	齋藤	2.リハビリテーション援助に関する討論	AL	齋藤
3.余命と健康寿命 の延伸ー理論	AL	齋藤	3. 現象をとらえる研究デザイン論ー理論	AL	齋藤
4.余命と健康寿命の延伸ー応用	AL	齋藤	4.現象をとらえる研究デザイン論ー応用	AL	齋藤
5.アウトカムに関する現状の理解	AL	齋藤	5.研究目的と尺度の連関ー理論	AL	齋藤
6.アウトカムに関する討論	AL	齋藤	6.研究目的と尺度の連関ー応用	AL	齋藤
7.ヒトを実験的単 位とした比較研究ー理論	AL	齋藤	7. 結論のシナリオー理論	AL	齋藤
8.ヒトを実験的単位とした比較研究ー応用	AL	齋藤	8.結論のシナリオー応用	AL	齋藤
9.ランダム化比較試験ー理論	AL	齋藤	9.Relevanceー理論	AL	齋藤
10.ランダム化比較試験ー応用	AL	齋藤	10.Relevanceー応用	AL	齋藤
11. 無作為化割り当てについて	AL	齋藤	11.ポピュレーショ ン・アプローチー理論	AL	齋藤
12.無作為化割り当てに関する討論	AL	齋藤	12.ポピュレーショ ン・アプローチー応用	AL	齋藤
13.脳卒中対象のリハビリテーション援助	AL	齋藤	13.全人間的復権:現状の理解	AL	齋藤
14.高齢者対象のリハ ビリテーション援助ー理論	AL	齋藤	14.全人間的復権:討論	AL	齋藤
15.高齢者対象のリハビリテーション援助ー応用	AL	齋藤	15.既出事項のまとめと討論	AL	齋藤

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	本特講では，障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当て，リハビリテーション専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているトピック，ならびに研究方法論について解説しながら，研究課題を見極め，適切な研究デザインを設定するための科学的思考について身につける事を目標とする。
概要	リハビリテーションの理念は「全人間的復権」であり，社会生活の自立と共生の実現に向けた援助を行うことが本来の姿である。入院による医学的リハビリテーションはもちろん，慢性期の支援や健康寿命延伸に向けた健康増進といった障害予防の取り組みなど地域を舞台とした支援が重視されてきている今日の状況は，本来の理念を具現化するものといえよう。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下で，リハビリテーションは経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が試みられている。こうした状況にあって，リハビリテーション専門職が取り組むべき課題は山積しており，社会的要請の多様化や専門分化が進む今日の動向を見据えつつ，解明すべき研究課題を見極め，それを解くための確固たる研究デザインに結びつける知識や思考を涵養する必要がある。
評価方法	研文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション援助学研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 保健医療対策の効果1	講義	原田	16. 高齢者を対象としたリハビリテーション援助1	講義	原田
2. 保健医療対策の効果2	AL	原田	17. 高齢者を対象としたリハビリテーション援助2	AL	原田
3. 余命と健康寿命の延伸1	AL	原田	18. リハビリテーション援助：現状の理解と討論	AL	原田
4. 余命と健康寿命の延伸2	AL	原田	19. 現象をとらえる研究デザイン論1	AL	原田
5. アウトカム：現状の理解と討論1	AL	原田	20. 現象をとらえる研究デザイン論2	AL	原田
6. アウトカム：現状の理解と討論2	AL	原田	21. 研究目的と尺度の連関1	AL	原田
7. ヒトを実験的単位とした比較研究1	AL	原田	22. 研究目的と尺度の連関2	AL	原田
8. ヒトを実験的単位とした比較研究2	AL	原田	23. 結論のシナリオ1	AL	原田
9. ランダム化比較試験1	AL	原田	24. 結論のシナリオ2	AL	原田
10. ランダム化比較試験2	AL	原田	25. Relevance 1	AL	原田
11. 無作為化割り当て：現状の理解と討論1	AL	原田	26. Relevance 2	AL	原田
12. 無作為化割り当て：現状の理解と討論2	AL	原田	27. ハイリスク・アプローチ	AL	原田
13. 脳卒中を対象としたリハビリテーション援助1	AL	原田	28. ポピュレーション・アプローチ	AL	原田
14. 脳卒中を対象としたリハビリテーション援助2	AL	原田	29. 全人間的復権：現状の理解と討論	AL	原田
15. まとめ	AL	原田	30. まとめ	AL	原田
16. 試験	試験	原田	31. 試験	試験	原田

教科書１	適宜必要な文献および資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	リハビリテーション援助学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	佐藤　三矢					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	本講義では。リハビリテーション専門職の積極的な参画が期待されている障害者・要援護高齢 者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当てた講義を展開しする。学生は、自身の研究課題に関連する「研究トピック」ならびに「先行研究における研究方法」を通じて、自身の研究課題を見極めて適切な研究デザインを設定する ための科学的思考を習得する。
概要	リハビリテーションの理念は「全人間的復権」であり，社会生活の自立と共生の実現に向けた 援助を行うことが本来の姿である。入院による医学的リハビリテーションはもちろん，慢性期の支援や健康寿命延伸に向けた健康増進といった障害予防の取り組 みなど地域を舞台とした支援が重視されてきている今日の状況は，本来の理念を具現化するものといえよう。同時にEvidence-based-medicine（EBM）やEvidence-based-health care（EBH）重視の潮流の下で，リハビリテーションは経験則重視から科学的根 拠に基づく支援への転換が試みられている。こうした状況にあって，リハビリテーション専門職が取り組むべき課題は山積しており，社会的要請の多様化や専門 分化が進む今日の動向を見据えつつ，解明すべき研究課題を見極め，それを解くための確固たる研究デザインに結びつける知識や思考を酒養する必要がある。本 特講では，障害者・要援護高齢者に対する地域を舞台とした支援に焦点を当て，リハビリテーション専門職の積極的な参画や支援の質向上が期待されているト ピック，ならびに研究方法論について解説し，前記特講の到達目標で示した科学的思考の涵養を図るものとする。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	積極的な姿勢で臨むこと。 なおリハビリテーション援助学特講は1・2・3年次開講で 2単位。 十分な理解に到達するために，予習と復習を行うこと。
自己学習	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各2時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週水曜日4～5時限目をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.保健医療対策の効果ー理論	講義	佐藤	1.リハビリテーション援助の現状	講義	佐藤
2.保健医療対策の効果ー応用	講義	佐藤	2.リハビリ援助に関する討論	講義	佐藤
3.余命と健康寿命 の延伸ー理論	講義	佐藤	3.現象をt捉える研究デザイン-理論	講義	佐藤
4.余命と健康寿命の延伸ー応用	講義	佐藤	4.現象を捉える研究デザイン-応用	講義	佐藤
5.アウトカムに関する現状の理解	講義	佐藤	5.研究目的と尺度の連関ー理論	講義	佐藤
6.アウトカムに関する討論	講義	佐藤	6.研究目的と尺度の連関ー応用	講義	佐藤
7.ヒトを対象とした比較研究ー理論	講義	佐藤	7. 結論のシナリオー理論	講義	佐藤
8.ヒトを対象とした比較研究ー応用	講義	佐藤	8.結論のシナリオー応用	講義	佐藤
9.ランダム化比較試験ー理論	講義	佐藤	9.Relevanceー理論	講義	佐藤
10.ランダム化比較試験ー応用	講義	佐藤	10.Relevanceー応用	講義	佐藤
11. 無作為化割り当てについて	講義	佐藤	11.ポピュレーショ ン・ｱﾌﾟﾛｰﾁｰ理論	講義	佐藤
12.無作為化割り当てに関する討論	講義	佐藤	12.ポピュレーション・ｱﾌﾟﾛｰﾁｰ応用	講義	佐藤
13.脳卒中のリハビリ援助	講義	佐藤	13.全人間的復権:現状の理解	講義	佐藤
14.高齢者のリハ ビリ援助ー理論	講義	佐藤	14.全人間的復権:討論	講義	佐藤
15.高齢者のリハビリ援助ー応用	講義	佐藤	15.既出事項のまとめと討論	講義	佐藤

教科書１	適宜必要な文献および資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	障害構造学特講				履修期	2020年度 春学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	障害構造学特講では、リハビリテーション医学における評価や科学的な支援方法の確立を前提として、ICF(WHO国際生活機能分類)など障害相互間の関係性に関する種々の理論モデルを援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく態様が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明することを研究課題とする。地域高齢者や障害者の在宅生活を支援していくためには、身体的な機能障害や活動制限のみならず、家族構成や住居環境あるいは介護状況などの社会的な生活要因も含めて分析する必要がある。そのため医学モデルと障害モデルおよび生活モデルに立脚し、院生は障害構造を探究していくことができる。
概要	この特講では地域高齢者個々の社会的特性について、老化(衰退)モデルを通して総合的に把握することを試みた実証的研究を紹介する。またリハビリテーション医療や理学療法の評価において様々なスケールが多用されているが、これら既存尺度の信頼性や妥当性の検討を行っているので具体例を示す。さらに疾患特異性を考慮したQOL指標やADL尺度をはじめパフォーマンステストや移動能力指標の開発など、これまで行ってきた研究論文を提示すると同時に、それらの調査データを用いて統計解析の習得に役立てる。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	研究の進捗状況および研究成果等により評価する。授業への積極的な参加態度(40%)、確認小テスト(40%)、課題レポート(20%)で評価する。なお、授業中に出された課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までには見直しておくこと
履修条件・注意事項	障害構造の理論モデルを念頭に置き、それを実証的に検証する研究方法を用い博士論文を完成させるため、講義計画として1年次は1～5、2年次では6～10、3年次では11～15とする。ただし14と15については、論文投稿から受理されるまでの査読期間などを考慮すると、12までを2年次で終了しておかなければならないことから、各自の努力が必要である。
自己学習	・事前に課題を出すので、それについて調べてきたことを元にして授業を行う。 ・自らの課題について、調べてきたことや経験したことなどを元にして「自ら学ぶ」「経験から学ぶ」実践型の学習が必須である。 ・必ず予習と復習を各2時間程度は行わないと、授業に出席していただけでは単位は取れない。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とするが、授業後相談の上、随時対応も可能。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 臨床経験から問題認識の明確化	講義,AL	平上二九三	1. 問題認識の絞込み	講義,AL	平上二九三
2. 関連領域の研究背景	講義,AL	平上二九三	2. 先行研究のレビュー	講義,AL	平上二九三
3. 研究目的の設定	講義,AL	平上二九三	3. 仮説の設定	講義,AL	平上二九三
4. 研究モデルの構築	講義,AL	平上二九三	4. 研究デザインの創案	講義,AL	平上二九三
5. 実証的研究の進めた方	講義,AL	平上二九三	5. 研究ノート・研究計画書の作成	講義,AL	平上二九三
6. 予備調査の計画と進め方	講義,AL	平上二九三	6. 研究計画と進め方	講義,AL	平上二九三
7. 観測変数の選択	講義,AL	平上二九三	7. アイテムプールの設定	講義,AL	平上二九三
8. 独立変数と従属変数)の設定	講義,AL	平上二九三	8. 変数の設定と数量化	講義,AL	平上二九三
9. 予備調査票の作成	講義,AL	平上二九三	9. フィールドおよび対象者の選定	講義,AL	平上二九三
10. データ集計と分析	講義,AL	平上二九三	10. 論文もしくは研究ノートの投稿	講義,AL	平上二九三
11. 本調査票の作成	講義,AL	平上二九三	11. 研究の実施計画	講義,AL	平上二九三
12. データ収集	講義,AL	平上二九三	12. 統計解析への展開	講義,AL	平上二九三
13. 結果の解釈	講義,AL	平上二九三	13. 研究報告書の作成・学会発表	講義,AL	平上二九三
14. 学術誌(和文)への論文投稿	講義,AL	平上二九三	14. 研究紀要の論文投稿	講義,AL	平上二九三
15. 単位認定試験	レポート試験		15. 単位認定試験	レポート試験	

教科書１	「ICF　国際生活機能分類 国際障害分類改定版」を教科書とし 適宜必要な文献および資料等を提示する。 著者:障害者福祉研究会(編者) 出版社:中央法規出版 ISBN:ISBNコード:9784805844175
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	障害構造学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	本特講では，障害構造の解明のための研究方法論の修得をテーマに，その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。本授業では，障害構造に関する様々な理論に基づき措定した仮説モデルを実証的に検証するための考え方や基本的知識と方法論を身につける事を到達目標とする。
概要	本特講では、ICF（WHO国際生活機能分類)といった種々の理論モデルを援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく態様が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明することを教授課題とする。 具体的には，障害構造や付随する社会的事象について，理論を基にモデルを措定し検証している実証研究を紹介する。また概念を測る様々なスケールが開発されており，疾患特異性を考慮した開発方法と信頼性や妥当性の検証について理解を深める。以上より障害構造を解くための研究技術を身につける。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
評価方法	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は最初の授業時に説明する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	研究遂行能力と研究的思考を身につけ，優れた研究成果を上げるためにも，能動的な学修態度を留意すること。なお障害構造学特講は1・2・3年次開講で2単位。
自己学習	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて，春学期は金曜日5時限目，秋学期は木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.臨床経験等からの問題認識の明確化と絞込み	AL	齋藤	1.予備調査票の作成	AL	齋藤
2. 臨床経験等からの問題認識の絞込み	AL	齋藤	2.フィールドおよび対象者の選定	AL	齋藤
3.関連領域の研究背景と先行研究レビュー・方法論	AL	齋藤	3.データ集計と分析結果の一般化Ⅰ	AL	齋藤
4.関連領域の研究背景と先行研究レビュー・実際	AL	齋藤	4.データ集計と分析結果の一般化II	AL	齋藤
5. 研究目的と研究仮説の設定	AL	齋藤	5.本調査の作成と実施計画Ⅰ	AL	齋藤
6.研究モデルの構築	AL	齋藤	6.本調査の作成と実施計画II	AL	齋藤
7.研究デザインの創案	AL	齋藤	7.データ収集	AL	齋藤
8.実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・方法論	AL	齋藤	8.統計解析への展開	AL	齋藤
9. 実証的研究の進め方(研究計画書の作成)・実際	AL	齋藤	9.結果の 解釈Ⅰ	AL	齋藤
10.予備調査の計画	AL	齋藤	10.結果の解釈II	AL	齋藤
11.予備調査の進め方	AL	齋藤	11.研究報告書の作成・学会発表Ⅰ	AL	齋藤
12.観測変数の選択	AL	齋藤	12.研究報告書の作成・学会発表II	AL	齋藤
13.観 測変数のアイテムプール	AL	齋藤	13.学外の学術 誌(和文)への論文投稿	AL	齋藤
14.独立変数(原因)と従属変数(結果)の設定	AL	齋藤	14.レフリー付き雑誌(英文を含む)へ論文投稿	AL	齋藤
15.独立変数(原因)と従属変数(結果)の数量化	AL	齋藤	15.既出事項のまとめ	AL	齋藤

教科書１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	自立支援学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	人間の筋肉の走行を再確認し、働きを理解する。						
概要	身体障がいにおける自立支援を考える上で、基本となる全身の筋肉の起始・停止、作用、支配神経を再学習する。 特に、二関節筋において、一方の関節の肢位により、他方の関節に及ぼす筋の働きの変化を学習する。 この過程で、筋力強化や身体運動の再構築についての考え方を深めて行く。						
評価方法	期末試験(100%)、試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代に学習した運動学を再確認してくること。						
自己学習	予習復習に各2時間を要します。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1;基本的原則1	講義	中角	1;下肢筋1	講義	中角
2;基本的原則2	講義	中角	2;下肢筋2	講義	中角
3;関節運動1	講義	中角	3;下肢筋3	講義	中角
4;関節運動2	講義	中角	4;下肢筋4	講義	中角
5;筋長テストとストレッチング1	講義	中角	5;下肢筋5	講義	中角
6;筋長テストとストレッチング2	講義	中角	6;上肢筋1	講義	中角
7;姿勢1	講義	中角	7;上肢筋2	講義	中角
8;姿勢2	講義	中角	8;上肢筋3	講義	中角
9;姿勢3	講義	中角	9:上肢筋4	講義	中角
10;アライメントと筋バランス	講義	中角	10;上肢筋5	講義	中角
11;側弯症1	講義	中角	11;顔面筋1	講義	中角
12;側弯症2	講義	中角	12;顔面筋2	講義	中角
13;体幹筋1	講義	中角	13;頸部、嚥下、呼吸筋	講義	中角
14;体幹筋2	講義	中角	14;頸部・上肢の痛み	講義	中角
15;体幹筋3	講義	中角	15;腰痛・下肢痛み	講義	中角
16:期末試験			16:期末試験		

教科書１	筋:機能とテスト 著者:ケンダル　(栢森良二　監訳) 出版社:西村書店 ISBN:4-89013-338-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	自立支援学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
テーマと到達目標	自立支援学特講では、対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について科学的な検証を加え、地域保健科学的な支援を確立していくことについて学習を行う。 本特講では実際の研究活動の手順やフィールド活動について解説しながら、問題現象を明らかにして自立支援の原則を見出す方法を習得することを目標とする。						
概要	自立支援の方法を検討するためには、問題となる複雑な現象を体系的に単純化したり、既知の事実から未知の事実を推論する過程を理解したりすることが特に重要となる。また、疾病の特性を把握することも必要になる。例えば、脳血管障害を患う対象者の慢性期における自立支援とは、まずは疾病の長期的な機能予後の特性を明らかにすることにより、はじめて支援の手がかりと意義が定まり、支援の効果についての意味づけを行うことが可能となる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義(口頭試問)までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	自立支援学研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 研究疑問の発見	講義	原田	16. 因果的効果の科学的推論に関する説明研究	講義	原田
2. 先行研究に散りばめられた事実の縮約(総説化)1	AL	原田	17. 症例・対照研究による構造的な比較1	AL	原田
3. 先行研究に散りばめられた事実の縮約(総説化)2	AL	原田	18. 症例・対照研究による構造的な比較2	AL	原田
4. 体系的あるいは非体系的な測定誤差	AL	原田	19. データ編集と統計的推論1	AL	原田
5. 偶然か測定限界か	AL	原田	20. データ編集と統計的推論3	AL	原田
6. 研究デザインの設計1	AL	原田	21. 研究成果の妥当性(一般化可能性と制約)1	AL	原田
7. 研究デザインの設計2	AL	原田	22. 研究成果の妥当性(一般化可能性と制約)2	AL	原田
8. 研究デザインの設計3	AL	原田	23. 観察対象の同質性と選択バイアス1	AL	原田
9. 因果的推論に関する従属変数	AL	原田	24. 観察対象の同質性と選択バイアス2	AL	原田
10. 説明変数の選び方	AL	原田	25. バイアスや交絡因子による過大・過小評価	AL	原田
11. サンプルの慎重な選択	AL	原田	26. 研究成果の公表への道のり1	AL	原田
12. 観察のための周到な手続き	AL	原田	27. 研究成果の公表への道のり2	AL	原田
13. 記述研究1	AL	原田	28. 研究の質(研究の内部・外部妥当性)1	AL	原田
14. 記述研究2	AL	原田	29. 研究の質(研究の内部・外部妥当性)2	AL	原田
15. まとめ	AL	原田	30. まとめ	AL	原田
16. 中間試験	試験	原田	31. 最終試験	試験	原田

教科書１	適宜必要な文献および資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	自立支援学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義

テーマと到達目標	テーマ：大学院生は，博士課程の研究遂行に必要な基本的な研究論を学ぶ。 到達目標： 1．大学院生は、研究の意義，研究倫理，研究過程と主たる方法を説明できる。 2．大学院生は、自身の研究課題に関する文献を検索し，レビューを作成できる。 3．大学院生は、自身の研究課題に関するデータを収集し，分析し，発表できる。
概要	我が国における保健科学の関心は，科学的根拠に基づく支援へと向い，より良質な科学的知見の創出が求められる。本科目では，保健科学で求められる人材を育てるために，博士課程の研究に必要な研究基礎論を学び、研究計画を立案し、研究計画の発表ができるようになる。 研究計画が立案できると計画に沿った研究の遂行が行えるようになる。
評価方法	課題（50％）、発表（50％）　で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	研究遂行に必要な知識と技術の予習と復習について真剣に取り組むこと。
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 予習では、理解できない点をまとめる、必要な文献を読むことが求められる。 復習では、自分なりに研究ノートにまとめて理解を深める必要がある。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日：月曜5限目、金曜5限目 場所：6号館4階6428号室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1．自立支援とは	講義	京極真	16．自立支援と量的研究	AL	京極真
2．自立支援の輪読1（IL）	AL	京極真	17.自立支援と混合研究	AL	京極真
3．自立支援の輪読2（MOHO）	AL	京極真	18.研究倫理	AL	京極真
4．自立支援の輪読3（CMOPE）	AL	京極真	19.研究テーマの検討1	AL	京極真
5．自立支援の輪読4（OTIPM）	AL	京極真	20.研究テーマの検討2	AL	京極真
6．自立支援の輪読5（ICF）	AL	京極真	21.研究テーマと方法の整理1	AL	京極真
7．自立支援の輪読6（DAB）	AL	京極真	22.研究テーマと方法の整理2	AL	京極真
8．自立支援の輪読7（OBP2.0）	AL	京極真	23.方法の問題点の検討1	AL	京極真
9．輪読内容の発表	AL	京極真	24.方法の問題点の検討2	AL	京極真
10.自立支援と倫理	AL	京極真	25.文献調査の方法	AL	京極真
11．自立支援と社会的背景	AL	京極真	26.研究テーマと文献調査1	AL	京極真
12．自立支援と研究テーマ1	AL	京極真	27.研究テーマと文献調査2	AL	京極真
13．自立支援と研究テーマ2	AL	京極真	28.文献の整理	AL	京極真
14．自立支援と理論的研究	AL	京極真	29．文献の発表	AL	京極真
15．自立支援と質的研究	AL	京極真	30.まとめ	AL	京極真

教科書１	適宜指定
教科書２	
参考書１	適宜指定
参考書２	

授業科目名	保健看護科学特講				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	中瀬　克己、寺﨑　智行、長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義・演習

テーマと到達目標	テーマ: 保健看護学分野で、博士論文の作成に取り組む上での、基本的な考え方や知識を学ぶ。 到達目標: 我が国における保健看護領域における実践や研究の関心は、臨床での看護問題を中心として、慢性疾患や急性疾患をもつクライアントへの看護介入が多く取り上げられてきた。また、ターミナルケアや障害を持つクライアントへの予防的視点に立った支援や人間の成長発達の視点から、生命の誕生から、終末期にいたるまでの支援、地域住民の健康増進や健康予防、介護予防の視点など、保健看護学の取り組みは多様化　する一方で、専門分化が進んでいる。同時に、Evidence-based medicine(EBM)、Evidence-based　health care(EBH)重視の潮流のもと、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況のもと、看護学もまた、看護上の問題や疑問を解いていく科学的探究心が求められている。 　このような保健看護学領域の特徴を踏まえ、保健看護学分野の研究全般に共通する論文の検討、研究デザインの設計、サンプリング等についての基本的な考え方や研究方法論について説明できる。
概要	博士論文に取り組むための保健看護学分野の研究に関する基本的考え方や研究方法について理解する。 オムニバス方式で担当する。
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	できれば、1年次に履修し、博士論文のテーマを絞り込む。 博士課程の学生であることを自覚し、自ら学習や研究に取り組む。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 看護研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	講義・演習	長町	1. 研究課題と研究方法	講義・演習	中瀬
2. 研究の基本的プロセス(1)	講義・演習	寺崎	2. 質的研究方法(1)	講義・演習	長町
3. 研究の基本的プロセス(2)	講義・演習	寺崎	3. 質的研究方法(2)	講義・演習	長町
4. リサーチクエスチョンを立てる、絞り込む(1)	講義・演習	中瀬	4. 量的研究方法(1)	講義・演習	中瀬
5. リサーチクエスチョンを立てる、絞り込む（2）	講義・演習	長町	5. 量的研究方法(2)	講義・演習	中瀬
6. 研究課題と研究デザイン（1）	講義・演習	長町	6. 介入研究と実験研究(1)	講義・演習	寺崎
7. 研究課題と研究デザイン（2）	講義・演習	長町	7. 介入研究と実験研究(2)	講義・演習	寺崎
8. 介入的・実験的研究方法(1)	講義・演習	長町	8. 量的研究と統計的解析	講義・演習	中瀬
9. 介入的・実験的研究方法(2)	講義・演習	中瀬	9. 量的研究とデータ解析	講義・演習	中瀬
10. 系統的文献検索（1）	講義・演習	中瀬	10. 研究計画書の作成（1）	講義・演習	寺崎
11. 系統的文献検索（2）	講義・演習	中瀬	11. 研究計画書の作成（2）	講義・演習	長町
12. 系統的文献検索（3）	講義・演習	寺崎	12. 研究計画書の作成（3）	講義・演習	長町
13. 系統的文献検索（4）	講義・演習	寺崎	13. 研究計画書と研究方法(1)	講義・演習	寺崎
14. 研究課題と研究デザイン（1）	講義・演習	寺崎	14. 研究計画書と研究方法(2)	講義・演習	長町
15. 研究課題と研究デザイン（2）	講義・演習	中瀬	15. 原著論文の纏め方	講義・演習	寺崎
			16. 学会発表の方法・まとめ		

教科書１	看護研究の進め方・論文の書き方 著者:早川和生編著 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-01683-4
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究					履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期
担当者	長町　榮子					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）					年次	1
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させ る。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日3限目、6号館4階長町研究室（6425号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	講義	長町
1. 博士課程における研究の概要	AL	長町
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	長町
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	講義	長町
4. 研究と倫理1	講義	長町
5. 研究と倫理2	講義	長町
6. 参考文献の調査	講義	長町
7. 研究テーマの作成	講義	長町
8. 研究対象者の選択	講義	長町
9. 測定方法の計画1	講義	長町
10. 測定方法の計画2	講義	長町
11. サンプルサイズの推定1	講義	長町
12. サンプルサイズの推定2	講義	長町
13. 研究デザイン（コホート研究）	講義	長町
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	講義	長町
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）		
2年次	講義	長町
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	長町
2. 実験における問題点のディスカッション1	AL	長町
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	長町
4. プレ実験1	AL	長町
5. プレ実験2	AL	長町
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	長町
7. プレ実験3	AL	長町
8. プレ実験4	AL	長町
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	長町
10. 実験方法の最終確定	AL	長町
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	長町
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	長町
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	長町
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	長町
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1		
3年次	AL	長町
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	長町
2. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	長町
3. 本実験と問題点のディスカッション16	AL	長町
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	長町

秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	AL	長町
1. 研究テーマの検討と策定	AL	長町
2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	長町
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	長町
4. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	長町
5. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	長町
6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	長町
7. 研究テーマの確定	AL	長町
8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	長町
9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	長町
10. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	長町
11. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	長町
12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	長町
13. 研究計画書の作成1:	AL	長町
14. 研究計画書の作成2	AL	長町
15. 研究計画書の決定		
2年次	AL	長町
1. 本実験と問題点のディスカッション5	AL	長町
2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	長町
3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	長町
4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	長町
5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	長町
6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	長町
7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	長町
8. 中間発表の問題点の整理	AL	長町
9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	長町
10. 本実験と問題点のディスカッション10	AL	長町
11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	長町
12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	長町
13. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	長町
14. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	長町

5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	長町	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2		
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	長町	3年次	講義	長町
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	長町	1. 博士論文作成の概要	AL	長町
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	長町	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	長町
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	長町	3.研究方法・実験方法の整理と確認	AL	長町
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	長町	4.実験結果の統計処理の整理と確認1	AL	長町
11.実験結果の収集、整理1	AL	長町	5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	AL	長町
12.実験結果の収集整理2	AL	長町	6. 実験結果に対する考察1	AL	長町
13.実験結果の統計処理1	AL	長町	7. 実験結果に対する考察2	AL	長町
14.実験結果の統計処理2	AL	長町	8. 実験結果に対する考察3	AL	長町
15.院生による実験結果報告とディスカッション			9. 論文作成1	AL	長町
			10. 論文作成2	AL	長町
			11. 論文作成3	AL	長町
			12.論文作成4	AL	長町
			13.院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	長町
			14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	長町
			15.論文作成・発表（試験）		

教科書１	適宜必要な文献・資料等を提示する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	中瀬　克己					NO.	
配当学科	保健科学研究科(博士後期)				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床上や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢(20%)、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況(20%)について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する(60%)。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階　寺崎研究室:火曜日3限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	1年次	中瀬	1年次	1年次	中瀬
1. 博士課程における研究の概要	1.講義		1. 研究テーマの検討と策定	1.AL	
2. 臨床疑問、研究疑問の発表	2.AL		2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	2.AL	
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理	3.AL		3. 研究テーマに沿った先行研究の調査・国内	3.AL	
4. 研究と倫理(臨床研究)	4.講義		4. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外	4.AL	
5. 研究と倫理(実験研究)	5.講義		5. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外文献の精査	5.AL	
6. 参考文献の調査	6.講義		6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	6.AL	
7. 研究テーマの作成	7.講義		7. 研究テーマの確定	7.AL	
8. 研究対象者の選択	8.講義		8. 研究テーマにおける従属変数の選定	8.AL	
9. 測定方法の計画(臨床研究)	9.講義		9. 研究テーマにおける独立変数の選定	9.AL	
10. 測定方法の計画(実験研究)	10.講義		10. 研究テーマに沿った測定方法の計画案策定	10.AL	
11. サンプルサイズの推定	11.講義		11. 研究テーマに沿った測定方法の計画案の検討	11.AL	
12. サンプルサイズの推定・実技	12.講義		12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	12.AL	
13. 研究デザイン(コホート研究)	13.講義		13. 研究計画書の作成	13.AL	
14. 研究デザイン(横断研究とケースコントロール研究)	14.講義		14. 研究計画書の作成作成案の検討	14.AL	
15. 研究デザイン(観察研究における交絡と交互作用)	15.講義		15. 研究計画書の決定	15.AL	
2年次	2年次		2年次	2年次	
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	1.講義		1. 本実験と問題点のディスカッション(対象の選定)	1.AL	
2. 実験における問題点の発表	2.AL		2. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の問題)	2.AL	
3. 実験における問題点のディスカッション	3.AL		3. 本実験と問題点のディスカッション(実験精度の問題)	3.AL	
4. プレ実験概要説明	4.AL		4. 本実験と問題点のディスカッション(まとめ)	4.AL	
5. プレ実験試行	5.AL		5. 実験結果の中間収集、整理	5.AL	
6. プレ実験における問題点の検討	6.AL		6. 実験結果の中間報告書作成	6.AL	
7. 改善プレ実験の概要説明	7.AL		7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	7.AL	
8. 改善プレ実験試行	8.AL		8. 中間発表の問題点の整理	8.AL	
9. プレ実験における問題点の検討	9.AL		9. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の確認)	9.AL	
10. 実験方法の最終確定	10.AL		10.本実験と問題点のディスカッション(実験手技の確認)	10.AL	
11. 本実験と問題点のまとめ	11.AL		11. 本実験と問題点のディスカッション(実験器具の確認)	11.AL	
12. 本実験と問題点の報告	12.AL		12. 本実験と問題点のディスカッション(実験精度の確認)	12.AL	
13. 本実験と問題点のディスカッション	13.AL		13. 本実験と問題点の整理	13.AL	
14. 本実験と問題点のディスカッションのまとめ	14.AL		14. 本実験全般における問題点のディスカッション	14.AL	
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	15.AL		15. 本実験結果の中間報告とディスカッ	15.AL	
3年次	3年次				
1. 本実験と問題点のディスカッション(実験手順の再確認)	1.AL				
2. 本実験と問題点のディスカッション(実験方法の再確認)	2.AL				
3. 本実験と問題点のディスカッション(実験器具の再確認)	3.AL				
4. 本実験と問題点の整理	4.AL				
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション	5.AL				
6. 本実験と問題点のディスカッション(実験における正確性の再確認)	6.AL				
7. 本実験と問題点のディスカッション(検者内信頼性の検討方法)	7.AL				

8. 本実験と問題点のディスカッション (検者内信頼性の検討) 9. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討方法) 10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討) 11.実験結果の収集 12.実験結果の収集整理 13.実験結果の統計処理方法の検討 14.実験結果の統計処理 15.院生による実験結果報告とディスカッション	8.AL 9.AL 10.AL 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.AL		ション 3年次 1. 博士論文作成の概要 2.研究テーマの社会的背景の整理と確認 3.研究方法・実験方法の整理と確認 4.実験結果の統計処理の整理 5. 実験結果の統計処理の確認 6. 実験結果に対する考察整理 7. 実験結果に対する考察問題点の抽出 8. 実験結果に対する考察まとめ 9. 論文作成(緒論) 10. 論文作成(方法) 11.論文作成(考察) 12.論文作成(まとめ) 13.院生による作成論文の発表スライド作成 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 15.論文作成・発表(試験)	3年次 1.講義 2.AL 3.AL 4.AL 5.AL 6.AL 7.AL 8.AL 9.AL 10.AL 11.AL 12.AL 13.AL 14.AL 15.AL	

教科書１	教科書は特に指定しないが必要に応じて資料を配付する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	河村　顕治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床上や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次		
1. 博士課程における研究の概要	講義	河村顕治	1. 研究テーマの検討と策定	AL	河村顕治
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	河村顕治	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	河村顕治
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	AL	河村顕治	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	河村顕治
4. 研究と倫理1	講義	河村顕治	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	河村顕治
5. 研究と倫理2	講義	河村顕治	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	河村顕治
6. 参考文献の調査	講義	河村顕治	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	河村顕治
7. 研究テーマの作成	講義	河村顕治	7. 研究テーマの確定	AL	河村顕治
8. 研究対象者の選択	講義	河村顕治	8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	河村顕治
9. 測定方法の計画1	講義	河村顕治	9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	河村顕治
10. 測定方法の計画2	講義	河村顕治	10. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	河村顕治
11. サンプルサイズの推定1	講義	河村顕治	11. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	河村顕治
12. サンプルサイズの推定2	講義	河村顕治	12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	河村顕治
13. 研究デザイン（コホート研究）	講義	河村顕治	13. 研究計画書の作成1：	AL	河村顕治
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	講義	河村顕治	14. 研究計画書の作成2	AL	河村顕治
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	講義	河村顕治	15. 研究計画書の決定	AL	河村顕治
2年次			2年次		
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	河村顕治	1. 本実験と問題点のディスカッション5	AL	河村顕治
2. 実験における問題点のディスカッション1	AL	河村顕治	2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	河村顕治
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	河村顕治	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	河村顕治
4. プレ実験1	AL	河村顕治	4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	河村顕治
5. プレ実験2	AL	河村顕治	5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	河村顕治
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	河村顕治	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	河村顕治
7. プレ実験3	AL	河村顕治	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	河村顕治
8. プレ実験4	AL	河村顕治	8. 中間発表の問題点の整理	AL	河村顕治
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	河村顕治	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	河村顕治
10. 実験方法の最終確定	AL	河村顕治	10.本実験と問題点のディスカッション10	AL	河村顕治
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	河村顕治	11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	河村顕治
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	河村顕治	12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	河村顕治
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	河村顕治	13. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	河村顕治
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	河村顕治	14. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	河村顕治
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	河村顕治			
3年次					
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	河村顕治			
2. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	河村顕治			
3. 本実験と問題点のディスカッション16	AL	河村顕治			
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	河村顕治			

5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	河村顕治	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2	AL	河村顕治
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	河村顕治	3年次		
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	河村顕治	1. 博士論文作成の概要	講義	河村顕治
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	河村顕治	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	河村顕治
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	河村顕治	3.研究方法・実験方法の整理と確認	AL	河村顕治
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	河村顕治	4.実験結果の統計処理の整理と確認1	AL	河村顕治
11.実験結果の収集、整理1	AL	河村顕治	5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	AL	河村顕治
12.実験結果の収集整理2	AL	河村顕治	6. 実験結果に対する考察1	AL	河村顕治
13.実験結果の統計処理1	AL	河村顕治	7. 実験結果に対する考察2	AL	河村顕治
14.実験結果の統計処理2	AL	河村顕治	8. 実験結果に対する考察3	AL	河村顕治
15.院生による実験結果報告とディスカッション	AL	河村顕治	9. 論文作成1	AL	河村顕治
			10. 論文作成2	AL	河村顕治
			11. 論文作成3	AL	河村顕治
			12.論文作成4	AL	河村顕治
			13.院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	河村顕治
			14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	河村顕治
			15.論文作成・発表（試験）	AL	河村顕治

教科書１	
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	高橋　淳					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	バイオ研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文（英語）としてまとめ発表することを目標とする。						
概要	1, バイオ研究の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 抄読会で英語論文を読み、英語表現、英語での討論に慣れる。 5. 英語論文執筆法を学び、英語論文投稿から受理までの過程を経験する。 ※実務経験のある教員による授業科目 内科医としての実務経験と血液学・細胞生物学・腫瘍生物学の研究実績を持つ教員が、その経験を生かし、臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	講義後の提出レポートで、知識を評価する（10%）。実験において、態度を評価する（10%）。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する（20%）。抄読会で英語力を評価する（10%）。博士論文の内容で知識、方法への理解、思考法を評価する（40%）。博士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する（10%）。講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。						
自己学習	バイオ研究に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。講義を聞きながら、あるいは実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。英語の文献に親しみ、英語で論文を書ける実力を身につけてほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室（6414）にて、水曜日の4時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	1年次	1年次	1年次	1年次	1年次
1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋	1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋
2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋	2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋
3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋	3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋
4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋	4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋
5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋	5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋
6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋	6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋
7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋	7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋
8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋	8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋
9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋	9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋
10.実験（8）	10.AL	10.高橋	10.実験（8）	10.AL	10.高橋
11.実験（9）	11.AL	11.高橋	11.実験（9）	11.AL	11.高橋
12.実験（10）	12.AL	12.高橋	12.実験（10）	12.AL	12.高橋
13.実験結果検討会	13.AL	13.高橋	13. 実験結果検討会	13.AL	13.高橋
14.抄読会	14.AL	14.高橋	14. 抄読会	14.AL	14.高橋
15.英語論文執筆法	15.講義	15.高橋	15. 英語論文執筆法	15.講義	15.高橋
2年次	2年次	2年次	2年次	2年次	2年次
1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋	1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋
2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋	2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋
3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋	3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋
4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋	4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋
5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋	5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋
6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋	6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋
7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋	7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋
8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋	8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋
9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋	9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋
10.実験（8）	10.AL	10.高橋	10.実験（8）	10.AL	10.高橋
11.実験（9）	11.AL	11.高橋	11.実験（9）	11.AL	11.高橋
12.実験（10）	12.AL	12.高橋	12.実験（10）	12.AL	12.高橋
13.実験結果検討会	13.AL	13.高橋	13. 実験結果検討会	13.AL	13.高橋
14.抄読会	14.AL	14.高橋	14. 抄読会	14.AL	14.高橋
15.英語論文執筆法	15.講義	15.高橋	15. 英語論文執筆法	15.講義	15.高橋
3年次	3年次	3年次	3年次	3年次	3年次
1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋	1. 分子細胞生物学特別講義	1. 講義	1. 高橋
2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋	2. 分子細胞生物学実験法	2. 講義	2. 高橋
3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋	3. 実験（1）	3. AL	3. 高橋
4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋	4. 実験（2）	4. AL	4. 高橋
5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋	5. 実験（3）	5. AL	5. 高橋
6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋	6. 実験（4）	6. AL	6. 高橋
7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋	7. 実験（5）	7. AL	7. 高橋
8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋	8. 実験（6）	8. AL	8. 高橋
9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋	9. 実験（7）	9. AL	9. 高橋
10.実験（8）	10.AL	10.高橋	10.実験（8）	10.AL	10.高橋
11.実験（9）	11.AL	11.高橋	11. 実験結果検討会	11.AL	11.高橋
12.実験結果検討会	12.AL	12.高橋	12. 抄読会	12.AL	12.高橋
13.抄読会	13.AL	13.高橋	13. 英語論文執筆法	13.講義	13.高橋

14.英語論文執筆法 15.英語論文執筆	14.講義 15.AL	14.高橋 15.高橋	14. 英語論文執筆 15. 論文発表会	14.AL 15.AL	14.高橋 15.高橋

教科書１	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。
教科書２	
参考書１	Essential Cell Biology (英語) 著者: Bruce Alberts (著), Karen Hopkin (著), Alexander D. Johnson (著), David Morgan (著), Martin Raff (著) 出版社:W W Norton & Co Inc ISBN:978-0393680379
参考書２	細胞の分子生物学 第6版 著者:ALBERTS (著), JOHNSON (著), LEWIS (著), MORGAN (著), RAFF (著), ROBERTS (著), WALTER (著), 中村桂子 (翻訳), 松原謙一 (翻訳), 青山聖子 (翻訳), 斉藤英裕 (翻訳), 滋賀陽子 (翻訳), 田口マミ子 (翻訳), 滝田郁子 (翻訳), 中塚公子 (翻訳), 羽田裕子 (翻訳), 船田晶子 (翻訳), 宮下悦子 (翻訳) 出版社:ニュートンプレス ISBN:978-4315520620

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	平上　二九三					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	12	時間数	180	授業形態	講義
テーマと到達目標	博士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。後半は英語の読解力を高める。臨床上や研究上の疑問から研究課題を見つけ出し、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等について学び、その成果を研究論文としてまとめることができることを目標とする。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、理学療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験を 活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発表状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	・6号館4階の平上研究室において毎週木曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次		
1. 博士課程における研究の概要	講義	平上	1. 研究テーマの検討と策定	AL	平上
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	平上	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	平上
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	AL	平上	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	平上
4. 研究と倫理1	講義	平上	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	平上
5. 研究と倫理2	講義	平上	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	平上
6. 参考文献の調査	講義	平上	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	平上
7. 研究テーマの作成	講義	平上	7. 研究テーマの確定	AL	平上
8. 研究対象者の選択	講義	平上	8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	平上
9. 測定方法の計画1	講義	平上	9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	平上
10. 測定方法の計画2	講義	平上	10. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	平上
11. サンプルサイズの推定1	講義	平上	11. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	平上
12. サンプルサイズの推定2	講義	平上	12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	平上
13. 研究デザイン（コホート研究）	講義	平上	13. 研究計画書の作成1：	AL	平上
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	講義	平上	14. 研究計画書の作成2	AL	平上
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	講義	平上	15. 研究計画書の決定	AL	平上
2年次			2年次		
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	平上	1. 本実験と問題点のディスカッション5	AL	平上
2. 実験における問題点のディスカッション1	AL	平上	2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	平上
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	平上	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	平上
4. プレ実験1	AL	平上	4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	平上
5. プレ実験2	AL	平上	5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	平上
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	平上	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	平上
7. プレ実験3	AL	平上	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	平上
8. プレ実験4	AL	平上	8. 中間発表の問題点の整理	AL	平上
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	平上	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	平上
10. 実験方法の最終確定	AL	平上	10.本実験と問題点のディスカッション10	AL	平上
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	平上	11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	平上
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	平上	12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	平上
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	平上	13. 本実験と問題点のディスカッション	AL	平上
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	平上			
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	平上			
3年次					
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	平上			
2. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	平上			
3. 本実験と問題点のディスカッション	AL	平上			

16 4. 本実験と問題点のディスカッション 17 5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3 6. 本実験と問題点のディスカッション 18 7. 本実験と問題点のディスカッション 19 8. 本実験と問題点のディスカッション 20 9. 本実験と問題点のディスカッション 21 10. 本実験と問題点のディスカッション22 11.実験結果の収集、整理1 12.実験結果の収集整理2 13.実験結果の統計処理1 14.院生による実験結果報告とディスカッション	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上	14 14. 本実験と問題点のディスカッション 15 15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2 3年次 1. 博士論文作成の概要 2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認 3.研究方法・実験方法の整理と確認 4.実験結果の統計処理の整理と確認1 5. 実験結果の統計処理の整理と確認2 6. 実験結果に対する考察1 7. 実験結果に対する考察2 8. 実験結果に対する考察3 9. 論文作成1 10. 論文作成2 11. 論文作成3 12.論文作成4 13.院生による作成論文の発表とディスカッション1 14. 論文作成・発表(試験)	AL AL 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上 平上

教科書１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	齋藤　圭介					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、博士論文の研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を論文としてまとめることができる。						
概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表、論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して、指導する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて、木曜日の3時限目に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.保健科学研究領域の概要	講義	齋藤	（1年次）		
2.研究テーマの策定	AL	齋藤	1. 研究計画の策定	講義	齋藤
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	齋藤	2.参考文献の調査	AL	齋藤
4.研究テーマに関する先行研究の調査			3.参考文献の精読	AL	齋藤
5.研究テーマに関する先行研究の概要発表	AL	齋藤	4.調査方法の検討	AL	齋藤
6.概要発表の講評	AL	齋藤	5.調査方法の確定	AL	齋藤
7.研究テーマと先行研究の比較			6.調査の実施	AL	齋藤
8.研究テーマの確定	AL	齋藤	7.調査結果の収集	AL	齋藤
9.中間フォロー	AL	齋藤	8.調査結果の整理	AL	齋藤
10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成	AL	齋藤	9.研究進捗状況報告書の概要説明	AL	齋藤
11.研究計画調書の確認および講評	AL	齋藤	10.研究進捗状況報告書の作成	AL	齋藤
12.研究計画調書の完成	AL	齋藤	11.研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	齋藤
13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	齋藤	12.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗	AL	齋藤
14.研究計画調書発表資料の確認及び講評	AL	齋藤	13.調査方法の見直し	AL	齋藤
15.研究計画調書発表資料の完成	AL	齋藤	14.調査の再実施	AL	齋藤
（2年次）			15.調査結果の再集計，他まとめ	AL	齋藤
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	齋藤	（2年次）		
2. 実験における問題点のディスカッション1	講義	齋藤	1. 本実験と問題点のディスカッション5	講義	齋藤
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	齋藤	2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	齋藤
4. プレ実験1	AL	齋藤	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	齋藤
5. プレ実験2			4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	齋藤
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	齋藤	5. 実験結果の中間収集、整理1		
7. プレ実験3	AL	齋藤	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	原田
8. プレ実験4	AL	齋藤	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	原田
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	齋藤	8. 中間発表の問題点の整理	AL	原田
10. 実験方法の最終確定	AL	齋藤	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	原田
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	齋藤	10. 本実験と問題点のディスカッション10	AL	原田
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	齋藤	11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	原田
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	齋藤	12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	原田
14. 本実験と問題点のディスカッション4			13. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	原田
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	齋藤	14. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	原田
（3年次）			15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2	AL	原田
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	齋藤	（3年次）		
2. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	齋藤	1. 博士論文作成の概要	AL	原田
3. 本実験と問題点のディスカッション16			2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	原田
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	齋藤			
5. 本実験結果の中間報告とディス	AL	齋藤			

カッション3 6. 本実験と問題点のディスカッション18 7. 本実験と問題点のディスカッション19 8. 本実験と問題点のディスカッション20 9. 本実験と問題点のディスカッション21 10. 本実験と問題点のディスカッション22 11.実験結果の収集、整理1 12.実験結果の収集整理2 13.実験結果の統計処理1 14.実験結果の統計処理2 15.院生による実験結果報告とディスカッション	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤	3. 研究方法・実験方法の整理と確認 4.実験結果の統計処理の整理と確認1 5. 実験結果の統計処理の整理と確認2 6. 実験結果に対する考察1 7. 実験結果に対する考察2 8. 実験結果に対する考察3 9. 論文作成1 10. 論文作成2 11. 論文作成3 12.論文作成4 13.院生による作成論文の発表とディスカッション1 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2 15.論文作成・発表(試験)	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田 原田

教科書１	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 出版社:ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ISBN:ISBN 978-4895927833
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	水谷　雅年					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床上や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることが出来る。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の水谷研究室において、毎週月曜日の4～5限目をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次		
1. 博士課程における研究の概要	講義	水谷	1. 研究テーマの検討と策定	AL	水谷
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理1	AL	水谷	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	水谷
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理2	AL	水谷	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	水谷
4. 研究と倫理1	講義	水谷	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	水谷
5. 研究と倫理2	講義	水谷	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	水谷
6. 参考文献の調査	講義	水谷	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	水谷
7. 研究テーマの作成	講義	水谷	7. 研究テーマの確定	AL	水谷
8. 研究対象者の選択	講義	水谷	8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定1	AL	水谷
9. 測定方法の計画1	講義	水谷	9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定2	AL	水谷
10. 測定方法の計画2	講義	水谷	10. 研究テーマに沿った測定方法の計画1	AL	水谷
11. サンプルサイズの推定1	講義	水谷	11. 研究テーマに沿った測定方法の計画2	AL	水谷
12. サンプルサイズの推定2	講義	水谷	12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	水谷
13. 研究デザイン（コホート研究）	講義	水谷	13. 研究計画書の作成1：	AL	水谷
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	講義	水谷	14. 研究計画書の作成2	AL	水谷
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	講義	水谷	15. 研究計画書の決定	AL	水谷
2年次			2年次		
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	水谷	1. 本実験と問題点のディスカッション5	AL	水谷
2. 実験における問題点のディスカッション1	AL	水谷	2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	水谷
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	水谷	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	水谷
4. プレ実験1	AL	水谷	4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	水谷
5. プレ実験2	AL	水谷	5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	水谷
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	水谷	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	水谷
7. プレ実験3	AL	水谷	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	水谷
8. プレ実験	AL	水谷	8. 中間発表の問題点の整理	AL	水谷
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	水谷	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	水谷
10. 実験方法の最終確定	AL	水谷	10.本実験と問題点のディスカッション10	AL	水谷
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	水谷	11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	水谷
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	水谷	12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	水谷
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	水谷	13. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	水谷
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	水谷	14. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	水谷
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	水谷 〃	15. 本実験結果の中間報告とディスカッ	AL	水谷
3年次					
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	水谷			
2. 本実験と問題点のディスカッ	AL	水谷			

ション15			ション2		
3. 本実験と問題点のディスカッション16	AL	水谷	3年次		
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	水谷	1. 博士論文作成の概要	講義	水谷
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	水谷	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	水谷
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	水谷	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	AL	水谷
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	水谷	4. 実験結果の統計処理の整理と確認1	AL	水谷
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	水谷	5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	AL	水谷
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	水谷	6. 実験結果に対する考察1	AL	水谷
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	水谷	7. 実験結果に対する考察2	AL	水谷
11.実験結果の収集、整理1	AL	水谷	8. 実験結果に対する考察3	AL	水谷
12.実験結果の収集整理2	AL	水谷	9. 論文作成1	AL	水谷
13.実験結果の統計処理1	AL	水谷	10. 論文作成2	AL	水谷
14.実験結果の統計処理2	AL	水谷	11. 論文作成3	AL	水谷
15.院生による実験結果報告とディスカッション	AL	水谷	12.論文作成4	AL	水谷
			13.院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	水谷
			14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	水谷
			15.論文作成・発表（試験）	AL	水谷

教科書１	実験に関連した論文
教科書２	
参考書１	日本人のための医学英語論文執筆ガイド 著者:Amanda Tompson 相川直樹 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-00476-3
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	加納　良男					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床現場等において人体の構造と働き等についての疑問から研究課題をみつけ、その研究課題を解明するための技術である細胞実験法や分子生物学実験法等を学び、その成果を研究論文にまとめることを目標とする。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や細胞実験法と分子生物学実験法等について指導し、文献を読み思考能力を高めるようにする。そして臨床現場等における疑問を解決できる研究仮説を立案し、実験の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、細胞実験法と分子生物学実験法等について指導し、学会発表、英語論文の投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	細胞実験法と分子生物学実験法等の技術の取得能力とテーマを掘り下げていく研究姿勢（20%）、得られたデータの論理的説明（20%）について評価し、さらに作成された論文の妥当性、世界の科学技術における貢献度等を総合的に評価する（60%）。なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名と2名の福指導教員によって行う。自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日3、4、5限目、6号館4階加納研究室（6409号室）にて						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次	AL	加納
1.博士課程における研究の概要	講義	加納	1. 研究テーマの検討	AL	加納
2.研究疑問の科学的背景の整理1		加納	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	加納
3. 研究疑問の科学的背景の整理2		加納			
4. 研究と倫理1	講義	加納	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査1	AL	加納
5. 研究と倫理2	講義	加納			
6. 参考文献の検索	講義	加納	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査2	AL	加納
7. 研究テーマの作成	講義	加納			
8. 研究対象物である細胞や遺伝子の選択	講義	加納	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査3	AL	加納
9. 細胞実験法の確認1	講義	加納	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	加納
10.細胞実験法の確認2	講義	加納			
11.遺伝子実験法の確認1	講義	加納	7. 研究テーマの確認	AL	加納
12.遺伝子実験法の確認2	講義	加納	8. 研究テーマに沿った細胞実験法の確認1	AL	加納
13.研究デザイン1	講義	加納			
14.研究デザイン2	講義	加納	9. 研究テーマに沿った細胞実験法の確認2	AL	加納
15.研究デザイン3	講義	加納			
2年次		加納	10. 研究テーマに沿った細胞実験法の確認3	AL	加納
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	加納			
2. 実験における問題点のデスカッション1	AL	加納	11. 研究テーマに沿った遺伝子実験法の確認1	AL	加納
3. 実験における問題点のデスカッション2	AL	加納	12. 研究テーマに沿った遺伝子実験法の確認2	AL	加納
4. 予備実験1	AL	加納	13. 研究テーマに沿った遺伝子実験法の確認3	AL	加納
5. 予備実験2	AL	加納			
6. 予備実験における問題点の検討1	AL	加納	14. 研究計画書の作成	AL	加納
			15. 研究計画の決定	AL	加納
7. 予備実験3	AL	加納	2年次		
8. 予備実験4	AL	加納	1. 本実験と問題点のデスカッション5	AL	加納
9. 予備実験における問題点の検討2	AL	加納	2. 本実験と問題点のデスカッション6	AL	加納
10. 実験方法の最終決定	AL	加納			
11. 本実験と問題点のデスカッション1	AL	加納	3. 本実験と問題点のデスカッション7	AL	加納
12. 本実験と問題点のデスカッション2	AL	加納	4. 本実験と問題点のデスカッション8	AL	加納
13. 本実験と問題点のデスカッション3	AL	加納	5. 本実験結果の中間収集、整理1	AL	加納
			6. 本実験結果の中間収集、整理1	AL	加納
14. 本実験と問題点のデスカッション4	AL	加納	7. 院生による実験結果中間発表とデスカッション	AL	加納
15. 本実験の中間報告と問題点のデスカッション	AL	加納	8. 中間発表の問題点の整理	AL	加納
			9. 本実験と問題点のデスカッション9	AL	加納
3年次					
1. 本実験と問題点のデスカッション14	AL	加納	10. 本実験と問題点のデスカッション10	AL	加納
2. 本実験と問題点のデスカッション15	AL	加納	11. 本実験と問題点のデスカッション11	AL	加納
3. 本実験と問題点のデスカッション16	AL	加納	12. 本実験と問題点のデスカッション12	AL	加納
4. 本実験と問題点のデスカッション17	AL	加納	13. 本実験と問題点のデスカッション13	AL	加納
5. 本実験の中間報告と問題点のデスカッション3	AL	加納	14. 本実験と問題点のデスカッション14	AL	加納
6. 本実験と問題点のデスカッション18	AL	加納	15. 本実験の中間報告と問題点のデスカッション2	AL	加納

7. 本実験と問題点のデスカッション19	AL	加納	3年次 1. 博士論文作成の概要	AL	加納
8. 本実験と問題点のデスカッション20	AL	加納	2.研究テーマの科学的背景の整理と確認	AL	加納
9. 本実験と問題点のデスカッション21	AL	加納	3.研究方法、実験方法の整理と確認	AL	加納
10. 本実験と問題点のデスカッション22	AL	加納	4.実験結果の統計処理の整理と確認	AL	加納
11. 実験結果の収集、整理1	AL	加納	5.実験結果に対する考察1	AL	加納
12. 実験結果の収集、整理2	AL	加納	6.実験結果に対する考察2	AL	加納
13. 実験結果の統計処理1	AL	加納	7.実験結果に対する考察3	AL	加納
14. 実験結果の統計処理2	AL	加納	8.実験結果に対する考察4	AL	加納
15. 院生による実験結果報告とデスカッション	AL	加納	9.論文作成1	AL	加納
			10.論文作成2	AL	加納
			11.論文作成3	AL	加納
			12.論文作成4	AL	加納
			13. 院生による作成論文の発表とデスカッション1	AL	加納
			14. 院生による作成論文の発表とデスカッション2	AL	加納
			15.論文作成、発表(試験)	AL	加納

教科書１	
教科書２	
参考書１	THE CELL 著者:Alberts et al 出版社:Garland Science ISBN:0-8153-4072-9
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究					履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期
担当者	中角　祐治					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）					年次	1
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	作業療法への神経生理検査の応用						
概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、F波やH反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。						
評価方法	期末試験（100%）試験結果について文章でフィードバックします。						
履修条件・注意事項	学部の学生時代の生理学、臨床神経学を見直すこと						
自己学習	予習復習に各2時間を要す						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜3限、6号館4階、6411研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次		
1;臨床神経生理学の歴史	講義	中角	1;針筋電図の概要	講義	中角
2;神経生理の基礎	講義	中角	2;刺入時電位と安静時電位	講義	中角
3;末梢神経の構造と機能	講義	中角	3;運動単位電位	講義	中角
4;神経筋接合部の構造と機能	講義	中角	4;単一筋線維筋電図	講義	中角
5;筋線維と運動単位	講義	中角	5;症例1	講義	中角
6;検査装置と器具	講義	中角	6;症例2	講義	中角
7;神経伝導検査の基本原理	講義	中角	7;症例3	講義	中角
8;遅発電位とその臨床的意義	講義	中角	8;症例4	講義	中角
9;H反射について	講義	中角	9;症例5	講義	中角
10;F波について	講義	中角	10;症例6	講義	中角
11;神経伝導検査の実際	講義	中角	11;神経筋の解剖	講義	中角
12;神経筋接合部の検査法	講義	中角	12;局所診断	講義	中角
13;脳幹部反射	講義	中角	13;生体信号の測定原理	講義	中角
14;磁気刺激による運動誘発電位	講義	中角	14;筋電図用語	講義	中角
15;体性感覚誘発電位	講義	中角	15;記録波形の実際	講義	中角
16;期末試験			16;期末試験		
2年次			2年次		
1. 研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務	講義	中角	.データ収集1	実習	中角
			2.データ収集2	実習	中角
2. 研究の基本的なプロセス	講義	中角	3.データ収集3	実習	中角
3. 研究疑問の吟味	講義	中角	4.データ収集4	実習	中角
4. 系統的文献検索（1）	講義	中角	5.データ収集5	実習	中角
5. 系統的文献検索（2）	講義	中角	6.データ収集6	実習	中角
6. 研究課題と研究デザイン（1）	講義	中角	7.データ収集7	実習	中角
7. 研究課題と研究デザイン（2）	講義	中角	8.データ解析	実習	中角
8. 研究対象者及びサンプルサイズの決定	講義	中角	9.データ収集8	実習	中角
			10.データ収集9	実習	中角
9. 測定方法の計画（1）	講義	中角	11.データ収集10	実習	中角
10. 測定方法の計画（2）	講義	中角	12.データ収集11	実習	中角
11. 研究計画書の作成	講義	中角	13.データ収集12	実習	中角
12. 研究計画書に関するディスカッション	講義	中角	14.データ収集13	実習	中角
			15.データ収集14	実習	中角
13. 原著論文のまとめ方	講義	中角	16.. まとめ	実習	中角
14. 学会発表の方法	講義	中角	3年次		
15. 期末試験	講義	中角	1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	中角
16.まとめ			2. 実験における問題点のディスカッション（1）	講義	中角
3年次					
1.データ収集1	実習	中角	3. 実験における問題点のディスカッション（2）	講義	中角
2.データ収集2	実習	中角			
3.データ収集3	実習	中角	4. 実験結果の統計処理（1）	講義	中角
4.データ収集4	実習	中角	5. 実験結果の統計処理（2）	講義	中角
5.データ収集5	実習	中角	6. 実験結果の考察（1）	講義	中角
6.データ収集6	実習	中角	7. 実験結果の考察（2）	講義	中角
7.データ収集7	実習	中角	8. 研究論文作成法	講義	中角
8.データ解析	実習	中角	9. 研究発表方法	講義	中角
9.データ収集8	実習	中角	10. 院生のプレゼンテーションとディスカッション	講義	中角
10.データ収集9	実習	中角			
11.データ収集10	実習	中角	11. 院生のプレゼンテーションとディスカッション	講義	中角
12.データ収集11	実習	中角			

13.データ収集12 14.データ収集13 15.データ収集14 16.. まとめ	実習 実習 実習 実習	中角 中角 中角	12. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 13. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 14. 院生のプレゼンテーションとディスカッション 15. まとめ（最終評価）	講義 講義 講義 講義	中角 中角 中角

教科書１	Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle 著者：Jun Kimura 出版社：F.A. Davis ISBN：0-8036-5341-7
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	原田　和宏					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習

テーマと到達目標	「脳血管障害における長期予後の特性および介入効果に関する実証的研究」,「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」,「地域高齢者の評価に関する研究」の方法論に関して，博士論文研究を行うのに必要な手続き，態度および方法について指導し，研究成果を論文としてまとめることができる。
概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積，分析，論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表，論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して，指導する.
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
（1年次）			（1年次）		
1.保健科学研究領域の概要	講義	原田	1. 研究計画の策定	講義	原田
2.研究テーマの策定	AL	原田	2.参考文献の調査	AL	原田
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	原田	3.参考文献の精読	AL	原田
			4.調査方法の検討	AL	原田
4.研究テーマに関する先行研究の調査	AL	原田	5.調査方法の確定	AL	原田
			6.調査の実施	AL	原田
5.研究テーマに関する先行研究の概要発表	AL	原田	7.調査結果の収集	AL	原田
			8.調査結果の整理	AL	原田
6.概要発表の講評	AL	原田	9.研究進捗状況報告書の概要説明	AL	原田
7.研究テーマと先行研究の比較	AL	原田	10.研究進捗状況報告書の作成	AL	原田
8.研究テーマの確定	AL	原田	11.研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	原田
9.中間フォロー	AL	原田			
10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成	AL	原田	12.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗	AL	原田
11.研究計画調書の確認および講評	AL	原田	13.調査方法の見直し	AL	原田
12.研究計画調書の完成	AL	原田	14.調査の再実施	AL	原田
13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	原田	15.調査結果の再集計，他まとめ	AL	原田
			（2年次）		
14.研究計画調書発表資料の確認及び講評	AL	原田	1. 本実験と問題点のディスカッション5	講義	原田
15.研究計画調書発表資料の完成	AL	原田	2. 本実験と問題点のディスカッション6	AL	原田
（2年次）					
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	原田	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	原田
2. 実験における問題点のディスカッション1	AL	原田			
			4. 本実験と問題点のディスカッション8	AL	原田
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	原田			
			5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	原田
4. プレ実験1	AL	原田	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	原田
5. プレ実験2	AL	原田	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	原田
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	原田			
7. プレ実験3	AL	原田	8. 中間発表の問題点の整理	AL	原田
8. プレ実験4	AL	原田	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	原田
9. プレ実験における問題点の検討2	AL	原田			
10. 実験方法の最終確定	AL	原田	10. 本実験と問題点のディスカッション10	AL	原田
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	原田			
			11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	原田
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	原田			
			12. 本実験と問題点のディスカッション12	AL	原田
13. 本実験と問題点のディスカッション3	AL	原田			
			13. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	原田
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	原田			
			14. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	原田
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	原田	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2	AL	原田
（3年次）			（3年次）		
1. 本実験と問題点のディスカッション14	AL	原田	1. 博士論文作成の概要	AL	原田
2. 本実験と問題点のディスカッション15	AL	原田	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認	AL	原田
3. 本実験と問題点のディスカッション	AL	原田	3. 研究方法・実験方法の整理と確認	AL	原田

16			4.実験結果の統計処理の整理と確認1	AL	原田
4. 本実験と問題点のディスカッション17	AL	原田	5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	AL	原田
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	原田	6. 実験結果に対する考察1	AL	原田
6. 本実験と問題点のディスカッション18	AL	原田	7. 実験結果に対する考察2	AL	原田
7. 本実験と問題点のディスカッション19	AL	原田	8. 実験結果に対する考察3	AL	原田
8. 本実験と問題点のディスカッション20	AL	原田	9. 論文作成1	AL	原田
9. 本実験と問題点のディスカッション21	AL	原田	10. 論文作成2	AL	原田
10. 本実験と問題点のディスカッション22	AL	原田	11. 論文作成3	AL	原田
11.実験結果の収集、整理1	AL	原田	12.論文作成4	AL	原田
12.実験結果の収集整理2	AL	原田	13.院生による作成論文の発表とディスカッション1	AL	原田
13.実験結果の統計処理1	AL	原田	14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2	AL	原田
14.実験結果の統計処理2	AL	原田	15.論文作成・発表（試験）	AL	原田
15.院生による実験結果報告とディスカッション	AL	原田			

教科書１	医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ　第3版 出版社：ﾒﾃﾞｨｶﾙ・ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ ISBN：ISBN 978-4-89592-583-9
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究					履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期
担当者	服部　俊夫					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）					年次	1
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	骨から由来するオステオポンチンなどの蛋白の感染・免疫に及ぼす影響						
概要	オステオポンチンの組織での局在を細胞株、組織で解析し、感染・免疫疾患において、どのような役割をするかを研究する。同時に同じマトセルラー蛋白であるgalectin-9についても検討し、比較する。						
評価方法	実験データーや、それに関する研究現況の把握。 レポートの提出後はその内容に関してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週木曜日午前11時から12時 6号館　408						

春学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	AL	服部
1. 博士課程における研究の概要	AL	服部
2. 臨床疑問、研究疑問の発表	AL	服部
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理	AL	服部
4. 研究と倫理（臨床研究）	AL	服部
5. 研究と倫理（実験研究）	AL	服部
6. 参考文献の調査	AL	服部
7. 研究テーマの作成	AL	服部
8. 研究対象者の選択	AL	服部
9. 測定方法の計画（臨床研究）	AL	服部
10. 測定方法の計画（実験研究）	AL	服部
11. サンプルサイズの推定	AL	服部
12. サンプルサイズの推定・実技	AL	服部
13. 研究デザイン（コホート研究）	AL	服部
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	AL	服部
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	AL	服部
2年次	AL	服部
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	服部
2. 実験における問題点の発表	AL	服部
3. 実験における問題点のディスカッション	AL	服部
4. プレ実験概要説明	AL	服部
5. プレ実験試行	AL	服部
6. プレ実験における問題点の検討	AL	服部
7. 改善プレ実験の概要説明	AL	服部
8. 改善プレ実験試行	AL	服部
9. プレ実験における問題点の検討	AL	服部
10. 実験方法の最終確定	AL	服部
11. 本実験と問題点のまとめ	AL	服部
12. 本実験と問題点の報告	AL	服部
13. 本実験と問題点のディスカッション	AL	服部
14. 本実験と問題点のディスカッションのまとめ	AL	服部
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	服部
3年次	AL	服部
1. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の再確認）	AL	服部
2. 本実験と問題点のディスカッション（実験方法の再確認）	AL	服部
3. 本実験と問題点のディスカッション（実験器具の再確認）	AL	服部
4. 本実験と問題点の整理	AL	服部
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	服部
6. 本実験と問題点のディスカッション（実験における正確性の再確認）	AL	服部
7. 本実験と問題点のディスカッション（検者内信頼性の検討方法）	AL	服部
8. 本実験と問題点のディスカッション（検者内信頼性の検討）	AL	服部
9. 本実験と問題点のディスカッション	AL	服部

秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	AL	服部
1. 研究テーマの検討と策定	AL	服部
2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	服部
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査・国内	AL	服部
4. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外	AL	服部
5. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外文献の精査	AL	服部
6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	服部
7. 研究テーマの確定	AL	服部
8. 研究テーマにおける従属変数の選定	AL	服部
9. 研究テーマにおける独立変数の選定	AL	服部
10. 研究テーマに沿った測定方法の計画案策定	AL	服部
11. 研究テーマに沿った測定方法の計画案の検討	AL	服部
12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	服部
13. 研究計画書の作成	AL	服部
14. 研究計画書の作成作成案の検討	AL	服部
15. 研究計画書の決定	AL	服部
2年次	AL	服部
1. 本実験と問題点のディスカッション（対象の選定）	AL	服部
2. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の問題）	AL	服部
3. 本実験と問題点のディスカッション（実験精度の問題）	AL	服部
4. 本実験と問題点のディスカッション（まとめ）	AL	服部
5. 実験結果の中間収集、整理	AL	服部
6. 実験結果の中間報告書作成	AL	服部
7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	服部
8. 中間発表の問題点の整理	AL	服部
9. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の確認）	AL	服部
10.本実験と問題点のディスカッション（実験手技の確認）	AL	服部
11. 本実験と問題点のディスカッション（実験器具の確認）	AL	服部
12. 本実験と問題点のディスカッション（実験精度の確認）	AL	服部
13. 本実験と問題点の整理	AL	服部
14. 本実験全般における問題点のディスカッション	AL	服部
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	服部
3年次	AL	服部
1. 博士論文作成の概要	AL	服部

(検者間信頼性の検討方法) 10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討) 11.実験結果の収集 12.実験結果の収集整理 13.実験結果の統計処理方法の検討 14.実験結果の統計処理 15.院生による実験結果報告とディスカッション			2.研究テーマの社会的背景の整理と確認 3.研究方法・実験方法の整理と確認 4.実験結果の統計処理の整理 5. 実験結果の統計処理の確認 6. 実験結果に対する考察整理 7. 実験結果に対する考察問題点の抽出 8. 実験結果に対する考察まとめ 9. 論文作成(緒論) 10. 論文作成(方法) 11.論文作成(考察) 12.論文作成(まとめ) 13.院生による作成論文の発表スライド作成 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 15.論文作成・発表(試験)		

教科書１	Janeway's immunobiology 9th ed. Garland Science ISBN: 978-0-8153-4551-0
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究			履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期		
担当者	寺崎　智行					NO.	K3D05141T
配当学科	保健学科研究科(博士後期)			年次	1		
必修・選択	必須	単位数	12	時間数	180	授業形態	講義
テーマと到達目標	研究課題を定め、研究論文作成のために必要な、手続き、知識、取り組む姿勢および方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。						
概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や原著などを理解し、文献の検索やその読解力磨き、思考力を高める。その結果、研究仮説を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成まで行う。						
評価方法	完成論文の内容(50%)と研究発表会における質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。評価のため実施した課題等は、授業でフィールドバックするので最終講義までに見直しておく。						
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ集積、分析、考察を行う等、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。						
自己学習	研究内容に関する最新の論文を読み、その理解を深めることが重要である。他国の論文を理解するには時間を要するが、内容を整理することで論文作成に重要となる。予習として、論文概要を把握し、復習として、授業中検討した論文の内容を深く理解する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	木曜2限、6号館4階6420研究室						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次 1;研究の概要 2;研究疑問の発表 3;研究疑問の整理 4;研究と倫理(看護研究) 5;研究と倫理(臨床研究) 6;参考文献の調査 7;研究テーマの作成 8;研究対象の選択 9;研究デザイン 2年次 1;研究対象に対する倫理的配慮 2;研究における問題点の発表 3;研究における問題点に対するディスカッション 4;研究における問題点に対するディスカッションのまとめ 5;研究の中間報告 3年次 1;中間報告の問題点 2;中間報告の問題点にたいするディスカッション 3;中間報告の問題点にたいするディスカッションの整理 4;中間報告の問題点のまとめ 5;研究の修正	講義 講義 講義 講義 講義 講義	寺崎 寺崎	1年次 1;研究計画内容、仮説の再検討 3;研究テーマに基づいた文献の分析方法 4;研究テーマに基づいた文献の先行研究との比較 5;研究テーマに基づいた文献の図表等の表し方 6;研究テーマに基づいた文献のまとめ 7;研究テーマの確定 8;データの集積 9;データ入力 10;データ生理 11;データ分析1 12;データ分析2 13;データ分析結果の検討 2年次 1;プレゼンテーション技術(スライド作成について) 2;プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について) 3;中間発表とディスカッション 4;中間発表の問題点の整理 5;結果に対する考察の検討1 7;結果に対する考察の検討2 8;結果に対する考察の検討3 3年次 1;研究論文作成1(目的) 2;研究論文作成目的2(意義) 3;研究論文作成3(方法) 4;研究論文作成4(結果) 5;研究論文作成5(考察) 6;研究論文作成6(結論) 7;結論の検討 8;看護への活用 9;論論文の完成に向けての注意事項 10;研究論文の作成・発表	講義 講義	寺崎 寺崎

教科書１	
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究					履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期
担当者	京極　真					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）					年次	1
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習

テーマと到達目標	テーマ：大学院生は、研究遂行に必要な方法を理解し、研究論文を完成させる。 到達目標： 大学院生は、研究遂行に必要な方法を理解することができる。 大学院生は、研究法の基礎的な知識を得ることができる。 大学院生は、研究遂行を継続して行い、研究論文を完成させることができる。
概要	この講義では、先行研究の収集、分析し、読解力を養い、思考能力を高めることを行う。また、先行研究の分析を行いながら研究仮説を立案し、大学院生には研究計画を立案させる。研究計画の実施は、データの集積、分析、学会発表、論文執筆などを行う。
評価方法	研究指導全過程を通して評価する。 評価の配分は以下の通りである。 ・積極的な研究態度・・・20% ・文献読解と研究課題の設定と研究法の理解・・・20% ・明確な質疑応答と論理的な考察・・・20% ・作成された論文の妥当性、信頼性、倫理的配慮・・・40% なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	院生の積極的な研究遂行が求められる。 研究指導は、主指導教員1名と副指導教員2名で行う。 院生は、自ら課題を見つけて、自らの思考力を鍛え、明確な質疑応答を行う努力が必要である。
自己学習	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	曜日：月曜5限目、金曜5限目 場所：6号館4階6428号室

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
【1年次】			【1年次】		
1. 研究の概要	講義	京極	1. 研究テーマの検討と策定	AL	京極
2. 研究疑問の社会的背景の検討1	講義	京極	2. 基礎知識の確認	AL	京極
3. 研究疑問の社会的背景の検討2	講義	京極	3. 先行研究の調査1	AL	京極
4. 研究倫理1	講義	京極	4. 先行研究の調査2	AL	京極
5. 研究倫理2	講義	京極	5. 先行研究の調査3	AL	京極
6. 先行研究の調査	講義	京極	6. 先行研究のまとめ	AL	京極
7. 研究テーマの作成	講義	京極	7. 研究テーマの確定	AL	京極
8. 対象者の選択	講義	京極	8. 命題の選定1	AL	京極
9. 理論的研究（哲学）	講義	京極	9. 命題の選定2	AL	京極
10. 理論的研究（メタ理論工学）	講義	京極	10. 方法の計画1	AL	京極
11. 質的研究（GTA、KJ）	講義	京極	11. 方法の計画2	AL	京極
12. 質的研究（SCRM）	講義	京極	12. サンプルの決定	AL	京極
13. 量的研究（疫学、SEM）	講義	京極	13. 研究計画書の作成1：	AL	京極
14. 量的研究（GLMM、HBA）	講義	京極	14. 研究計画書の作成2	AL	京極
15. 混合研究法	講義	京極	15. 研究計画書の決定	AL	京極
【2年次】			【2年次】		
1. 対象のリクルート	AL	京極	1. 本研究と問題点の議論5	AL	京極
2. 研究における問題点の議論1	AL	京極	2. 本研究と問題点の議論6	AL	京極
3. 研究における問題点の議論2	AL	京極	3. 本研究と問題点の議論7	AL	京極
4. プレ研究1	AL	京極	4. 本研究と問題点の議論8	AL	京極
5. プレ研究2	AL	京極	5. 研究結果の中間収集、整理1	AL	京極
6. プレ研究の問題点の検討1	AL	京極	6. 研究結果の中間収集、整理2	AL	京極
7. プレ研究3	AL	京極	7. 中間発表と議論	AL	京極
8. プレ研究4	AL	京極	8. 中間発表の問題点の整理	AL	京極
9. プレ研究における問題点の検討2	AL	京極	9. 本研究と問題点の議論9	AL	京極
10. 研究法の最終確定	AL	京極	10.本研究と問題点の議論10	AL	京極
11. 本研究と問題点の議論1	AL	京極	11. 本研究と問題点の議論11	AL	京極
12. 本研究と問題点の議論2	AL	京極	12. 本研究と問題点の議論12	AL	京極
13. 本研究と問題点の議論3	AL	京極	13. 本研究と問題点の議論14	AL	京極
14. 本研究と問題点の議論4	AL	京極	14. 本研究と問題点の議論15	AL	京極
15. 本研究結果の中間報告と議論1	AL	京極	15. 本研究結果の中間報告と議論2	AL	京極
【3年次】			【3年次】		
1. 本研究と問題点の議論14	AL	京極	1. 博士論文作成の概要	AL	京極
2. 本研究と問題点の議論15	AL	京極	2.　社会的背景の整理と確認	AL	京極
3. 本研究と問題点の議論16	AL	京極	3.研究方法の整理と確認	AL	京極
4. 本研究と問題点の議論17	AL	京極	4.研究結果の整理と確認1	AL	京極
5. 本研究結果の中間報告と議論3	AL	京極	5. 研究結果の整理と確認2	AL	京極
6. 本研究と問題点の議論18	AL	京極	6. 研究結果に対する考察1	AL	京極
7. 本研究と問題点の議論19	AL	京極	7. 研究結果に対する考察2	AL	京極
8. 本研究と問題点の議論20	AL	京極	8. 研究結果に対する考察3	AL	京極
9. 本研究と問題点の議論21	AL	京極	9. 論文作成1	AL	京極
10. 本研究と問題点の議論22	AL	京極	10. 論文作成2	AL	京極
11.研究結果の収集、整理1	AL	京極	11.　論文作成3	AL	京極
12.研究結果の収集整理2	AL	京極	12.論文作成4	AL	京極
13.研究結果の統計処理1	AL	京極	13.作成論文の発表と議論1	AL	京極

14.研究結果の統計処理2 15.院生による研究結果報告と議論	AL AL	京極 京極	14. 作成論文の発表と議論2 15.論文作成・発表(試験)	AL AL	京極 京極

教科書１	適宜紹介
教科書２	
参考書１	適宜紹介
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	秋山　純一					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	研究を行なうのに必要な手続き・手順および進行方法について指導し、研究成果を論文としてまとめことができるようになる。研究の分野は廃用性症候群、物理療法の効果などに関する基礎研究であり、実験動物や培養細胞を用いた基礎研究であり、その分野の実験の手技的として組織学的評価や生体成分の生化学的な分析ができることを到達目標とする。						
概要	1. 先行研究や原著について指導することで,文献の検索や読解力を養い，思考能力を高められる。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案できるようになる。また，文献研究を行う院生にはその構想を立案できるようになる。 3. 新規性のある研究テーマの計画，資料作成法、データー解析，論文執筆ができるようになる。 4. 学会発表，論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して研究活動ができるようになる.						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言応答の状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	各自のもつ興味のある卒業研究へのテーマ設定、また関連する先行研究の調査など自身で積極的に進めることが重要。予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各1時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	個人研究室にて月曜日の3時限目、木曜日の3時限に実施。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次			1年次		
1.研究計画の策定法(1)	講義	秋山	1.文献抄読法について(1)	講義	秋山
2.研究計画の策定法(2)	講義	秋山	2.文献抄読法について(2)	講義	秋山
3.研究計画の策定法(3)	講義	秋山	3.文献抄読法について(3)	講義	秋山
4.研究計画の策定法(4)	講義	秋山	4.参考文献の抄読実習(1)	実習	秋山
5.研究計画の策定法(5)	講義	秋山	5.参考文献の抄読実習(2)	実習	秋山
6.参考文献の調査手技(1)	講義	秋山	6.参考文献の抄読実習(3)	実習	秋山
7.参考文献の調査手技(2)	講義	秋山	7.参考文献の抄読実習(4)	実習	秋山
8.参考文献の調査実習(1)	実習	秋山	8.参考文献の抄読実習(5)	実習	秋山
9.参考文献の調査実習(2)	実習	秋山	9.参考文献の抄読実習(6)	実習	秋山
10.参考文献の調査実習(3)	実習	秋山	10.文献のデータ整理法(1)	講義	秋山
11.先行研究文献の分類法(1)	講義	秋山	11.文献のデータ整理法(2)	講義	秋山
12.先行研究文献の分類法(2)	講義	秋山	12.文献のデータ整理法(3)	講義	秋山
13.参考文献の分類実習(2)	実習	秋山	13.参考文献データ整理実習(1)	実習	秋山
14.参考文献の分類実習(2)	実習	秋山	14.参考文献データ整理実習(2)	実習	秋山
15.参考文献の分類実習(2)・討論	AL	秋山	15.参考文献データ整理実習(3)・討論	AL	秋山
2年次			2年次		
1.実験目的の倫理的配慮の理解(1)	講義	秋山	1.研究計画の実施（予備実験)(1)	実習	秋山
2.実験法の倫理的配慮の理解(2)	講義	秋山	2.研究計画の実施（予備実験)(2)	実習	秋山
3.実験結果の倫理的配慮の理解(3)	講義	秋山	3.研究計画の実施（予備実験)(3)	実習	秋山
4.動物愛護に関する理解(1)	講義	秋山	4.予備実験データのまとめ実習(1)	実習	秋山
5.実験動物種の理解(2	講義	秋山	5.予備実験データのまとめ実習(2)	実習	秋山
6.動物管理の理解(3)	講義	秋山	6.予備実験データ解析実習	実習	秋山
7.動物実験法(1)	講義	秋山	7.研究計画の実施（本実験)(1)	実習	秋山
8.動物実験法(2)	講義	秋山	8.研究計画の実施（本実験)(2)	実習	秋山
9.研究概要計画の策定実習(1)	実習	秋山	9.研究計画の実施（本実験)(3)	実習	秋山
10.研究概要計画の策定実習(2)	実習	秋山	10.研究計画の実施（本実験)(4)	実習	秋山
11.研究計画書作成の実習(1)	実習	秋山	11.研究計画の実施（本実験)(5)	実習	秋山
12.研究計画書作成の実習(2)	実習	秋山	12.実験データのまとめ実習(1)	実習	秋山
13.研究計画書作成の実習(3)	実習	秋山	13.実験データのまとめ実習(2)	実習	秋山
14.研究計画書作成の実習(4)	実習	秋山	14.実験データのまとめ実習(3)	実習	秋山
15.研究計画書作成の実習(5)・討論	AL	秋山	15.実験データのまとめ実習(4)・討論	AL	秋山
3年次			3年次		
1.標本の生化学的処理法(1)	講義	秋山	1.研究結果の解析・統合(1)	実習	秋山
2.標本の生化学的処理法(2)	講義	秋山	2.研究結果の解析・統合(2)	実習	秋山
3.標本の生化学的処理法(3)	講義	秋山	3.結果まとめ資料作成(1)	実習	秋山
4.標本の生化学的処理法(4)	講義	秋山	4.結果まとめ資料作成(2)	実習	秋山
5.標本の生化学的処理実習(1)	実習	秋山	5.結果の解析とまとめ(1)	実習	秋山
6.標本の生化学的処理実習(2)	実習	秋山	6.結果の解析とまとめ(2)	実習	秋山
7.標本の生化学的処理実習(3)	実習	秋山	7.発表用資料の作成	実習	秋山
8.標本の観察記録処理実習(1)	実習	秋山	8.発表用資料の作成	実習	秋山
9.標本の観察記録処理実習(2)	実習	秋山	9.論文作成	実習	秋山
10.研究結果のデータ解析(1)	実習	秋山	10.論文作成	実習	秋山
11.研究結果のデータ解析(2)	実習	秋山	11.考察とディスカッション	実習	秋山
12.研究結果まとめ作成(1)	実習	秋山	12.考察とディスカッション	実習	秋山
13.研究結果まとめ作成(2)	実習	秋山	13.総合検討結果のまとめ	実習	秋山
14.研究結果まとめ作成(3)	実習	秋山	14.論文校正	実習	秋山
15.実験結果の総合まとめ・討論	AL	秋山	15.論文校正・討論	AL	秋山

教科書１	特に事前指定はなし（研究テーマにより必要なものを都度に推薦する）
教科書２	
参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	井上　茂樹					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床上や研究上の疑問から研究課題をみつけだし、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	自ら研究テーマを決め、論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の検索方法や読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	研究指導全般を通して知識や態度、考察力、表現力等を評価する。なお、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。一方、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	研究指導は,最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	講義		1年次		
1. 博士課程における研究の概要	AL	井上茂樹	1. 研究テーマの検討と策定	AL	井上茂樹
2. 臨床・研究疑問の整理	AL	井上茂樹	2. 研究テーマの基礎知識の確認	AL	井上茂樹
3. 社会的背景の整理	講義	井上茂樹	3. 研究テーマの先行研究の調査1	AL	井上茂樹
4. 研究と倫理1	講義	井上茂樹	4. 研究テーマの先行研究の調査2	AL	井上茂樹
5. 研究と倫理2	講義	井上茂樹	5. 研究テーマの先行研究の調査3	AL	井上茂樹
6. 参考文献の調査	講義	井上茂樹	6. 研究テーマの先行研究のまとめ	AL	井上茂樹
7. 研究テーマの作成	講義	井上茂樹	7. 研究テーマの確定	AL	井上茂樹
8. 研究対象者の選択	講義	井上茂樹	8. 研究テーマの独立変数の選定	AL	井上茂樹
9. 測定方法の計画1	講義	井上茂樹	9. 研究テーマの従属変数の選定	AL	井上茂樹
10. 測定方法の計画2	講義	井上茂樹	10. 研究テーマの測定方法の計画1	AL	井上茂樹
11. サンプルサイズの推定1	講義	井上茂樹	11. 研究テーマの測定方法の計画2	AL	井上茂樹
12. サンプルサイズの推定2	講義	井上茂樹	12. 研究テーマのサンプル数の決定	AL	井上茂樹
13. 研究デザインの探究1	講義	井上茂樹	13. 研究計画書の作成1	AL	井上茂樹
14. 研究デザインの探究2	講義	井上茂樹	14. 研究計画書の作成2	AL	井上茂樹
15. 研究デザインの探究3	講義	井上茂樹	15. 研究計画書の決定	AL	井上茂樹
2年次			2年次		
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	井上茂樹	1. 本実験と問題点の討論5	AL	井上茂樹
2. 実験における問題点の討議1	AL	井上茂樹	2. 本実験と問題点の討論6	AL	井上茂樹
3. 実験における問題点の討議2	AL	井上茂樹	3. 本実験と問題点の討論7	AL	井上茂樹
4. 予備実験1	AL	井上茂樹	4. 本実験と問題点の討論8	AL	井上茂樹
5. 予備実験2	AL	井上茂樹	5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	井上茂樹
6. 予備実験における問題点の検討1	AL	井上茂樹	6. 実験結果の中間収集、整理2	AL	井上茂樹
7. 予備実験3	AL	井上茂樹	7. 実験結果の中間発表と討論	AL	井上茂樹
8. 予備実験4	AL	井上茂樹	8. 中間発表の問題点の整理	AL	井上茂樹
9. 予備実験における問題点の検討2	AL	井上茂樹	9. 本実験と問題点の討論9	AL	井上茂樹
10. 実験方法の最終確定	AL	井上茂樹	10. 本実験と問題点の討論10	AL	井上茂樹
11. 本実験と問題点の討議1	AL	井上茂樹	11. 本実験と問題点の討論11	AL	井上茂樹
12. 本実験と問題点の討議2	AL	井上茂樹	12. 本実験と問題点の討論12	AL	井上茂樹
13. 本実験と問題点の討議3	AL	井上茂樹	13. 本実験と問題点の討論14	AL	井上茂樹
14. 本実験と問題点の討議4	AL	井上茂樹	14. 本実験と問題点の討論15	AL	井上茂樹
15. 本実験結果の中間報告と討議1	AL	井上茂樹	15. 本実験結果の中間報告と討論2	AL	井上茂樹
3年次			3年次		
1. 本実験と問題点の討議14	AL	井上茂樹	1. 博士論文作成の概要	講義	井上茂樹
2. 本実験と問題点の討議15	AL	井上茂樹	2.　研究の社会的背景の整理と確認	AL	井上茂樹
3. 本実験と問題点の討議16	AL	井上茂樹	3.研究方法・実験方法の整理と確認	AL	井上茂樹
4. 本実験と問題点の討議17	AL	井上茂樹	4.実験結果の統計処理の整理	AL	井上茂樹
5. 本実験結果の中間報告と討議3	AL	井上茂樹	5. 実験結果の統計処理の確認	AL	井上茂樹
6. 本実験と問題点の討議18	AL	井上茂樹	6. 実験結果に対する考察1	AL	井上茂樹
7. 本実験と問題点の討議19	AL	井上茂樹	7. 実験結果に対する考察2	AL	井上茂樹
8. 本実験と問題点の討議20	AL	井上茂樹	8. 実験結果に対する考察3	AL	井上茂樹
9. 本実験と問題点の討議21	AL	井上茂樹	9. 論文作成1	AL	井上茂樹
10. 本実験と問題点の討議22	AL	井上茂樹	10. 論文作成2	AL	井上茂樹
11.実験結果の収集、整理1	AL	井上茂樹	11. 論文作成3	AL	井上茂樹
12.実験結果の収集整理2	AL	井上茂樹	12. 論文作成4	AL	井上茂樹
13.実験結果の統計処理1	AL	井上茂樹	13. 院生による論文の発表と討論1	AL	井上茂樹
14.実験結果の統計処理2	AL	井上茂樹	14.　院生による論文の発表と討論2	AL	井上茂樹
15.院生による実験結果報告と討議	AL	井上茂樹	15. 論文作成・発表（試験）	AL	井上茂樹
		井上茂樹			

教科書１	資料・文献は適宜配布する。
教科書２	

参考書１	
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	中嶋　正明					NO.	K3D051401T □
配当学科	保健科学研究科（博士後期） □				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習
テーマと到達目標	臨床経験上の疑問から取り組む研究を探り臨床的貢献度から研究課題を定め、研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理的思考力、表現力等を学び、その成果を研究論文としてまとめることを目標とする。						
概要	臨床上での疑問や臨床的貢献度から自らの研究テーマを定め、研究論文を作成するため、先行研究や原著について指導し、文献の読解力を養い、思考能力を高めるようにする。そうして、文献の講読を行いながら、研究仮説を立案し、実験あるいは調査の綿密な計画をたてさせる。その立案された研究計画に沿って、データの集積、分析、論文執筆などについても指導し、学会発表、論文投稿についてタイムスケジュールを考慮しながら論文を完成させる。						
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。						
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。						
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館3階、6983号室：火曜日3，4限目、水曜日3-5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1年次	1年次	1年次	1年次	1年次	1年次
1. 博士課程における研究の概要	講義	中嶋	1. 研究テーマの検討と策定	AL	中嶋
2. 臨床疑問、研究疑問の発表	AL	中嶋	2. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	中嶋
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理	AL	中嶋	3. 研究テーマに沿った先行研究の調査・国内	AL	中嶋
4. 研究と倫理（臨床研究）	講義	中嶋	4. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外	AL	中嶋
5. 研究と倫理（実験研究）	講義	中嶋	5. 研究テーマに沿った先行研究の調査・海外文献の精査	AL	中嶋
6. 参考文献の調査	講義	中嶋	6. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	AL	中嶋
7. 研究テーマの作成	講義	中嶋	7. 研究テーマの確定	AL	中嶋
8. 研究対象者の選択	講義	中嶋	8. 研究テーマにおける従属変数の選定	AL	中嶋
9. 測定方法の計画（臨床研究）	講義	中嶋	9. 研究テーマにおける独立変数の選定	AL	中嶋
10. 測定方法の計画（実験研究）	講義	中嶋	10. 研究テーマに沿った測定方法の計画案策定	AL	中嶋
11. サンプルサイズの推定	講義	中嶋	11. 研究テーマに沿った測定方法の計画案の検討	AL	中嶋
12. サンプルサイズの推定・実技	講義	中嶋	12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	AL	中嶋
13. 研究デザイン（コホート研究）	講義	中嶋	13. 研究計画書の作成	AL	中嶋
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	講義	中嶋	14. 研究計画書の作成作成案の検討	AL	中嶋
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	講義	中嶋	15. 研究計画書の決定	AL	中嶋
2年次	2年次	2年次	2年次	2年次	2年次
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	講義	中嶋	1. 本実験と問題点のディスカッション（対象の選定）	AL	中嶋
2. 実験における問題点の発表	AL	中嶋	2. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の問題）	AL	中嶋
3. 実験における問題点のディスカッション	AL	中嶋	3. 本実験と問題点のディスカッション（実験精度の問題）	AL	中嶋
4. プレ実験概要説明	AL	中嶋	4. 本実験と問題点のディスカッション（まとめ）	AL	中嶋
5. プレ実験試行	AL	中嶋	5. 実験結果の中間収集、整理	AL	中嶋
6. プレ実験における問題点の検討	AL	中嶋	6. 実験結果の中間報告書作成	AL	中嶋
7. 改善プレ実験の概要説明	AL	中嶋	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	中嶋
8. 改善プレ実験試行	AL	中嶋	8. 中間発表の問題点の整理	AL	中嶋
9. プレ実験における問題点の検討	AL	中嶋	9. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の確認）	AL	中嶋
10. 実験方法の最終確定	AL	中嶋	10.本実験と問題点のディスカッション（実験手技の確認）	AL	中嶋
11. 本実験と問題点のまとめ	AL	中嶋	11. 本実験と問題点のディスカッション（実験器具の確認）	AL	中嶋
12. 本実験と問題点の報告	AL	中嶋	12. 本実験と問題点のディスカッション（実験精度の確認）	AL	中嶋
13. 本実験と問題点のディスカッション	AL	中嶋	13. 本実験と問題点の整理	AL	中嶋
14. 本実験と問題点のディスカッションのまとめ	AL	中嶋	14. 本実験全般における問題点のディスカッション	AL	中嶋
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	中嶋	15. 本実験結果の中間報告とディスカッ	AL	中嶋
3年次	3年次	3年次			
1. 本実験と問題点のディスカッション（実験手順の再確認）	AL	中嶋			
2. 本実験と問題点のディスカッション（実験方法の再確認）	AL	中嶋			
3. 本実験と問題点のディスカッション（実験器具の再確認）	AL	中嶋			
4. 本実験と問題点の整理	AL	中嶋			
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション	AL	中嶋			
6. 本実験と問題点のディスカッション（実験における正確性の再確認）	AL	中嶋			
7. 本実験と問題点のディスカッション	AL	中嶋			

(検者内信頼性の検討方法) 8. 本実験と問題点のディスカッション (検者内信頼性の検討) 9. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討方法) 10. 本実験と問題点のディスカッション (検者間信頼性の検討) 11.実験結果の収集 12.実験結果の収集整理 13.実験結果の統計処理方法の検討 14.院生による実験結果報告とディスカッション	AL AL AL AL AL AL AL AL	中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋	ション 3年次 1. 博士論文作成の概要 2.研究テーマの社会的背景の整理と確認 3.研究方法・実験方法の整理と確認 4.実験結果の統計処理の整理 5. 実験結果の統計処理の確認 6. 実験結果に対する考察整理 7. 実験結果に対する考察問題点の抽出 8. 実験結果に対する考察まとめ 9. 論文作成(緒論) 10. 論文作成(方法) 11.論文作成(考察) 12.論文作成(まとめ) 13.院生による作成論文の発表スライド作成 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション 15.論文作成・発表(試験)	3年次 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	3年次 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋 中嶋

教科書１	教科書は特に指定しないが必要に応じて資料を配付する。
教科書２	
参考書１	アクセプトされる英語医学論文を書こう！ 出版社:MEDICAL VIEW
参考書２	

授業科目名	保健科学特殊研究				履修期	2020年度 春学期～2022年度 秋学期	
担当者	森下　元賀					NO.	
配当学科	保健科学研究科（博士後期）				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	180	授業形態	演習

テーマと到達目標	「脳血管障害の運動麻痺に対してのニューロリハビリテーションの効果検証」、「嚥下障害に対する姿勢調節、感覚刺激による改善効果の検証」,「地域在住高齢者に対する介護予防事業の実証的研究」の方法論に関して，博士論文研究を行うのに必要な手続き，態度および方法について指導し，研究成果を論文としてまとめ、査読付き雑誌に掲載させることが出来る。
概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 3. 新規性のあるデータの集積，分析，論文執筆などについて指導する。 4. 学会発表，論文投稿について博士論文作成のタイムスケジュールを考慮して，指導する.
評価方法	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
自己学習	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	6号館4階の個人研究室において、毎週火曜日2限と木曜日4限をオフィスアワーの時間とする。

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
（1年次）			（1年次）		
1.保健科学研究領域の概要	講義	森下	1. 研究計画の策定	AL	森下
2.研究テーマの策定	AL	森下	2.参考文献の調査	AL	森下
3.研究テーマに沿った基礎知識の確認	AL	森下	3.参考文献の精読	AL	森下
4.研究テーマに関する先行研究の調査			4.調査方法の検討	AL	森下
5.研究テーマに関する先行研究の概要発表	AL	森下	5.調査方法の確定	AL	森下
			6.調査の実施	AL	森下
6.概要発表の講評	AL	森下	7.調査結果の収集	AL	森下
7.研究テーマと先行研究の比較			8.調査結果の整理	AL	森下
8.研究テーマの確定	AL	森下	9.研究進捗状況報告書の概要説明	AL	森下
9.中間フォロー	AL	森下	10.研究進捗状況報告書の作成	AL	森下
10.研究計画調書の執筆概要の説明と作成	AL	森下	11.研究進捗状況報告書の内容確認と講評	AL	森下
	AL	森下			
11.研究計画調書の確認および講評	AL	森下	12.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗	AL	森下
12.研究計画調書の完成					
13.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成	AL	森下	13.調査方法の見直し	AL	森下
	AL	森下	14.調査の再実施	AL	森下
14.研究計画調書発表資料の確認及び講評	AL	森下	15.調査結果の再集計，他まとめ	AL	森下
15.研究計画調書発表資料の完成	AL	森下	（2年次）		
（2年次）			1. 本実験と問題点のディスカッション5	AL	森下
1. 研究対象者に対する倫理的配慮	AL	森下	2. 本実験と問題点のディスカッション6		
2. 実験における問題点のディスカッション1	講義	森下	3. 本実験と問題点のディスカッション7	AL	森下
			4. 本実験と問題点のディスカッション8		
3. 実験における問題点のディスカッション2	AL	森下	5. 実験結果の中間収集、整理1	AL	森下
			6. 実験結果の中間収集、整理2		
4. プレ実験1	AL	森下	7. 院生による実験結果の中間発表とディスカッション	AL	森下
5. プレ実験2			8. 中間発表の問題点の整理	AL	森下
6. プレ実験における問題点の検討1	AL	森下	9. 本実験と問題点のディスカッション9	AL	森下
7. プレ実験3	AL	森下	10. 本実験と問題点のディスカッション10	AL	森下
8. プレ実験4	AL	森下			
9. プレ実験における問題点の検討2			11. 本実験と問題点のディスカッション11	AL	森下
10. 実験方法の最終確定	AL	森下		AL	森下
11. 本実験と問題点のディスカッション1	AL	森下	12. 本実験と問題点のディスカッション12		
12. 本実験と問題点のディスカッション2	AL	森下		AL	森下
13. 本実験と問題点のディスカッション3			13. 本実験と問題点のディスカッション14		
14. 本実験と問題点のディスカッション4	AL	森下		AL	森下
15. 本実験結果の中間報告とディスカッション1	AL	森下	14. 本実験と問題点のディスカッション15		
				AL	森下
（3年次）	AL	森下	15. 本実験結果の中間報告とディスカッション2		
1. 本実験と問題点のディスカッション14				AL	森下
	AL	森下	（3年次）		
2. 本実験と問題点のディスカッション15			1. 博士論文作成の概要	AL	森下
	AL	森下	2. 研究テーマの社会的背景の整理と確認		
3. 本実験と問題点のディスカッション16				AL	森下
	AL	森下	3. 研究方法・実験方法の整理と確認		
4. 本実験と問題点のディスカッション17			4.実験結果の統計処理の整理と確認1		
			5. 実験結果の統計処理の整理と確認2	講義	森下
5. 本実験結果の中間報告とディスカッション3	AL	森下	6. 実験結果に対する考察1	AL	森下
			7. 実験結果に対する考察2		
6. 本実験と問題点のディスカッション	AL	森下	8. 実験結果に対する考察3	AL	森下

18 7. 本実験と問題点のディスカッション 19 8. 本実験と問題点のディスカッション 20 9. 本実験と問題点のディスカッション 21 10. 本実験と問題点のディスカッション 22 11.実験結果の収集、整理1 12.実験結果の収集整理2 13.実験結果の統計処理1 14.実験結果の統計処理2 15.院生による実験結果報告とディスカッション	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下	9. 論文作成1 10. 論文作成2 11. 論文作成3 12.論文作成4 13.院生による作成論文の発表とディスカッション1 14. 院生による作成論文の発表とディスカッション2 15.論文作成・発表(試験)	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下 森下

教科書１	臨床研究first stage 著者:網本和、高倉保幸編 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-03227-8
教科書２	
参考書１	
参考書２	